

平成12年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

肥塚中島遺跡・出口上遺跡・出口下遺跡 肥塚古墳群 14・15・16 号墳

2001

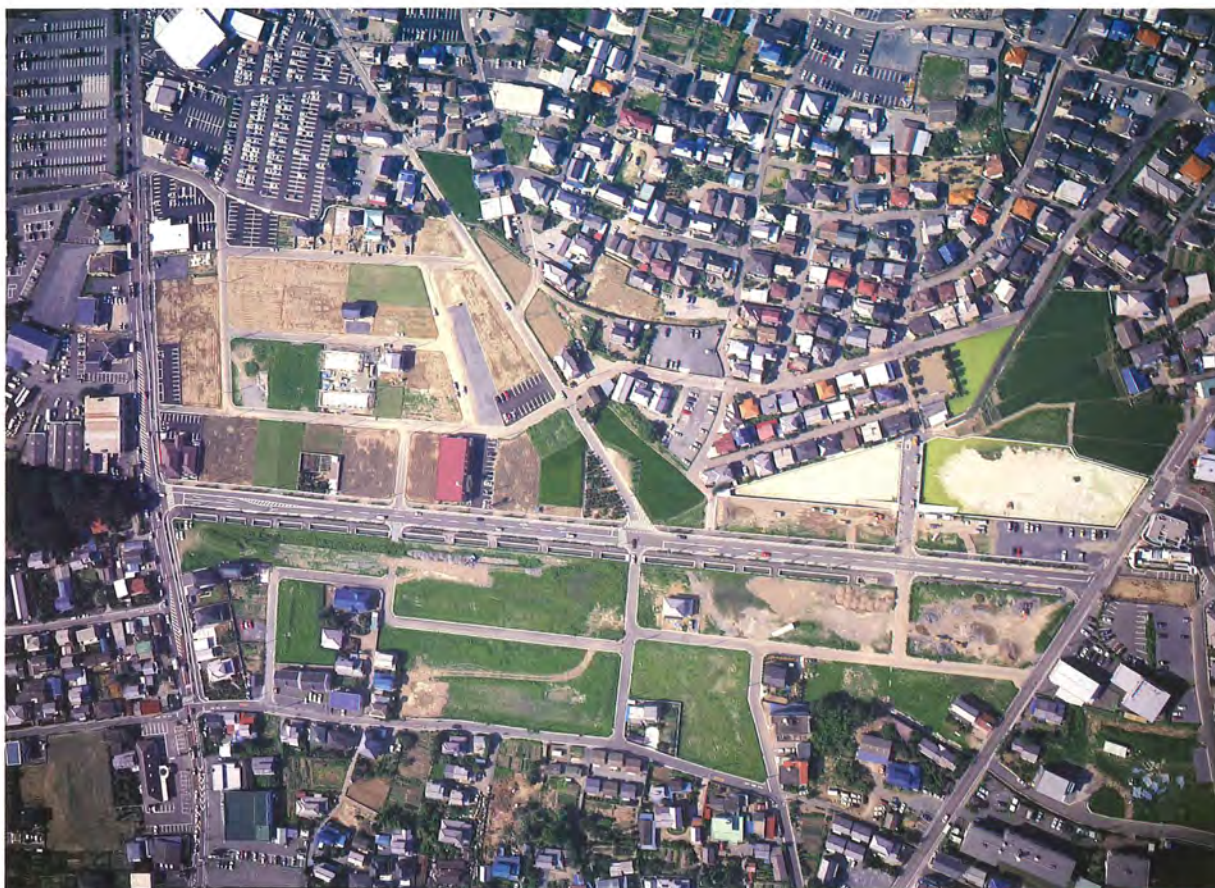
埼玉県熊谷市教育委員会

平成 12 年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

こいづかななかじま いせき でぐちかみ いせき でぐちしも いせき
肥塚中島遺跡・出口上遺跡・出口下遺跡
こいづか こふんぐん ごうふん
肥塚古墳群 14・15・16 号墳

2001

埼玉県熊谷市教育委員会



肥塚土地区画整理地内全景



出口上遺跡1区全景



出口上遺跡2区全景



出口上遺跡1区全景



出口下遺跡2区全景



出口下遺跡3区全景

序

私たちの郷土熊谷は、原始・古代から中世に至る集落跡や館跡など、様々な埋蔵文化財が数多く分布することが知られています。

こうした埋蔵文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証であるとともに、子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代へと伝え、豊かな熊谷市形成の礎としていかなければならないと考えております。

熊谷市では、緑豊かで、うるおいのある快適な住環境づくりの一環として、土地区画整理事業を進めております。その一つに肥塚土地区画整理事業があります。

区画整理事業地内には、古代の集落跡、中世の館跡などがあり、重要な埋蔵文化財が色濃く分布するところであります。

遺跡の重要性に鑑みて、その取扱いについて関係部局と保存に向けて協議を重ねてまいりましたが、区画整理事業の計画変更が難しいことから、やむを得ず記録保存の方策を講ずることとなりました。

本書は、平成7年から平成12年にかけて実施された発掘調査の成果をまとめたものでございます。

発掘調査では、古墳時代の住居跡や古墳跡、鎌倉・室町時代の井戸跡・火葬跡などの遺構や、土器・陶磁器が多数確認されました。付近には、肥塚館跡の伝承もあり、古代から中世に至る肥塚の歴史を考える上で重要な成果をあげることができました。

本書が埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行にあたりまして、関係各位には格別の御理解・御協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

熊谷市教育委員会
教育長 飯塚 誠一郎

例 言

- 1 本書は、埼玉県熊谷市大字肥塚1260番外地内に所在する肥塚中島遺跡（埼玉県遺跡番号59－105）、出口上遺跡（埼玉県遺跡番号59－109）、出口下遺跡（埼玉県遺跡番号59－106）、肥塚古墳群14・15・16号墳（埼玉県遺跡番号59－16－14～16）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、熊谷都市計画事業肥塚土地区画整理事業に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。
- 3 本事業の組織は、第Ⅰ章のとおりである。
- 4 発掘調査期間は下記のとおりである。

平成7年度：肥塚中島遺跡	平成7年8月1日～平成7年10月26日
平成8年度：出口下遺跡	平成8年4月1日～平成8年9月13日
平成9年度：出口上・出口下遺跡	平成9年4月28日～平成9年10月31日
平成10年度：出口上・出口下遺跡	平成10年5月11日～平成10年7月10日
平成12年度：出口下遺跡	平成12年7月19日～平成12年8月17日

整理・報告書作成期間は、平成11年4月1日～平成13年3月30日までである。
- 5 発掘調査の担当は、平成7年度を吉野 健が、平成8・9年度を権田宣行が、平成10年度を松田 哲・秋本太郎が、平成12年度を松田が行った。

本書の執筆・編集は、松田 哲が行った。

- 6 発掘調査における写真撮影は各担当者が、遺物の写真撮影は松田が行った。
- 7 本書にかかる資料は熊谷市教育委員会が保管している。
- 8 本書の作成にあたり、下記の方々及び機関などからご教示、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。

（敬称略、五十音順）

青木克尚 小林 高 知久裕昭 富田和夫 鳥羽政之 中島広顕 村松 篤
大里郡市町村文化財担当者会 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課

凡 例

本書における挿図指示は次のとおりである。

- 1 遺構挿図縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示してある。

遺構全測図… 1 / 500 竪穴住居跡… 1 / 60 溝跡平面図… 1 / 100 溝跡断面図… 1 / 40

掘立柱建物跡… 1 / 60 方形周溝状遺構… 1 / 60 土 坑… 1 / 40 土 壙墓… 1 / 40

火葬跡… 1 / 40 集 石… 1 / 40 井戸跡… 1 / 40 古 墳… 1 / 160

石 室… 1 / 40

- 2 遺構挿図中のトーンは次のとおりである。

 = 地 山  = 焼 土

- 3 遺構挿図中、断面図に添えてある数値は標高を示している。

- 4 遺物挿図中の縮尺は、次のとおりである。

土器… 1 / 3 ・ 1 / 4 砥石… 1 / 4 土 錘… 1 / 3 紡錘車・鉄釘・古銭… 1 / 2

- 5 遺物実測図の表現方法は、以下のとおりである。

土師器・断面 白抜き

須恵器・断面 黒塗り

- 5 挿図中の遺物はすべて観察表にその内容を記してある。計測数値中、() が付されるものは推定値を表す。

- 6 遺物拓影図は、原則として向って左側に外面を示した。なお、内外面両方を示す場合には左側に内面、右側に外面を示した。

- 7 写真図版の遺物縮尺はすべて任意である。

- 8 土層及び土器の色調は、『新版標準土色帖第14版』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修、日本色研事業株式会社発行 1994）を参考にした。

目 次

口絵

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	(5)火葬跡	84
1 調査に至る経過	1	(6)井戸跡	86
2 発掘調査・報告書作成の経過	2	(7)石組遺構	87
3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織	3	(8)ピット	88
II 遺跡の立地と環境	5	(9)遺構外出土遺物	92
III 遺跡の概要	10	3 出口下遺跡	93
1 調査の方法	10	(1)竪穴住居跡	93
2 検出された遺構と遺物	10	(2)掘立柱建物跡	138
(1)肥塚中島遺跡	10	(3)方形周溝状遺構	142
(2)出口上遺跡	10	(4)溝跡	142
(3)出口下遺跡	11	(5)土坑	153
(4)肥塚古墳群	14	(6)火葬跡	162
IV 遺構と遺物	21	(7)集石	168
1 肥塚中島遺跡	21	(8)井戸跡	171
(1)溝跡	21	(9)ピット	175
(2)土坑	31	(10)遺構外出土遺物	175
(3)土壌墓	46	4 肥塚古墳群14・15・16号墳	183
(4)火葬跡	46	(1)古墳	183
(5)井戸跡	48	V 調査のまとめ	189
(6)ピット	48		
(7)遺構外出土遺物	57		
2 出口上遺跡	59		
(1)掘立柱建物跡	59		
(2)溝跡	59		
(3)土坑	69		
(4)土壌墓	83		

挿図目次

第 1 図	埼玉県の地形図……………	5	第32図	第 7 ～10号溝跡……………	65
第 2 図	周辺遺跡・古墳群位置図……………	6	第33図	第11～14号溝跡……………	66
第 3 図	調査地点位置図……………	12	第34図	第15～17号溝跡……………	68
第 4 図	肥塚中島遺跡調査区全測図……………	15	第35図	第 1 ～ 4 号土坑……………	70
第 5 図	出口上遺跡調査区全測図……………	17	第36図	第 5 ～ 9 号土坑……………	72
第 6 図	出口下遺跡調査区全測図……………	19	第37図	第10～16号土坑……………	74
第 7 図	肥塚古墳群分布図……………	20	第38図	第17～23号土坑……………	77
肥塚中島遺跡					
第 8 図	第 2 ～ 5 号溝跡……………	22	第39図	第24～27号土坑……………	78
第 9 図	第 6 ・ 7 号溝跡……………	23	第40図	第28～31号土坑……………	80
第10図	第 8 号溝跡……………	25	第41図	第32・33号土坑……………	82
第11図	第 1 ・ 9 ～13号溝跡……………	26	第42図	第 1 ・ 2 号土墳墓……………	83
第12図	第 1 ・ 9 ～11号溝跡断面図……………	28	第43図	第 1 ～ 4 号火葬跡……………	85
第13図	第12・13号溝跡断面図……………	29	第44図	第 1 号井戸跡……………	86
第14図	第 1 ～ 6 号土坑……………	32	第45図	第 1 号石組遺構……………	87
第15図	第 7 ～13号土坑……………	35	第46図	溝跡・土坑・井戸跡・土墳墓 ・ 遺構外出土遺物……………	91
第16図	第14～21号土坑……………	37	出口下遺跡		
第17図	第22～26号土坑……………	39	第47図	第 1 号竪穴住居跡……………	94
第18図	第27～31号土坑……………	41	第48図	第 1 号竪穴住居跡出土遺物(1)……………	95
第19図	第32～38号土坑……………	43	第49図	第 1 号竪穴住居跡出土遺物(2)……………	96
第20図	第39～41号土坑……………	45	第50図	第 1 号竪穴住居跡出土遺物(3)……………	97
第21図	第 1 号土墳墓・第 1 号火葬跡 第 1 号井戸跡……………	47	第51図	第 2 号竪穴住居跡……………	98
第22図	溝跡・土坑出土遺物……………	49	第52図	第 2 号竪穴住居跡出土遺物(1)……………	99
第23図	第41号土坑出土土錘(1)……………	50	第53図	第 2 号竪穴住居跡出土遺物(2)……………	100
第24図	第41号土坑出土土錘(2)……………	51	第54図	第 2 号竪穴住居跡出土遺物(3)……………	101
第25図	第41号土坑出土土錘(3)……………	52	第55図	第 3 号竪穴住居跡……………	103
第26図	第41号土坑出土土錘(4)……………	53	第56図	第 3 号竪穴住居跡出土遺物(1)……………	104
第27図	遺構外出土遺物(1)……………	56	第57図	第 3 号竪穴住居跡出土遺物(2)……………	105
第28図	遺構外出土遺物(2)……………	57	第58図	第 3 号竪穴住居跡出土遺物(3)……………	106
出口上遺跡					
第29図	第 1 号掘立柱建物跡……………	60	第59図	第 4 号竪穴住居跡……………	107
第30図	第 1 ・ 2 号溝跡……………	61	第60図	第 4 号竪穴住居跡出土遺物……………	108
第31図	第 3 ～ 6 号溝跡……………	63	第61図	第 5 号竪穴住居跡……………	109
			第62図	第 6 号竪穴住居跡……………	109
			第63図	第 7 号竪穴住居跡……………	111

第64図	第7号竪穴住居跡出土遺物(1)···	112
第65図	第7号竪穴住居跡出土遺物(2)···	113
第66図	第9号竪穴住居跡・出土遺物···	114
第67図	第10・12号竪穴住居跡・出土遺物	115
第68図	第11号竪穴住居跡···	117
第69図	第11号竪穴住居跡出土遺物···	118
第70図	第13号竪穴住居跡・出土遺物···	120
第71図	第14・16号竪穴住居跡···	121
第72図	第14・16号竪穴住居跡 遺物・礫 出土状況···	122
第73図	第14号竪穴住居跡出土遺物(1)···	123
第74図	第14号竪穴住居跡出土遺物(2)···	124
第75図	第15号竪穴住居跡・出土遺物···	126
第76図	第16号竪穴住居跡出土遺物···	127
第77図	第17号竪穴住居跡・出土遺物···	128
第78図	第18・19号竪穴住居跡···	129
第79図	第19号竪穴住居跡出土遺物···	130
第80図	第20号竪穴住居跡・出土遺物···	131
第81図	第21号竪穴住居跡・出土遺物···	132
第82図	第22号竪穴住居跡・出土遺物···	134
第83図	第23・26号竪穴住居跡・出土遺物	135
第84図	第24・25号竪穴住居跡・出土遺物	136
第85図	第27・28号竪穴住居跡···	138
第86図	第1号掘立柱建物跡···	139
第87図	第2号掘立柱建物跡···	140
第88図	第1号方形周溝状遺構···	141
第89図	第1・2・6号溝跡···	143
第90図	第3・4号溝跡···	144
第91図	第5号溝跡···	145
第92図	第7～9・12・13号溝跡···	147
第93図	第10・11号溝跡···	149

第94図	第14号溝跡···	150
第95図	第15～17号溝跡···	152
第96図	第1・2号土坑···	154
第97図	第3・4号土坑···	155
第98図	第5～9号土坑···	156
第99図	第10・11号土坑···	158
第100図	第12～19号土坑···	160
第101図	第20～22号土坑···	162
第102図	第1～3号火葬跡···	163
第103図	第4～7号火葬跡···	165
第104図	第8～10号火葬跡···	167
第105図	第11号火葬跡···	168
第106図	第1号集石···	169
第107図	第2・3号集石···	170
第108図	第1号井戸跡···	171
第109図	第2号井戸跡···	172
第110図	第3号井戸跡···	173
第111図	第4号井戸跡···	174
第112図	溝跡・土坑出土遺物···	177
第113図	火葬跡・集石出土遺物···	178
第114図	井戸跡出土遺物···	179
第115図	遺構外出土遺物···	181

肥塚古墳群14・15・16号墳

第116図	14号墳···	183
第117図	14号墳石室···	184
第118図	14号墳出土遺物···	184
第119図	15号墳···	185
第120図	15号墳石室···	186
第121図	16号墳···	187
第122図	16号墳石室···	188

表 目 次

第1表	周辺遺跡・古墳群一覧表……………	7
-----	------------------	---

肥塚中島遺跡

第2表	ピット計測表……………	48
第3表	溝跡・土坑出土土器観察表……………	53
第4表	溝跡出土鉄製品観察表……………	53
第5表	第41号土坑出土土製品観察表……………	53
第6表	遺構外出土土器観察表……………	58
第7表	遺構外出土土製品観察表……………	58
第8表	遺構外出土石製品観察票……………	58

出口上遺跡

第9表	ピット計測表……………	88
第10表	溝跡・土坑・井戸跡・遺構外 出土土器観察表……………	92
第11表	土壌墓出土古銭観察表……………	92
第12表	遺構外出土石製品観察表……………	92

出口下遺跡

第13表	第1号竪穴住居跡出土土器観察表…	97
第14表	第1号竪穴住居跡出土鉄製品観察表	98
第15表	第2号竪穴住居跡出土土器観察表	101
第16表	第3号竪穴住居跡出土土器観察表	102
第17表	第3号竪穴住居跡出土石製品観察表	107
第18表	第4号竪穴住居跡出土土器観察表	108
第19表	第7号竪穴住居跡出土土器観察表	113
第20表	第7号竪穴住居跡出土土製品観察表	114
第21表	第9号竪穴住居跡出土土器観察表	114
第22表	第9号竪穴住居跡出土石製品観察表	114
第23表	第10号竪穴住居跡出土石製品観察表	116
第24表	第11号竪穴住居跡出土土器観察表	119
第25表	第12号竪穴住居跡出土土器観察表	119
第26表	第13号竪穴住居跡出土土器観察表	120

第27表	第13号竪穴住居跡出土石製品観察表	120
第28表	第14号竪穴住居跡出土土器観察表	125
第29表	第14号竪穴住居跡出土土製品観察表	125
第30表	第15号竪穴住居跡出土土器観察表	126
第31表	第15号竪穴住居跡出土土製品観察表	126
第32表	第16号竪穴住居跡出土土器観察表	127
第33表	第17号竪穴住居跡出土土器観察表	128
第34表	第19号竪穴住居跡出土土器観察表	130
第35表	第19号竪穴住居跡出土土製品観察表	130
第36表	第20号竪穴住居跡出土土器観察表	131
第37表	第20号竪穴住居跡出土土製品観察表	131
第38表	第21号竪穴住居跡出土土器観察表	133
第39表	第21号竪穴住居跡出土土製品観察表	133
第40表	第22号竪穴住居跡出土土器観察表	134
第41表	第23号竪穴住居跡出土土器観察表	135
第42表	第24号竪穴住居跡出土土器観察表	137
第43表	第25号竪穴住居跡出土土器観察表	137
第44表	第25号竪穴住居跡出土石製品観察表	137
第45表	ピット計測表……………	176
第46表	溝跡・土坑・火葬跡・集石・井戸跡 出土土器観察表……………	180
第47表	溝跡・土坑出土石製品観察表……	180
第48表	溝跡・土坑出土鉄製品観察表……	180
第49表	火葬跡出土鉄製品観察表……………	180
第50表	井戸跡出土土製品観察表……………	180
第51表	遺構外出土土器観察表……………	182
第52表	遺構外出土土製品観察表……………	182
第53表	遺構外出土石製品観察表……………	182

肥塚古墳群14・15・16号墳

第54表	14号墳出土遺物観察表……………	188
------	------------------	-----

図版目次

- 図版 1 肥塚区画整理地内周辺遠景
図版 2 肥塚区画整理地内全景（1）
肥塚区画整理地内全景（2）

肥塚中島遺跡・遺構

- 図版 3 肥塚中島遺跡全景(C-13グリッドから東)
肥塚中島遺跡全景(R-6グリッドから西)
図版 4 肥塚中島遺跡全景(T-16グリッドから西)
肥塚中島遺跡全景(A-5グリッドから東)
図版 5 第1号溝跡（南東から）
第2・3号溝跡（南から）
第4・5号溝跡（北西から）
図版 6 第6・7号溝跡（東から）
第8号溝跡（北東から）
第9～11号溝跡（Q～S-9～11グリッド）
図版 7 第9～11号溝跡（M～O-14・15グリッド）
第12号溝跡（南東から）
図版 8 第12号溝跡土器出土状況
第12号溝跡鉄製品出土状況
第13号溝跡（北西から）
第13号溝跡土器出土状況
図版 9 第1～3号土坑
図版10 第4～7号土坑
図版11 第9・11～13号土坑
図版12 第14～21号土坑
図版13 第22～26号土坑
図版14 第27・28・32・34・35号土坑
図版15 第38・39・40号土坑
第41号土坑・土鍾出土状況
図版16 第1号土壇墓
第1号火葬跡
第1号井戸跡

出口上遺跡・遺構

- 図版17 出口上遺跡1区全景

- 図版18 出口上遺跡2区全景
図版19 出口上遺跡3・4区全景
図版20 出口上遺跡1区遠景(東から)・2区遠景
(東から)・3区遠景(北から)・4区遠景
(南から)
図版21 第1号掘立柱建物跡（東から）
第1・2号溝跡（北から）
第2号溝跡（北から）
図版22 第3号溝跡（西から）
第4号溝跡（東から）
第5号溝跡・第14号土坑（西から）
図版23 第8号溝跡（西から）
第9・10号溝跡（東から）
第11・12号溝跡（東から）
図版24 第1～4号土坑
図版25 第5～9号土坑
図版26 第10～12号土坑
図版27 第13・18～20号土坑
図版28 第23・24・26号土坑
図版29 第27・32・33号土坑
第2号土壇墓
図版30 第1～4号火葬跡
図版31 第1号井戸跡
第1号石組遺構・石組状況

出口下遺跡・遺構

- 図版32 出口下遺跡1区全景
図版33 出口下遺跡2区全景
図版34 出口下遺跡3・4区全景
図版35 第1号竪穴住居跡遺物出土状況・旧カマド・新カマド
図版36 第2号竪穴住居跡遺物出土状況・完掘状況・カマド
図版37 第3号竪穴住居跡遺物出土状況1・2・カマド

図版38 第6号竪穴住居跡
第7号竪穴住居跡完掘状況・カマド・
貯蔵穴

図版39 第10・12号竪穴住居跡完掘状況
第11号竪穴住居跡礫出土状況・カマド

図版40 第11号竪穴住居跡完掘状況
第12号竪穴住居跡遺物出土状況
第13号竪穴住居跡礫出土状況

図版41 第13号竪穴住居跡カマド・完掘状況
第14号竪穴住居跡礫出土状況

図版42 第14号竪穴住居跡遺物出土状況・完掘
状況
第15号竪穴住居跡完掘状況

図版43 第16号竪穴住居跡礫出土状況・完掘状
況・カマド

図版44 第17号竪穴住居跡遺物出土状況・完掘
状況・カマド

図版45 第18号竪穴住居跡遺物出土状況・完掘
状況
第19号竪穴住居跡遺物出土状況

図版46 第19号竪穴住居跡完掘状況・カマド・遺
物出土状況 1

図版47 第19号竪穴住居跡遺物出土状況 2
第20号竪穴住居跡完掘状況
第21号竪穴住居跡遺物出土状況

図版48 第22号竪穴住居跡完掘状況
第23号竪穴住居跡完掘状況・カマド

図版49 第23号竪穴住居跡遺物出土状況
第24号竪穴住居跡完掘状況
第26号竪穴住居跡完掘状況

図版50 第27号竪穴住居跡完掘状況
第1・2号掘立柱建物跡
第1号方形周溝状遺構

図版51 第1号溝跡
第3・4号溝跡

図版52 第7～9号溝跡

図版53 第10・11号溝跡

図版54 第12・13号溝跡・第10号土坑
第14号溝跡

図版55 第15～17号溝跡

図版56 第1～3号土坑

図版57 第4・6号土坑
第8号土坑遺物出土状況

図版58 第9・11・12号土坑

図版59 第13・15号土坑

図版60 第16・18・20号土坑

図版61 第1～4号火葬跡

図版62 第5～7号火葬跡

図版63 第8～10号火葬跡

図版64 第11号火葬跡
第1号集石
第2号集石完掘状況

図版65 第3号集石完掘状況
第1・2号井戸跡

図版66 第3～5号井戸跡

肥塚古墳群14・15・16号墳

図版67 第14号墳
第14号墳石室

図版68 第15号墳
第15号墳石室

図版69 第16号墳
第16号墳石室

肥塚中島遺跡・遺物

図版70 第12号溝跡 第22図4・7・10・12
第13号溝跡 第22図14～17
第17号土坑 第22図19
第27号土坑 第22図21

図版71 第41号土坑 第23・24図1～66

図版72 第41号土坑 第24・25図67～149

図版73 遺構外 第27図6・8～10・20・21・
26・第28図28・30・36

図版74 遺構外 第27図37・38

出口上遺跡・遺物

図版74 第10号土坑 第46図8
第28号土坑 第46図9
遺構外 第46図23・25
第1号土墳墓 第46図11～15
第2号土墳墓 第46図16～18

出口下遺跡・遺物

図版75 第1号竪穴住居跡 第48図1・4～8・
12・第49図14
図版76 第1号竪穴住居跡 第48図15・17・24・
第50図27・30・35
第2号竪穴住居跡 第52図1・2
図版77 第2号竪穴住居跡 第53図9・16・第54
図17
第3号竪穴住居跡 第56図2・5・8・9
図版78 第3号竪穴住居跡 第57図10～14
図版79 第3号竪穴住居跡 第58図17・18・23
第4号竪穴住居跡 第60図3・7・11
第7号竪穴住居跡 第64図1・4・12
図版80 第7号竪穴住居跡 第64図15・第65図
21～23
第10号竪穴住居跡 第67図2
第12号竪穴住居跡 第67図1
第11号竪穴住居跡 第69図1・3

図版81 第11号竪穴住居跡 第69図4・8・13
第13号竪穴住居跡 第70図3
第14号竪穴住居跡 第73図1・5・10・11

図版82 第14号竪穴住居跡 第73図13～17・第
74図22・27・29

図版83 第14号竪穴住居跡 第74図31
第16号竪穴住居跡 第76図4
第17号竪穴住居跡 第77図1
第19号竪穴住居跡 第79図1～4

図版84 第20号竪穴住居跡 第80図1・2
第22号竪穴住居跡 第82図1
第23号竪穴住居跡 第83図1・2
第25号竪穴住居跡 第84図1・3
第5号溝跡 第112図1

図版85 第8号土坑 第112図4・7～9
第20号土坑 第112図12

第1号火葬跡 第113図13～16
第2号火葬跡 第113図17～25
第1号集石 第113図26～28

図版86 第1号井戸跡 第114図32・33
遺構外 第115図4・8・9・13・18・
19

肥塚古墳群14号墳

図版86 14号墳 第118図1

I 発掘調査の概要

1 調査に至る経過

平成5年3月11日付けで、土地区画整理中央事務所長より肥塚土地区画整理事業地内の埋蔵文化財の所在及び試掘に関する依頼が出された。熊谷市教育委員会は、事業地内には複数の周知の埋蔵文化財が存在する旨を回答し、平成6年1月25日から2月23日にかけて、遺跡の範囲確認調査を実施した結果、奈良時代から鎌倉時代の集落跡が広範囲に分布することが確認された。

この結果を踏まえて平成7年3月1日付け熊教社発第1045号で、市教育長から土地区画整理中央事務所長あて次のように通知した。

区画整理事業地内には、肥塚中島遺跡、出口下遺跡、出口上遺跡が存在する。

当該地は、現状保存するか、または埋蔵文化財に影響を及ぼさない方法での開発が望ましい。やむを得ず埋蔵文化財に影響を及ぼす場合は、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること。

なお、発掘調査の実施については教育委員会と協議すること。

その後、保存について協議を重ねたが、工事計画の変更は不可能であると判断されたため、記録保存の措置を講ずることとなった。発掘調査は、街路工事の計画に沿って、平成7年度から平成12年度にわたって実施された。

発掘調査に関わる文化庁からの通知及び熊谷市教育委員会からの報告は以下のとおりである。

平成7年度

遺跡名 肥塚中島遺跡

平成7年10月6日付け 7 委保記第5－4436号

平成8年度

遺跡名 出口下遺跡

平成9年2月6日付け 8 委保記第5－8281号

平成9年度

遺跡名 出口下遺跡、出口上遺跡

平成9年4月23日付け 熊教社発第77号 平成9年4月23日付け 熊教社発第77号

平成10年度

遺跡名 出口下遺跡、出口上遺跡

平成10年6月4日付け 熊教社発第201号 平成10年6月4日付け 熊教社発第201号

平成12年度

遺跡名 出口下遺跡

平成12年7月17日付け 熊教社発第438号

2 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

平成7年度

発掘調査は平成7年8月1日から平成7年10月26日まで行った。調査面積は1,440㎡である。

8月上旬に重機による表土除去および作業員による遺構確認作業を行い、古墳時代から江戸時代に至る時期の遺構・遺物が検出された。8月中旬から10月初旬にかけて、作業員による遺構掘削作業を行った。10月上旬からは遺構の平面図を作成し、終了と同時に完掘の写真撮影、航空写真撮影を行った。

平成8年度

発掘調査は平成8年4月1日から平成8年9月13日まで行った。調査面積は3,000㎡である。

4月上旬に重機による表土除去および作業員による遺構確認作業を行い、古墳時代から江戸時代にかけての時期の遺構・遺物が検出された。5月初旬から8月下旬にかけて、作業員による遺構掘削作業を行った。8月下旬からは遺構の平面図を作成し、9月初旬に完掘の写真撮影、航空写真撮影を行った。

平成9年度

発掘調査は平成9年4月28日から平成9年10月31日まで行った。調査面積は2,500㎡である。

4月下旬に重機による表土除去および作業員による遺構確認作業を行い、古墳時代から江戸時代にかけての時期の遺構・遺物が検出された。5月初旬から10月上旬にかけて、作業員による遺構掘削作業を行った。10月中旬からは遺構の平面図を作成し、10月下旬に完掘の写真撮影、航空写真撮影を行った。

平成10年度

発掘調査は平成10年5月11日から平成10年7月10日まで行った。調査面積は714㎡である。

5月中旬に重機による表土除去および作業員による遺構確認作業を行い、古墳時代から江戸時代にかけての時期の遺構・遺物が検出された。5月中旬から6月下旬にかけて、作業員による遺構掘削作業を行った。6月初旬からは遺構の平面図作成、完掘の写真撮影、航空写真撮影を行った。

平成12年度

発掘調査は平成12年7月19日から平成12年8月17日まで行った。調査面積は399㎡である。

7月中旬に重機による表土除去および作業員による遺構確認作業を行い、古墳時代の遺構・遺物が検出された。7月下旬から作業員による遺構掘削作業を行った。8月中旬に遺構の平面図作成、完掘の写真撮影、航空写真撮影を行った。

(2) 整理・報告書作成

本書の整理作業は平成11年4月から平成13年3月まで実施した。平成11年度第一四半期には遺物洗浄・注記を行った。第二四半期から平成11年度末にかけては遺物の接合・復元作業を実施した。平成12年度は引き続き、遺物の接合・復元作業を行った。第二四半期以降は遺構の図面整理、遺物の図化作業を行った。第四四半期からは遺構・遺物の版組を開始した。並行して遺物の写真撮影を行い、終了したものから順次写真図版の割付け・編集作業、原稿執筆を行った。2月下旬には、報告書の印刷に入り、校正を行った後、3月末日に報告書を刊行した。

3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者 熊谷市教育委員会

(1) 発掘調査（平成7～10・12年度）

平成7年度

教育長	岡嶋一夫
教育次長	田島三雄
社会教育課長	大島常雄
課長補佐	翠田春夫
係長	金子正之
主任	渡邊 操
主任	権田宣行
主任	吉野 健

平成8年度

教育長	岡嶋一夫
教育次長	田島三雄
社会教育課長	大島常雄
課長補佐	翠田春夫
係長	金子正之
主任	渡邊 操
主任	権田宣行
主任	吉野 健

平成9年度

教育長	岡嶋一夫
教育次長	田島三雄
社会教育課長	大島常雄
副参事	鈴木敏昭
課長補佐	翠田春夫
係長	金子正之
主任	渡邊 操
主任	権田宣行
主任	吉野 健

平成10年度

教育長	岡嶋一夫（H10.10.6まで）
	飯塚誠一郎（H10.10.9より）
教育次長	坂巻 篤
社会教育課長	氏家保男
副参事	鈴木敏昭
課長補佐	北 俊明
主幹兼係長	金子正之
主任	寺社下博
主任	渡邊 操
主任	権田宣行
主任	吉野 健
主事	松田 哲
発掘調査員	佐々木健策
発掘調査員	市川康弘
発掘調査員	秋本太郎

平成12年度

教育長	飯塚誠一郎
教育次長	野辺良雄
社会教育課長	浜島義雄
副参事	浅野晴樹
課長補佐	北 俊明
主幹兼係長	金子正之
主査	浅見敦夫
主任	寺社下博
主任	吉野 健
主事	松田 哲
発掘調査員	小林貴郎
発掘調査員	越前谷理
発掘調査員	小野寺弘光

(2) 整理・報告書刊行（平成11・12年度）

平成11年度

教育長	飯塚誠一郎
教育次長	坂巻 篤
社会教育課長	氏家保男
副参事	浅野晴樹
課長補佐	北 俊明
主幹兼係長	金子正之
主任	寺社下博
主任	渡邊 操
主任	吉野 健
主事	松田 哲
発掘調査員	小林貴郎
発掘調査員	市川康弘
発掘調査員	越前谷理

平成12年度

発掘調査と同じ。

II 遺跡の立地と環境

熊谷市は、埼玉県北部に位置する中核都市である。市の南側には荒川が、北側には妻沼町を挟んで群馬県境を利根川がそれぞれ西から南東方向に向って流れており、川と川に挟まれている。市の西側に櫛引台地、その東側には妻沼低地が広がっているが、市の大半が妻沼低地上にある（第1図）。

櫛引台地は、洪積世に形成された荒川扇状地の左岸一帯の総称で、寄居町の波久礼付近を扇頂として東は熊谷市西部の三ヶ尻付近まで、北東方向へは熊谷市北西部の西別府付近にまで延びている。標高は約30～54mで、妻沼低地に向かって緩やかに下っている。

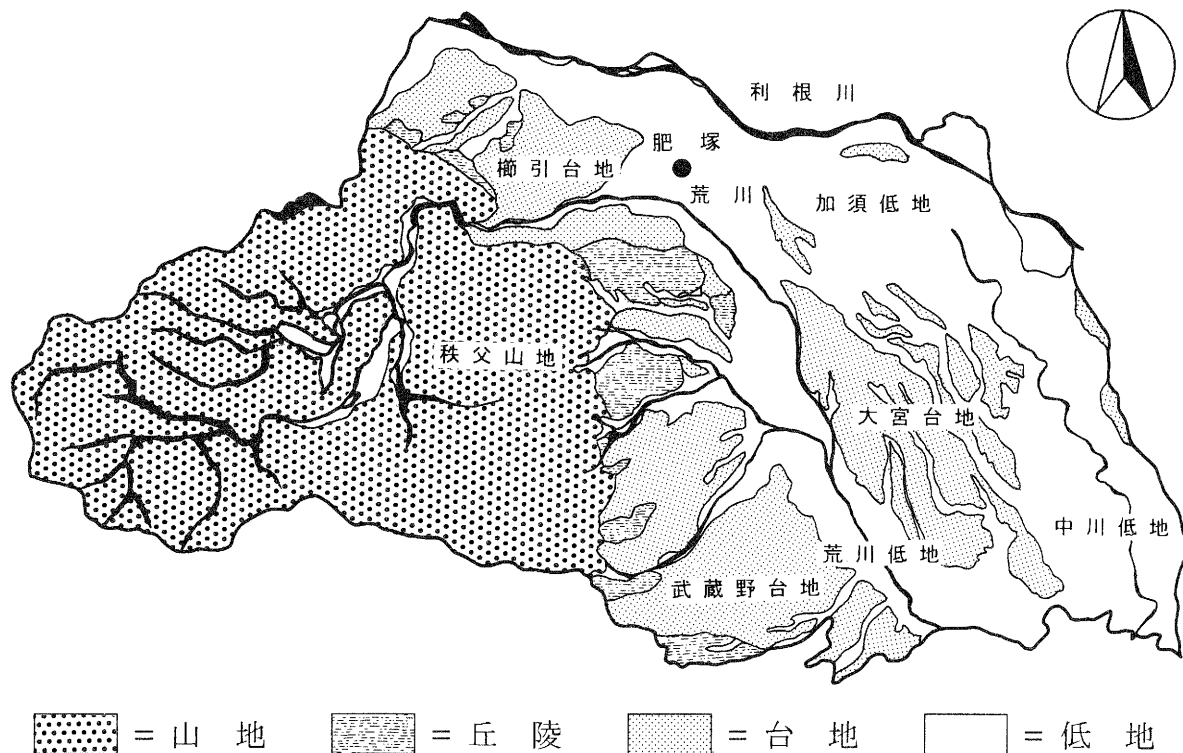
櫛引台地の東側には、沖積世に荒川の乱流により新たに形成された新荒川扇状地が広がっている。新荒川扇状地は熊谷市の南西に位置する川本町の菅沼付近を扇頂として妻沼低地へと広がっており、自然堤防や後背湿地が発達している。発達した自然堤防や後背湿地上には多数の遺跡、及び古墳群が存在し、今回報告する肥塚中島遺跡・出口上遺跡・出口下遺跡・肥塚古墳群もこうした地形上に立地している。標高は27m前後である。

肥塚中島遺跡・出口上遺跡・出口下遺跡・肥塚古墳群は熊谷市大字肥塚に位置する。肥塚周辺は市内でもほぼ中心部にあたり、遺跡、及び古墳群は国道17号熊谷バイパスの南側に隣接する形で所在している。

次に本遺跡周辺の歴史的環境について概観する。

旧石器時代は、市内西部にある籠原裏遺跡にて黒耀石の尖頭器が検出されたのが唯一の確認例である。

縄文時代は本遺跡周辺ではみられないが、櫛引台地北端に位置する深谷市東方城跡から早期の尖頭器が確認されているくらいである。前期になると、遺跡数も次第に増えはじめ、台地上のみならず低地上



第1図 埼玉県の地形図

第1表 周辺遺跡・古墳群一覧表

No.	遺 跡 名	時 代	No.	遺 跡 名	時 代
熊 谷 市			44	No.9 遺跡	縄文中、奈良・平安
1	肥塚中島遺跡	奈良・平安、江戸	45	別府城跡	平安、鎌倉・室町
2	出口上遺跡	奈良・平安、鎌倉・室町	46	別府氏館跡	平安末
3	出口下遺跡	古墳後	47	寺東遺跡	縄文前～後
4	肥塚館	鎌倉	48	稲荷東遺跡	古墳後、奈良・平安
5	八幡山遺跡	古墳	49	玉井陣屋跡	平安末
6	熊谷氏館跡	鎌倉	50	五反畑遺跡	室町
7	箱田氏館跡	平安末	51	水押下遺跡	古墳後
8	前中西遺跡	弥生中、古墳、奈良・平安	52	稲荷木上遺跡	古墳後
9	No.20	古墳後	53	No.53遺跡	奈良・平安
10	諏訪木遺跡	縄文、弥生、古墳後、奈良・平安、中・近世	54	下河原上遺跡	江戸末
11	藤之宮遺跡	古墳後、奈良・平安	55	本代遺跡	古墳後、江戸
12	成田氏館跡	室町	56	東遺跡	平安、室町
13	池上遺跡	弥生中、古墳、平安	57	高根遺跡	奈良・平安
14	宮の裏遺跡	古墳後	58	不二ノ腰遺跡	奈良・平安
15	河上氏館	鎌倉	59	天神前遺跡	古墳中・後、鎌倉
16	上川上東遺跡	古墳、室町	60	兵部裏屋敷跡	鎌倉
17	北島遺跡	弥生中・後、古墳前～後、奈良・平安、鎌倉	61	御藏場跡	江戸
18	天神東遺跡	古墳前、江戸	62	万吉西浦遺跡	縄文中、古墳、平安、江戸～明治
19	田谷遺跡	古墳、奈良・平安	63	村岡館	平安末
20	中条条里遺跡	古墳前・中、奈良・平安	64	北西原遺跡	奈良・平安
21	天神遺跡	弥生、古墳後、奈良・平安、室町、江戸	65	久下氏館跡	鎌倉
22	中島遺跡	古墳後、奈良・平安	66	市田氏館跡	室町
23	鎧塚遺跡	古墳後、奈良・平安、室町	行 田 市		
24	女塚遺跡	古墳後	67	小敷田遺跡	弥生中、古墳前・後、奈良・平安
25	赤城遺跡	古墳、奈良・平安	江 南 町		
26	中条遺跡	古墳前～後、奈良・平安、鎌倉、室町	68	姥ヶ沢遺跡	縄文早～後、古墳後：埴輪窯跡
27	中条氏館跡	鎌倉	古 墳 群		
28	光屋敷遺跡	古墳後、奈良、鎌倉、江戸	A	肥塚古墳群	古墳後
29	奈良東耕地遺跡	奈良・平安	B	上之古墳群	古墳後
30	東通遺跡	古墳後	C	大塚古墳	古墳後
31	西通遺跡	古墳後	D	鎧塚古墳	古墳後
32	中耕地遺跡	縄文中、古墳前・後、奈良・平安	E	女塚1～6号墳	古墳後
33	土用ヶ谷戸遺跡	古墳後、奈良・平安	F	中条古墳群	古墳後
34	奈良氏館跡	平安末	G	横塚山古墳	古墳中
35	天神下遺跡	古墳前・後、奈良・平安	H	在家古墳群	古墳後
36	一本木前遺跡	弥生中、古墳前・後、奈良・平安	I	玉井古墳群	古墳後
37	別府条里遺跡	奈良・平安	J	原島古墳群	古墳後
38	入川遺跡	縄文後、古墳前～後	K	坪井古墳群	古墳後
39	深町遺跡	縄文中・後、古墳前・後、奈良・平安	L	広瀬古墳群	古墳後
40	根絡遺跡	縄文中、古墳前・後、奈良・平安	M	石原古墳群	古墳後
41	横間栗遺跡	縄文後、弥生前・中、古墳前・後、奈良・平安、江戸	N	村岡古墳群	古墳後
42	関下遺跡	縄文中、古墳前・後、奈良・平安	O	姥ヶ沢古墳群	古墳後
43	石田遺跡	縄文中・後、弥生中、古墳後			

からも寺東遺跡（47）など集落跡が確認されている。中期は遺跡数が非常に多くなり、特に中期後半、加曽利E式期のものが多い。同期は前期同様、台地及び低地上からも集落跡が確認されているが、特に櫛引台地北東端、及び台地下の自然堤防上に集中している。隣接する深谷市でも同期の集落跡が多数確認されているが、自然堤防上にあるものが多い。後期になると遺跡数は減少し、中期同様、櫛引台地北東端に集中する。晩期は、後期に比べるとさらに遺跡数が減少し、市内ではほとんど確認されていない。市内東部の上之地区から安行式土器が検出されているぐらいである。深谷市では自然堤防上よりいくつか遺跡が確認されているが、上敷免遺跡では晩期でも終末の浮線文土器片が多数検出されており、次代へのつながりがみてとれる。

弥生時代は東日本初期弥生土器を語る上で非常に重要な資料が検出されている。遺跡は妻沼低地上に広く進出しはじめる。

特筆すべき事項としては、自然堤防上に位置する横間栗遺跡（41）から、前期末～中期中頃の再葬墓が13基確認されたことが挙げられる。なお、再葬墓一括資料は1999年3月に埼玉県指定になっている。

集落跡は、横間栗遺跡に隣接する関下遺跡（42）や石田遺跡（43）の他に、市内東部に位置する環濠集落である池上遺跡（13）などがある。また、近年、本遺跡、及び古墳群の北側に位置する北島遺跡からは住居跡の他に水田跡や堰なども見つかっており、同期の集落の急速な広がりがみてとれる。深谷市では、自然堤防上に位置する上敷免遺跡から再葬墓、竪穴住居跡が確認されており、県内では初の遠賀川式土器の壺・胴部片が出土している。その他にも行田市小敷田遺跡（67）からは、関東地方最古段階に属する方形周溝墓が検出されている。中期後半以降は確認例が少ないが、北島遺跡（17）や行田市小敷田遺跡、池守遺跡において後期の集落跡が確認されている。

古墳時代になると、自然堤防上への進出がより活発化する。前期は近年、確認例が増加しており、妻沼低地自然堤防上から集落跡が検出されている。また、市内北東部の中条遺跡からは木製農具が検出され、行田市小敷田遺跡からは、畿内や東海地方の外来形土器が多数出土している。中期は確認例が少なく不明な点が多いが、市内北東部の中条地区において集落跡がみられる他、5世紀後半～末の古墳として横塚山古墳（G：市指定史跡 帆立貝式前方後円墳）などがある。後期になると、遺跡数が爆発的に多くなり、集落は大規模化し、古墳も群として多数みられるようになる。集落跡は自然堤防上にも多数営まれるようになり、奈良・平安時代へと続いていくものが多い。

古墳群については周辺一帯に多数の群集墳がみられる。櫛引台地には三ヶ尻古墳群、籠原裏古墳群、在家古墳群（H）などがあり、自然堤防上には今回報告する肥塚古墳群（A）の他、別府古墳群、玉井古墳群（I）、原島古墳群（J）、広瀬古墳群（L）、坪井古墳群（K）、石原古墳群（M）があり、このほかにも妻沼低地上にはたくさんの古墳群が所在している。また、荒川を挟んで対岸の江南台地上にも多数の古墳群が築造されている。

市内における古墳で特筆すべき事項としては、広瀬古墳群中の国指定史跡で上円下方墳という特異な形態をしている宮塚古墳や籠原裏古墳群中に所在する八角形墳等が挙げられる。

奈良・平安時代は、律令体制下に組み込まれ、低湿地一帯では中条条里遺跡（20）、別府条里遺跡（37）など条里制に関わる遺構の痕跡を今もとどめている。集落跡は古墳時代後期以降引き続き営まれる遺跡が多く、規模の大きいものが多い。特に北島遺跡（17）は本遺跡周辺一帯での中心的な存在といえ、数

百軒にも及ぶ住居跡、大型の掘立柱建物跡、道路状遺構などが検出されており、灰釉、緑釉陶器も多数出土している。この他に注目すべきこととしては、北島遺跡の南に位置する諏訪木遺跡（10）から、溝に区画された集落跡や大型の掘立柱建物跡、河川を利用した祭祀跡などが検出され、土器や木製品等が多数出土したこと、池上遺跡（13）からは整然と配置された9世紀代の掘立柱建物跡が検出されたこと、池上遺跡の東側に隣接する行田市小敷田遺跡（67）からは、稲の貸し付けを記した「出挙」木簡が出土したこと、一本木前遺跡（36）からは、10世紀前半の住居跡から瑞花鴛鴦八稜鏡が出土したことなどが挙げられる。なお、市内東部の遺跡から出土する須恵器は、時代・時期に程度の差はあるが、武蔵国四大窯跡の1つである鳩山町南比企窯跡産のものを多く含む傾向があり、寄居町末野窯跡産のものを主体とする市西部の遺跡とは様相が異なっている。

中世になると、武蔵七党やその他在地武士団の館跡がみられるようになるが、ただその実態は不明なものが多い。その中で市内北東部の中条地区にある中条氏館跡（27）は非常に残りの良いものであり、埼玉県指定史跡になっている。遺跡は常光院、及びその周辺が比定されており、常光院の境内には土塁の一部と堀が良く残っている。この他にも中条地区には中条氏関連遺跡として、光屋敷遺跡（28）があり、中世前半の館跡と考えられている。また、市内北西部にある別府城跡（45）は別府氏の居館で、現在も土塁と堀が一部残っている。

近世については、市内においていくつか調査例がみられるが、不明な点が多いのが実状である。

Ⅲ 遺跡の概要

1 調査の方法

発掘調査は、平成7年度から平成10年度、平成12年度と計5回にわたって実施された。すべての調査においてまず遺構確認面まで重機で掘削し、その後人力による手掘り作業を行っていった。そして、各調査区内に一辺5mのグリッド方式を用いて全体を網羅できる様にし、調査区北西隅をA-1として南へ1・2・3…、東へA・B・C…とし、Aラインは北から南へA-1・A-2・A-3…と呼称した。Bライン以東もAラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。なお、東西に調査区が長い出口上遺跡、及び出口下遺跡については、アルファベット最後のZ以降は、'をつけて再度AからはじめてA'-1…と呼称した。

手掘り作業終了後は、各遺構ごとに実測、遺物の取り上げ、写真撮影等の作業を順次行っていた。なお、実測作業を行うにあたっては、グリッド交点に設定した杭を基準に水系による1m間隔のメッシュを張り、簡易遣り方による方法で行った。

2 検出された遺構と遺物

(1) 肥塚中島遺跡

発掘調査は平成7年度のみ実施された。検出された遺構は、溝跡13条、土坑41基、土壇墓1基、火葬跡1基、井戸跡1基、ピット群である。

溝跡は調査区のほぼ全面より検出されたが、中でも東側に集中している。いずれも軸がほぼ同じかそれに直交する形で走っており、ほぼ同時期のものと考えられる。出土遺物が少ないため定かではないが、第13号溝跡から鎌倉・室町時代の遺物が検出されていることから、同時代のものと考えられる。

土坑も調査区のほぼ全面より41基が検出された。長方形、ないし方形プランのものが多くみられるが、いずれもほとんど遺物が検出されなかったため、帰属時代・時期は定かではない。目立った事例としては、第41号土坑からは多量の土鍾がまとまって検出されたことが挙げられる。

土壇墓は1基のみの検出であるが、これは人骨が検出されたことから土壇墓としたものであり、他の土坑群にもその可能性があるかもしれない。

火葬跡は残りが良くなかったが、骨粉化した人骨が検出されたのみで、自然石等はみられなかった。

井戸跡は1基のみの検出であるが、調査の都合上、完掘はできなかった。

ピットは第6・7号溝跡付近を中心に調査区内からいくつか検出されたが、規則的に並ぶものはみられなかった。

これらの遺構の帰属時代・時期は不明な点が多いが、出土遺物には古墳時代後期から奈良・平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代まで幅広く遺物がみられることから、本遺跡は古墳時代後期～江戸時代までの複合遺跡である。

(2) 出口上遺跡

発掘調査は、平成9・10年度の計2回実施され、調査区は4箇所（1～4区）に分かれている。検出

された遺構は、掘立柱建物跡1棟、溝跡18条、土坑33基、火葬跡4基、土壇墓2基、井戸跡1基、石組遺構1基、ピット群である。

1区からは、溝跡6条、土坑17基（1～15・17・26）、土壇墓2基（1・2号）、火葬跡2基（1・4号）、井戸跡1基、ピット、2区からは、掘立柱建物跡1棟、溝跡15条（7～14号）、土坑10基（16・18～25・27）、火葬跡2基（2・3号）、石組遺構1基、ピットが検出された。3区からは溝跡3条（15～17号）、4区からは土坑6基（28～33号）、ピットがそれぞれ検出された。

掘立柱建物跡は調査区の都合から全ての掘り方を検出したわけではないため、詳細については不明である。また、周辺には多数のピットが存在するが、これについても具体的な関係は不明である。

溝跡はほぼ南北方向に走っているものが多く、調査区内全面から検出されている。

土坑も調査区内ほぼ全面から検出されており、長方形、ないし方形プランのものが多く、覆土からみて土壇墓の可能性のあるものもみられたが、骨が検出されたもののみを土壇墓とした。

土壇墓・火葬跡は1・2区内に点在する形で検出された。土壇墓からは古銭が検出されている。火葬跡は1号火葬跡外は残存状態があまりよくない。

井戸跡は1区から1基のみ検出された。調査区の関係から完掘はできなかったが、大きい部類に入る。素掘りのものである。

石組遺構は東側が崩れていたが、人頭大の川原石が楕円形状に配されており、石組内からは焼土層が検出された。用途は不明である。

ピットは各調査区内より多数検出された。概して溝跡や土坑等が集中する箇所に多くみられ、これらの遺構に付随するものと考えられる。ただし、規則的に並ぶものはみられなかった。

出土遺物は土壇墓・火葬跡以外に目立った遺物はみられない。よって、検出された遺構は帰属時代・時期が不明なものが多いが、溝跡や土坑、遺構外出土遺物には古墳時代後期、鎌倉・室町時代、江戸時代の遺物がみられることから、これらの時代に属するものと考えられる。

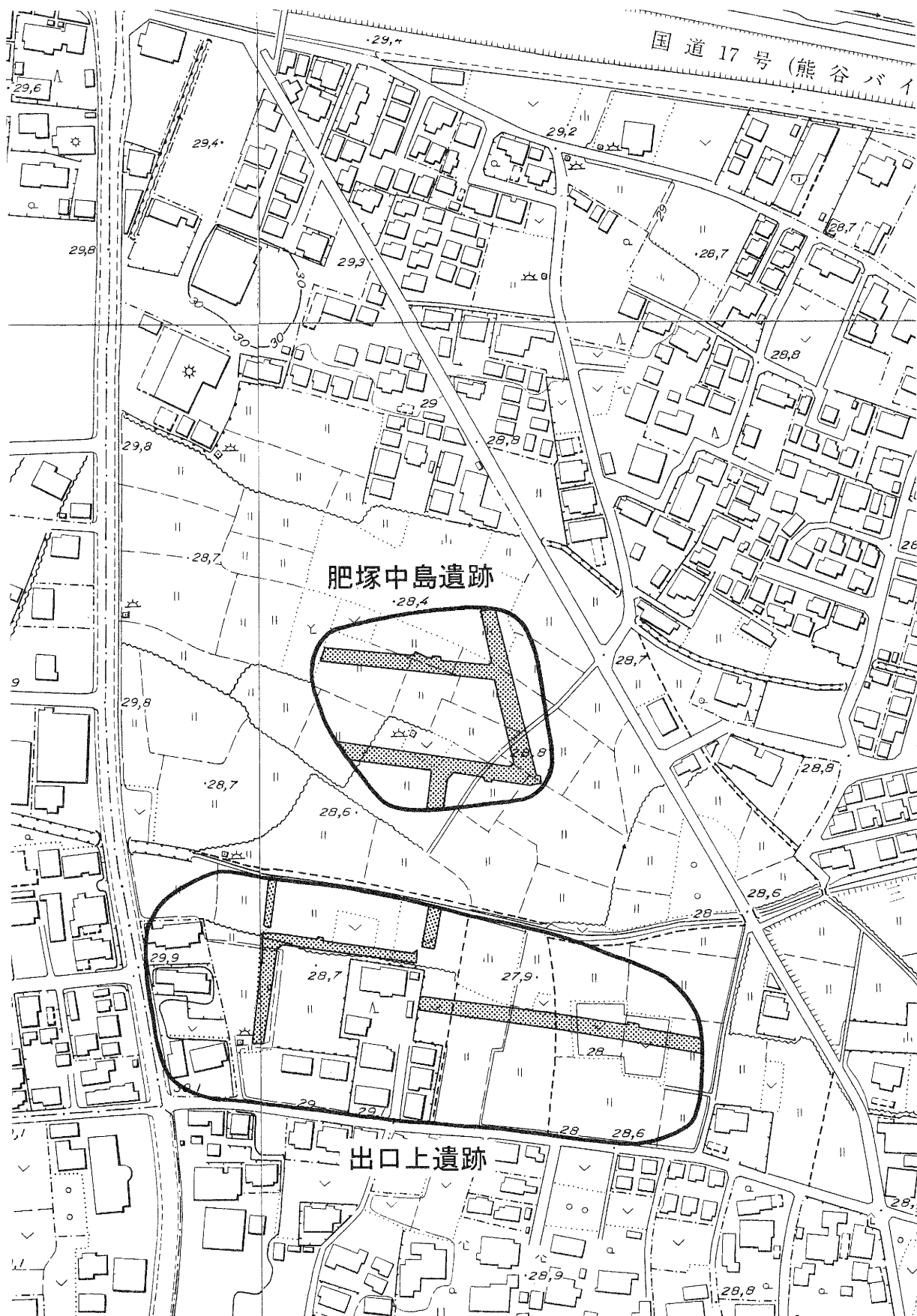
（3）出口下遺跡

発掘調査は、平成8・9・10・12年度の計4回実施され、調査区は4箇所（1～4）に分かれている。

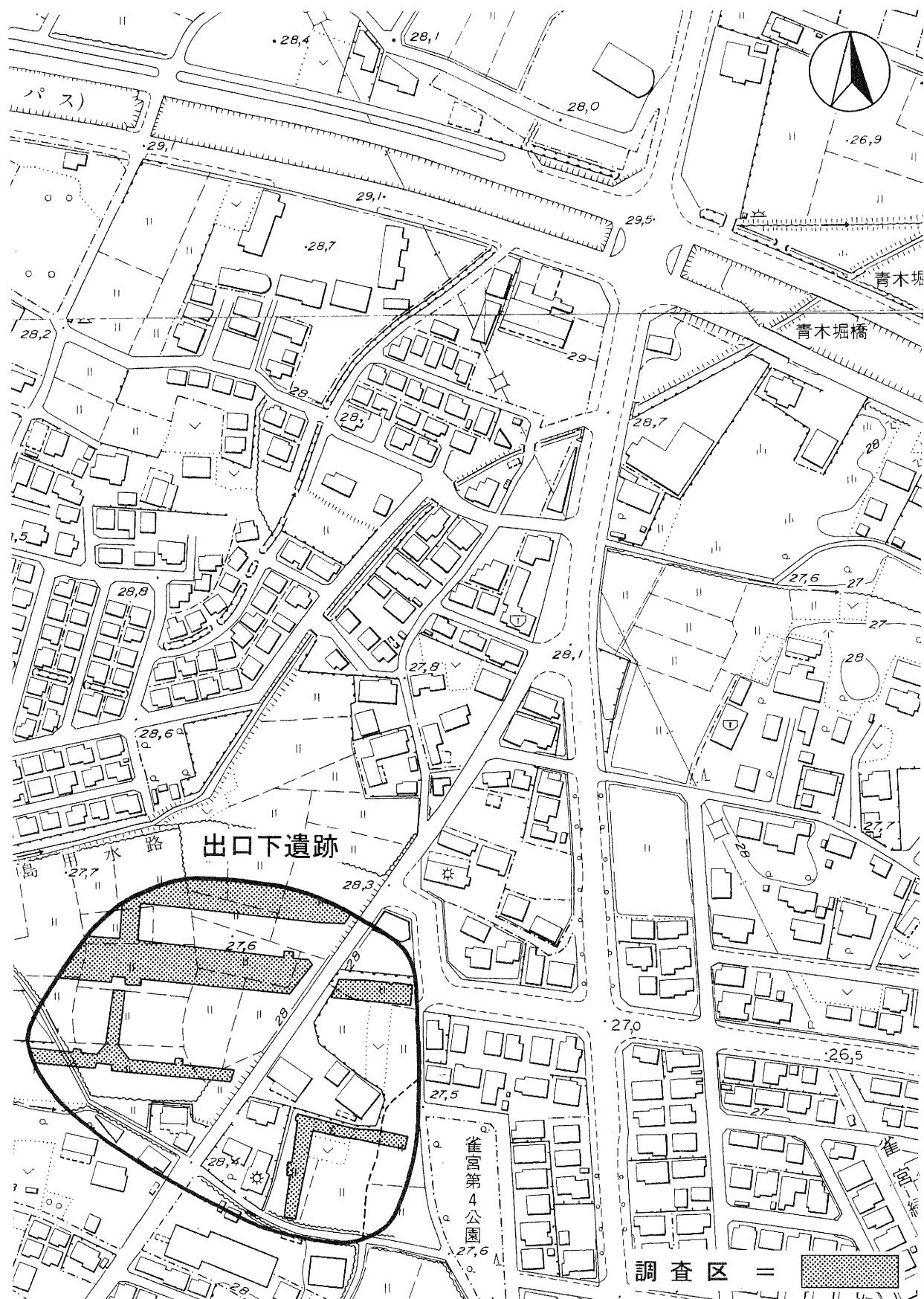
検出された遺構は、竪穴住居跡27軒、掘立柱建物跡2棟、方形周溝状遺構1基、溝跡16条、土坑22基、火葬跡11基、井戸跡5基、集石3基、ピット群である。

1区からは、竪穴住居跡6軒（1～6号）、掘立柱建物跡2棟（1・2号）、方形周溝状遺構1基、溝跡6条（1～6号）、土坑9基（1～9号）、火葬跡10基（1～10号）、井戸跡3基（1～3号）、集石3基（1～3号）、ピット、2区からは、竪穴住居跡2軒（7・9号）、溝跡7条（7～13号）、土坑2基（10・11号）、火葬跡1基（11号）、井戸跡1基（4号）、ピット、3区からは、竪穴住居跡12軒（10～21号）、溝跡1条（14号）、ピット、4区からは、竪穴住居跡7軒（22～28号）、溝跡3条（15～17号）、土坑10基（12～21号）、ピットがそれぞれ検出された。

竪穴住居跡はすべて古墳時代後期のものである。1号住居跡が8mで最も大きい、平均して一辺3mのものが多く、また、3区検出の住居跡には住居廃絶後に礫を投棄した状況がみられた。出土遺物は各住居跡から土器が検出されたが、中でも1～3号から多数検出された。



第3図 調査



地点位置図

掘立柱建物跡は2棟のみである。時期は特定できないが、住居跡とは軸がずれている。

溝跡は各調査区内から検出されている。出土遺物が少ないため時期は特定できない。このうち、5号溝跡からは9世紀前半の須恵器・坏が検出されている。

土坑は1・4区から多数検出されているが、出土遺物が少ないため、時期は特定できない。

火葬跡は1区からの検出がほとんどである。調査区内に点在する形でみられる。自然石を置いたものが多くみられ、残りの良いものがほとんどであった。

井戸跡は1・2区から検出された。このうち1号井戸跡のみ川原石を井戸枠に使用していた。その他は素掘りのものである。

集石は1区からのみ検出された。2・3号は集石というよりは土坑と見たほうが良いものかもしれない。1号集石からは内耳土器の破片が検出されている。

ピットは各調査区内から検出された。特に2区のA～C－16・17グリッドと3区B'－25～27グリッドにおいて集中してみられたが、規則的に並ぶものはみられなかった。

(4) 肥塚古墳群14・15・16号墳

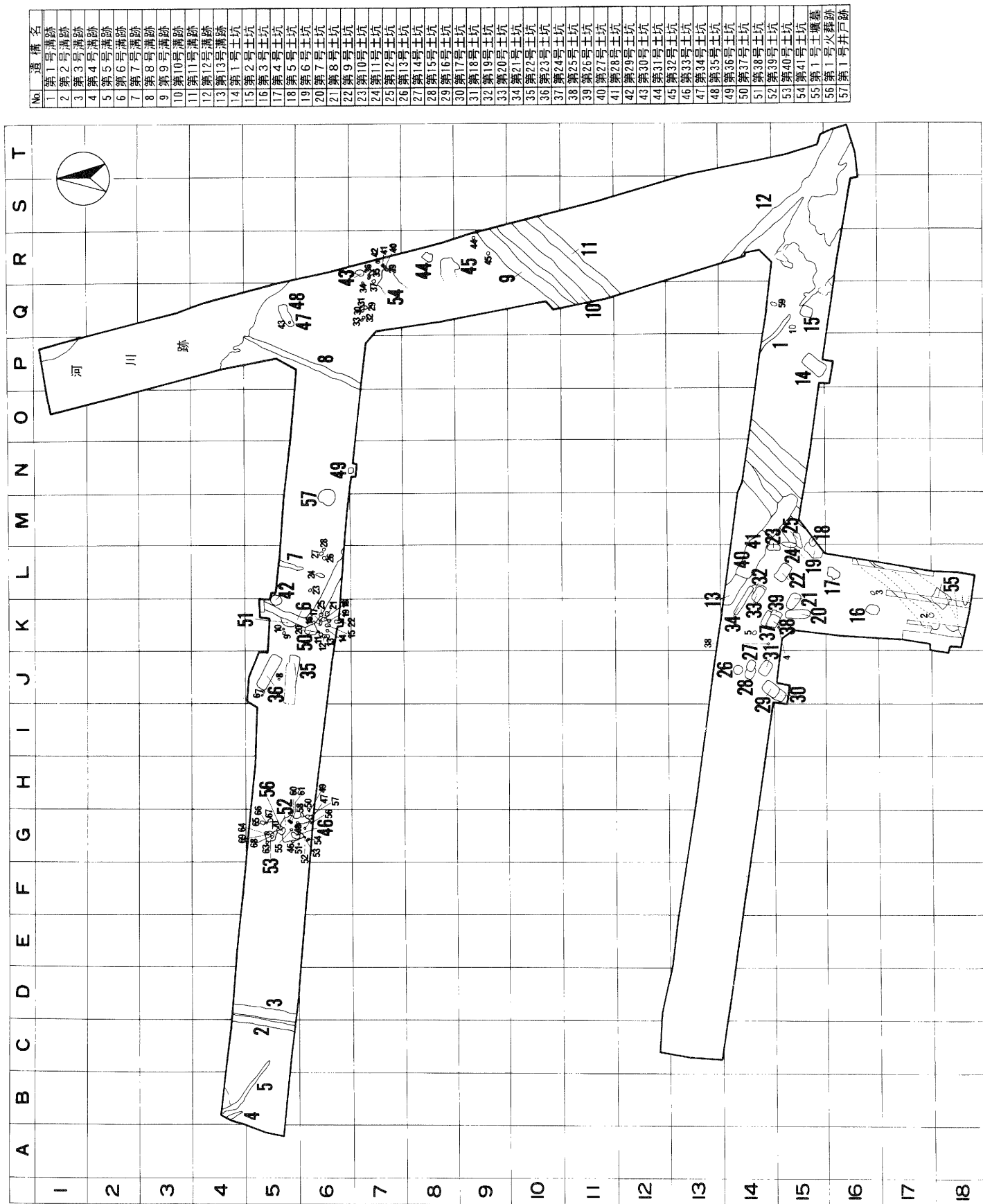
肥塚古墳群は現在までに13基が確認されていたが、今回の調査により3基が新たに加わった。3基の古墳は出口下遺跡1・2区内から検出された。14号墳と15号墳の大半は平成8年度の調査により確認され、15号墳周堀の一部と16号墳は平成9年度の調査により検出された。全形を検出したものではなく、またマウンドも削平されてしまっていたが、いずれの古墳からも石室が確認された。なお、14・16号墳は周堀が確認できなかったが、石室を確認したことにより古墳として認識したものである。よって、規模等詳細については不明である。

3基のうち、15号墳が最も残りがよく、石室は川原石を用いた胴張り型の横穴式石室である。周堀はややいびつではあるが、円形状に巡っていたことから円墳である。14・16号墳の石室も15号墳と同じく川原石を用いた横穴式石室であるが、破壊状況が著しく、玄室部分のみ検出された。墳形は定かではないが、15号墳同様、円墳と思われる。

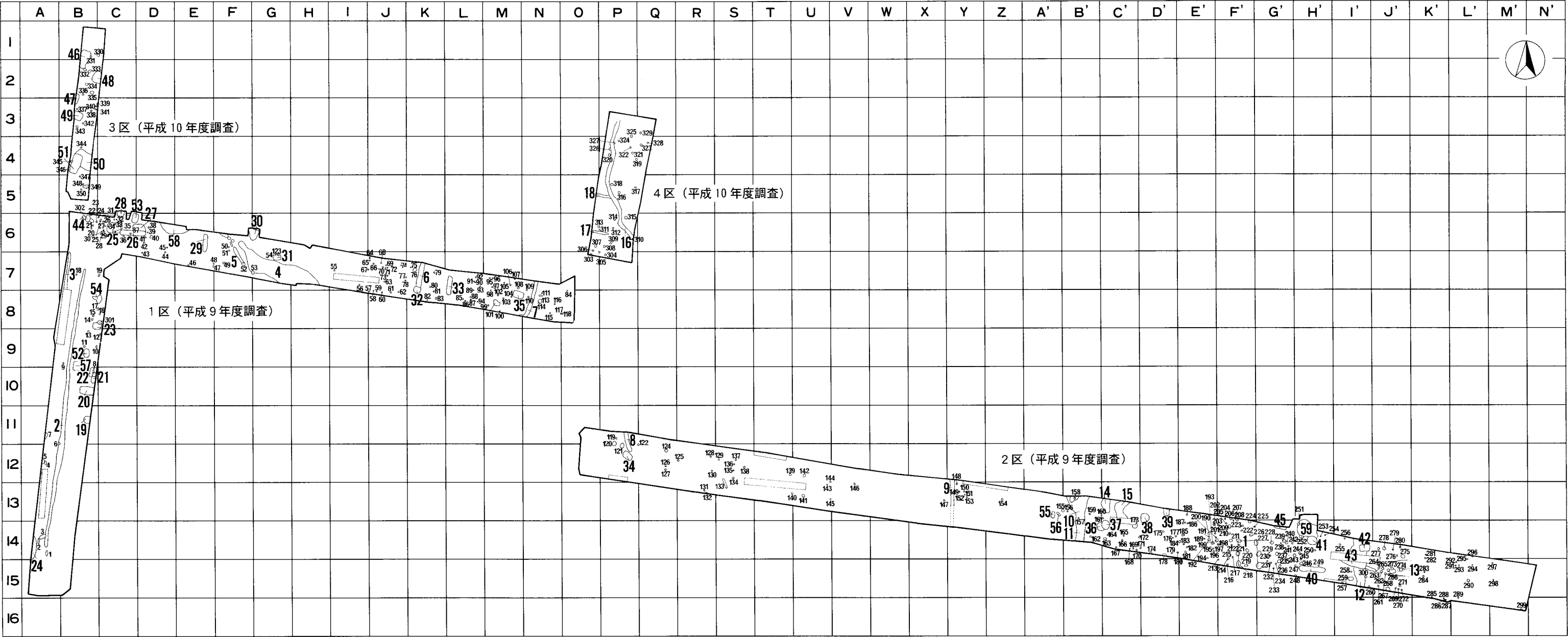
出土遺物は、14号墳の石室から金環が1点検出されたのみである。

いずれも古墳時代後期の群集墳であり、肥塚古墳群中では現在確認されている中で北西に位置する一

群である。

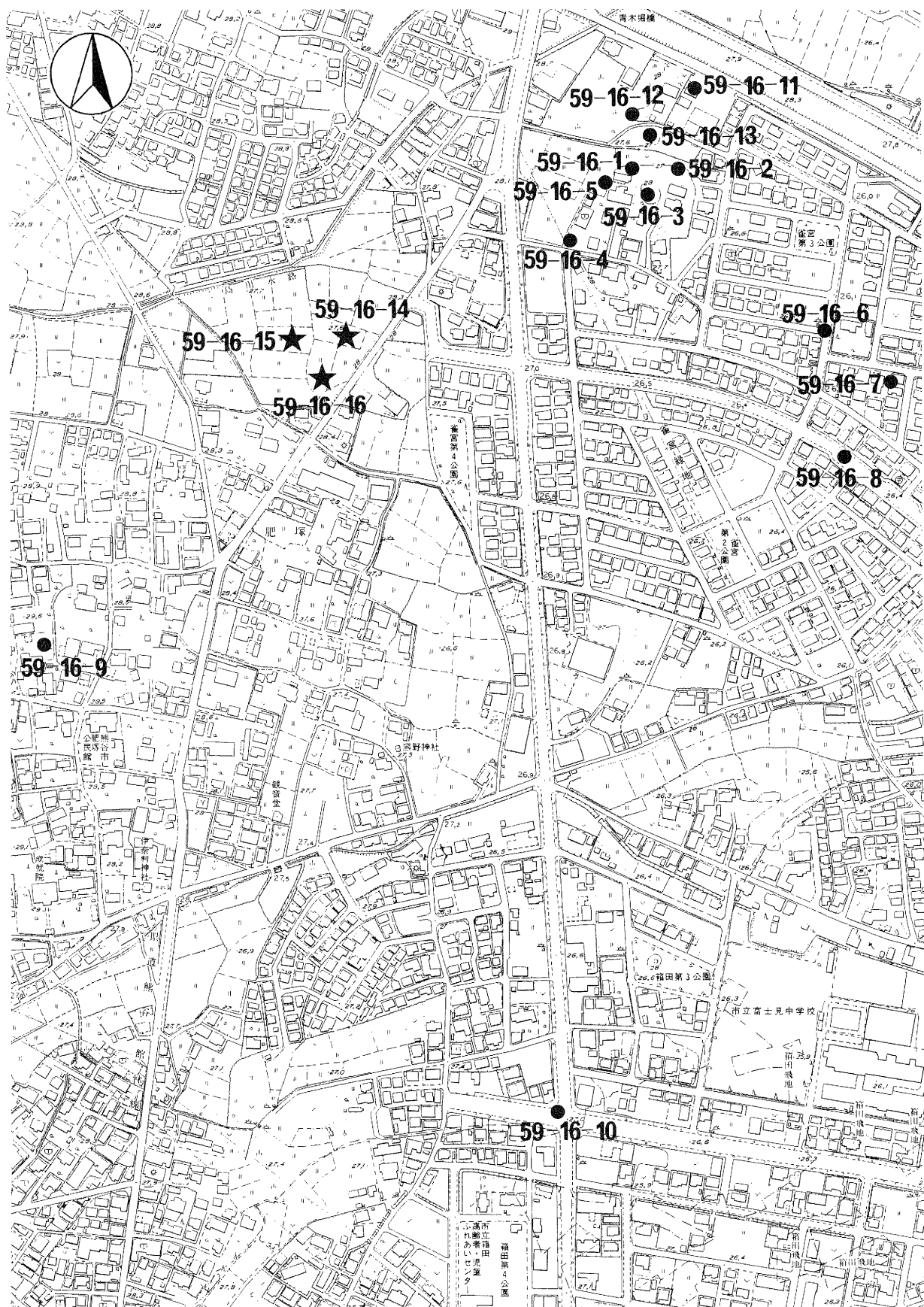


第4図 肥塚中島遺跡調査区全測図



No.	遺 構 名	No.	遺 構 名	No.	遺 構 名	No.	遺 構 名	No.	遺 構 名	No.	遺 構 名
1	第 1 号掘立柱建物跡	11	第10号溝跡	21	第 3 号土坑	31	第13号土坑	41	第23号土坑	51	第33号土坑
2	第 1 号溝跡	12	第11号溝跡	22	第 4 号土坑	32	第14号土坑	42	第24号土坑	52	第 1 号土墳墓
3	第 2 号溝跡	13	第12号溝跡	23	第 5 号土坑	33	第15号土坑	43	第25号土坑	53	第 2 号土墳墓
4	第 3 号溝跡	14	第13号溝跡	24	第 6 号土坑	34	第16号土坑	44	第26号土坑	54	第 1 号火葬跡
5	第 4 号溝跡	15	第14号溝跡	25	第 7 号土坑	35	第17号土坑	45	第27号土坑	55	第 2 号火葬跡
6	第 5 号溝跡	16	第15号溝跡	26	第 8 号土坑	36	第18号土坑	46	第28号土坑	56	第 3 号火葬跡
7	第 6 号溝跡	17	第16号溝跡	27	第 9 号土坑	37	第19号土坑	47	第29号土坑	57	第 4 号火葬跡
8	第 7 号溝跡	18	第17号溝跡	28	第10号土坑	38	第20号土坑	48	第30号土坑	58	第 1 号井戸跡
9	第 8 号溝跡	19	第 1 号土坑	29	第11号土坑	39	第21号土坑	49	第31号土坑	59	第 1 号石組遺構
10	第 9 号溝跡	20	第 2 号土坑	30	第12号土坑	40	第22号土坑	50	第32号土坑		

第 5 図 出口上遺跡調査区全測図



第7図 肥塚古墳群分布図

IV 遺構と遺物

1 肥塚中島遺跡

(1) 溝 跡

第1号溝跡（第11・12図）

P-14～R-16グリッドに位置する。一部途切れる箇所がみられるが、南東方向から北東方向に走っており、東側には第12号溝跡が併走している。北西部と南東部は調査区外に延びている。

検出長は溝跡の中心で11m、幅は総じて0.4m前後、深さは最深部で12cmを測る。調査区南東部では幅広となり、土坑状の掘り込みとなって第12号溝跡と接続している。新旧関係については不明である。確認された範囲での長軸は5.7m、最深部で48cmを測る。溝跡の横断面形は概ね幅広の逆台形状を呈している。

覆土はほぼ水平、ないしレンズ状に堆積する自然堆積層。中層には焼土を含んでいた。

遺物はほとんど検出されず、時期を特定できなかった。

第12号溝跡と平行していることから、同時期の可能性が考えられる。

第2号溝跡（第8図）

C・D-4・5グリッドに位置する。第3号溝跡の西側に隣接して南西方向から北東方向に走っている。確認された長さは6.1mで、南北ともに調査区外へ延びている。幅は0.5m前後、深さは最深部で24cmを測る。横断面形は逆台形状である。

覆土は全体的に砂質で、自然堆積によるものである。

遺物はほとんど検出されず、時期を特定できなかった。

第3号溝跡と平行していることから、同時期の可能性が考えられる。

第3号溝跡（第8図）

D-4・5グリッドに位置する。第2号溝跡の東側を同方向に併走する。確認された長さは6.15mで、南北ともに調査区外に延びている。幅は0.7～1mで第2号溝跡より広い。深さは最深部で29cmを測り、第2号溝跡よりはやや深い。横断面形は逆台形状を呈する。

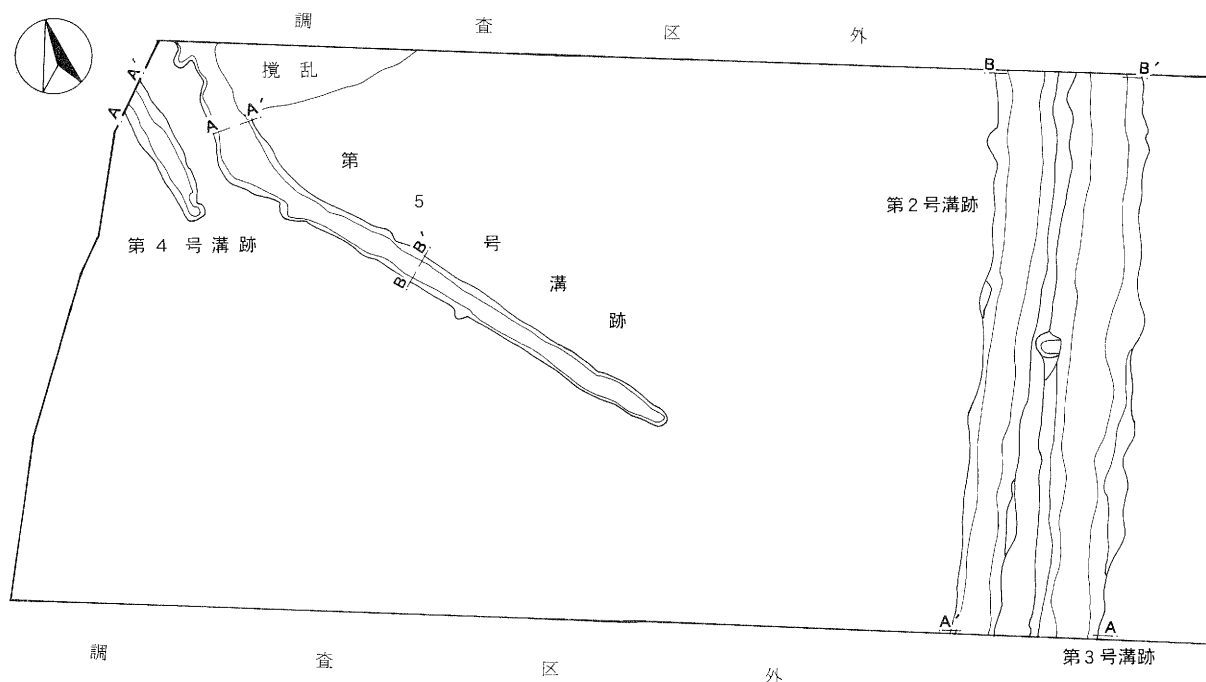
覆土も第2号溝跡同様、ほぼ水平に堆積した自然堆積層で全体的に砂質である。

遺物はほとんど検出されず、時期を特定できなかった。

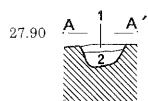
第2号溝跡と平行していることから、同時期の可能性が考えられる。

第4号溝跡（第8図）

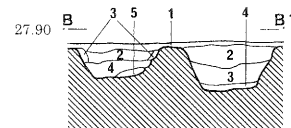
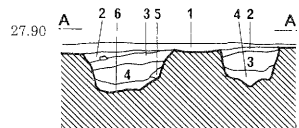
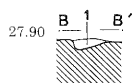
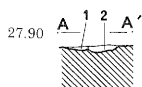
B-4グリッドに位置する。ほぼ南北方向に走っており、東側には第5号溝跡が併走している。確認された長さは1.5mで、調査区外北西方向へ延びている。幅は総じて0.3m、深さは最深部で14cmを測る。横断面形は逆台形状を呈している。



第4号溝跡



第5号溝跡



第4号溝跡

土層説明 (A A')

- 1 黄褐色土: 砂質。焼土・褐灰色粒・明青灰色粒含む。
- 2 褐灰色土: にぶい黄色土含む。

第5号溝跡

土層説明 (A A')

- 1 褐灰色土: 明黄褐色粒含む。
- 2 黄灰色土: 砂質。明黄褐色粒多量含む。

土層説明 (B B')

- 1 黄灰色土: 砂質。明黄褐色粒多量含む。

土層説明 (A A')

1 表 土

第2号溝跡

- 2 灰利-ブ色土: やや砂質。明青灰色粒含む。
- 3 暗灰黄色土: やや砂質。明青灰色粒含む。
- 4 灰黄褐色土: やや砂質。明青灰色粒含む。

第3号溝跡

- 2 灰黄色土: 砂質。礫・灰白色粒・明青灰色粒含む。
- 3 灰黄褐色土: やや砂質。明青灰色粒・明青灰色土含む。
- 4 暗灰黄色土: やや砂質。明青灰色土少量含む。
- 5 灰黄褐色土: 粘性有。
- 6 暗灰黄色土: 黄灰色粒含む。粘性有。

土層説明 (B B')

1 表 土

第2号溝跡

- 2 黄褐色土: やや砂質。灰黄褐色粒・ブロック・浅黄色粒・明青灰色粒含む。
- 3 灰黄褐色土: やや砂質。浅黄色粒含む。
- 4 暗灰黄色土: やや砂質。炭化物・焼土・褐灰色粒含む。
- 5 灰黄褐色土: 浅黄色粒含む。

第3号溝跡

- 2 灰黄褐色土: やや砂質。焼土・浅黄色粒・褐灰色粒・明青灰色粒・ブロック含む。
- 3 暗灰黄色土: やや砂質。褐灰色粒・明青灰色粒含む。
- 4 暗灰黄色土: 焼土・黄灰色土ブロック含む。粘性有。



第8図 第2～5号溝跡

覆土は2層からなる自然堆積層。上層には焼土を含んでいた。

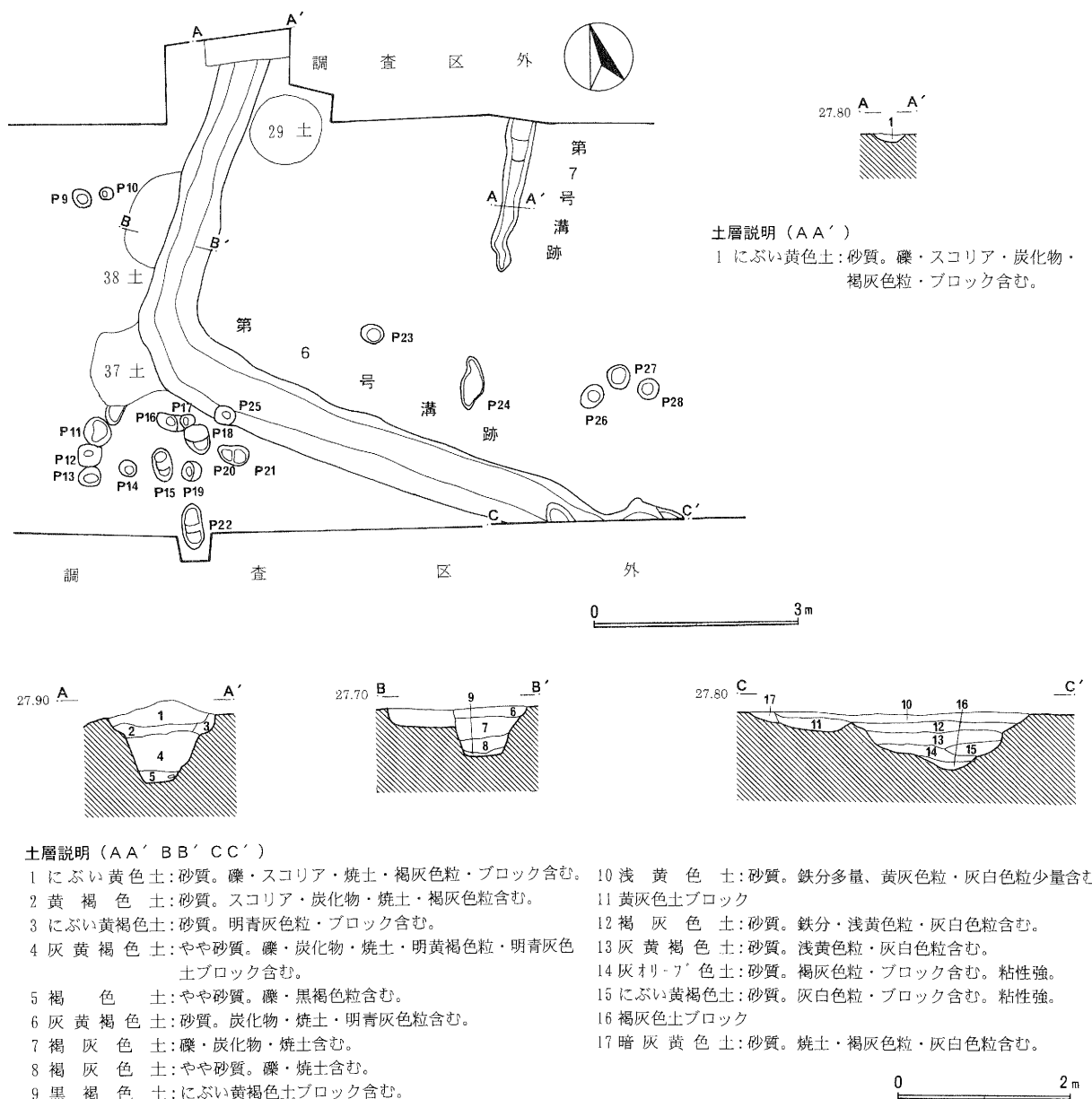
遺物はほとんど検出されず、時期を特定できなかった。

第5号溝跡とほぼ平行していることから、同時期の可能性が考えられる。

第5号溝跡（第8図）

B・C-4・5グリッドに位置する。南東方向から北西方向に走っているが、B-4グリッド内南西部ではほぼ南北方向に向きを変えて、第4号溝跡の東側を併走している。北側は調査区外へ延びている。確認された長さは6.7m、幅は総じて0.3m、深さは確認面の関係から最深部で9cmと非常に浅い。横断面形は浅い船底状を呈している。

覆土は1～2層からなる自然堆積層。



第9図 第6・7号溝跡

遺物はほとんど検出されず、時期を特定できなかった。

第4号溝跡とほぼ平行していることから、同時期の可能性が考えられる。

第6号溝跡（第9図）

K・L-5・6グリッドに位置する。調査区内ではL字状に確認された。南東方向から西に6.8m程走り、K-6グリッド付近で直角に曲がって北東方向へ走っている。北東方向への検出長は4.7mである。コーナー付近ではいくつか土坑と重複関係にあり、第38号土坑については本溝跡が切っているのが確認されたが、第37号土坑については新旧関係は不明である。本溝跡の幅は0.65～0.9m、深さは最深部で40cmを測る。横断面形はほぼ逆台形状を呈している。

覆土はほぼ水平に堆積した自然堆積層で全体的に砂質であった。

遺物は若干検出されたが、図示可能なもの（第22図1～3）は3点のみである。2・3は本溝跡に伴うものである。

第7号溝跡（第9図）

L-5グリッドに位置する。南西方向から北東方向に走っており、北東方向に走る第6号溝跡に平行している。北東部は調査区外へ延びている。検出長は3.2m、幅は0.2～0.4m、深さは最深部で11cmである。横断面形は船底状を呈している。

覆土は1層のみの自然堆積層である。

遺物はほとんど検出されず、時期を特定できなかった。

第6号溝跡との関係から、同時期の可能性が考えられる。

第8号溝跡（第10図）

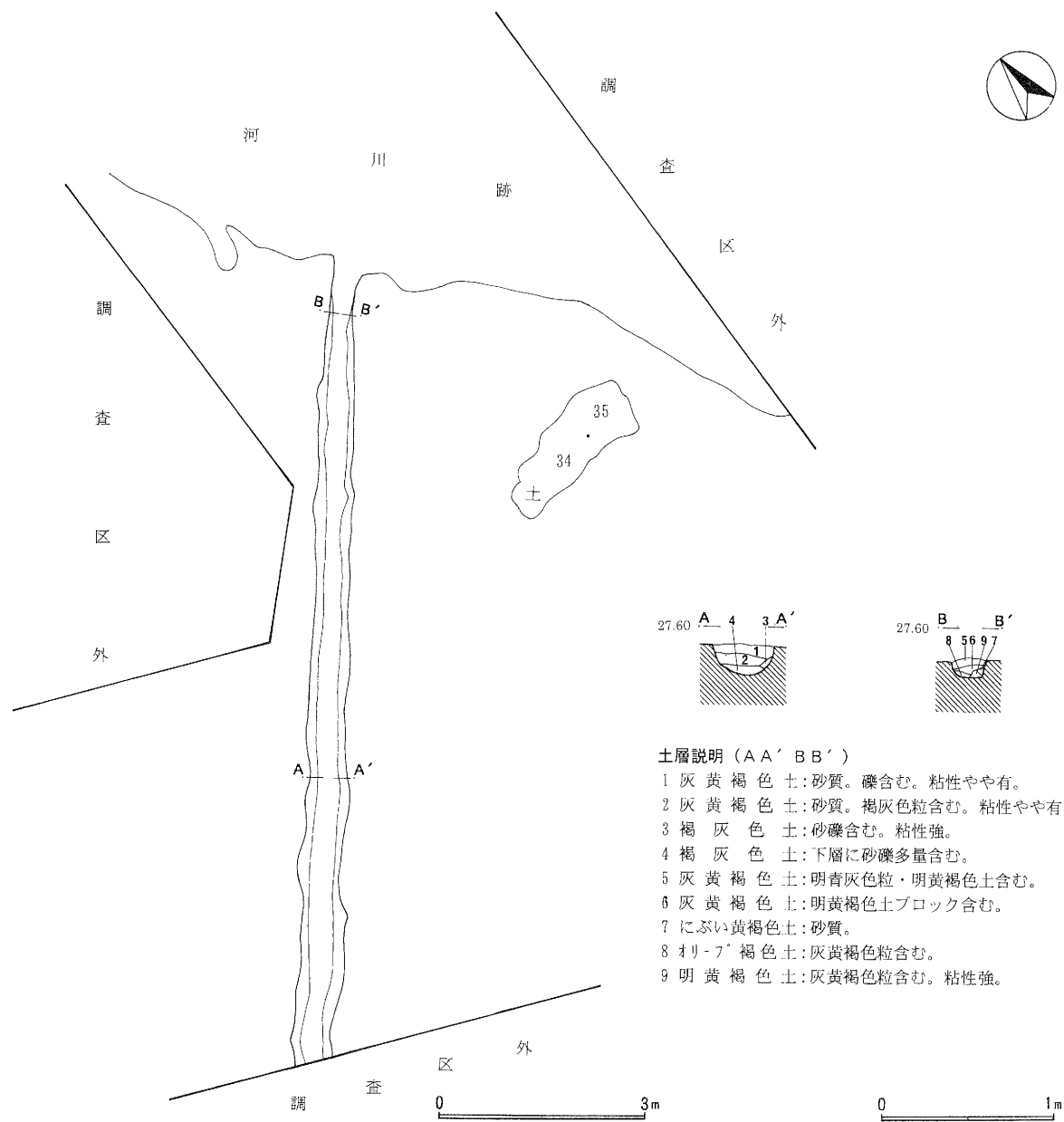
P-5グリッドからP-7グリッドに位置する。南西方向から北東方向へ走り、P-5グリッドで河川跡に接続する。検出長は12mで、南側は調査区外へ延びている。幅は0.6m前後、深さは最深部で19cmを測る。横断面形は逆台形状を呈し、覆土はランダムな層位をなしているが、自然堆積層である。

遺物はほとんど検出されず、時期を特定できなかった。

第9号溝跡（第11・12図）

M-15グリッドから調査区外を挟んでR-9グリッドに位置する。南西方向から北東方向に走っており、M-15グリッドで途切れるが、これは確認面の関係によるものと思われ、本来は続くものと推察される。また、本溝跡の南側には隣接して第10・11号溝跡が併走しており、N-14グリッド内での土層断面観察から第10号溝跡を切っていることが確認された。また、M-15グリッド付近では本溝跡に直行する形で第13号溝跡が重複しているが、新旧関係についてははっきりしない。本溝跡の幅は1.2m前後で、深さはQ-10・11グリッドでは33cm、N-14グリッドでは18cmを測る。横断面形は前者では船底状を呈するが、後者では幅広な逆台形状を呈する。

覆土はランダムな層位をなしているが、自然堆積層である。全体的に砂質である。



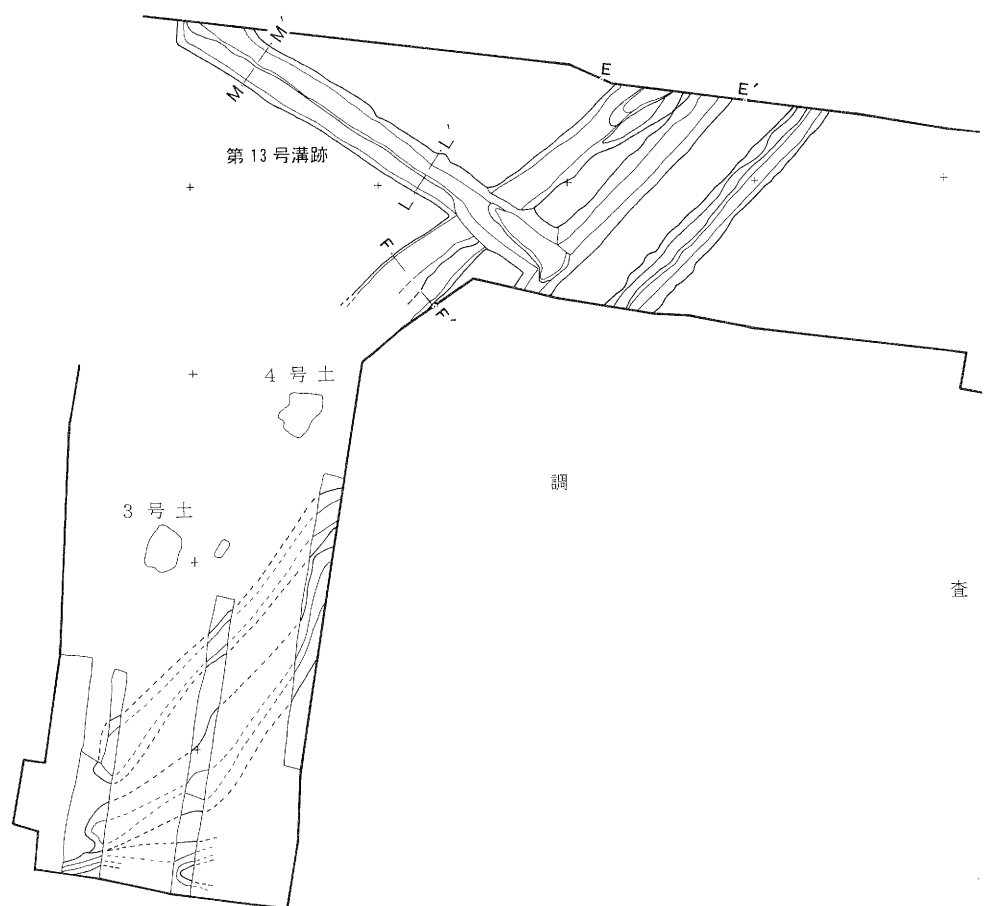
第10図 第8号溝跡

遺物はほとんど検出されなかったため、時期を特定できなかったが、その位置関係から第10・11号溝跡と同時期と思われる。

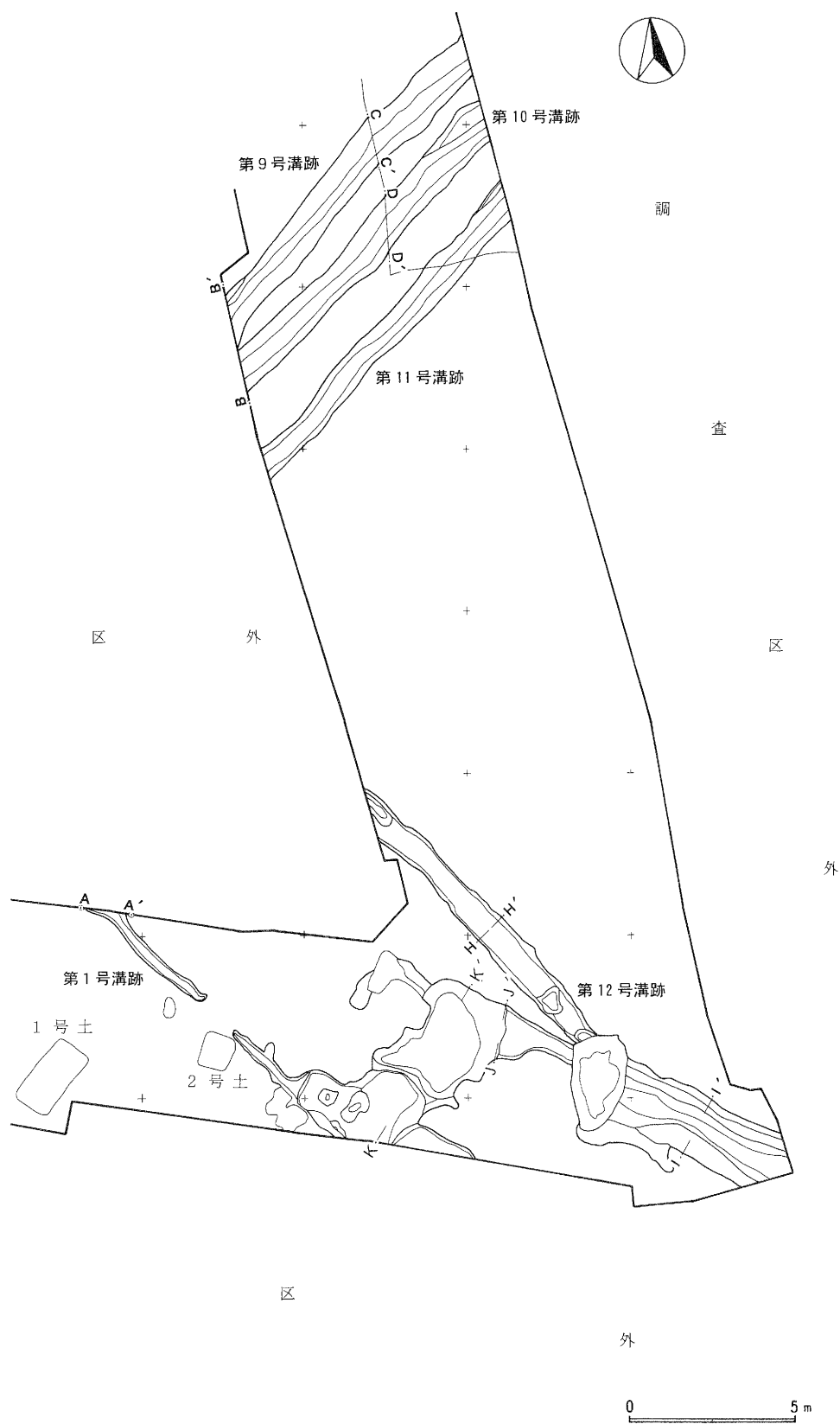
第10号溝跡 (第11・12図)

第9号溝跡同様、南西方向から北東方向に走っており、K-18から調査区外を挟んでS-9グリッドに位置し、K-18グリッドで途切れる。北東方向は調査区外に延びている。本溝跡の両側には隣接して第9・11号溝跡が併走しており、N-14グリッドでは第9号溝跡により切られているため、本溝跡が第9号溝跡より古い。また、M-15グリッドでは第13号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。本溝跡の幅は2.1m前後で、深さはQ-11グリッドでは38cm、N-14グリッドでは49cmを測る。横断面形は前者では船底状を呈するが、後者では幅広な逆台形状を呈する。

調 査

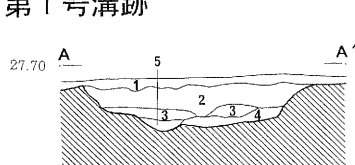


第11図 第1・



9~13号溝跡

第1号溝跡



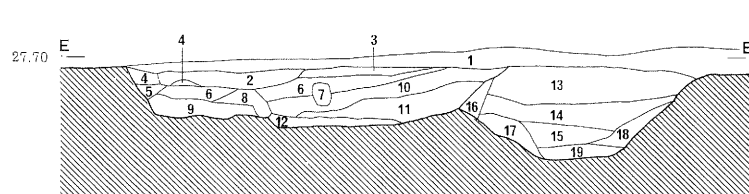
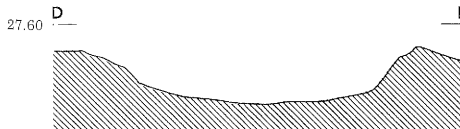
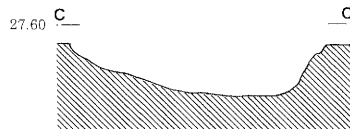
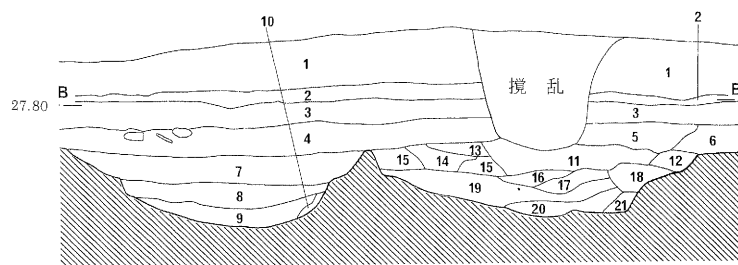
土層説明 (A A')

- 1 攪乱
- 2 にぶい黄色土: 砂質。スコリア・礫・焼土・褐灰色粒土ブロック・明青灰色粒含む。
- 3 黄灰色土: 焼土・明青灰色土含む。
- 4 黄灰色土: 黒褐色粒多量含む。

土層説明 (B B')

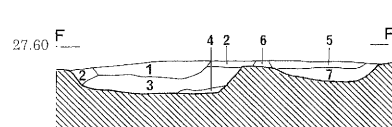
- 1 耕作土
- 2 明青灰色土: 砂質。鉄分・スコリア多量、礫少量含む。
- 3 灰白色土: 鉄分多量、スコリア・礫少量含む。
- 4 灰色土: 砂質。礫・浅黄色土含む。
- 5 灰色土: 炭化物・焼土・褐灰色土ブロック・浅黄色粒・ブロック含む。
- 6 灰色土: 灰黄褐色粒・ブロック多量、灰白色粒少量含む。
- 7 にぶい黄色土: 砂質。鉄分・焼土・浅黄色粒・明青灰色粒含む。
- 8 黄褐色土: 砂質。礫・明青灰色粒含む。
- 9 にぶい黄褐色土: 砂質。礫含む。
- 10 黒褐色土
- 11 にぶい黄色土: 砂質。褐灰色粒・ブロック・明青灰色粒・浅黄色粒含む。
- 12 にぶい黄褐色土: 明青灰色粒含む。
- 13 浅黄色土: 砂質。明青灰色粒・灰褐色粒含む。
- 14 明青灰色土: 砂質。灰褐色粒・明青灰色粒含む。
- 15 にぶい黄色土: 砂質。灰褐色粒・明青灰色粒含む。
- 16 明黄褐色土: 砂質。灰褐色粒・明青灰色粒含む。
- 17 灰褐色土: 砂質。明青灰色粒含む。
- 18 褐灰色土: やや砂質。明青灰色粒・明黄褐色粒含む。
- 19 明青灰色土: 砂質。浅黄色粒・褐灰色粒・ブロック含む。
- 20 にぶい黄褐色土: 礫・褐灰色粒含む。
- 21 にぶい黄褐色土: 礫含む。

第9・10号溝跡



土層説明 (E E')

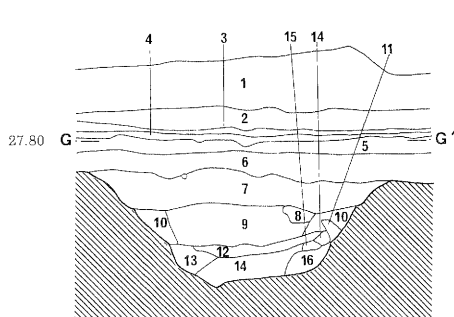
- 1 表土: 灰色土。砂質。鉄分・スコリア・炭化物含む。
- 2 浅黄色土: 砂質。鉄分・スコリア・炭化物・灰色粒・黄灰色粒含む。
- 3 灰白色土: 砂質。鉄分・褐灰色粒含む。
- 4 浅黄色土: やや砂質。鉄分・灰色粒・黒褐色粒含む。
- 5 黒褐色土: 灰色粒・浅黄色土含む。
- 6 灰褐色土: 砂質。スコリア・焼土・灰色粒・浅黄色粒含む。
- 7 灰色土: 鉄分・浅黄色粒含む。
- 8 浅黄色土: 砂質。鉄分・黒褐色粒・明青灰色粒含む。
- 9 にぶい黄色土: 砂質。炭化物・焼土・灰色粒・黒褐色粒・ブロック含む。
- 10 灰褐色土: 砂質。礫・炭化物・灰色粒含む。
- 11 にぶい黄褐色土: 黒褐色粒・明黄褐色粒含む。
- 12 黒褐色土
- 13 灰黄褐色土: 砂質。鉄分・礫・灰色粒含む。
- 14 褐灰色土: 砂質。鉄分・スコリア・炭化物・焼土・明青灰色粒・ブロック含む。
- 15 にぶい黄色土: 砂質。鉄分・褐灰色粒・明青灰色粒含む。
- 16 黒褐色土: にぶい黄色粒含む。
- 17 黒褐色土: にぶい黄色粒多量含む。
- 18 にぶい黄色土: 砂質。黒褐色粒含む。
- 19 黄褐色土: 黒褐色粒多量含む。



土層説明 (F F')

- 1 にぶい黄色土: やや砂質。褐灰色粒・ブロック・淡黄色粒含む。
- 2 オリーブ黄色土: 褐灰色粒多量含む。
- 3 褐灰色土: にぶい黄色粒含む。
- 4 暗灰黄色土: しまり無。
- 5 暗灰黄色土: 砂質。褐灰色粒・にぶい黄色粒含む。
- 6 黒褐色土: にぶい黄色粒含む。
- 7 褐灰色土: 炭化物・焼土・にぶい黄色粒含む。

第11号溝跡



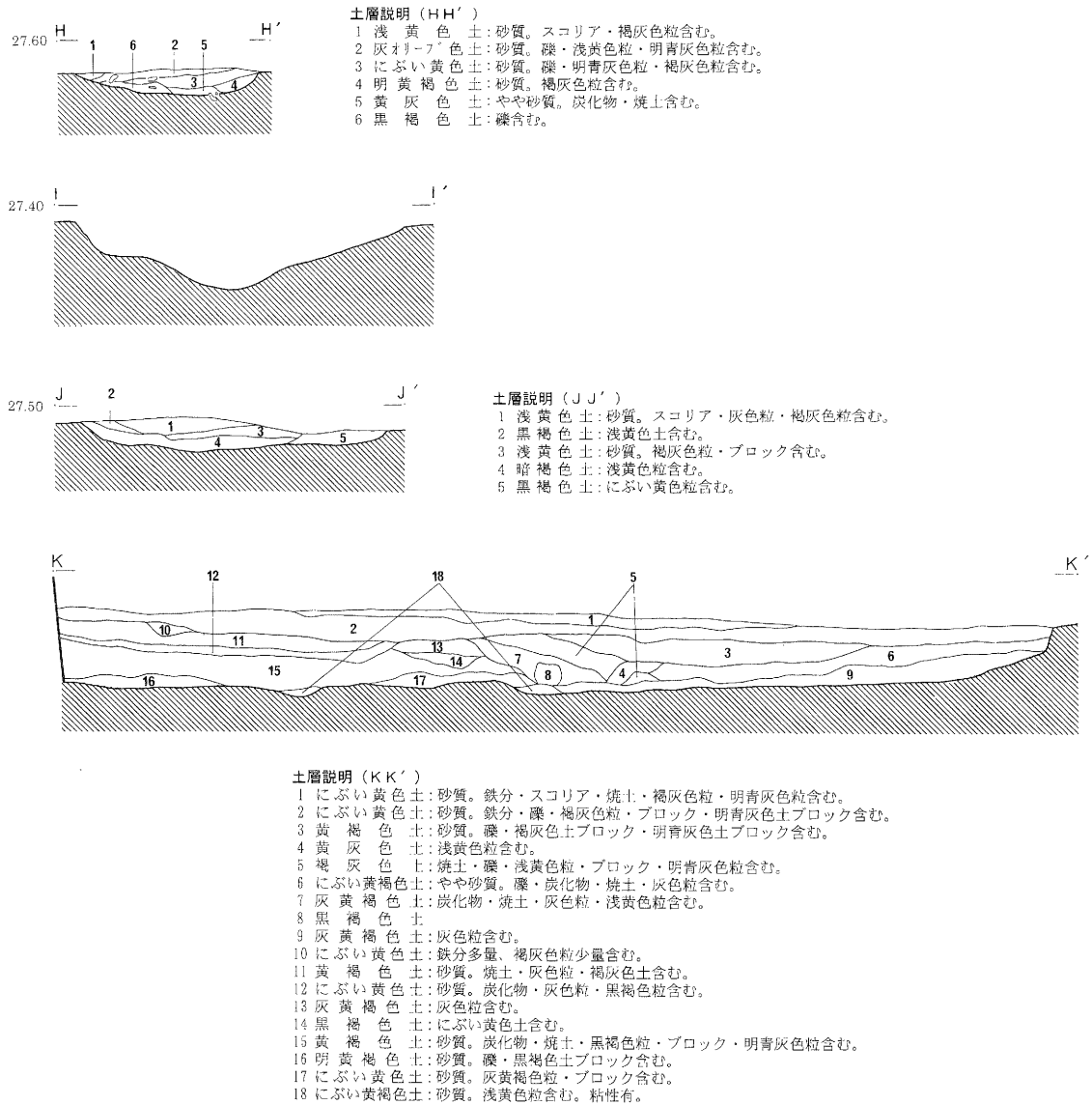
土層説明 (G G')

- 1 耕作土
- 2 耕作土: 灰色土。鉄分含む。粘性やや有。
- 3 耕作土: 灰色土。鉄分・スコリア含む。粘性やや有。
- 4 明青灰色土: やや砂質。鉄分・礫・スコリア含む。
- 5 灰白色土: 鉄分多量、礫・スコリア少量含む。
- 6 灰色土: 砂質。鉄分・礫・明青灰色粒含む。
- 7 灰黄褐色土: 砂質。鉄分・礫・焼土・灰白色粒含む。
- 8 にぶい黄色土: 砂質。褐灰色土ブロック含む。
- 9 黄褐色土: 砂質。礫・スコリア・炭化物・焼土・灰白色粒含む。
- 10 黄褐色土: 砂質。褐灰色土ブロック含む。
- 11 褐灰色土ブロック
- 12 明黄褐色土: 砂質。礫・灰白色粒・褐灰色粒含む。粘性有。
- 13 にぶい黄褐色土: 砂質。
- 14 暗灰黄色土: やや砂質。灰白色粒含む。
- 15 明黄褐色土: 褐灰色粒含む。
- 16 にぶい黄褐色土: 礫・褐灰色粒含む。

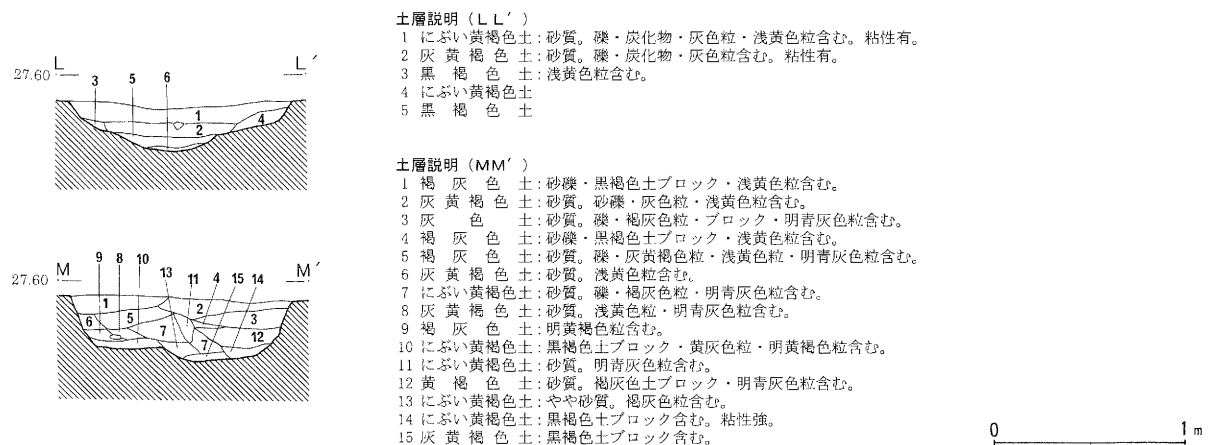
0 1 m

第12図 第1・9～11号溝跡断面図

第 12 号溝跡



第 13 号溝跡



第13図 第12・13号溝跡断面図

覆土はランダムな層位をなしているが、自然堆積層である。全体的に砂質である。

遺物はほとんど検出されず、時期を特定できなかったが、その位置関係から第9・11号溝跡と同時期と思われる。

第11号溝跡（第11・12図）

第9・10号溝跡同様、南西方向から北東方向へ走っており、K-18グリッドから調査区外を挟んでS-10グリッドに位置する。第9・10号溝跡同様、一旦調査区外となる。K-18グリッドでは途切れるようにみえるが、その南側には溝跡が走っており、両者が別のものかどうかは不明であるため、とりあえず本溝跡内に含めることとした。幅は2 m前後、深さは最深部で58 cmを測る。横断面形はほぼ逆台形状を呈する。

覆土はランダムな層位をなしているが、自然堆積層と思われる。全体的に砂質である。

遺物はほとんど検出されず、時期を特定できなかったが、その位置関係から第9・10号溝跡と同時期と思われる。

第12号溝跡（第11・13図）

R-14グリッドからT-16グリッドに位置する。南東方向から北東方向へ走っているが、調査区南東端から北西へ5.8 mで土坑状の掘り込みとなり、そこからさらに2つに分かれている。土坑状の掘り込みは長径3.1 m、短径1.6 mで、深さは最深部で20 cmを測る。

東側を走る溝跡は、土坑状の掘り込みからの検出長が9.4 mで北西部は調査区外に延びている。幅は0.5 m前後で、深さは最深部で13 cmを測る。横断面形は船底状を呈している。覆土はほぼレンズ状に堆積した自然堆積層で全体的に砂質である。

西側の溝跡は、土坑状の掘り込みから北西2.2 mで第1号溝跡とつながる別の土坑状の掘り込みに接続する。そして、さらに北西へ延びるものもみられるが、北西へ1.3 mで西に曲がって途切れている。なお、一部攪乱により欠いている。溝跡の幅は一定しておらず、最小幅で0.5 m、最大幅で1.5 mを測り、深さは最深部でほぼ14 cmである。覆土はレンズ状に堆積した自然堆積層である。

第1号溝跡と接する土坑状の掘り込みは、確認された範囲での長径が5.7 m、短径2 mで、深さは最深部で48 cmを測る。底面はやや凹凸がみられるが、概ね平坦である。覆土はややランダムに堆積した状況がみられるが、自然堆積層である。

遺物は他の溝跡に比べると多く検出された（第22図4～13）が、このうち本溝跡に伴うものは12・13のみである。

第13号溝跡（第11・13図）

K-14グリッドからM-15グリッドに位置する。第9～11号溝跡に直交する形で北西方向から南東方向へ走っており、北西部は調査区外へ延びている。第9～11号溝跡との新旧関係は不明である。

検出長は11.6 m、幅は1.3 m程である。溝の南西側がややテラス状となり、北東側が最深部となる。34 cmを測る。

覆土は第9号溝跡に近い箇所ではランダムな層位をなしているが、北西側ではほぼレンズ状の堆積が認められる。全体的に砂質である。自然堆積層。

遺物は室町時代の遺物(第22図14～18)がまとまって検出されたことから、本溝跡に伴うものである。

(2) 土 坑

第1号土坑(第14図)

P-15グリッドに位置する。

平面は長径2.26m、短径1.13mの長方形で、深さは32cm前後である。底面は概ね平坦である。

覆土は礫や焼土、炭化物を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第2号土坑(第14図)

Q-15グリッドに位置する。

平面は長径1.06m、短径0.96mで、少しゆがみを持った隅丸方形を呈する。深さは8cmと浅い。底面は、さらに不整形にくぼみ二段落ちのような形状を呈している。

覆土は礫、焼土を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第3号土坑(第14図)

K-16グリッドに位置する。

平面は長径1.16m、短径0.86mのややいびつな方形を呈する。深さは70cmを測り、本遺跡において検出された土坑としては比較的深い。底面は概ね平坦であるが、中央付近が壁寄りに比べてやや深い。

覆土は非常に複雑な層位をなしており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第4号土坑(第14図)

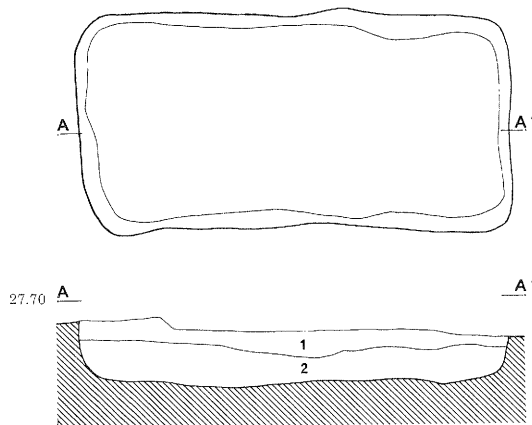
L-16グリッドに位置する。

平面は長径1.2m、短径0.9mを測り、著しい不整な形で検出されたが、本来は第3号土坑に類似した方形の土坑に他の土坑が重複して検出されたものと思われる。深さは56cmを測る。底面は平坦であった。

覆土の層位は平行に堆積している。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

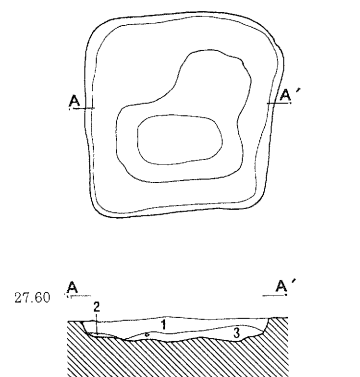
第1号土坑



土層説明 (A A')

- 1 にぶい黄褐色土: 灰色砂多量、礫・スコリア・炭化物少量含む。
- 2 灰黄褐色土: 礫・炭化物・灰色砂・黒褐色粒含む。

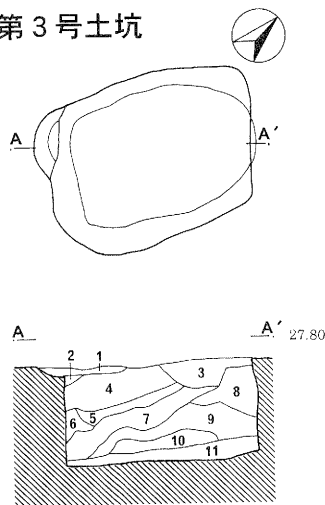
第2号土坑



土層説明 (A A')

- 1 にぶい黄色土: やや砂質。スコリア・焼土・褐灰色粒・明青灰色粒含む。
- 2 褐灰色土
- 3 黄褐色土: 礫・褐灰色粒・明青灰色粒含む。

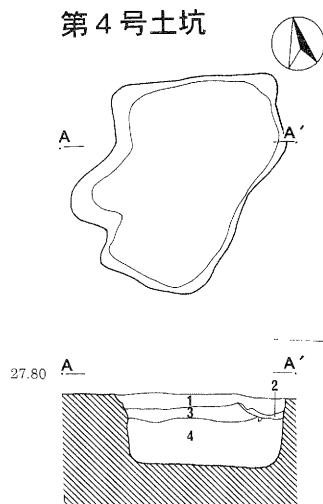
第3号土坑



土層説明 (A A')

- 1 褐灰色土: 砂質。礫・明黄褐色粒含む。
- 2 明黄褐色土: 砂質。
- 3 黄灰色土: 砂質。炭化物・褐灰色粒・浅黄色粒含む。
- 4 灰色土: 砂質。褐灰色粒・浅黄色粒・青灰色砂含む。
- 5 浅黄色土ブロック
- 6 にぶい黄色土
- 7 灰色土: 砂質。炭化物・褐灰色粒・浅黄色粒・青灰色砂含む。
- 8 褐灰色土: 浅黄色粒・ブロック含む。
- 9 浅黄色土: 焼土含む。
- 10 灰色土: 砂質。炭化物・褐灰色粒・浅黄色粒・青灰色砂含む。
- 11 浅黄色土: 褐灰色土ブロック含む。粘性やや有。

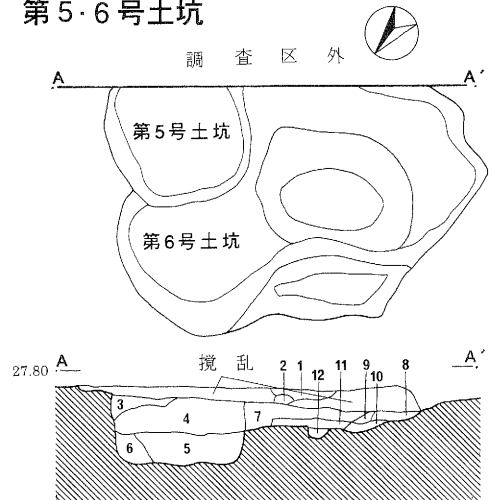
第4号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土: スコリア多量、明青灰色粒少量含む。しまり有。
- 2 オリブ黄色土: 礫多量含む。
- 3 黒褐色土: スコリア含む。しまり有。
- 4 灰黄褐色土: スコリア・明青灰色粒含む。しまり有。

第5・6号土坑



土層説明 (A A')

第5号土坑

- 1 灰色土
- 2 浅黄色土
- 3 黄灰色土: やや砂質。スコリア・黒褐色粒・灰白色粒含む。
- 4 浅黄色土: 砂質。黒褐色粒多量、礫少量含む。

- 5 暗灰黄色土: 灰色粒・黒褐色粒含む。

- 6 黄灰色土: 灰色粒・黒褐色粒含む。

第6号土坑

- 7 暗灰色土: 黄灰色土・浅黄色粒含む。
- 8 黒褐色土: 浅黄色粒含む。
- 9 褐灰色土: 砂質。スコリア・浅黄色土含む。
- 10 灰黄褐色土: 砂質。灰色粒含む。
- 11 浅黄色土: 炭化物・黒褐色粒含む。
- 12 灰利ブ色土: 砂質。

第14図 第1～6号土坑

第5号土坑（第14図）

M-15グリッドに位置する。第6号土坑も含めて確認段階では不整な形の単独土坑と考えたが、断面の観察などから第2号土坑のような方形の土坑が2基ほど重なって確認されたものと判断した。

第5号土坑は第6号土坑の東側を切って作られている。南東部は調査区外にある。径0.78cm前後の隅丸方形になるものと思われ、深さは60cmを測る。

覆土は礫や炭化物を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第6号土坑（第14図）

L・M-15グリッドに位置する。東側は第5号土坑に切られており、南東部は調査区外に延びている。長径2m、短径は不明、深さは30cmほどである。

覆土は炭化物を含み、堆積状況から人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第7号土坑（第15図）

K-15グリッドに位置する。

平面は長径2.21m、短径0.82mの整った長方形で、深さは42cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりも急であった。

覆土は礫や焼土、炭化物を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第8号土坑（第15図）

K・L-15グリッドに位置する。第7号土坑の東側に隣接する。

平面は長径1.42m、短径1mのやや不整な方形を呈する。深さは16cmほどで、さらに中央付近で楕円形に二段落ちとなっており、最深部で24cmほどである。

覆土は礫や焼土を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第9号土坑（第15図）

L-14・15グリッドに位置する。

平面は長径1.84m、短径1.06mの比較的整った長方形を呈し、深さ46cmを測る。底面は概ね平坦である。

覆土は礫や焼土を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第10号土坑（第15図）

L・M-14・15グリッドに位置する。

平面は長径1.34m、短径0.53cmで整いの悪い長形状を呈している。深さは6cm前後と浅い。底面も整いが悪く、北端に向かって緩やかな傾斜を呈する形状である。

覆土は2層からなる自然堆積層。

遺物は検出されなかった。

第11号土坑（第15図）

L・M-15グリッドに位置する。南端部が第12号土坑と重複しており、本土坑の方が新しい。

平面形は長径1.64m、短径0.44mで整いの悪い形状であるが、本来的には長方形を意識したものと考えられる。深さは8cmほどと極めて浅い。底面はほぼ平坦である。

覆土は人為的な埋め戻しであるかどうかは判断できない。

遺物は検出されなかった。

第12号土坑（第15図）

L・M-15グリッドに位置する。第11号土坑に切られており、本土坑の方が古い。

平面は、著しく整いの悪い形状を呈しており、長径は1.66m、最大幅は0.68mを測る。底面は凹凸が著しく深さは3cm前後と極めて浅く、三箇所ほどの深い箇所があった。横断面部分が深い箇所の一つだが、それでもわずか10cmほどであった。

覆土は礫や焼土を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第13号土坑（第15図）

J-14グリッドに位置する。

平面的には不整な形で検出されたが、本来は方形を意識したものと推察される。長径0.84m、短径0.76m、深さは32cmを測る。底面はほぼ平坦であるが、中央付近がやや深い形となっている。壁の立ち上がりはほぼ直に立ち上がっている。

覆土は礫や焼土を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物の出土は見られなかった。

第14号土坑（第16図）

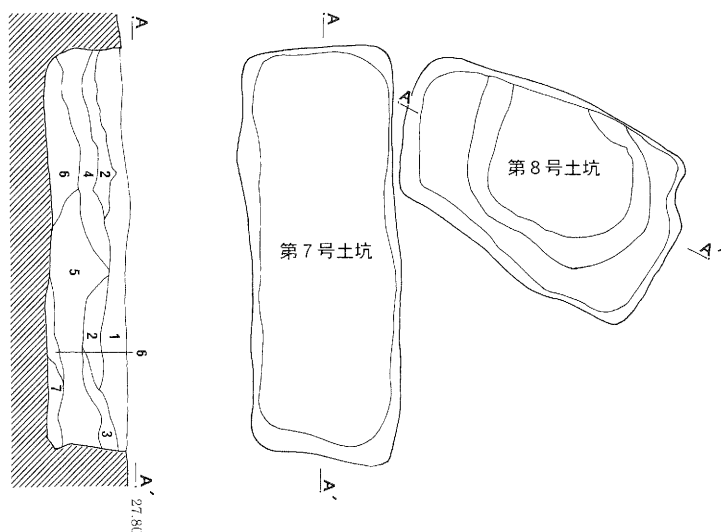
J-14グリッドに位置する。第15号土坑と重複しており、本土坑の方が古い。

平面は不整な方形で、長径1.06m、短径0.94m、深さ25cmを測る。底面はほぼ平坦である。

覆土はランダムな層位をなしており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

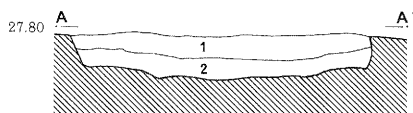
第7・8号土坑



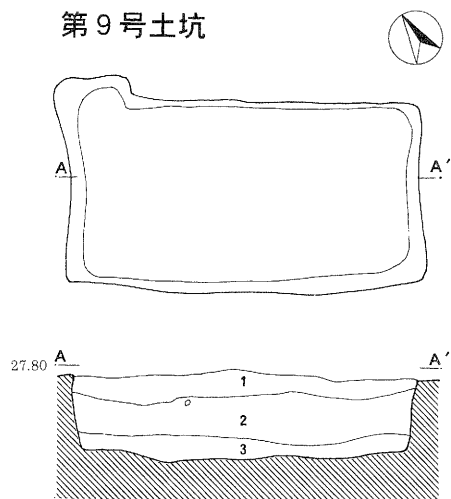
第8号土坑

土層説明 (A A')

- 1 黄灰色土: やや砂質。礫多量、鉄分・スコリア・焼土・黒褐色粒少量含む。
- 2 灰利-ブ色土: 黒褐色粒・ブロック多量、礫・スコリア少量含む。1層より粘性有。



第9号土坑



土層説明 (A A')

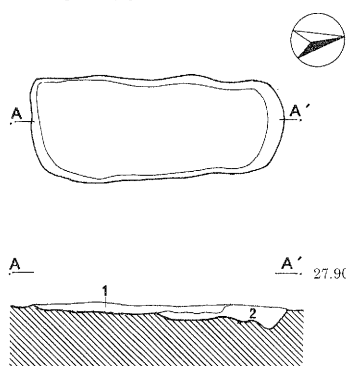
- 1 にぶい黄色土: 砂質。礫・焼土・黒褐色粒含む。
- 2 暗灰色土: 砂質。礫・黒褐色粒・ブロック含む。
- 3 灰利-ブ色土: 砂質。黒褐色粒含む。粘性有。

第7号土坑

土層説明 (A A')

- 1 にぶい黄色土: 砂質。礫・スコリア・焼土・黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒含む。
- 2 浅黄色土: 砂質。礫・黒褐色粒・ブロック含む。
- 3 灰利-ブ色土: 砂質。黒褐色粒含む。
- 4 暗灰黄色土: 黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒含む。
- 5 黄褐色土: 黒褐色粒・ブロック多量、炭化物・焼土少量含む。
- 6 灰黄褐色土: 黒褐色粒・ブロック含む。粘性強。
- 7 黄灰色土: 黒褐色粒・ブロック含む。粘性強。

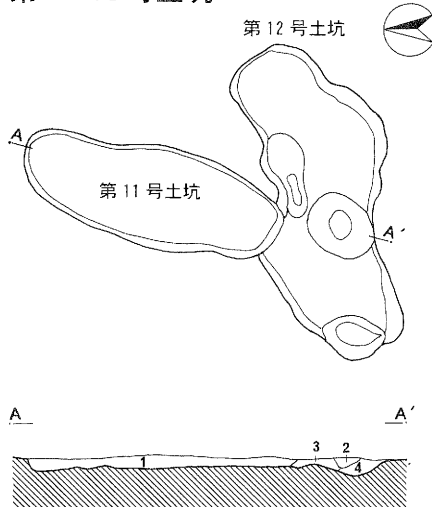
第10号土坑



土層説明 (A A')

- 1 灰色土: 鉄分多量含む。
- 2 灰利-ブ色土: 砂質。スコリア・黒褐色粒・浅黄色粒含む。

第11・12号土坑



土層説明 (A A')

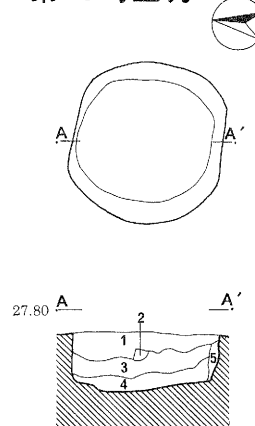
第11号土坑

- 1 暗灰黄色土: 砂質。礫・スコリア・灰色粒・浅黄色粒含む。

第12号土坑

- 2 黄灰色土: 砂質。炭化物・焼土含む。
- 3 黒褐色土: 炭化物・焼土・浅黄色粒含む。
- 4 黄灰色土: 炭化物・焼土・浅黄色粒・ブロック含む。

第13号土坑



土層説明 (A A')

- 1 にぶい黄色土: 砂質。礫・黒褐色粒・浅黄色粒含む。
- 2 黒褐色土ブロック
- 3 黄灰色土: 砂質。礫・黒褐色粒・浅黄色粒含む。
- 4 黄褐色土: 礫・黒褐色粒・ブロック含む。
- 5 褐灰色土: 焼土含む。粘性強。

0 1m

第15図 第7～13号土坑

第15号土坑（第16図）

J－14グリッドに位置する。第14号土坑を切って構築されており、本土坑の方が新しい。

平面は不整な方形で、長径0.98 m、短径0.74 m、深さ8 cmを測る。底面は平坦であるが、東よりで一段高くなる形態を呈している。

覆土は礫を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第16号土坑（第16図）

J－14・15グリッドに位置する。第17号土坑を切って作られており、本土坑の方が新しい。

確認段階では一つの土坑と考えたため、本土坑の平面プランを図化するに至らなかった。断面から推測すると平面は方形で、長径1.48 m、短径1.14 m、深さ40 cmを測る。底面は北側寄りに緩やかに傾斜して高くなっている。

覆土は礫や焼土を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第17号土坑（第16図）

J－14グリッドに位置する。第16号土坑に切られて作られており、本土坑の方が古い。

平面は北側辺が1.08 m、南側辺が0.88 m、南北方向は0.96 mを測る台形を呈している。深さは50 cmを測る。底面はほぼ平坦である。

覆土は礫を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は若干検出されたが、図示可能なものは1点のみ（第22図19）であった。

第18号土坑（第16図）

J－14グリッドに位置する。

平面は方形で、長径1.24 m、短径1.04 m、深さは50 cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急でほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土は焼土を含んだ土がほぼ水平、ないしブロック状に堆積しており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

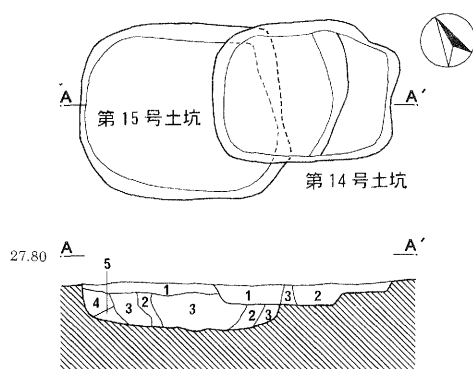
第19号土坑（第16図）

K・L－14グリッドに位置する。第20・21号土坑と重複しており、本土坑は両土坑にきられている。

平面形は、両土坑に切られている関係で正確な形状は把握できなかったが、残存部から推定される径は1.19 mで不整な方形を呈している。深さも浅く14 cmほどである。

覆土は残存する箇所では3層のみ確認されたが、人為的に埋め戻されたものかどうかは不明である。

遺物は検出されなかった。



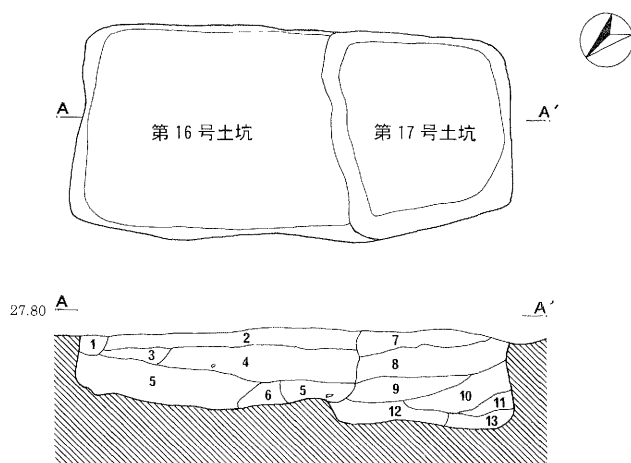
土層説明 (A A')

第14号土坑

- 1 灰黄褐色土: 砂質。礫・黒褐色粒・浅黄色粒含む。
- 2 にぶい黄色土: 砂質。礫・黒褐色土ブロック含む。
- 3 浅黄色土: 砂質。礫・黒褐色粒含む。

第15号土坑

- 1 浅黄色土: 砂質。礫・炭化物・黒褐色粒・ブロック含む。
- 2 にぶい黄色土: 砂質。礫・黒褐色土ブロック含む。
- 3 にぶい黄色土: 礫・炭化物・黒褐色粒・ブロック・灰白色粒含む。
- 4 にぶい黄色土: 黒褐色粒含む。
- 5 明黄褐色土: 黒褐色粒含む。



土層説明 (A A')

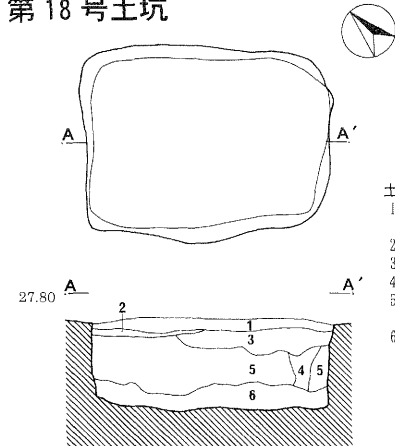
第16号土坑

- 1 浅黄色土: 砂質。礫・スコリア・黒褐色粒含む。
- 2 にぶい黄色土: 砂質。礫・スコリア・黒褐色粒・ブロック含む。
- 3 灰利-ブ'色土: 砂質。礫・灰黄褐色粒・浅黄色粒含む。
- 4 灰黄色土: 礫・焼土・黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒含む。
- 5 灰利-ブ'色土: 礫・黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒・ブロック含む。
- 6 灰色土: 礫・灰黄褐色土ブロック・浅黄色粒含む。

第17号土坑

- 7 暗灰黄色土: 砂質。礫・黒褐色粒・浅黄色粒含む。
- 8 暗灰黄色土: 砂質。礫・黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒含む。
- 9 暗灰黄色土: 砂質。礫・黒褐色粒・浅黄色粒含む。
- 10 利-ブ'色土: 礫・黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒含む。
- 11 黄褐色土: 礫・黒褐色粒含む。
- 12 黄灰色土: 礫・黒褐色粒・浅黄色粒含む。
- 13 黄灰色土: 黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒含む。

第18号土坑



土層説明 (A A')

- 1 にぶい黄色土: 砂質。鉄分・礫・焼土・褐灰色粒・ブロック・浅黄色粒含む。
- 2 にぶい黄色土: 砂質。礫・焼土・褐灰色粒・浅黄色粒含む。
- 3 利-ブ'黄色土: 砂質。礫・黒褐色土ブロック含む。粘性有。
- 4 黄灰色土: 黒褐色粒含む。
- 5 暗灰黄色土: 礫・黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒・青灰色土ブロック含む。
- 6 灰利-ブ'色土: 礫・黒褐色粒・灰白色土ブロック含む。

土層説明 (A A')

第19号土坑

- 1 浅黄色土: 砂質。褐灰色粒含む。
- 2 黒褐色土: 灰粒・浅黄色粒含む。
- 3 黄灰色土: 明青灰色粒含む。粘性有。

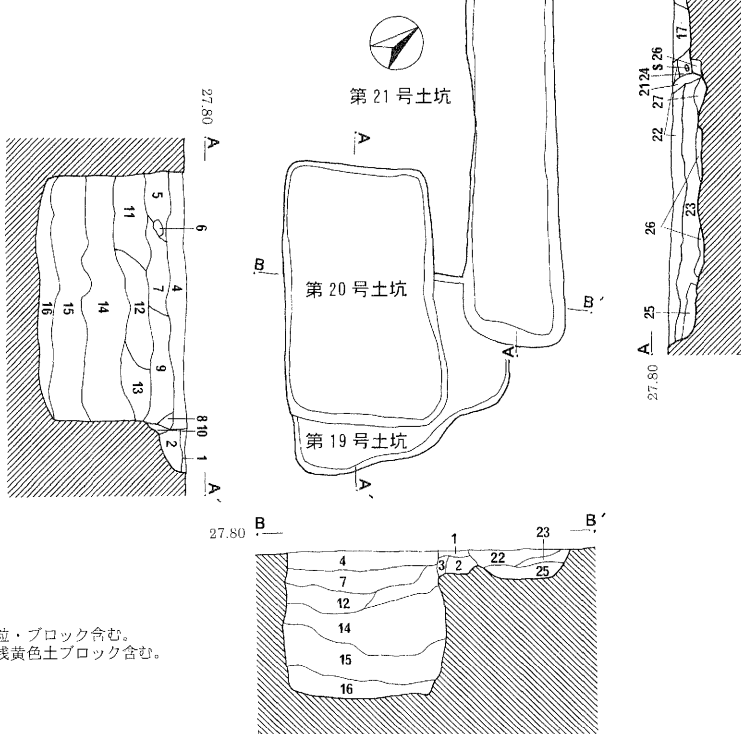
第20号土坑

- 4 浅黄色土: 砂質。礫・スコリア・焼土含む。
- 5 にぶい黄褐色土: 明青灰色粒含む。
- 6 にぶい黄色土ブロック
- 7 灰黄色土: やや砂質。礫含む。
- 8 灰利-ブ'色土: 砂質。黄灰色粒含む。
- 9 黄褐色土: やや砂質。礫・黒褐色粒含む。
- 10 黄褐色土: やや砂質。礫・灰色粒・黒褐色粒含む。
- 11 黄褐色土: 礫・焼土・浅黄色粒含む。
- 12 にぶい黄褐色土: 砂質。黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒含む。
- 13 黄褐色土: 黒褐色土ブロック含む。
- 14 灰黄褐色土: 黒褐色粒含む。粘性強。
- 15 にぶい黄褐色土: 砂質。黒褐色粒・ブロック多量、浅黄色粒少量含む。

- 16 灰黄褐色土: 黒褐色粒含む。粘性強。

第21号土坑

- 17 灰黄褐色土: 砂質。褐灰色粒・ブロック・灰白色粒含む。
- 18 灰黄褐色土: 砂質。黒褐色粒・ブロック・にぶい黄色土・ブロック含む。
- 19 褐灰色土: 浅黄色粒含む。
- 20 褐灰色土
- 21 黄褐色土: 砂質。灰白色粒含む。
- 22 灰黄褐色土: 礫・灰色粒・黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒・ブロック含む。
- 23 褐灰色土: 砂質。礫・灰色粒・黒褐色粒・ブロック・浅黄色土ブロック含む。
- 24 暗灰黄色土: 砂質。礫・褐灰色粒・浅黄色粒含む。
- 25 黒褐色土: 黄色粒含む。
- 26 褐灰色土: 黒褐色土ブロック含む。
- 27 にぶい黄褐色土: 砂質。礫含む。



第16図 第14～21号土坑

第20号土坑（第16図）

K・L-14グリッドに位置する。第19号土坑を切って作られており、本土坑が新しい。

平面は長径1.38m、短径0.8mの方形で、深さは78cmを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急でほぼ垂直である。

覆土は幾層に分かれるが、比較的同質の土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。遺物は検出されなかった。

第21号土坑（第16図）

K・L-14グリッドに位置する。第19号土坑を切って作られている。

平面は長径3.1m、短径0.44mと非常に長い長方形を呈する。深さは中央付近で段がついており、北寄りでは8cm、南寄りでは18cmであった。平面形は一つの土坑と判断できるが、断面土層のあり方からすると二つの土坑が重なっているとも思われる。

覆土の状況から、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第22号土坑（第17図）

J-5・6グリッドに位置する。土坑の大半は攪乱により欠いている。

平面は推定で、長径2.28m、短径1mの長方形になるものと思われ、深さは38cmを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急でほぼ垂直である。

覆土は礫や焼土を含み、人為的に埋め戻されたものと思われる。

遺物は検出されなかった。

第23号土坑（第17図）

J-5グリッドに位置する。遺構の重複関係は確認されなかった。

平面は長径3.48m、短径1.08mの長方形で、底面は平坦で、壁の立ち上がりは急でほぼ垂直である。底面は凹凸が激しい。壁の立ち上がりは急でほぼ垂直である。

覆土は比較的類似した黄褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第24号土坑（第17図）

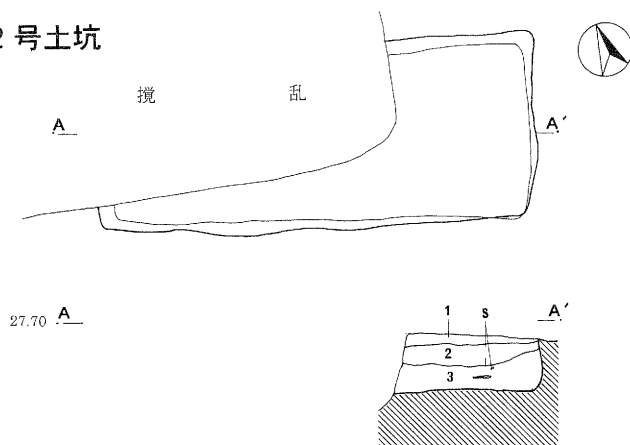
K-14グリッドに位置する。第25・26号土坑を切って作られており、本土坑が一番新しい。

平面は長径1.52m、短径0.54mで、深さは40cmを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。

覆土は平行に堆積しており、土層の状況から判断して人為的に埋め戻されたものと思われる。

遺物は図示可能な須恵器・坏（第22図20）が検出されている。本土坑に伴うものというよりは流れ込みと考えられる。

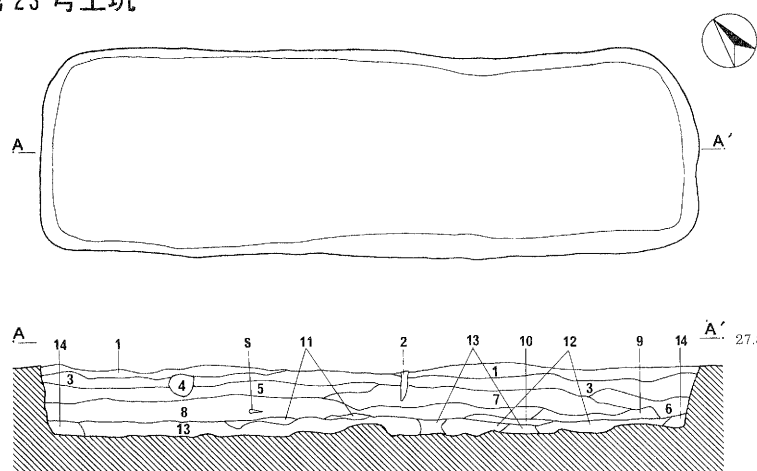
第 22 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 褐灰色土:砂質。礫・焼土含む。
- 2 浅黄色土:礫・黒褐色粒・ブロック含む。
- 3 灰-7°黄色土:黒褐色粒・ブロック多量、礫・焼土少量含む。

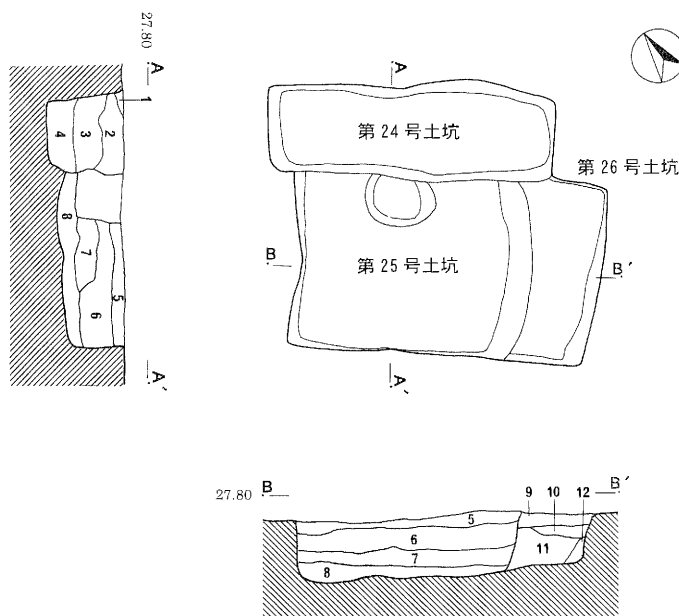
第 23 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 浅黄色土:砂質。褐灰色粒含む。
- 2 浅黄色土:砂質。礫・炭化物・焼土・褐灰色粒・明青灰色土ブロック含む。
- 3 黄褐色土:褐灰色粒多量、炭化物・焼土・浅黄色粒・明青灰色粒少量含む。
- 4 褐灰色土:礫・浅黄色土ブロック・明青灰色粒含む。
- 5 にぶい黄色土:礫・炭化物・焼土・褐灰色粒含む。
- 6 黄褐色土:黒褐色粒・ブロック・浅黄色粒多量、礫・炭化物・焼土・明青灰色粒少量含む。
- 7 にぶい黄色土:黒褐色粒・ブロック多量、礫少量含む。
- 8 黒褐色土:明黄褐色粒含む。
- 9 暗灰黄色土:明黄褐色粒含む。
- 10 灰-7°褐色土:明黄褐色粒含む。
- 11 黄褐色土:砂質。
- 12 にぶい黄色土:砂質。黒褐色粒含む。
- 13 にぶい黄色土:砂質。黒褐色粒少量含む。
- 14 黒褐色土:焼土・明黄褐色粒含む。

第 24・25・26 号土坑



土層説明 (A A' B B')

第24号土坑

- 1 浅黄色土:砂質。褐灰色粒含む。
- 2 浅黄色土:砂質。礫・炭化物・焼土・褐灰色粒・明青灰色粒・ブロック含む。
- 3 褐灰色土:礫・浅黄色土ブロック・明青灰色粒含む。
- 4 褐灰色土:明青灰色粒含む。

第25号土坑

- 5 にぶい黄色土:砂質。礫含む。
- 6 灰黄色土:礫・褐灰色粒・灰白色粒含む。
- 7 浅黄色土:やや砂質。褐灰色土ブロック含む。
- 8 灰白色土:褐灰色粒多量含む。

第26号土坑

- 9 浅黄色土:砂質。灰黄褐色粒・ブロック含む。
- 10 黄褐色土:褐灰色粒多量含む。
- 11 灰-7°色土:礫・褐灰色粒・ブロック含む。
- 12 にぶい黄色土:褐灰色土ブロック含む。

0 1m

第17図 第22～26号土坑

第25号土坑（第17図）

K-14・15グリッドに位置する。第24号土坑に切られ、第26号土坑を切って作られている。

平面形は東西方向のみ確認でき、径1.22 mである。南北方向も状況から推定して1.2 m前後と思われ、ほぼ方形に近い形状と推測される。深さは32 cm前後で、壁の立ち上がりは急である。

覆土は礫を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第26号土坑（第17図）

K-14・15グリッドに位置する。第24・25号土坑に切られており、原形はほとんど認識できない。残存する平面形から南北軸は0.94 m、深さは28 cmを測る。

覆土は人為的に埋め戻されたものと考えられる。しまりが非常に良い。

遺物は検出されなかった。

第27号土坑（第18図）

L・M-14グリッドに位置する。第28号土坑を切って作られている。第13号溝跡との新旧関係は不明である。

確認段階では第28号土坑を含めて一つの土坑のように観察できたが、土層断面から二つの土坑からなると判断した。長径3.44 m、短径1.44 mの長方形で、深さは46 cmを測る。底面は概ね平坦であるが、やや凹凸をもっている。北西壁の立ち上がりは垂直ではないが、急な形態である。

覆土は礫や炭化物を含み、人為的に埋められたものと考えられる。

遺物は若干検出されたが、図示可能なものは1点（第22図21）のみである。

第28号土坑（第18図）

L・M-14グリッドに位置する。第27号土坑に切られている。第13号溝跡との新旧関係は不明である。

平面形は第27号土坑に切られており、原形は把握できなかった。残存する部分での南北方向の径は1.24 mを測る。深さは52 cm前後である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急であり、ほぼ垂直である。

覆土は礫や焼土、炭化物を含み、人為的に埋められたものと考えられる。

遺物は若干検出されたが、図示可能なものは2点（第22図22・23）のみである。

第29号土坑（第18図）

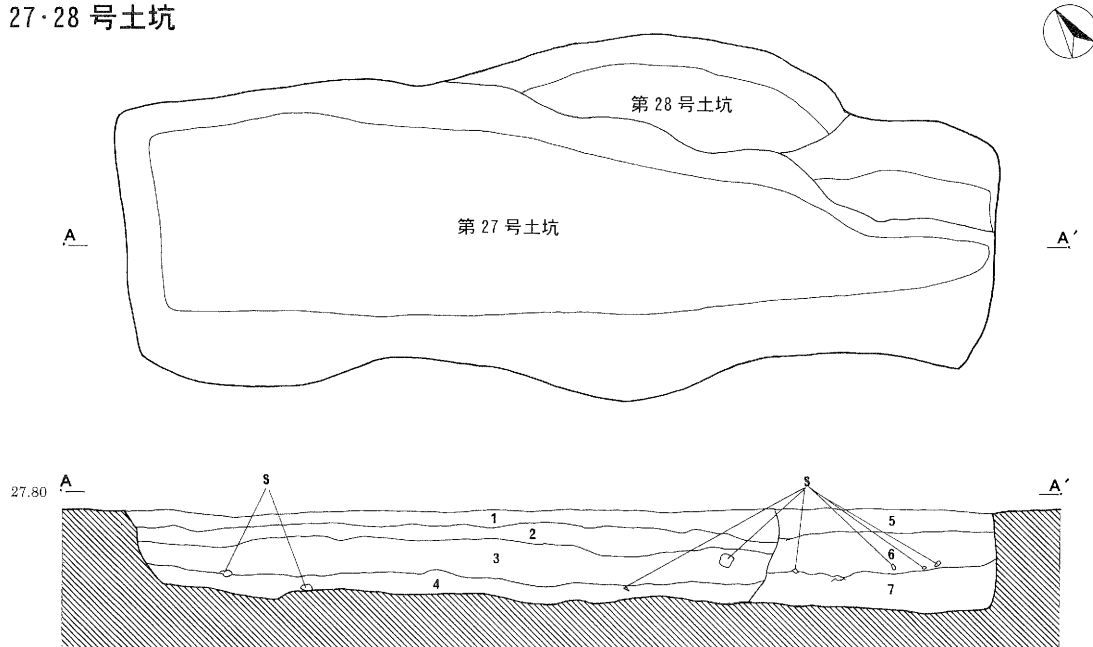
K・L-5グリッドに位置する。

平面は径1 m前後の円形で、深さは20 cmであった。底面は平坦で、壁の立ち上がりはやや緩やかな状態である。

覆土は複雑な層位をなしており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第27・28号土坑



土層説明 (A A')

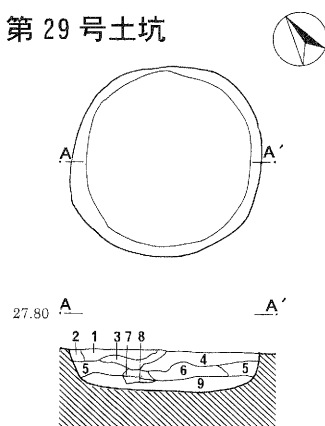
第27号土坑

- 1 にぶい黄色土:砂質。礫・スコリア・炭化物・明青灰色粒含む。
- 2 にぶい黄褐色土:砂質。礫・明青灰色粒含む。
- 3 灰黄褐色土:砂質。礫・明青灰色粒・ブロック含む。
- 4 暗灰黄色土:礫・褐灰色粒・ブロック・明青灰色粒・ブロック含む。

第28号土坑

- 5 にぶい黄褐色土:焼土・礫・明青灰色粒含む。
- 6 灰黄褐色土:砂質。礫・明青灰色粒・ブロック含む。
- 7 オリ-ブ黄色土:砂質。礫・褐灰色粒含む。

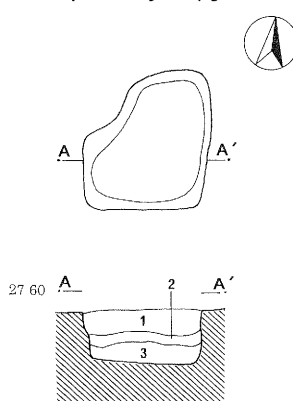
第29号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土:焼土・明青灰色粒含む。
- 2 明黄褐色土:黒褐色粒含む。
- 3 灰黄褐色土:黒褐色粒・ブロック・明黄褐色粒・明青灰色粒含む。
- 4 にぶい黄褐色土:黒褐色粒・ブロック多量、礫・炭化物・焼土・明青灰色粒少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土:焼土・明黄褐色粒・明青灰色粒含む。
- 6 暗灰黄色土:浅黄色粒・明黄褐色粒・明青灰色粒・褐灰色粒含む。
- 7 灰黄褐色土:炭化物含む。
- 8 褐灰色土
- 9 灰黄褐色土:炭化物・明黄褐色粒・明青灰色粒含む。

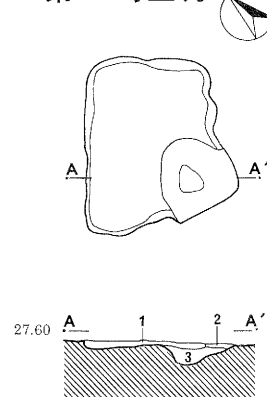
第30号土坑



土層説明 (A A')

- 1 にぶい黄褐色土:やや砂質。礫・炭化物・褐灰色粒・ブロック含む。
- 2 灰黄褐色土:砂質。明青灰色粒含む。
- 3 オリ-ブ黄色砂:礫・にぶい黄褐色粒含む。

第31号土坑



土層説明 (A A')

- 1 浅黄色土:砂質。鉄分・褐灰色粒・明青灰色粒含む。
- 2 灰利-ブ色土
- 3 にぶい黄色土:褐灰色粒・明青灰色粒含む。

0 1m

第18図 第27～31号土坑

第30号土坑（第18図）

R－7グリッドに位置する。

平面は南北方向が1.12 m、東西が0.64 mであるが、北西側がえぐられた形態をなしている。本来は方形を意識したもののようなものである。深さは28 cmを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急で、ほぼ垂直である。

覆土は礫や炭化物を含み、水平な堆積であることから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は確認できなかった。

第31号土坑（第18図）

R－8グリッドに位置する。

平面は長径0.92 m、短径0.7 mの不整形で、土坑の南側には径40 cm、深さ10 cmの落ち込みがみられるが、ピットが重複しているとも考えられる。

覆土は3層からなる自然堆積層。

遺物は検出されなかった。

第32号土坑（第19図）

Q・R－8・9グリッドに位置する。

平面形は著しく不整であり、西側は表土掘削の関係から確認できなかった。南北軸は最大部分で1.82 m、東西方向は検出長で1.62 mを測る。底面も不整形を呈している。平面形と底面の形態の複雑さから判断して、幾つかの土坑が重なりあっているものとも考えられる。

覆土は焼土や炭化物を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第33号土坑（第19図）

G－5グリッド、第39号土坑内に位置する。第39号土坑との新旧関係は確認できなかった。

平面は長径1 m、短径0.5 mで不整なひょうたん状を呈する。深さは北寄りで18 cm、南寄りで8 cmである。平面形と断面から判断して、二つのピットが重複したものと考えられなくもない。

覆土はランダムな層位であり、堆積状況からみて人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第34号土坑（第19図）

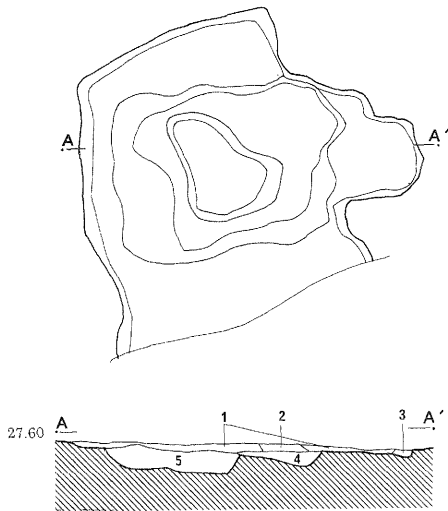
Q－5グリッドに位置する。第35号土坑と重複し、土層断面から判断すると本土坑の方が古いと思われる。

平面は長径部分で1.3 m、短径0.76 mで不整な長方形を呈する。深さは12 cm前後と浅い。

覆土の層位は乱れており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

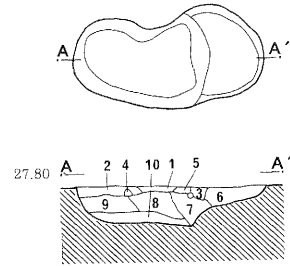
第 32 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 灰黄褐色土: 焼土・明青灰色土含む。
- 2 灰黄褐色土: 炭化物・焼土多量含む。
- 3 灰白色土: にぶい黄褐色粒含む。
- 4 灰黄色土: 焼土・褐灰色粒・明青灰色粒含む。
- 5 にぶい黄褐色土: 明青灰色土含む。

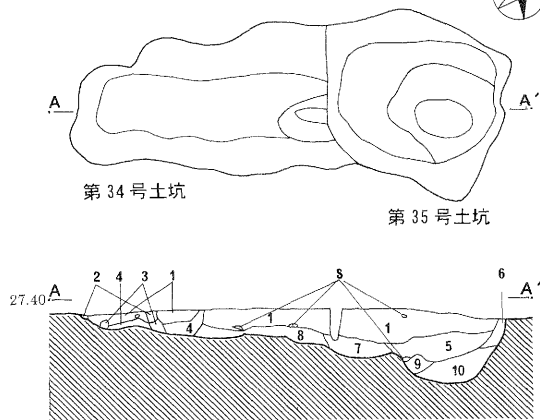
第 33 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 褐灰色土: 鉄分・礫・炭化物含む。
- 2 黒褐色土: 鉄分・炭化物・浅黄色粒・明黄褐色粒含む。
- 3 炭化物・灰白色土含む。
- 4 明青灰色土。
- 5 褐灰色土: 炭化物・焼土・浅黄色粒含む。
- 6 黄灰色土: やや砂質。炭化物・焼土・褐灰色粒・ブロック・灰白色粒・ブロック・明黄褐色粒・ブロック含む。
- 7 灰黄褐色土: 炭化物・浅黄色粒・明黄褐色粒含む。
- 8 灰黄色土。
- 9 褐灰色土: 鉄分・炭化物・焼土・灰白色粒含む。
- 10 暗灰黄色土: 焼土含む。

第 34・35 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土: 礫・浅黄色粒・ブロック含む。

第34号土坑

- 2 褐灰色土: 浅黄色粒含む。
- 3 黒褐色土。
- 4 黒褐色土: 浅黄色粒含む。

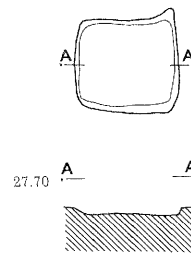
第35号土坑

- 5 黒褐色土: 礫・炭化物・焼土含む。
- 6 褐灰色砂。
- 7 黒褐色土: 礫・浅黄色粒含む。
- 8 黒褐色土: 浅黄色粒含む。
- 9 灰黄褐色土: 黒褐色土含む。
- 10 黒褐色土: 利・ブ黄色粒含む。

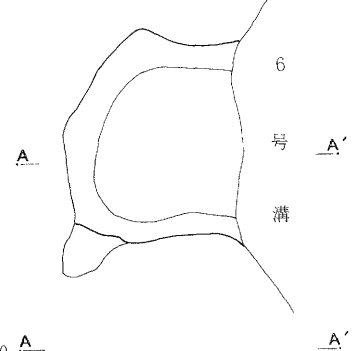
土層説明 (A A')

- 1 灰黄褐色土: やや砂質。明青灰色粒含む。
- 2 褐灰色土: やや砂質。明青灰色粒含む。しまり有。

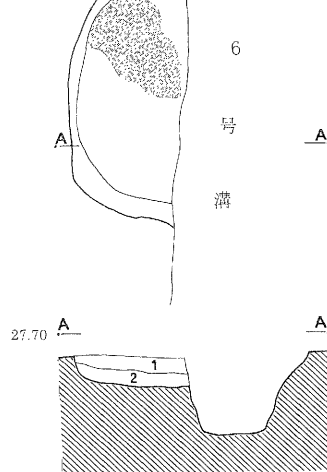
第 36 号土坑



第 37 号土坑



第 38 号土坑



0 1m

第19図 第32～38号土坑

第35号土坑（第19図）

Q－5 グリッドに位置する。第34号土坑を切って作られたと推測される。

平面は長径0.96m、短径0.84mの方形を意識して作られたものと考えられる。深さは浅い部分で26cm、深い部分で36cmを測る。二段に落ちる形態を呈し、深い部分の立ち上がりは、緩やかに立ち上がっている。

覆土の層位は乱れており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は検出されなかった。

第36号土坑（第19図）

N－7 グリッドに位置する。

平面は長径0.54m、短径0.48mの方形を呈し、深さは5cmと浅い。

土層は記録できなかった。

遺物は検出されなかった。

第37号土坑（第19図）

K－6 グリッドに位置する。

平面は南北方向が1.08m、東西方向は第6号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明であるため全形を把握できなかったが、方形を意識したものと考えられなくもない。

底面は平坦でなく、緩やかな舟底となって壁に移行している。

土層は記録できなかった。

遺物は検出されなかった。

第38号土坑（第19図）

K－5 グリッドに位置する。土坑の東半分は、第6号溝跡に切られている。

残存する部分での南北方向の径は1.44mで、この数値に近い直径の円形状になるものと考えられる。深さは16cmを測る。断面は緩やかな舟底状を呈しており、立ち上がりは緩やかである。

覆土は2層からなる自然堆積層である。底面北側からは焼土がまとまって検出された。

遺物は確認できなかった。

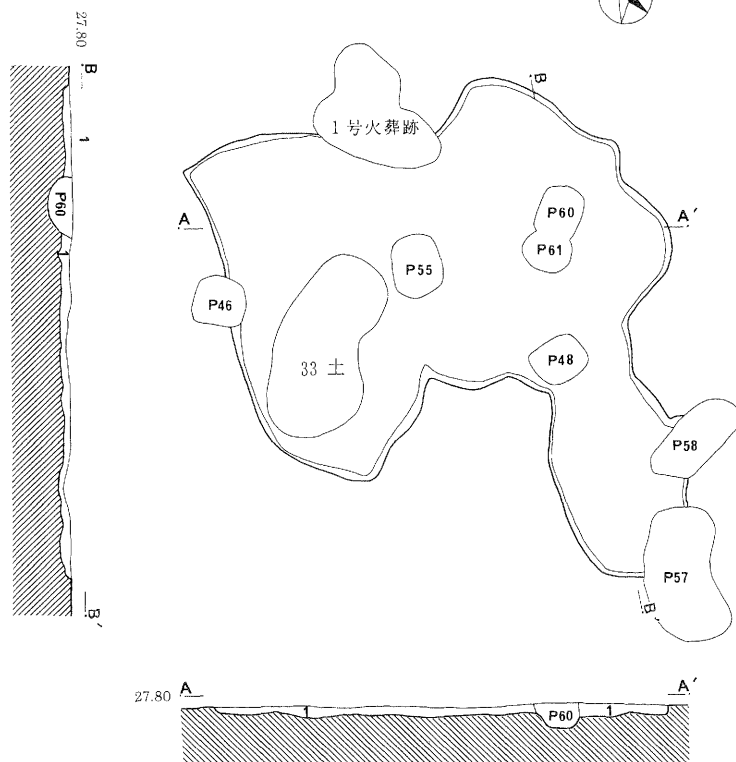
第39号土坑（第20図）

G－5・6 グリッドに位置する。ピットや第1号火葬跡により切られているが、第33号土坑については新旧関係は把握できなかった。

南北方向の最大径は2.36m、東西方向の最大径は1.9mを測る。さらに東南隅から南に突起状に広がっている。深さはほとんどの個所が精々4cm前後と浅い。単独の土坑と言うよりは、幾つかの土坑状の重複か、または風倒木痕と思えない。

遺物は検出されなかった。

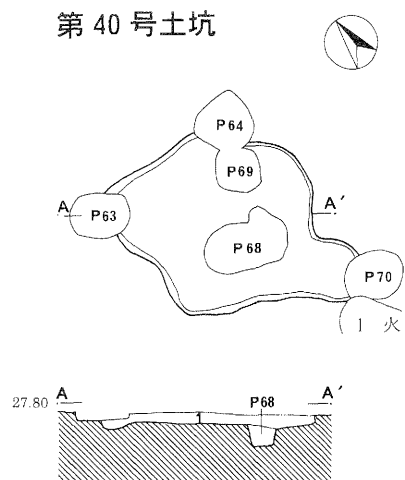
第 39 号土坑



土層説明 (A A' B B')

1 にぶい黄色土: 砂質。鉄分・スコリア・炭化物・焼土・灰白色粒含む。

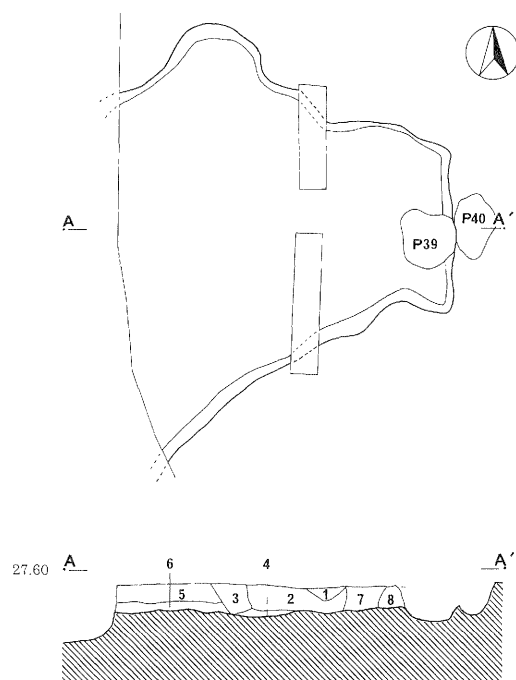
第 40 号土坑



土層説明 (A A')

1 にぶい黄色土: 鉄分・炭化物・褐灰色粒・ブロック含む。

第 41 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 灰黄褐色土: 明黄褐色粒含む。
- 2 褐灰色土: 鉄分含む。
- 3 にぶい黄色土: 褐灰色粒含む。
- 4 黄灰色土
- 5 褐灰色土: 礫・明青灰色粒含む。
- 6 にぶい黄褐色土: やや砂質。礫含む。
- 7 にぶい黄褐色土: 礫・明青灰色粒含む。
- 8 にぶい黄色土: 明青灰色粒含む

0 1 m

第20図 第39~41号土坑

第40号土坑（第20図）

G－5 グリッドに位置する。ピットや第1号火葬跡により所々を切られている。現存する南北方向の最大径はおおよそ2.2m、東西方向は残っている部分で1.6mの平面形は不整な形であるが、方形を意識して作られたものであろうか。

覆土は縦方向に複雑に堆積している。自然堆積か人為的な埋め戻しかは判断できなかった。

遺物は検出されなかった。

第41号土坑（第20図）

Q・R－7・8 グリッドに位置する。東側をピットに切られている。また西側は表土掘削の関係から確認できなかった。南北方向の最大径はおおよそ1.06 m、東西方向の最大径がおおよそ1 mの不整な形である。第39号土坑同様に、自然地形の可能性もある。

遺物は土錘が多数検出され、そのほとんどが完形品である。

第23図1～42は長さ4～5 cm、最大径2 cm前後で両端がすばまるタイプ、第24図43～90・第25図91～93は両端がすばまるが、最大径が1～2 cm前後、長さが4 cm前後のタイプ、第25図94～112は長さ、最大径ともに前者よりさらに小さくなるタイプ、第25図113～149は最大径が1 cmに満たない細身のタイプである。第26図150～158は上述のタイプの破片である。

本土坑は住居跡ではないが、倉庫的な建物の可能性も考えられる。

（3）土墳墓

第1号土墳墓（第21図）

K－16 グリッドに位置する。ほぼ中心を試掘溝により欠いてしまったが、底面に近いレベルで人骨が検出されたことから土墳墓とした。長径1.72 m、短径1.23 mのややいびつな長方形状を呈している。深さは42 cmである。

覆土は下層に礫や炭化物、骨片等を含み、人為的に埋め戻されたものである。

遺物は検出されなかった。

（4）火葬跡

第1号火葬跡（第21図）

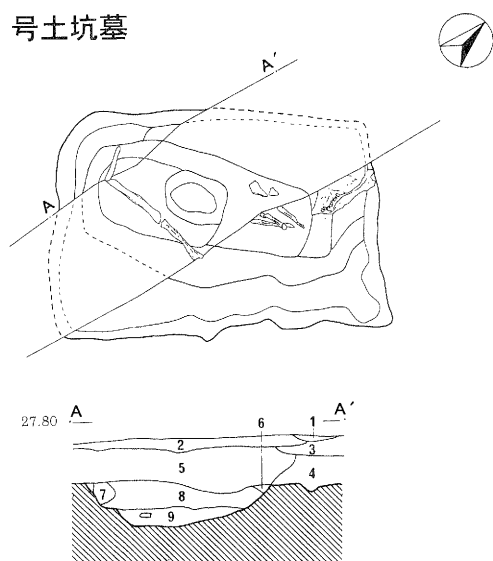
G－5 グリッドに位置する。第39・40号土坑を切っている。

長径0.6 m、短径0.3 mの楕円形の土坑で、深さは確認面から最深部で7 cmと浅い。このため、土坑底面から自然石は検出されなかったが、西側より骨片がまとまって検出された。土坑北壁の中央付近からは緩やかな傾斜を持ちながら立ち上がる溝が付随しており、規模は最大幅で36 cm、長さ32 cmを測る。

覆土には焼土・灰・炭化物の他、骨片も含んでいた。

遺物は検出されなかった。

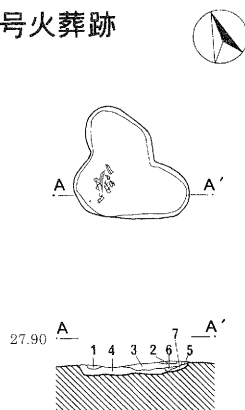
第1号土坑墓



土層説明 (A A')

- 1 浅黄色土: 礫含む。
- 2 にぶい黄色土: 砂質。礫含む。
- 3 にぶい黄色土: 砂質。
- 4 にぶい黄色土: 灰色砂多量含む。
- 5 にぶい黄色土: 砂質。礫多量含む。
- 6 浅黄色土: 褐灰色土含む。
- 7 灰黄褐色土ブロック
- 8 浅黄色土: 砂質。礫・炭化物・褐灰色土・淡黄色粒含む。
- 9 黄褐色土: 砂質。骨片含む。

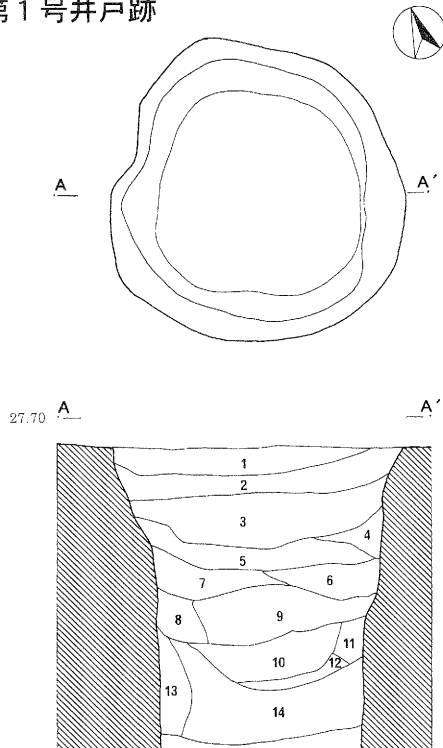
第1号火葬跡



土層説明 (A A')

- 1 暗灰黄色土: 炭化物・焼土多量含む。
- 2 褐灰色土: 浅黄色粒含む。
- 3 黄灰色土: 炭化物多量、焼土・骨片少量含む。
- 4 褐灰色土: 灰白色粒・黒褐色粒多量、炭化物少量含む。
- 5 浅黄色土
- 6 暗灰黄色土: 炭化物含む。
- 7 褐灰色土: 浅黄色粒含む。

第1号井戸跡



土層説明 (A A')

- 1 にぶい黄褐色土: 砂質。礫含む。粘性有。
- 2 灰黄褐色土: 礫多量、炭化物・焼土・褐灰色土・明黄褐色土含む。
- 3 灰黄褐色土: 礫多量含む。
- 4 暗灰黄色土: 砂礫多量含む。粘性有。
- 5 黄褐色土: 砂質。礫含む。粘性有。
- 6 灰オリ-フ色土: 砂質。礫含む。粘性有。
- 7 暗灰黄色土: 礫少量含む。
- 8 暗オリ-フ褐色土: 砂礫含む。粘性強。
- 9 暗灰黄色土: 砂質。礫・炭化物・焼土多量含む。
- 10 暗灰黄色砂礫層
- 11 黄褐色砂礫層
- 12 刈-フ黄色砂礫層: 砂主体。
- 13 刈-フ黄色砂礫層: 礫多量含む。
- 14 暗青灰色土: 砂質。粘性強。

0 1 m

第21図 第1号土坑墓・第1号火葬跡・第1号井戸跡

(5) 井戸跡

第1号井戸跡(第21図)

M・N-6グリッドに位置する。調査の都合上、完掘はできなかったため詳細については不明であるが、径1.6mのややいびつな円形状を呈する。横断面形は確認面から30～50cmまではやや緩やかな傾斜をもち、それ以下はほぼ垂直に掘り込まれており、素掘りの井戸跡である。

覆土は全体的に砂質で、粘性がある。

遺物は検出されなかったため、時期の特定はできなかった。

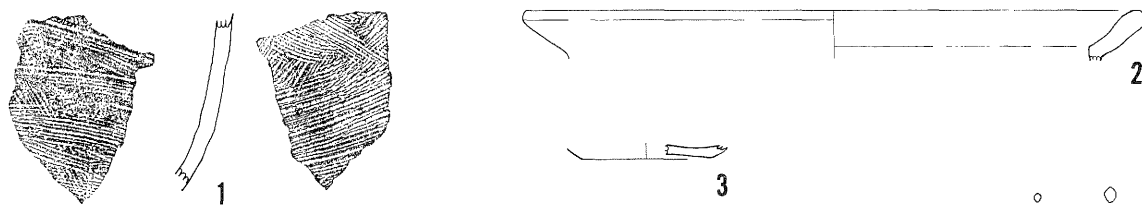
(6) ピット

調査区内から計70基が検出されている。これらは単独、ないし集中してみられるが、規則的に並ぶものはみられなかった。最も多く検出されたのはK・L-6グリッドであり、これらは第6・7号溝跡のまわりに位置していることから付随するものと考えられる。単独ピットに関しては不明である。各ピットの数値については第2表を参照のこと。

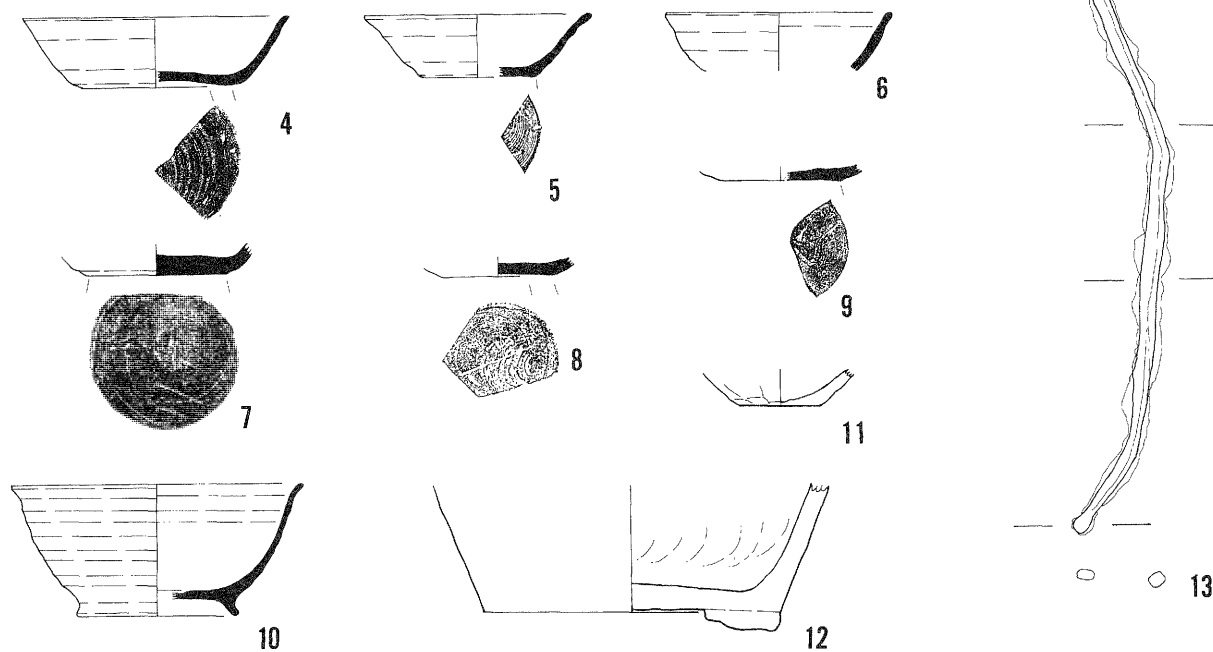
第2表 ピット計測表

No.	出土位置	長	短	深さ	備 考	No.	出土位置	長	短	深さ	備 考
1	Q-15	62	35	20		36	R-7	32	22	17	
2	K-17・18	58	54	32		37	R-7	39	36	19	
3	L-16	51	27	5		38	R-7	27	22	19	
4	K-15	36	27	22		39	R-7	35	33	20	
5	K-14	36	29	27		40	R-7	35	22	18	
6	J-5	27	22	8		41	R-7	36	30	18	
7	J-5	32	22	24		42	R-7	31	24	14	
8	J-5	26	20	5		43	Q-5	36	31	14	
9	K-5	30	23	6		44	R-9	36	30	18	
10	K-5	20	20	7		45	R-9	40	32	18	
11	K-6	41	39	19		46	G-5	28	27	25	
12	K-6	36	30	16		47	G-6	28	25	19	
13	K-6	32	28	15		48	G-5	28	24	9	
14	K-6	26	23	12		49	G-6	21	20	14	
15	K-6	47	25	23		50	G・H-6	29	27	25	
16	K-6	35	22	22		51	G-5・6	33	21	5	
17	K-6	21	20	18		52	G-6	23	22	7	
18	K-6	41	33	15		53	G-6	30	19	20	
19	K-6	30	24	18		54	G-6	31	24	11	
20	K-6	—	21	10		55	G-5	34	27	14	
21	K-6	47	29	18		56	G-6	27	26	5	
22	K-6	63	29	9		57	G-6	74	39	13	
23	L-6	34	28	19		58	G-6	57	25	9	
24	L-6	78	32	6		59	Q-15	65	32	13	
25	L-6	28	27	25		60	G-5	31	24	7	
26	L-6	38	31	23		61	G-5	27	25	17	
27	L-6	36	34	23		62	G-5	27	27	26	
28	L-6	35	33	19		63	G-5	32	25	6	
29	Q-7	38	26	15		64	G-5	33	31	12	
30	Q-7	28	28	15		65	G-5	50	40	17	
31	Q-7	25	21	15		66	G-5	26	21	15	
32	Q-7	30	25	19		67	G-5	46	30	24	
33	Q-7	26	26	22		68	G-5	46	32	16	
34	Q・R-7	30	24	8		69	G-5	24	24	40	
35	R-7	36	25	19		70	G-5	33	27	12	

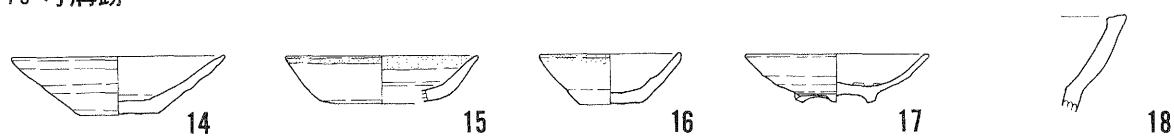
第6号溝跡



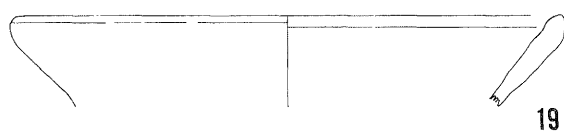
第12号溝跡



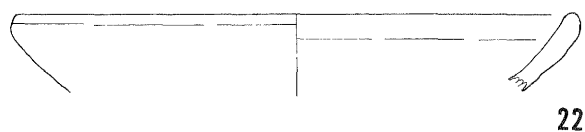
第13号溝跡



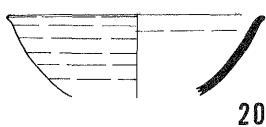
第17号土坑



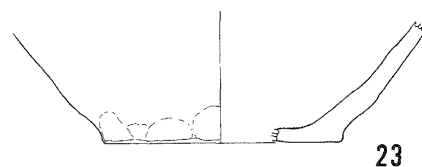
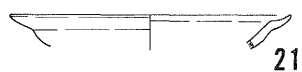
第28号土坑



第24号土坑



第27号土坑

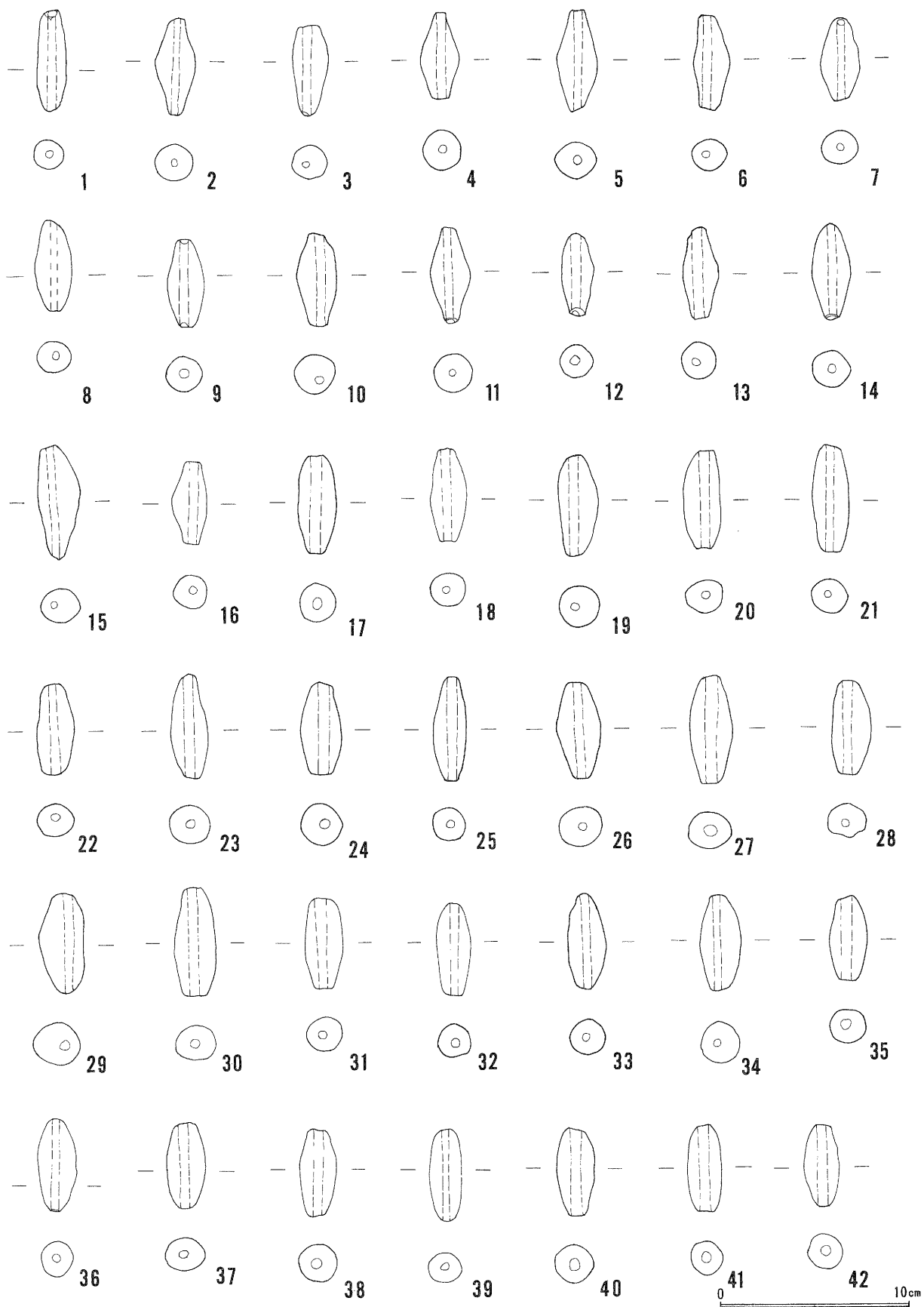


13 0 5 cm

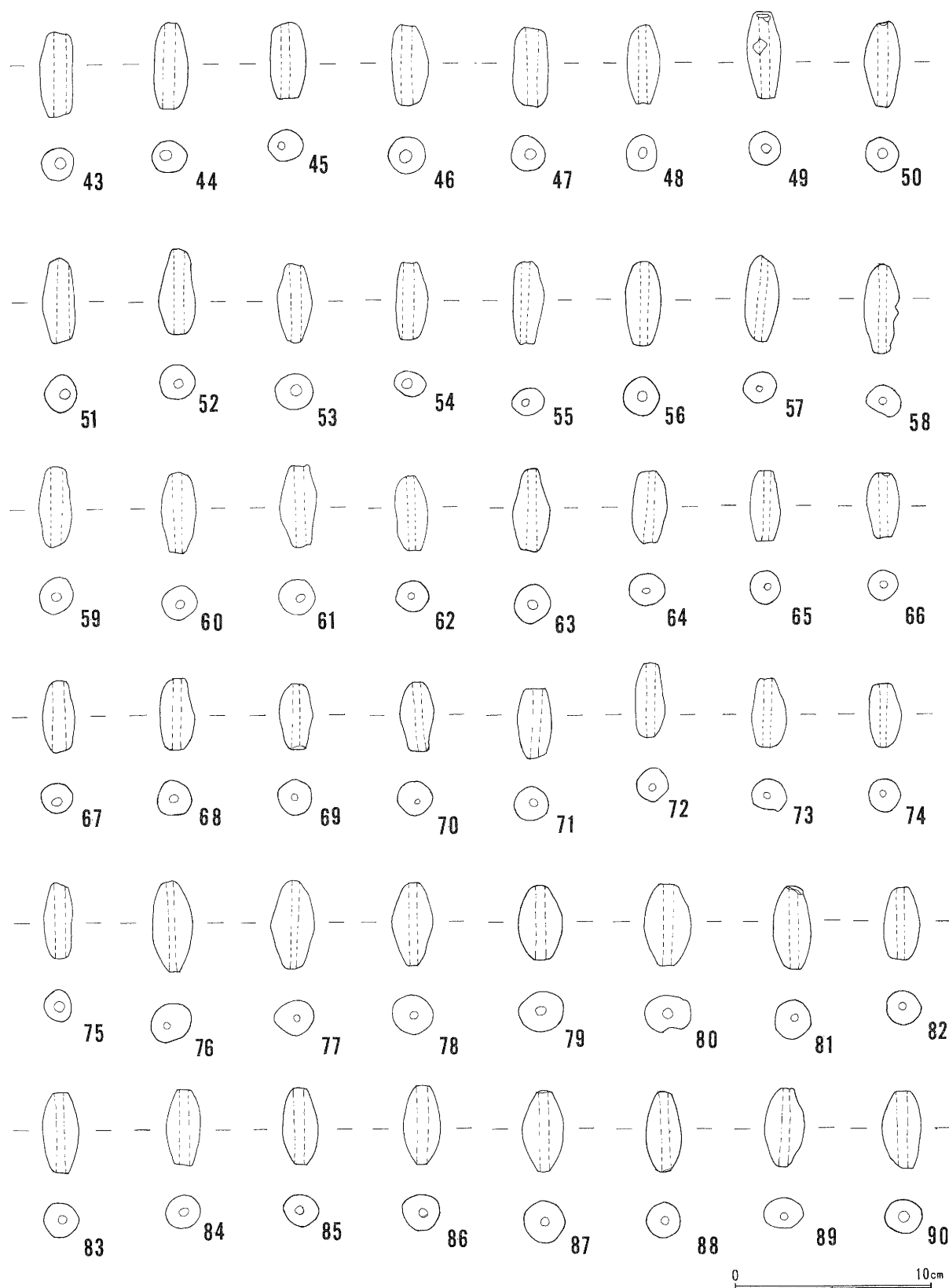
1 0 10 cm

2~12・14~23 0 10 cm

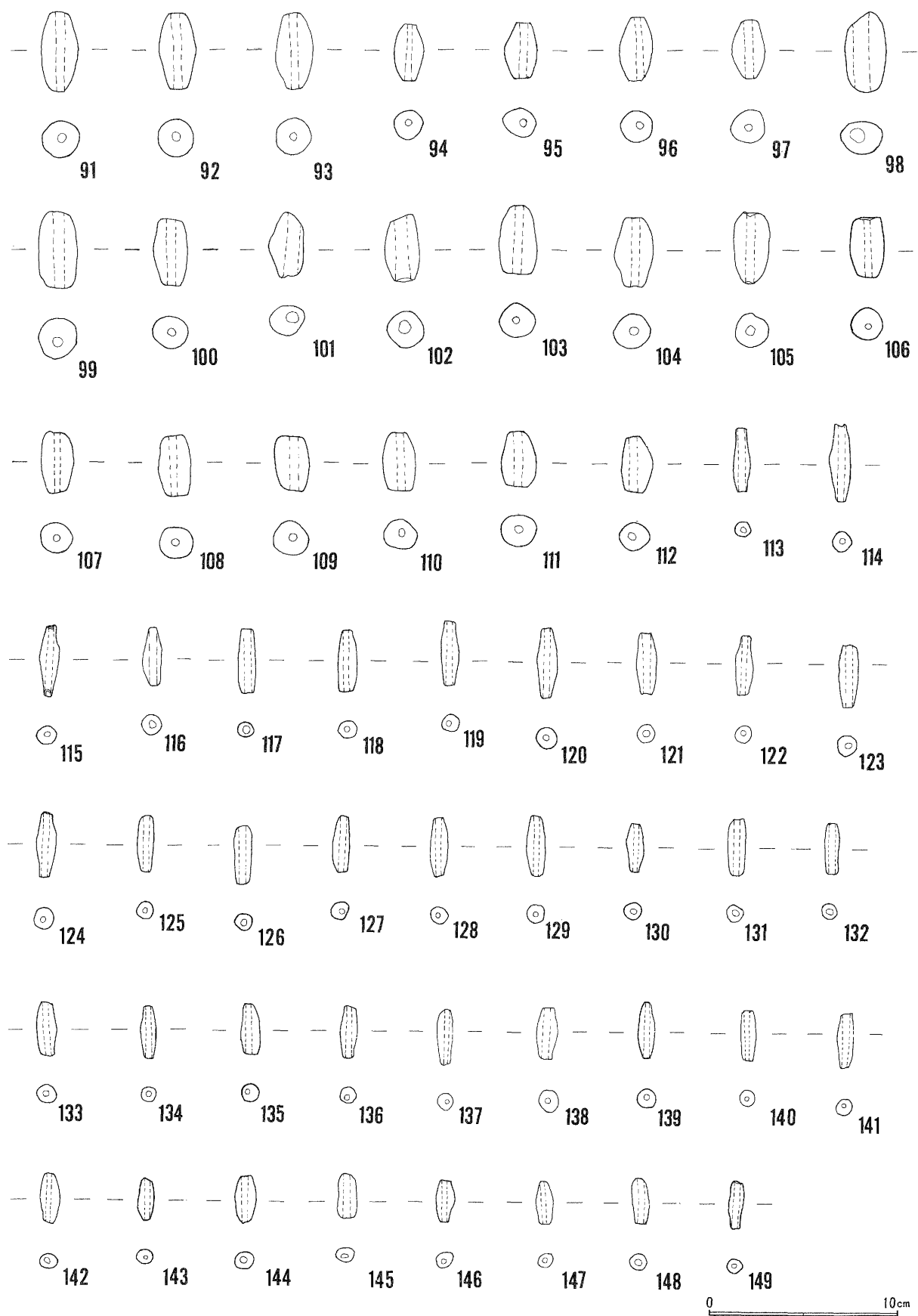
第22図 溝跡・土坑出土遺物



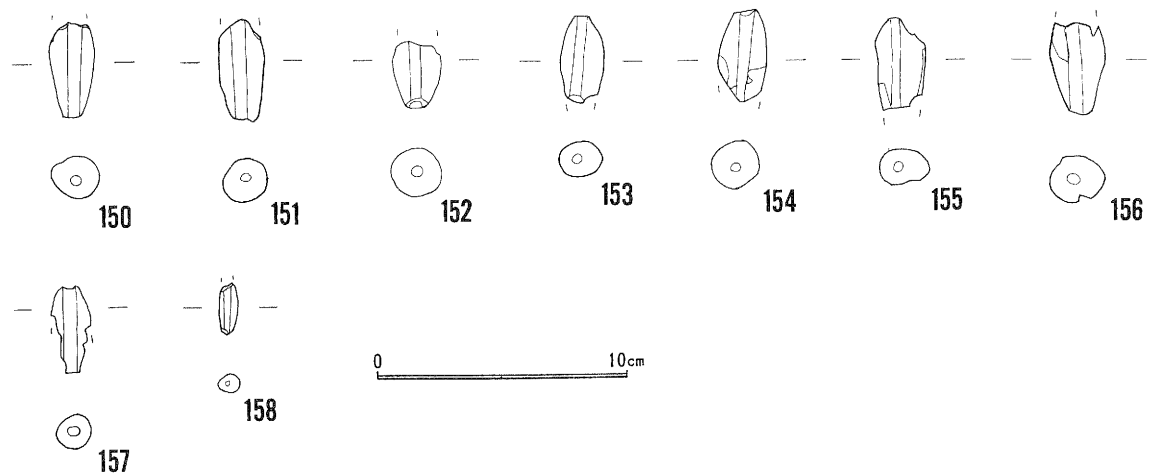
第23図 第41号土坑出土土錘 (1)



第24図 第41号土坑出土土錘 (2)



第25図 第41号土坑出土土錘 (3)



第26図 第41号土坑出土土錘（4）

第3表 溝跡・土坑出土土器観察表

No.	出土位置	器 種	口径	器高	底径	胎 上	色調	焼成	残存率	備 考
1	第6号溝跡	弥生土器・甕	—	—	—	やや粗／砂粒、白色粒、黑色粒、小石	灰褐色	良	—	中期後半。
2	第6号溝跡	鉢	(32.8)	(2.6)	—	粗／砂粒	浅黄色	良	10	
3	第6号溝跡	白磁・皿	—	(0.7)	(6.8)	緻密／黒色粒	灰白色	良	20	
4	第12号溝跡	須恵器・坏	(14.2)	3.7	8.0	密／白色粒、黑色粒、小石	灰色	良	30	東金子産。
5	第12号溝跡	須恵器・坏	(12.0)	(3.4)	(6.2)	密／白色粒、黑色粒	灰色	良	20	
6	第12号溝跡	須恵器・坏	(12.0)	(3.1)	—	密／白色粒、黑色粒、白色針状物質、小石	灰色	良	20	南比企産。
7	第12号溝跡	須恵器・坏	—	(1.6)	7.2	密／白色粒、黑色粒、白色針状物質	灰色	良	70	南比企産。
8	第12号溝跡	須恵器・坏	—	(1.0)	(6.0)	密／白色粒、白色針状物質、小石	灰色	良	60	南比企産。
9	第12号溝跡	須恵器・坏	—	(0.8)	(6.4)	密／白色粒、黑色粒、白色針状物質	灰白色	良	25	南比企産。
10	第12号溝跡	須恵器・碗	(15.6)	7.1	8.6	やや粗／白色粒、黑色粒、片岩	灰白色	良	40	末野産。
11	第12号溝跡	土師器・甕	—	(2.0)	(4.4)	密／砂粒、白色粒、黑色粒、赤色粒、角閃石	褐色	良	35	
12	第12号溝跡	常滑・甕	—	(6.8)	(15.8)	密／白色粒、黑色粒、石英、小石	黒色	良	40	
14	第13号溝跡	かわらけ	(11.3)	3.2	4.2	やや粗／砂粒、黑色粒、赤色粒、小石	浅黄色	良	40	煤付着。
15	第13号溝跡	かわらけ	(10.2)	2.6	5.0	密／砂粒、黑色粒、小石	褐灰色	良	30	煤付着。
16	第13号溝跡	かわらけ	(7.5)	2.8	(3.2)	密／砂粒、白色粒、黑色粒、小石	浅黄色	良	45	煤付着。
17	第13号溝跡	白磁・皿	(9.8)	2.6	—	密／黒色粒	灰白色	良	30	灯明皿。
18	第13号溝跡	内耳鍋	—	—	—	密／砂粒、黑色粒	灰褐色	良	10	
19	第17号土坑	鉢	(29.2)	4.8	—	粗／白色粒、黑色粒、赤色粒、小石	灰白色	良	40	
20	第24号土坑	須恵器・坏	(13.6)	4.4	—	密／白色粒、各色針状物質、小石	灰色	良	15	南比企産。
21	第27号土坑	青磁・碗	(14.8)	(1.8)	—	緻密／黒色粒	緑灰色	良	5	
22	第28号土坑	鉢	(30.2)	(4.3)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黑色粒、石英	浅黄色	良	15	
23	第28号土坑	甕	—	(6.8)	(12.7)	粗／砂粒、白色粒、赤色粒、小石	浅黄色	良	30	

第4表 溝跡出土鉄製品観察表

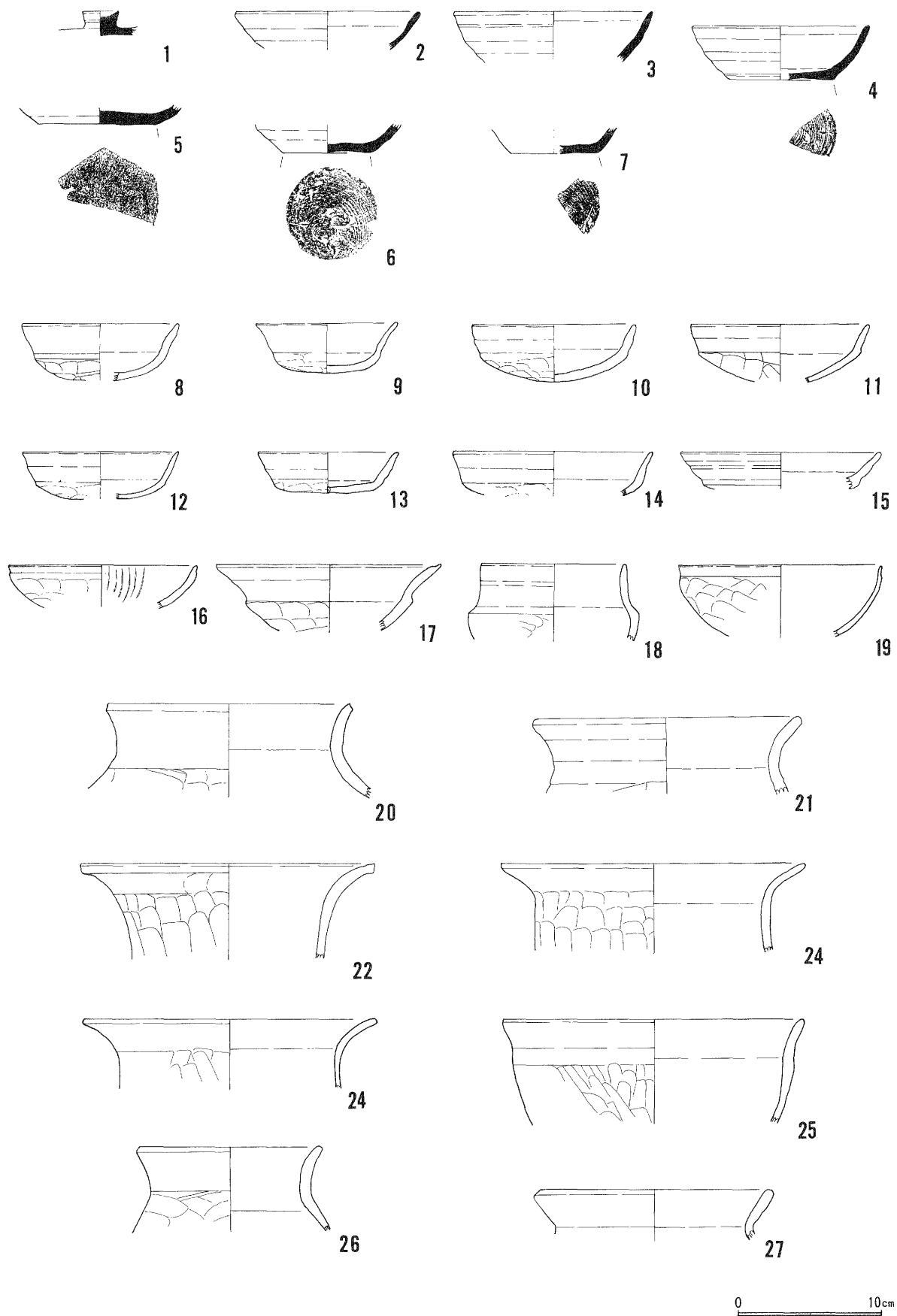
No.	出土位置	分 類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備 考
13	第12号溝跡	不 明	16.1	0.5	0.4	完形？

第5表 第41号土坑出土土製品観察表

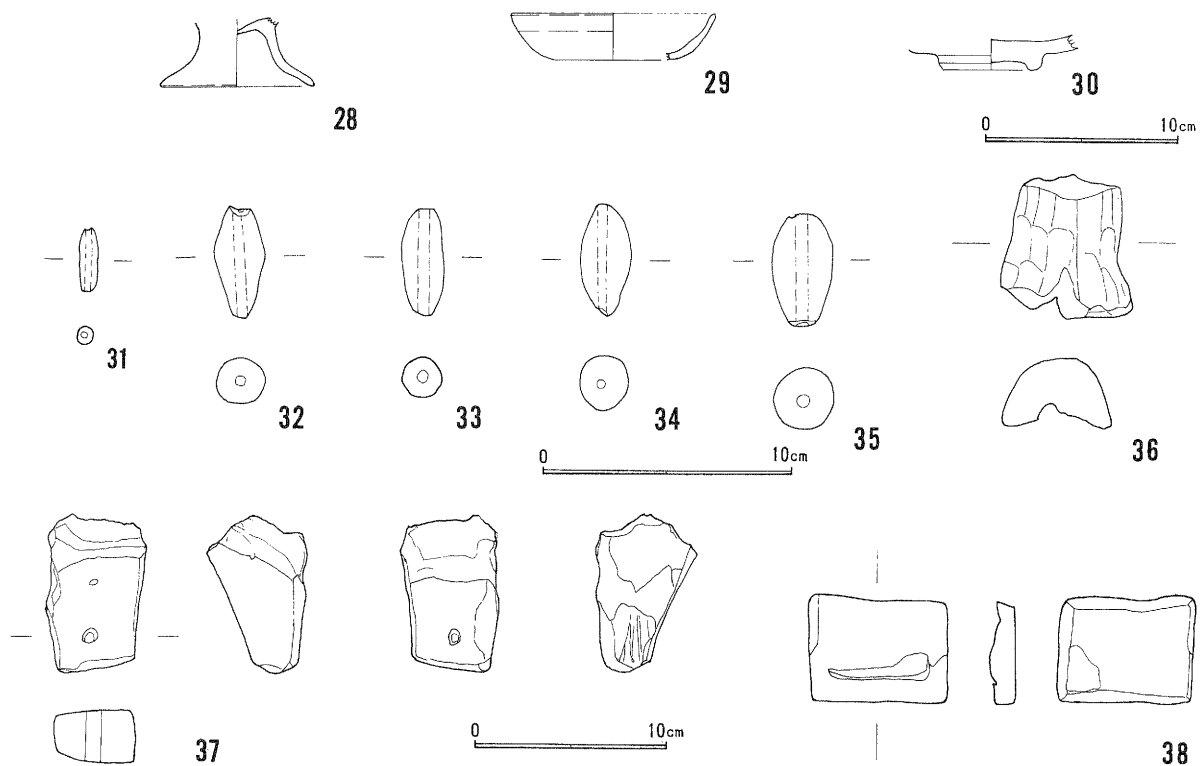
No.	分 類	最大長(cm)	最大幅(cm)	重 量(g)	備 考
1	土 錘	5.2	1.6	10.0	完形。
2	土 錘	5.1	2.1	16.0	完形。
3	土 錘	4.8	1.9	12.0	完形。
4	土 錘	4.5	2.0	12.0	完形。
5	土 錘	5.3	2.2	19.0	完形。
6	土 錘	4.9	1.9	13.0	完形。
7	土 錘	4.3	2.0	11.0	ほぼ完形。
8	土 錘	4.8	1.9	11.0	完形。
9	土 錘	4.6	1.9	11.0	完形。
10	土 錘	4.9	2.1	15.0	ほぼ完形。
11	土 錘	5.1	2.1	16.0	ほぼ完形。
12	土 錘	4.3	1.7	11.0	完形。
13	土 錘	4.7	1.8	14.0	ほぼ完形。
14	土 錘	5.0	2.1	16.0	ほぼ完形。
15	土 錘	5.9	2.1	20.0	完形。

No.	分 類	最大長(cm)	最大幅(cm)	重 量(g)	備 考
16	土 錘	4.4	1.8	12.0	完形。
17	土 錘	5.1	2.2	20.0	完形。
18	土 錘	4.8	1.9	18.0	完形。
19	土 錘	5.2	2.1	22.0	ほぼ完形。
20	土 錘	5.1	1.9	18.0	完形。
21	土 錘	5.6	1.9	20.0	ほぼ完形。
22	土 錘	4.8	1.9	13.0	完形。
23	土 錘	5.4	2.0	20.0	ほぼ完形。
24	土 錘	4.8	2.2	21.0	完形。
25	土 錘	5.4	1.8	15.0	完形。
26	土 錘	5.0	2.3	20.0	完形。
27	土 錘	5.7	2.3	23.0	完形。
28	土 錘	4.9	2.1	19.0	完形。
29	土 錘	5.7	2.4	23.0	完形。
30	土 錘	5.8	2.1	22.0	完形。
31	土 錘	4.8	2.0	18.0	完形。
32	土 錘	4.8	1.7	15.0	ほぼ完形。
33	土 錘	5.1	2.0	19.0	ほぼ完形。
34	土 錘	5.0	2.2	21.0	完形。
35	土 錘	4.5	1.9	15.0	完形。
36	土 錘	4.8	2.0	11.0	完形。
37	土 錘	4.5	2.1	18.0	完形。
38	土 錘	4.6	2.0	18.0	完形。
39	土 錘	4.9	1.7	11.0	完形。
40	土 錘	4.6	2.0	20.0	完形。
41	土 錘	4.5	1.7	12.0	完形。
42	土 錘	4.3	1.9	12.0	完形。
43	土 錘	4.3	1.6	12.0	完形。
44	土 錘	4.4	1.7	15.0	ほぼ完形。
45	土 錘	3.8	1.8	12.0	完形。
46	土 錘	4.0	1.9	15.0	完形。
47	土 錘	3.9	1.8	15.0	完形。
48	土 錘	4.0	1.6	10.0	完形。
49	土 錘	4.5	1.6	11.0	ほぼ完形。
50	土 錘	4.4	1.8	12.0	ほぼ完形。
51	土 錘	4.2	1.7	12.0	ほぼ完形。
52	土 錘	4.4	1.8	12.0	完形。
53	土 錘	4.0	1.9	10.0	完形。
54	土 錘	3.9	1.6	10.0	ほぼ完形。
55	土 錘	4.2	1.6	10.0	ほぼ完形。
56	土 錘	4.3	1.8	12.0	ほぼ完形。
57	土 錘	4.3	1.7	12.0	ほぼ完形。
58	土 錘	4.5	1.8	10.0	ほぼ完形。
59	土 錘	4.1	1.6	11.0	ほぼ完形。
60	土 錘	4.1	1.8	11.0	完形。
61	土 錘	4.1	1.9	12.0	完形。
62	土 錘	3.8	1.6	11.0	完形。
63	土 錘	4.2	1.9	15.0	ほぼ完形。
64	土 錘	3.6	1.7	11.0	ほぼ完形。
65	土 錘	3.6	1.5	20.0	ほぼ完形。
66	土 錘	3.3	1.6	10.0	完形。
67	土 錘	3.7	1.7	10.0	ほぼ完形。
68	土 錘	3.6	1.7	11.0	完形。
69	土 錘	3.3	1.7	10.0	完形。
70	土 錘	3.5	1.7	10.0	完形。
71	土 錘	3.5	1.7	10.0	完形。
72	土 錘	4.3	1.1	10.0	完形。
73	土 錘	3.5	1.7	10.0	完形。
74	土 錘	3.2	1.6	10.0	完形。
75	土 錘	3.8	1.4	10.0	完形。
76	土 錘	4.6	2.0	18.0	ほぼ完形。
77	土 錘	4.5	2.2	18.0	完形。
78	土 錘	4.2	2.1	18.0	ほぼ完形。

No.	分 類	最大長(cm)	最大幅(cm)	重 量(g)	備 考
79	土 鍾	3.8	2.2	15.0	ほぼ完形。
80	土 鍾	4.2	2.3	19.0	ほぼ完形。
81	土 鍾	4.2	2.0	15.0	ほぼ完形。
82	土 鍾	3.6	1.8	10.0	完形。
83	土 鍾	4.1	1.8	15.0	ほぼ完形。
84	土 鍾	3.8	1.7	11.0	ほぼ完形。
85	土 鍾	3.8	1.8	12.0	ほぼ完形。
86	土 鍾	4.0	1.9	15.0	ほぼ完形。
87	土 鍾	4.0	2.0	15.0	完形。
88	土 鍾	4.0	1.8	12.0	完形。
89	土 鍾	4.0	2.0	12.0	完形。
90	土 鍾	3.9	1.9	12.0	ほぼ完形。
91	土 鍾	4.2	2.0	18.0	完形。
92	土 鍾	4.0	1.9	12.0	完形。
93	土 鍾	4.0	1.9	12.0	ほぼ完形。
94	土 鍾	3.0	1.6	8.0	完形。
95	土 鍾	3.0	1.8	9.0	完形。
96	土 鍾	3.3	1.8	9.0	ほぼ完形。
97	土 鍾	3.1	1.8	10.0	完形。
98	土 鍾	4.2	2.2	18.0	完形。
99	土 鍾	4.0	2.1	17.0	完形。
100	土 鍾	3.5	1.8	11.0	完形。
101	土 鍾	4.9	2.1	8.0	ほぼ完形。
102	土 鍾	3.5	1.9	10.0	完形。
103	土 鍾	3.6	2.0	11.0	ほぼ完形。
104	土 鍾	3.6	2.0	12.0	完形。
105	土 鍾	3.7	1.9	10.0	ほぼ完形。
106	土 鍾	3.2	1.8	10.0	完形。
107	土 鍾	3.2	1.7	9.0	完形。
108	土 鍾	3.2	1.8	10.0	完形。
109	土 鍾	2.8	1.8	10.0	ほぼ完形。
110	土 鍾	3.1	1.7	9.0	完形。
111	土 鍾	2.9	1.9	9.0	完形。
112	土 鍾	3.0	1.6	8.0	完形。
113	土 鍾	3.3	0.9	2.0	完形。
114	土 鍾	4.0	1.1	2.0	ほぼ完形。
115	土 鍾	3.7	1.0	2.0	ほぼ完形。
116	土 鍾	3.1	1.0	1.0	ほぼ完形。
117	土 鍾	3.4	0.9	1.0	ほぼ完形。
118	土 鍾	3.2	1.1	1.0	完形。
119	土 鍾	3.4	0.9	1.0	完形。
120	土 鍾	3.7	1.1	3.0	ほぼ完形。
121	土 鍾	3.2	1.0	2.0	ほぼ完形。
122	土 鍾	3.1	0.9	1.0	ほぼ完形。
123	土 鍾	3.3	1.0	2.0	ほぼ完形。
124	土 鍾	3.4	1.0	1.0	完形。
125	土 鍾	3.0	0.9	2.0	ほぼ完形。
126	土 鍾	3.1	1.0	1.0	完形。
127	土 鍾	3.0	0.9	1.0	完形。
128	土 鍾	3.1	0.9	1.0	ほぼ完形。
129	土 鍾	3.2	1.0	1.0	完形。
130	土 鍾	2.5	0.9	1.0	ほぼ完形。
131	土 鍾	2.9	0.9	2.0	ほぼ完形。
132	土 鍾	2.7	0.7	1.0	ほぼ完形。
133	土 鍾	2.8	1.0	1.0	完形。
134	土 鍾	2.8	0.8	1.0	完形。
135	土 鍾	2.7	1.0	1.0	ほぼ完形。
136	土 鍾	2.8	0.9	1.0	完形。
137	土 鍾	2.9	0.8	1.0	完形。
138	土 鍾	2.7	1.1	3.0	完形。
139	土 鍾	2.9	0.9	1.0	完形。
140	土 鍾	2.6	0.8	1.0	完形。
141	土 鍾	2.9	0.9	1.0	完形。



第27図 遺構外出土遺物 (1)



第28図 遺構外出土遺物（2）

No.	分 類	最大長(cm)	最大幅(cm)	重 量(g)	備 考
142	土 鍾	2.7	1.0	1.0	完形。
143	土 鍾	2.2	0.8	1.0	ほぼ完形。
144	土 鍾	2.5	1.1	1.0	ほぼ完形。
145	土 鍾	2.3	1.0	1.0	ほぼ完形。
146	土 鍾	2.2	1.0	1.0	ほぼ完形。
147	土 鍾	2.3	0.9	1.0	ほぼ完形。
148	土 鍾	2.4	0.9	1.0	ほぼ完形。
149	土 鍾	2.5	0.8	1.0	ほぼ完形。
150	土 鍾	—	0.9	—	片端欠。
151	土 鍾	—	0.9	—	片端欠。
152	土 鍾	—	1.0	—	片端欠。
153	土 鍾	—	0.8	—	片端欠。
154	土 鍾	—	0.9	—	片端欠。
155	土 鍾	—	0.9	—	片端欠。
156	土 鍾	—	1.1	—	片端欠。
157	土 鍾	—	0.7	—	片端欠。
158	土 鍾	—	0.4	—	片端欠。

（7）遺構外出土遺物

調査区全面から土器、土製品、石製品等が検出されている。完形品はみられない。

土器には、須恵器・蓋、坏、土師器・坏、椀、丸胴甕、長胴甕、甑、台付甕、かわらけ等がみられる。磁器も1点のみ検出された。須恵器はほとんど南比企産で、9世紀前半のものが主体となる。土師器はいずれも古墳時代後期のものである。土製品は、土鍾の他に支脚が検出された。石製品には、砥石、硯等がみられる。

第6表 遺構外出土土器観察表

No.	出土位置	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	—	須恵器・蓋	—	(1.8)	—	密／白色粒、黒色粒、片岩	黄灰色	良	90	つまみ。
2	—	須恵器・坏	(13.0)	(2.7)	—	密／白色粒、黒色粒	灰色	良	10	
3	—	須恵器・坏	(14.0)	(3.5)	—	密／白色粒、白色針状物質、小石	黄灰色	良	10	南比企産。
4	—	須恵器・坏	(12.4)	3.8	(7.2)	密／白色粒、黒色粒、白色針状物質、小石	灰色	良	15	南比企産。
5	—	須恵器・坏	—	(1.2)	(8.0)	密／白色粒、白色針状物質	灰色	良	25	南比企産。
6	—	須恵器・坏	—	(2.0)	(6.2)	密／白色粒、黒色粒、片岩	灰色	良	95	末野産。
7	—	須恵器・坏	—	(1.7)	(6.2)	密／白色粒、白色針状物質、石英、小石	黄橙色	良	20	
8	—	土師器・坏	(11.0)	(4.0)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石	橙色	良	30	
9	—	土師器・坏	(10.0)	(3.5)	—	密／砂粒、白色粒、石英、角閃石	褐色	良	20	
10	—	土師器・坏	(11.6)	(4.0)	—	やや粗／砂粒、黒色、小石	明赤褐色	良	45	
11	—	土師器・坏	(12.6)	(4.0)	—	密／砂粒、白色粒、石英	暗褐色	良	20	
12	—	土師器・坏	(11.0)	(3.3)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石、石英	褐灰色	良	30	
13	—	土師器・坏	(10.0)	(2.9)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石、石英	黄橙色	良	15	
14	—	土師器・坏	(14.0)	(3.1)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	浅黄褐色	良	15	
15	—	土師器・坏	(14.2)	(2.5)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、石英	にぶい褐色	良	15	
16	—	土師器・坏	(13.3)	(3.0)	—	密／砂粒、白色粒、角閃石、石英	明赤褐色	良	20	
17	—	土師器・坏	(15.8)	(4.7)	—	密／砂粒、黒色粒、角閃石、石英、小石	灰褐色	良	15	
18	—	土師器・坏	(10.3)	(5.4)	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒、角閃石	にぶい橙	やや良	20	
19	—	土師器・坏	(14.4)	(5.0)	—	密／白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石	橙色	良	25	
20	—	土師器・甕	(17.4)	(6.6)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒	にぶい橙	良	25	
21	—	土師器・甕	(19.0)	(5.3)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒	浅黄褐色	良	30	
22	—	土師器・甕	(20.6)	(6.7)	—	やや粗／砂粒、白色粒、赤色粒、小石	橙色	良	20	
23	—	土師器・甕	(21.4)	(6.3)	—	やや粗／砂粒、白色粒、赤色粒、小石	浅黄褐色	良	20	
24	—	土師器・甕	(20.6)	(5.0)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、石英	明赤褐色	やや良	20	
25	—	土師器・甕	(21.2)	(7.4)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	にぶい黄	やや良	25	
26	—	土師器・甕	(13.2)	(6.0)	—	密／白色粒、角閃石、小石	にぶい黄	良	25	
27	—	土師器・甕	(17.0)	(3.7)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	にぶい橙	良	25	
28	—	土師器・高坏	—	(3.6)	8.2	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石	橙色	良	60	
29	—	かわらけ・皿	(10.9)	2.4	(6.0)	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	褐色	良	20	
30	—	青磁・碗	—	(1.8)	(5.6)	緻密／白色粒、黒色粒	灰オリーブ	良	30	

第7表 遺構外出土土製品観察表

No.	出土位置	分 類	長(cm)	幅(cm)	重(g)	備 考
31	—	土 錘	2.8	0.8	10.0	完形。
32	—	土 錘	4.3	2.0	10.0	完形。
33	—	土 錘	4.2	1.7	9.0	完形。
34	—	土 錘	4.4	2.1	2.0	完形。
35	—	土 錘	4.4	2.4	8.0	完形。
36	—	支 脚	—	5.2	—	半分欠。

第8表 遺構外出土石製品観察表

No.	出土位置	分 類	長(cm)	幅(cm)	重(g)	備 考
37	—	砥 石	8.5	4.9	2.8	完形。
38	—	硯	5.4	7.4	1.3	一部欠。

2 出口上遺跡

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第29図）

2区F'・G'－14・15グリッドに位置する。

確認された柱間などから考えて、発掘調査段階では柱穴を確認するに至らなかったが、さらに東方向に延びる二間×三間の総柱建物の可能性もある。

検出された規模は南北2.6m以上、東西3.0mであった。柱間は桁行2.6m、梁行1.5mで、N－78°－Eを示す。

柱穴は外側のものが比較的大型で径0.75m×0.5m前後、深さは60cmから50cmを測る。中間の柱穴はやや規模が小さくなり径0.4m前後、深さは40cmから50cmと浅くなる。

いずれの柱穴も柱痕は観察できなく、柱は抜き取られたと思われる。

遺物は土師器の小破片が出土したが、微細であるため図示不可能であった。

(2) 溝 跡

第1号溝跡（第30図）

1区A－14グリッドからB－7グリッドに位置する。調査区沿いにほぼ南北方向に走っており、本溝跡の西約1.5mには第2号溝跡が平行して走っている。なお、所々をピットに切られている。

長さ36.7m、最大幅は0.8mであるが、総じて0.5m前後である。深さは確認面の影響からか平均4cm前後と非常に浅いが、B－12グリッド内では溝底面に土坑状の掘り込みがみられ、深さは19cmを測る。横断面形は船底状を呈するが、B－12グリッド内掘り込み部では幅広のU字状を呈する。

覆土はスコリアを含む黄灰色土が主体となるが、掘り込み部のみ黒褐色土を含むことから、溝跡とは別の遺構の可能性も考えられる。

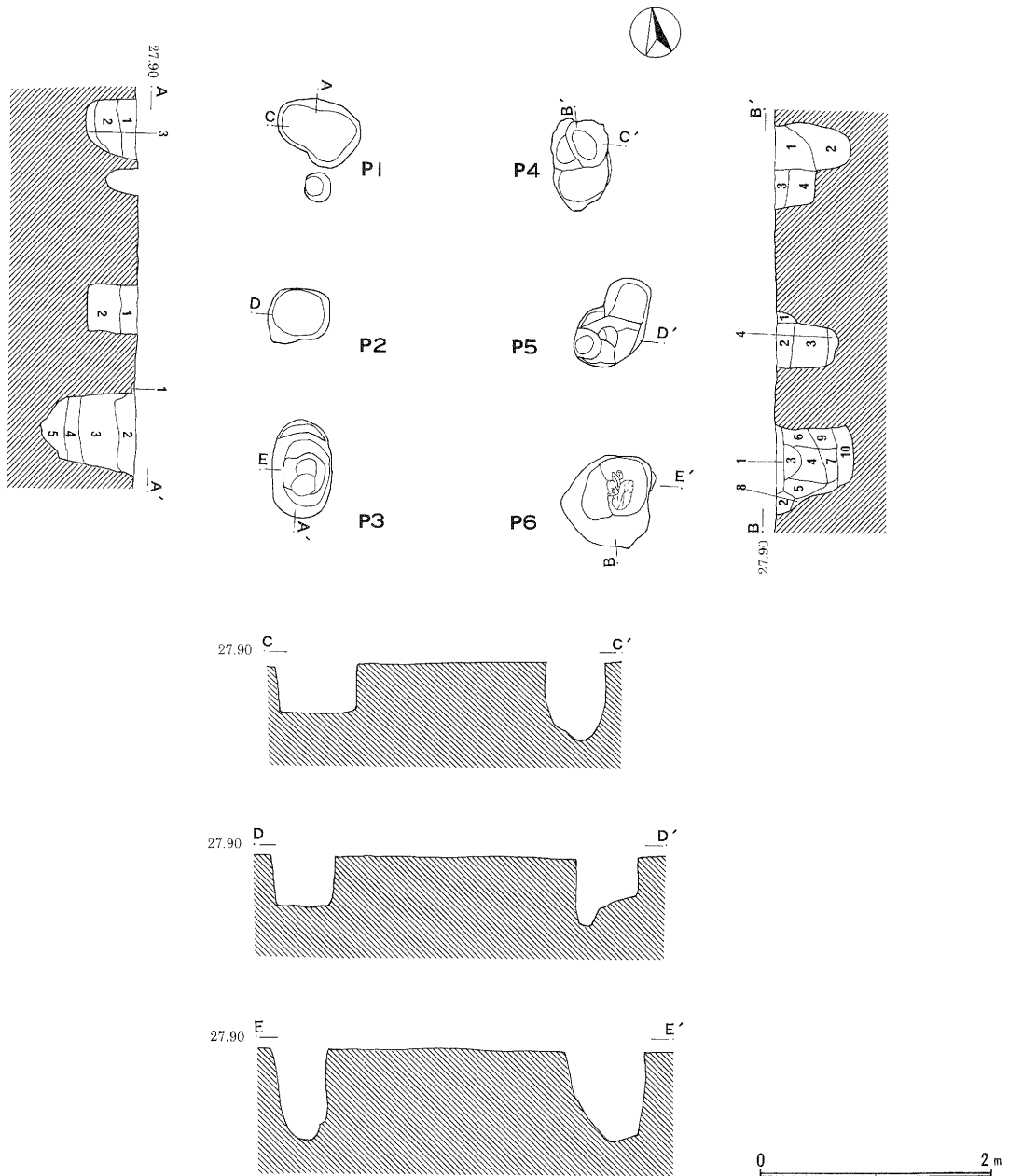
遺物は検出されなかったため時期が特定できないが、第2号溝跡と平行していることから、同時期の可能性が考えられる。

第2号溝跡（第30図）

1区B－7グリッドに位置する。第1号溝跡の西側を南北方向に併走しているが、南側は試掘溝により切られている。よって、正確な長さは不明であるが、試掘溝以南では確認されていないことから、第1号溝跡程長くはない。

確認された長さは5m、最大幅は0.45m、最深部は16cmを測る。横断面形は船底状を呈し、覆土は黒褐色土による単一層、ないし2層からなる。水平な層位であり、自然堆積によるものである。

遺物は検出されなかったため時期が特定できないが、第1号溝跡と平行していることから、同時期の可能性が考えられる。



土層説明 (A A' B B')

P 1

- 1 暗灰黄色土:礫・スコリア・焼土含む。
- 2 黒褐色土:炭化物・焼土含む。
- 3 黒褐色土:焼土含む。2層より暗い。

P 2

- 1 暗灰黄色土:スコリア・炭化物・焼土含む。
- 2 黒褐色土:炭化物・焼土含む。

P 3

- 1 黒褐色土
- 2 暗灰-ブ褐色土:礫・炭化物・焼土・灰-ブ褐色粒含む。
- 3 黒褐色土:炭化物・焼土・灰-ブ褐色粒含む。
- 4 黒褐色土:礫含む。
- 5 黒褐色土:4層より明るい。

P 4

- 1 黒褐色土:黒褐色粒・灰-ブ褐色粒含む。
- 2 黒褐色土:1層より暗い。

- 3 黒褐色土:焼土・黒褐色粒含む。
- 4 黒褐色土:焼土含む。

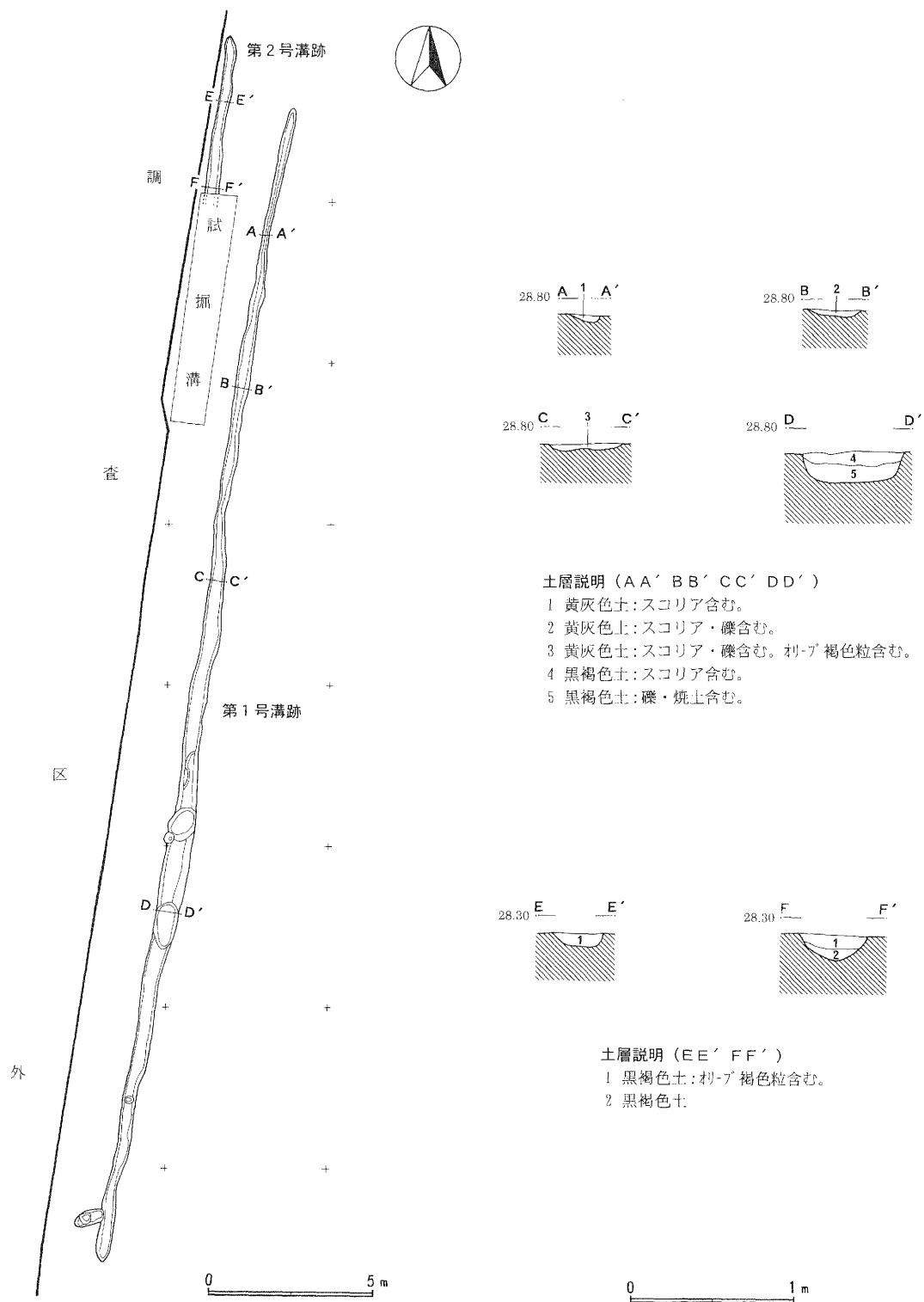
P 5

- 1 黒褐色土:灰色粒・黒褐色粒・灰-ブ褐色粒含む。
- 2 黒褐色土:灰色粒含む。
- 3 黒褐色土:炭化物・黒褐色粒含む。
- 4 暗灰-ブ褐色土:黒褐色粒含む。

P 6

- 1 暗灰-ブ褐色土:炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 2 黒褐色土:黒褐色粒・暗灰-ブ褐色粒含む。
- 3 灰色土:鉄分・黒褐色粒含む。
- 4 黒褐色土:灰色粒・黒褐色粒含む。
- 5 黒褐色土:黒褐色粒・暗灰-ブ褐色粒含む。
- 6 黒褐色土:炭化物・焼土・暗灰-ブ褐色粒含む。
- 7 黒褐色土:黒褐色粒含む。
- 8 黒褐色土

第29図 第1号掘立柱建物跡



第30図 第1・2号溝跡

第3号溝跡（第31図）

1区F-6グリッドからH-7グリッドに位置する。北西方向から南東方向に走っており、調査区外へと延びている。

検出長は溝跡の中心部で9.3m、幅は北東部が狭くなっており、最大幅で0.65mを測る。そしてG-7グリッド以後テラス状となって徐々に幅広となり調査区との境では2.75mを測る。なお、G-7グリッド付近中央では急激に膨らんでいるが、土層断面（BB'）でみると土坑が重複しているようにもとれる。

深さは溝幅に比例して北東部から南東部に向って徐々に深くなる。北東端付近では26cm、南東付近では46cmを測る。

覆土は黒褐色土、ないし黄灰色土を主体とし、ほぼレンズ状に堆積した状況が確認された。

また、溝跡内からはいくつかピットが検出されているが、これらは本溝跡に付随するものと思われる。

遺物は若干検出されたが、図示可能なものは3点（第46図1～3）のみである。このうち、本溝跡に伴うものは2・3である。

第4号溝跡（第31図）

1区F-6・7グリッドに位置する。第3号溝跡の東側を南東方向から北西方向へ走っているが、確認面の関係からか途切れてピット状になっている。北西部は調査区外へ延びている。

検出長は切れる箇所も含めて溝跡の中心部で4.6m、幅は最大で0.5mであるが、総じて0.4m程である。深さは最深部で9cm程である。

覆土は黒褐色土からなる単一層である。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第5号溝跡（第31図）

1区K-7グリッドに位置する。ほぼ南北方向に走っている。北は調査区外へ延びているが、南は第14号土坑を切っていることが確認されており、14号土坑内で途切れる。ただし、確認段階で新旧関係は分からなかったため、検出長は不明である。最大幅は0.66m、深さは最深部で31cmを測り、横断面形はほぼ逆台形状を呈する。覆土は黒褐色土からなる自然堆積層。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第6号溝跡（第31図）

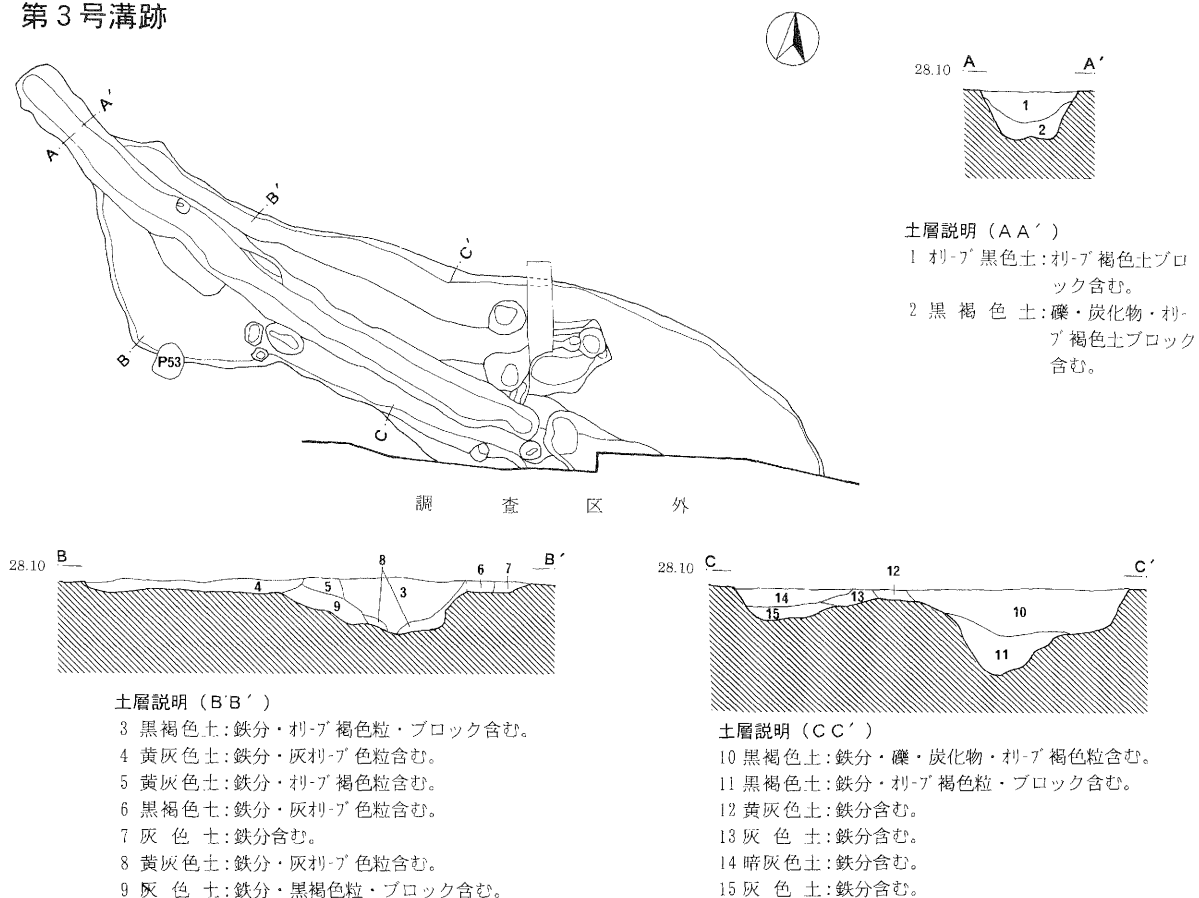
1区N-7・8グリッドに位置する。ほぼ南北方向に走っているが、南側の調査区との境では西に向きを変えて調査区外へ延びている。

検出長は5m、最大幅は5.8mであるが、総じて5m前後である。深さは20cmで、横断面形は幅広の逆台形状を呈する。

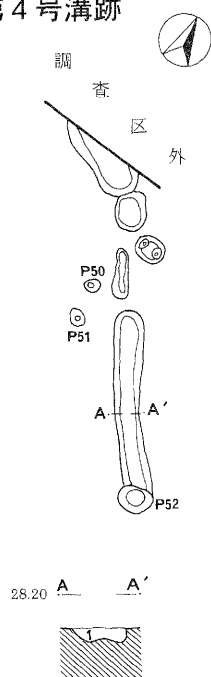
覆土は2層からなる自然堆積層。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

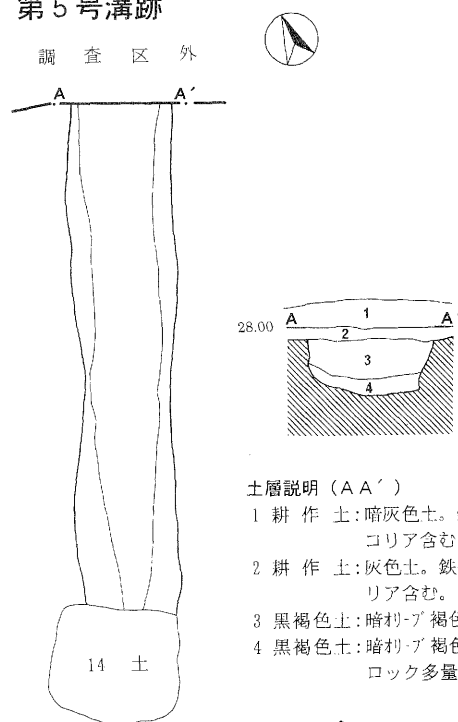
第3号溝跡



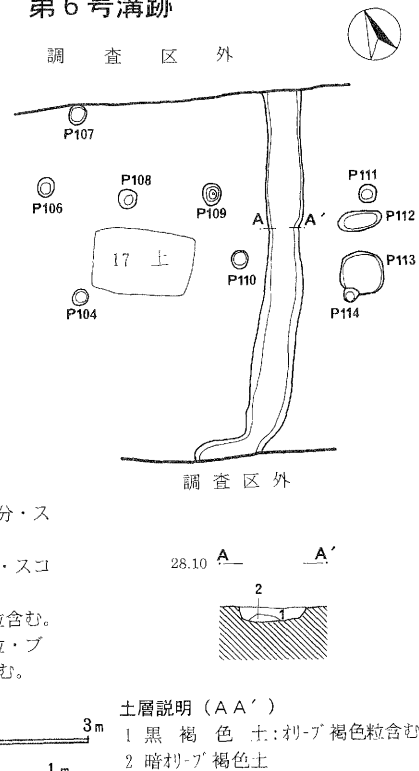
第4号溝跡



第5号溝跡



第6号溝跡



第31図 第3～6号溝跡

第7号溝跡（第32図）

2区P-11・12グリッドに位置する。ほぼ南北方向に走っており、北は調査区外へ延び、南は第16号土坑の北側で途切れる。

検出長は2.7 m、幅は最大6 mであるが、総じてほぼ同数値である。深さは確認面から20 cmである。横断面形は逆台形状を呈する。

覆土はオリーブ褐色土による単一層で、焼土をやや含んでいた。

遺物は検出されなかった。

第8号溝跡（第32図）

2区X・Y-13グリッドに位置する。ほぼ南北方向に走っており、調査区に直交する形で走っている。南北ともに調査区外へ延びているものの、南側は確認面の影響からかはっきりしない。

検出長は6.25 m、幅は調査区北端が最大幅となり6.2 mを測るが、総じて0.5 m前後である。深さは確認面からは25 cm前後であるが、調査区北端の土層断面観察ではさらに1層上の段階で掘り込まれているのが確認された。よって、横断面形はやや逆台形状を呈するものとなる。

覆土は黒褐色土からなる単一層。

遺物は検出されなかった。

第9号溝跡（第32図）

2区B'-13・14グリッドに位置する。ほぼ南北方向に走っており、調査区に直交する形で走っている。第10号溝跡と重複関係にあり、新旧関係は本溝跡の方が新しい。本溝跡は調査区北端でさらに2つに分かれて調査区外へ延び、南側も同様に調査区外へ延びている。

検出長は6 m、幅は調査区南部で1 mであるが、2つに分岐する北端では西側の溝跡が0.25～0.45 m、東側が1.2 mを測る。深さは3～4 cmと浅く、また分岐する手前には階段状の掘り込みがみられるが、深さの関係から本溝跡とは関連せず、第10号溝跡に付随するものと思われる。横断面形は幅広の船底状を呈し、覆土は黒褐色土からなる単一層で焼土を含んでいた。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第10号溝跡（第32図）

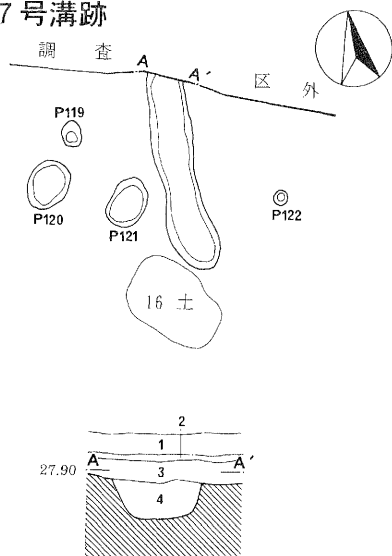
第9号溝跡同様、2区B'-13・14グリッドに位置し、第9号溝跡と重複している。新旧関係は本溝跡の方が古い。調査区に直交する形でほぼ南北方向に走っており、南北ともに調査区外に延びている。

検出長は第9号溝跡同様6 mで、幅は上面を第9号溝跡に切られているため定かではないが1 m前後であり、最大幅は1.28 mを測る。深さは調査区北端で確認面から93 cm、中央付近で75 cmである。横断面形はややいびつなV字形状を呈している。第9号溝跡の項で述べたとおり、調査区北側には階段状の掘り込みがみられ、レベルが本溝跡底面とほぼ同じであることから付随するものと考えられる。

覆土は主にレンズ状に堆積した黒褐色土からなり、上層には炭化物がみられた。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

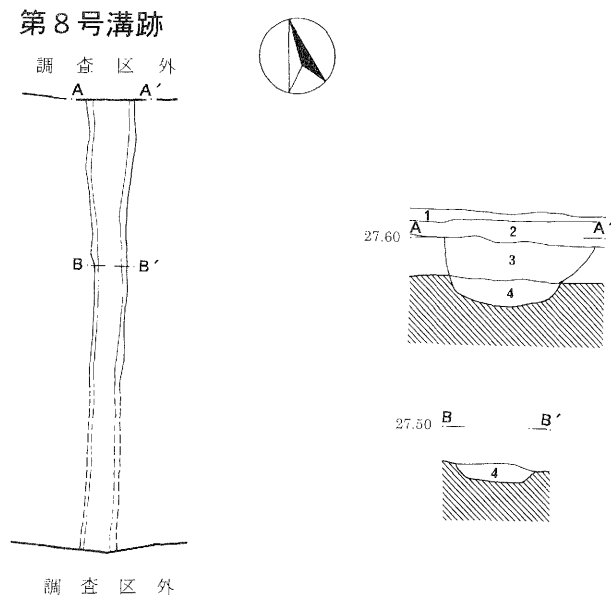
第7号溝跡



土層説明 (A A')

- 1 耕作土: 暗灰色土。鉄分含む。
- 2 耕作土: 灰色土。鉄分多量含む。
- 3 黒褐色土: 黒褐色粒・利-ブ褐色粒含む。
- 4 利-ブ褐色土: 焼土・黒褐色粒含む。

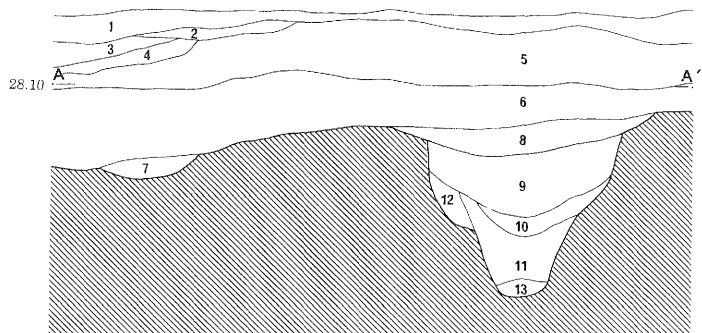
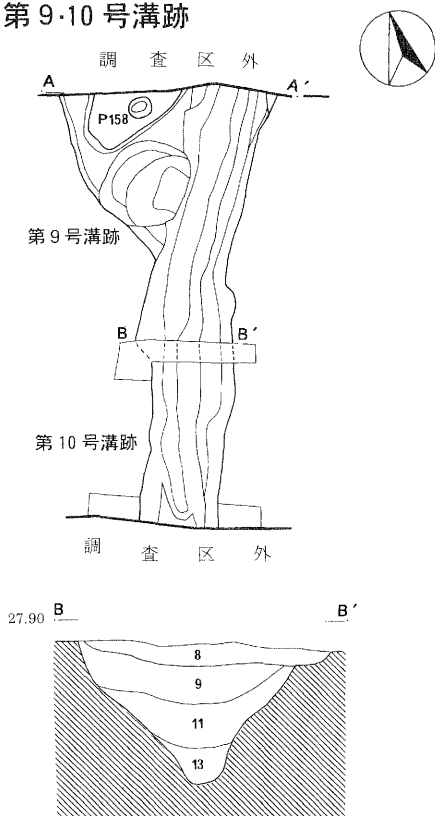
第8号溝跡



土層説明 (A A' B B')

- 1 耕作土: 暗灰色土。鉄分含む。
- 2 耕作土: 灰色土。鉄分・スコリア・焼土含む。
- 3 黒褐色土: 鉄分・焼土・灰色粒・利-ブ褐色粒含む。
- 4 黒褐色土: 鉄分・灰色粒・利-ブ褐色粒含む。

第9・10号溝跡



土層説明 (A A')

- 1 盛土
- 2 耕作土: 暗灰色土。鉄分多量、スコリア少量含む。
- 3 耕作土: 暗灰色土。鉄分・スコリア含む。
- 4 耕作土: 灰色土。鉄分・スコリア含む。
- 5 暗灰黄色土: スコリア・焼土含む。
- 6 黒褐色土: スコリア・焼土含む。

第9号溝跡

- 7 黒褐色土: 焼土・利-ブ褐色粒含む。
- 8 黒褐色土: 焼土・利-ブ褐色粒少量含む。

第10号溝跡

- 9 黒褐色土: 炭化物・焼土・利-ブ褐色粒含む。
- 10 黒褐色土: 炭化物・焼土・利-ブ褐色粒含む。
- 11 黒褐色土: 利-ブ褐色粒含む。
- 12 暗利-ブ褐色土: 黒褐色粒含む。
- 13 黒褐色土: 暗灰黄色粒・ブロック含む。

平面図 0 3m 断面図 0 1m

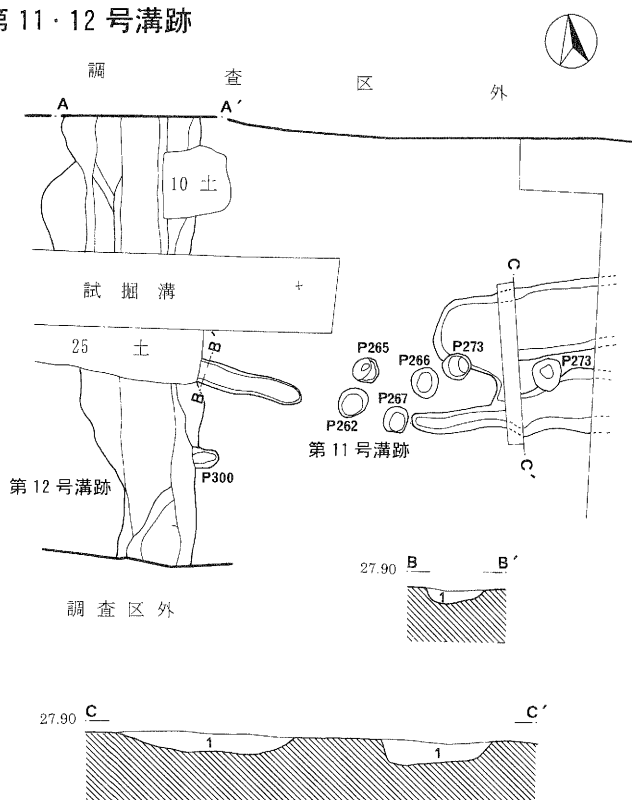
第32図 第7～10号溝跡

第11号溝跡（第33図）

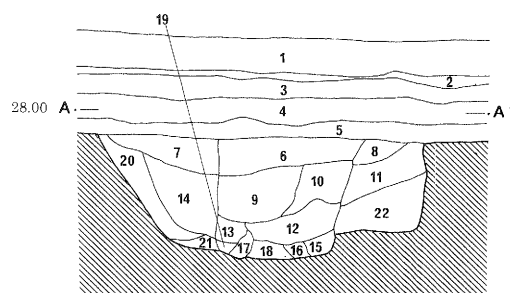
2区I'-15グリッドからJ'-15グリッドに位置する。ほぼ東西方向に走っているが、I'・J'グリッドの境付近で途切れている。西側は第25号土坑と重複しており、25号土坑以西では続きが検出されていないことから、重複箇所ですぐ途切れるものと思われる。東側は西側溝跡の続きの他にさらに北側に幅広の溝跡が派生して同方向に走るが、ともに後世の削平により欠いている。なお、東側は所々をピットと重複関係にあるが、付随するものか不明である。

検出長は東側が1.4m、西側は南を走る溝跡が2.35m、北側の派生した溝跡が2.2mである。幅は0.3m前後が主体となるが、北側の溝跡は1m前後と広い。深さは総じて10cm程である。横断面形状は船底状を

第11・12号溝跡



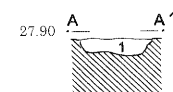
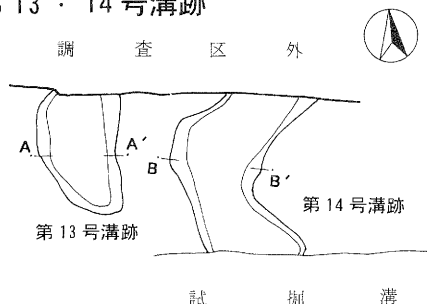
土層説明（BB' CC'）
1 黒褐色土：黒褐色粒含む。



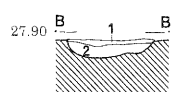
土層説明（AA'）

- 1 盛 土
- 2 耕 作 土：灰色土。鉄分・スコリア含む。
- 3 暗 灰 黄 色 土：スコリア多量、礫・焼土少量含む。
- 4 暗 灰 黄 色 土：スコリア含む。
- 5 黒 褐 色 土：スコリア・焼土・灰色粒含む。
- 6 黒 褐 色 土：スコリア・炭化物・黒褐色粒含む。
- 5層より明るい。
- 7 黒 褐 色 土：スコリア・炭化物・黒褐色粒含む。
- 8 黒 褐 色 土
- 9 暗 灰-ブ 褐色土：砂・黒褐色粒・灰-ブ 褐色粒含む。
- 10 黒 褐 色 土：灰-ブ 褐色粒多量含む。
- 11 黒 褐 色 土：暗 灰-ブ 褐色粒含む。
- 12 黄 灰 色 砂：暗 灰-ブ 褐色粒含む。
- 13 暗 灰-ブ 褐色土：砂・灰-ブ 褐色粒含む。
- 14 黒 褐 色 土：黒褐色粒・灰-ブ 褐色粒含む。
- 15 黒 褐 色 土：黄灰色粒含む。
- 16 暗 灰-ブ 褐色土
- 17 黒 褐 色 土：砂・黄褐色粒含む。
- 18 黒 褐 色 土：暗 灰-ブ 褐色粒含む。
- 19 黒 褐 色 土
- 20 暗 灰-ブ 褐色土：黒褐色粒含む。
- 21 暗 灰-ブ 褐色土：灰-ブ 褐色粒多量含む。
- 22 黒 褐 色 土：暗 灰-ブ 褐色粒含む。

第13・14号溝跡



土層説明（AA' BB'）
第13号溝跡
1 黒褐色土



第14号溝跡
1 黒褐色土：灰-ブ 褐色粒含む。
2 黒褐色土

平面図 0 3m 断面図 0 1m

第33図 第11～14号溝跡

呈する形態が主体となるが、北側の溝跡はやや逆台形状を呈する。

覆土はすべて黒褐色土の単一層で、自然堆積によるものである。

遺物は検出されなかった。

第12号溝跡（第33図）

2区I'-14・15グリッドに位置し、調査区に直交する形でほぼ南北方向に走っている。北端では第10号土坑、中央部では第25号土坑、及び第11号溝跡と重複関係にあり、中央部は試掘溝により欠いている。各遺構間の新旧関係は、本溝跡が第10号溝跡を切っており、第25号土坑に切られている。第11号溝跡とは切り合い関係にあるものの直接的ではないため、新旧関係は不明である。

検出長は6m、幅は調査区内南端が最小で0.95m、試掘溝北で最大2.05m程で一定していない。深さは調査区北端の最深部で67cmを測る。横断面形は南端ではややいびつな逆台形状を呈するが、試掘溝北では東側にテラスを持つ形となる。

覆土はランダムな層位をなしているが、自然堆積であると考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものは須恵器・坏（第46図4～6）のみであった。

第13号溝跡（第33図）

2区B'・C'-13グリッドに位置する。ほぼ南北方向に走っており、北側は調査区外に延びている。調査区北端の境では幅が狭くなってきていることから、土坑になる可能性も考えられる。検出長は1.65m、幅は最大で1.6mを測る。深さは9cmで、横断面形は船底状を呈している。

覆土は混入物を含まない黒褐色土の単一層である。

遺物は検出されなかった。

第14号溝跡（第33図）

2区C'-13・14グリッドに位置する。西に蛇行する形でほぼ南北に走っている。溝の南側は試掘溝により切られているため、長さについては不明である。幅は1m前後、深さは最深部で9cmである。横断面形は船底状を呈する。

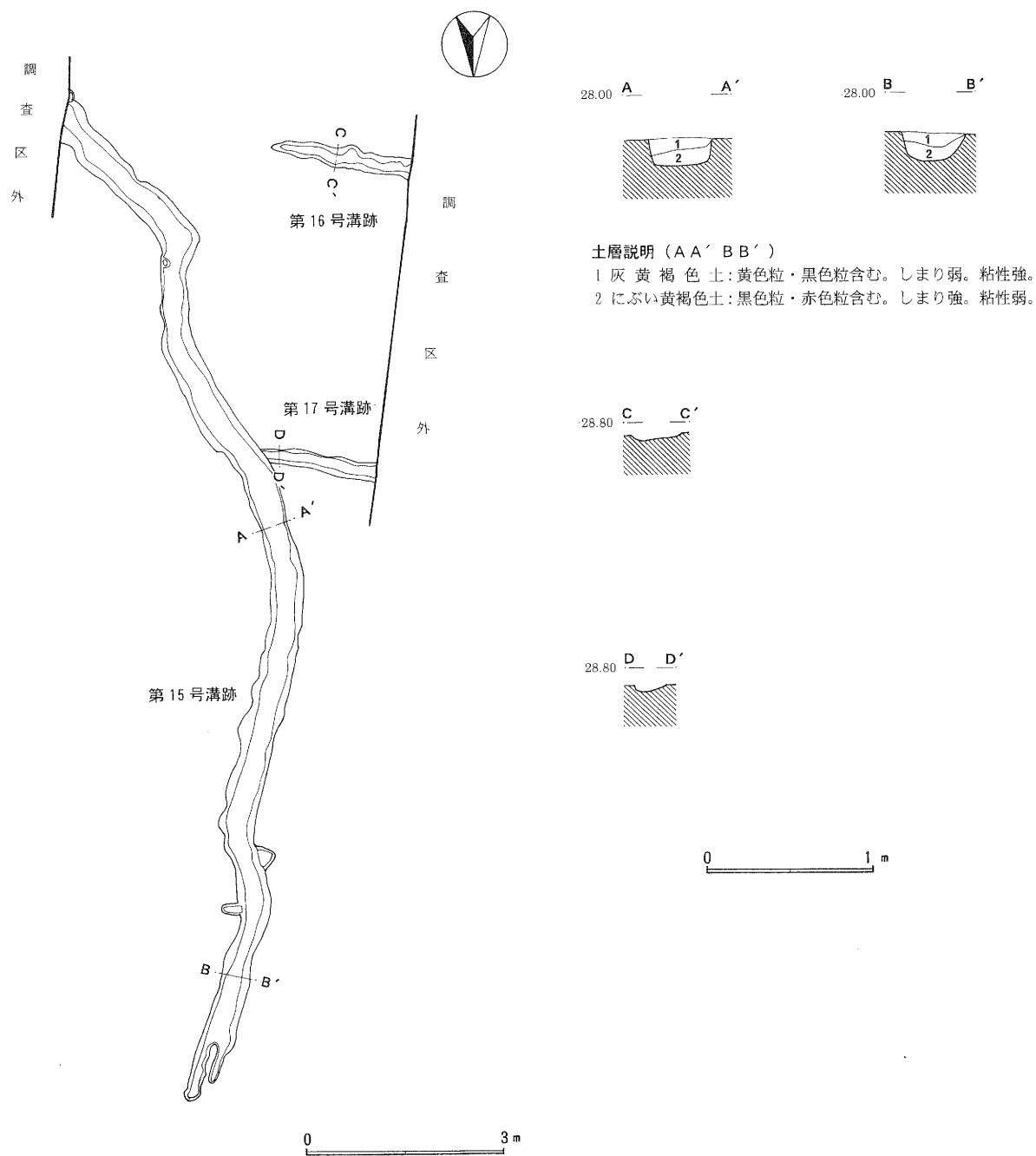
覆土は黒褐色土2層からなる自然堆積層である。

遺物は検出されなかった。

第15号溝跡（第34図）

4区P-3～6グリッドに位置する。南東方向から北西方向へ走っているが、かなり蛇行している。南東方向は調査区外に延びており、北西部はP-3グリッドで途切れる。先端は2つに分かれているが、これは確認面の影響によるものかもしれない。P-5グリッドでは第17号溝跡と接続しているが、新旧関係は不明である。

検出長は16m、幅は0.5m前後を測り、深さは最深部で17cmである。横断面形は逆台形状を呈する。



第34図 第15～17号溝跡

覆土は2層からなる自然堆積層である。
遺物は検出されなかった。

第16号溝跡 (第34図)

4区O・P-6グリッドに位置する。ほぼ東西方向に走っている。西側は調査区外、東側は調査区から東へ2.15mで途切れる。幅は0.3m前後、深さは最深部で5cmと非常に浅い。横断面形は船底状を呈す

る。

遺物が検出されなかったため時期は特定できないが、第17号溝跡と平行し、特徴も似ていることから、同時期の可能性が考えられる。

第17号溝跡（第34図）

4区P-5グリッドに位置する。第16号溝跡の北側を併走し、第15号溝跡に接続している。第15号溝跡との新旧関係は不明である。

検出長は1.6m、幅は0.25m前後、深さは最深部は4cmと非常に浅い。横断面形は船底状を呈する。

遺物が検出されなかったため時期は特定できないが、第16号溝跡と平行し、特徴も似ていることから、同時期の可能性が考えられる。

(3)土 坑

第1号土坑（第35図）

1区B-11グリッドに位置する。遺構東側の一部が調査区外となり、全形は把握できなかった。

規模は南北で0.82m、東西は検出長で0.89mを測り、楕円形に近い形状である。深さは最深部で50cmを測り、断面形は舟底状を呈し、緩やかな傾斜を持って立ち上がっている。

覆土は黒褐色を主体とする層であり、自然堆積か人為的なものかは判断できなかった。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第2号土坑（第35図）

1区B-10グリッドに位置する。遺構東側の一部が調査区外となり、全形は把握できなかった。

規模は南北で1.08m、東西は検出された範囲で1.98mを測り、隅丸の長形状を呈する。深さは10cm前後である。底面は平坦である。

覆土の堆積は人為的な自然か、判断できなかったが、底面直上から炭化物や焼土が少量検出された。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第3号土坑（第35図）

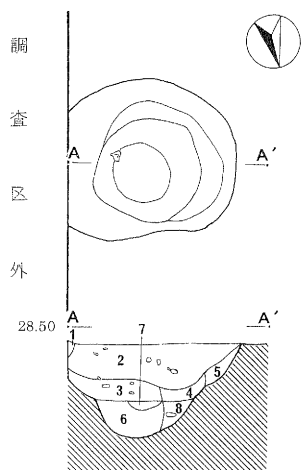
1区B-9・10グリッドに位置する。第4号土坑、ピットと重複しており、第4号土坑を本土坑が切り、ピットに切られている。遺構東側は調査区外にあるため全形は把握できなかったが、おそらく長形状を呈するものと思われる。

規模は南北で1.94m、東西は検出された範囲で最大0.67mを測る。深さは最深部で67cmである。底面はほぼ平坦であるが、北にやや傾いている。

覆土はピットを挟んで南北で異なる様相を呈しており、人為的な埋め戻しによるものと考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

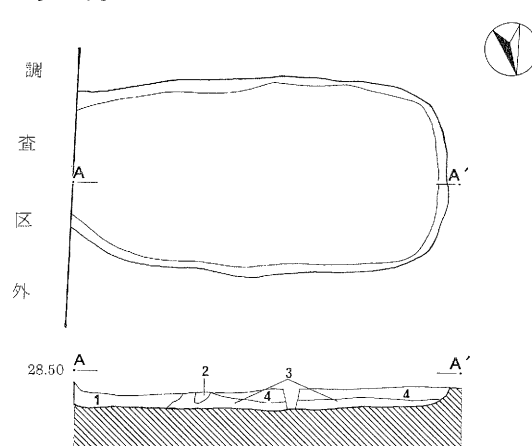
第1号土坑



土層説明 (A-A')

- 1 赤褐色土
- 2 黒褐色土：礫・砂含む。
- 3 黒褐色土：礫・砂多量含む。しまりなし。
- 4 黒褐色土：砂多量含む。
- 5 黒褐色土：黒褐色粒少量含む。
- 6 黒褐色土：砂多量、礫少量含む。
- 7 黒褐色土：砂含む。2～5層より明るい。
- 8 黒褐色土：礫・砂多量含む。

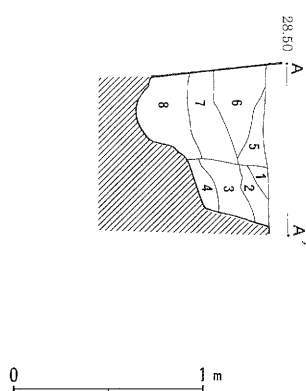
第2号土坑



土層説明 (A-A')

- 1 赤褐色土：赤褐色粒含む。
- 2 赤褐色土
- 3 黒褐色土：赤褐色粒多量、炭化物・焼土少量含む。
- 4 暗赤褐色土：赤褐色粒・黒褐色粒含む。

第3・4号土坑

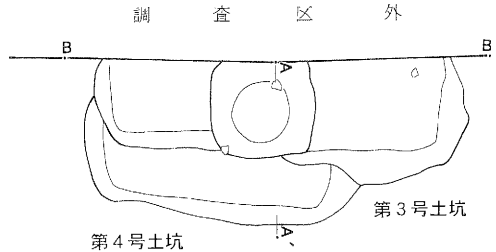


土層説明 (A-A' B-B')

- 1 表土
- 2 耕作土：暗灰色土。鉄分含む。
- 3 耕作土：暗灰色土。鉄分含む。2層より明るい。
- 4 灰色土：鉄分多量含む。
- 5 灰色土：鉄分多量、スコリア少量含む。

3号土坑

- 6 黄灰色土：炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 7 暗灰色土：焼土・灰色粒含む。
- 8 暗赤褐色土：礫・炭化物・焼土・赤褐色粒含む。
- 9 黒褐色土：赤褐色粒含む。
- 10 黒褐色土：焼土・赤褐色粒含む。
- 11 暗赤褐色土：焼土含む。



4号土坑

4号土坑

- 12 黄灰色土：焼土・灰色粒・赤褐色粒含む。
- 13 暗赤褐色土：焼土・赤褐色粒含む。
- 14 黒褐色土：炭化物・焼土・赤褐色粒含む。
- 15 暗赤褐色土：焼土・黒色粒・ブロック・赤褐色粒含む。
- 16 黒褐色土：炭化物・焼土・赤褐色粒含む。
- 17 黄灰色土：焼土・灰色粒・赤褐色粒含む。
- 18 暗赤褐色土：灰色粒・赤褐色粒含む。
- 19 黒褐色土：炭化物・焼土・赤褐色粒含む。
- 20 暗赤褐色土：焼土・赤褐色粒含む。
- 21 黒褐色土：礫・赤褐色粒含む。
- 22 黒褐色土：黒褐色粒・赤褐色粒含む。

第35図 第1～4号土坑

第4号土坑（第35図）

1区B-9・10グリッドに位置する。第3号土坑、ピットと重複しており、これらの中で最も古い。全形、及び規模は知りえないが、平面プランはおそらく隅丸の長方形形状になると思われる。深さは最深部で42cmであり、底面は中央部が窪んでいる。

覆土は炭化物や焼土を含んでおり、人為的な埋め戻しによるものと考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第5号土坑（第36図）

1区B-8グリッドに位置する。

規模は南北1.23m、東西1.15mで、L字状を呈しており、北側はピットに切られている。底面は概ね平坦である。

覆土は礫、炭化物、焼土等を含み、ランダムな層位をなしていることから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第6号土坑（第36図）

1区A-14グリッドに位置する。大半が調査区外にあるため、詳細は不明である。規模は検出された範囲では南北2.91m、東西は最大0.52mを測る。平面プランは隅丸の長方形、ないし楕円形状になろうか。

深さは確認面から20cm前後であり、底面はやや凹凸がみられるが、概ね平坦である。また、底面両端にはピット状の掘り込みがみられた。本土坑に付随するものかどうかは不明である。

覆土は炭化物、焼土等を含み、複雑な層位をなしていることから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第7号土坑（第36図）

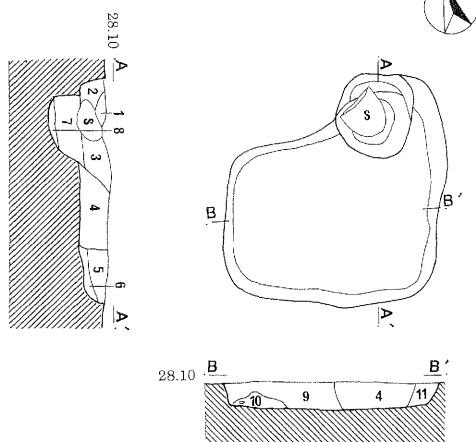
1区C-6グリッドに位置する。第8・9号土坑と重複関係にあり、第9号土坑とは直接切り合っていないが、本土坑が第8号土坑を切っていることから、9・8・7の順で新しい。いずれの土坑も軸がほぼ同じであることから、それほど時期差はないものと考えられる。

規模は南北1.46m、東西1.90mの隅丸の長方形形状を呈する。底面はやや凹凸がみられ、中心部に向けて窪んでいる。深さは最深部で22cmを測る。また、底面にはピットがいくつかみられ、本土坑が切られているものと伴うものの2者がみられる。

覆土は入り組んだ様相を呈することから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

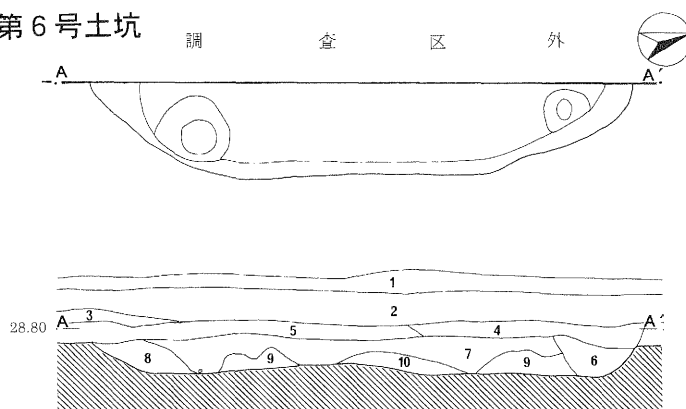
第5号土坑



土層説明 (A A' B B')

- 1 暗灰黄色土
- 2 黄灰色土:炭化物・刈-ブ褐色粒含む。
- 3 黒褐色土:刈-ブ褐色粒多量含む。
- 4 黒褐色土:焼土・刈-ブ褐色粒含む。
- 5 黒褐色土:刈-ブ褐色粒多量含む。
- 6 黒褐色土:黒褐色粒・刈-ブ褐色粒含む。
- 7 黒褐色土:刈-ブ褐色粒含む。
- 8 黒褐色土:砂礫含む。
- 9 黒褐色土:焼土・刈-ブ褐色粒含む。
- 10 黒褐色土:礫・黒色粒・刈-ブ褐色粒含む。
- 11 刈-ブ褐色土:黒色粒・刈-ブ褐色粒含む。

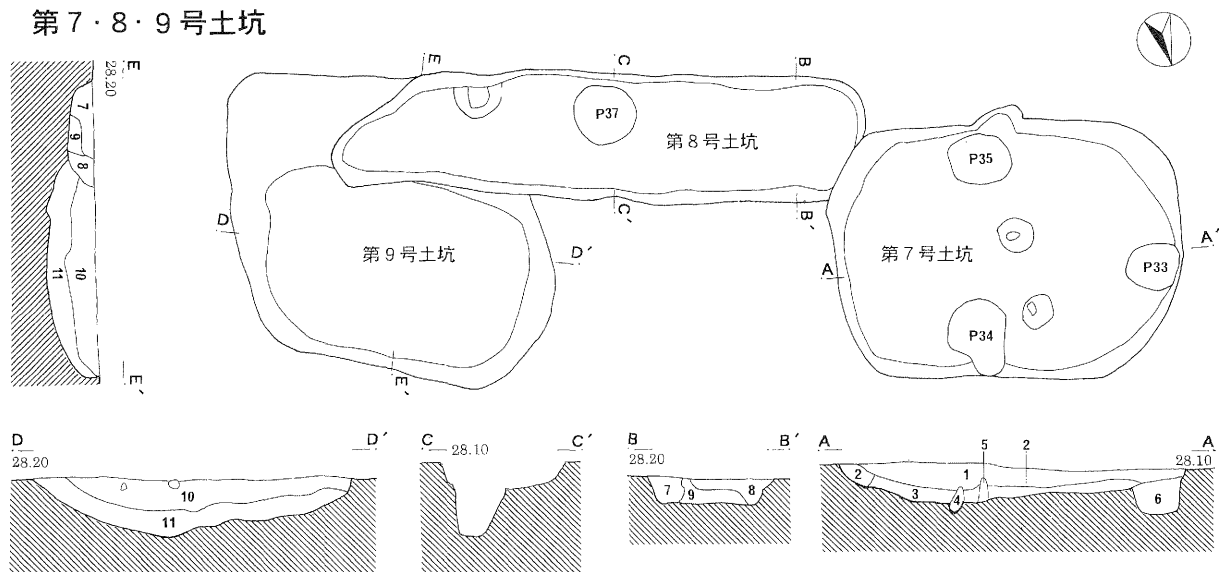
第6号土坑



土層説明 (A A')

- 1 耕作土
- 2 耕作土:暗灰色土。鉄分・礫含む。
- 3 耕作土:暗灰色土。鉄分多量含む。
- 4 耕作土:灰色土。鉄分含む。
- 5 耕作土:灰色土。鉄分多量、炭化物・焼土少量含む。
- 6 黄灰色土:炭化物・焼土・黒褐色粒含む。
- 7 暗灰黄色土:炭化物・灰色粒含む。
- 8 暗灰黄色土:スコリア・黒褐色粒・ブロック含む。
- 9 黒褐色土:黒褐色粒含む。
- 10 黒褐色土:焼土・黒褐色粒・ブロック含む。

第7・8・9号土坑



土層説明 (A A' B B' C C' D D' E E')

7号土坑

- 1 黒褐色土:鉄分・炭化物・焼土・灰色粒・刈-ブ褐色粒含む。
- 2 刈-ブ褐色土:鉄分・黄灰色粒含む。
- 3 黒褐色土:炭化物・焼土・灰刈-ブ色粒含む。
- 4 灰色土ブロック
- 5 灰刈-ブ色土:黒褐色粒含む。
- 6 黄灰色土:灰刈-ブ色粒・ブロック含む。

8号土坑

- 7 黒褐色土:焼土・刈-ブ褐色粒・ブロック含む。
 - 8 黒褐色土:炭化物・焼土・刈-ブ褐色粒・ブロック含む。
 - 9 刈-ブ褐色土:炭化物・焼土・灰色粒・黒褐色粒・ブロック含む。
- #### 9号土坑
- 10 灰色土:鉄分・礫・炭化物・焼土・灰刈-ブ色粒含む。
 - 11 黒褐色土:鉄分・灰刈-ブ色粒含む。

0 1m

第36図 第5～9号土坑

第8号土坑（第36図）

1区C・D-6グリッドに位置する。第7・9号土坑と重複しており、第7号土坑より古く、第9号土坑より新しい。規模は長径2.85m、短径0.7mで、東側がややくずれるが隅丸の長方形状を呈する。深さは最深部で14cmを測り、底面はほぼ平坦である。また、底面からはピットが2つ検出されたが、伴うものかどうかは不明である。

覆土は入り組んだ様相を呈することから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第9号土坑（第36図）

1区C・D-6グリッドに位置する。第7～9号土坑中、最も古い。

規模は東西1.74m、南北は残存箇所1.56mを測る。底面は船底状を呈し、南側は他よりさらに立ち上がりが緩やかである。深さは最深部で32cmを測る。

覆土はレンズ状に堆積していることから、自然堆積によるものである。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第10号土坑（第37図）

1区C-5・6グリッドに位置する。遺構北側が調査区外となり、全形は把握できなかった。

規模は東西で0.94m、南北は検出された範囲で0.82mを測り、方形を呈すると思われる。深さは23cm前後で、底面は平坦である。

覆土は人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物はかわらけを主体に若干検出されたが、図示可能なものは2点（第46図7・8）のみである。

第11号土坑（第36図）

1区E-6グリッドに位置する。

規模は長径2.37m、短径0.55mの隅丸の方形を呈している。元々は長方形の形を意識して作られたと思われる。深さは18cm前後であった。底面はほぼ平坦であった。

覆土は黒褐色土の単一層であるが、人為的な埋め戻しか自然による堆積かは判断しかねる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

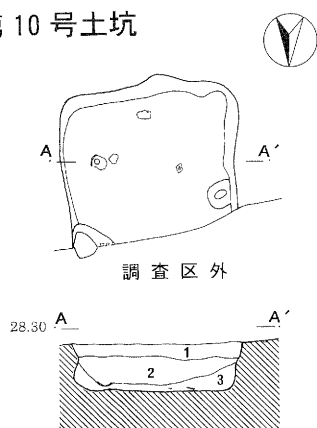
第12号土坑（第37図）

1区G-6グリッドに位置する。北西部は調査区外にある。

規模は東西方向で最大幅1.16m、南北方向は確認可能な最大長で1.54mを測り、著しい不整な形状を成している。深さは最深部で30cmを測る。二つの土坑が重複して確認された可能性もある。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

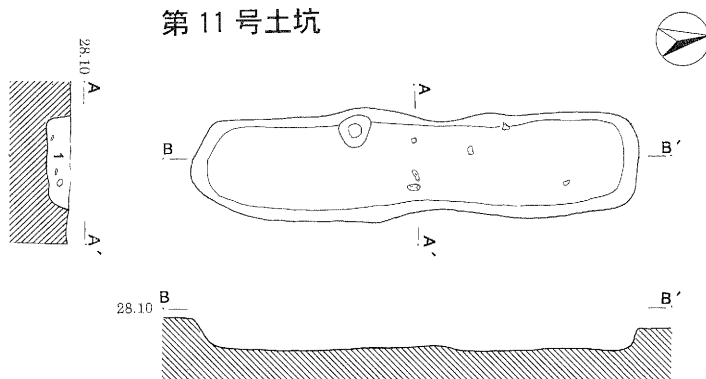
第10号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黄灰色土:鉄分・炭化物・焼土・暗灰色粒含む。
- 2 黄灰色土:鉄分・炭化物・焼土含む。1層より暗い。
- 3 黒褐色土:鉄分・炭化物・焼土含む。

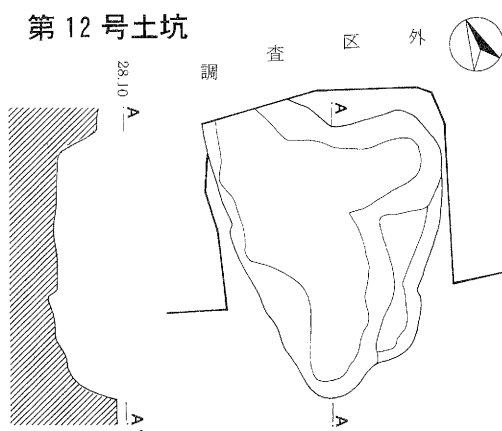
第11号土坑



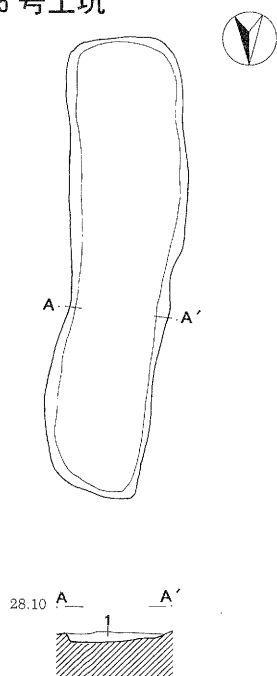
土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土:鉄分・灰色粒・オリーブ褐色粒含む。

第12号土坑



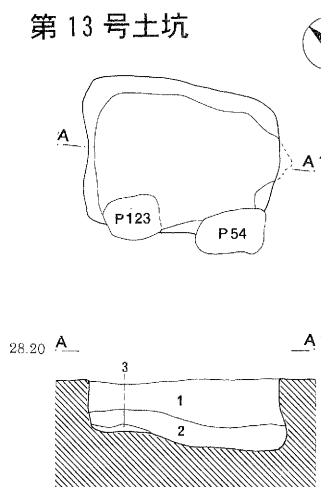
第15号土坑



土層説明 (A A')

- 1 暗灰黄色土:黒褐色粒含む。

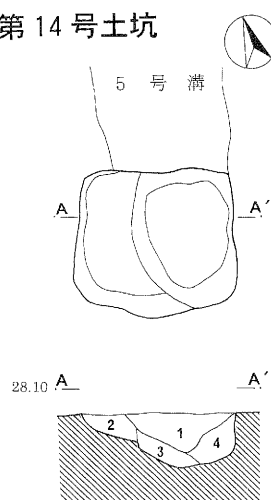
第13号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土:炭化物・焼土・灰色粒微量含む。
- 2 黒褐色土:灰色粒微量含む。1層より明るい。
- 3 暗灰黄色土:灰色粒多量含む。

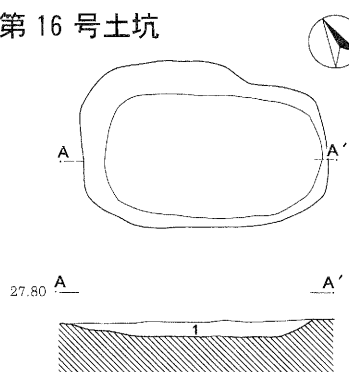
第14号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黄灰色土:鉄分含む。(5号溝覆土)
- 2 暗灰黄色土:鉄分・灰色粒含む。
- 3 灰色土:鉄分・灰利ブ色粒含む。
- 4 灰利ブ色土:鉄分・黄灰色粒・ブロック含む。

第16号土坑



土層説明 (A A')

- 1 オリーブ褐色土:黒褐色粒・ブロック含む。

0 1 m

第37図 第10~16号土坑

第13号土坑（第37図）

1区G－7グリッドに位置する。北側をピットにより切られている。

規模は長径1.02m、短径0.79mの方形を呈する。深さは最深部で38cmを測り、底面は東寄りが一段高くなっている。

覆土は黒褐色土を主体とする3層からなっているが、人為的な埋め戻しかどうかは判断しかねる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第14号土坑（第37図）

1区K－7・8グリッドに位置する。第5号溝跡と重複しており、本土坑が切られている。

規模は長径0.81m、短径0.78mの方形で、深さは最深部で29cmを測る。底面は西側から東に向かって傾斜する形状となっている。

覆土は人為的な埋め戻しかどうか判断しかねる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第15号土坑（第37図）

1区L－7・8グリッドに位置する。

規模は長径2.48m、短径0.64mの隅丸の長方形を呈する。深さは5cmほどと極めて浅い。

覆土は人為的な埋め戻しかどうか判断しかねる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第16号土坑（第37図）

1区P－12グリッドに位置する。

規模は長径1.31m、短径0.91mを測り、平面プランは北東部分がくぼむが、ほぼ隅丸長方形といえる。底面はほぼ平坦であるが、立ち上がりは緩やかである。深さは最深部で9cmを測る。

覆土はオリーブ褐色土による単一層。自然堆積か人為的なものかは判断しかねる。

遺物は検出されなかった。

第17号土坑（第38図）

1区M・N－7・8グリッドに位置する。

規模は長径1.31m、短径0.88mを測り、方形状を呈する。深さは10cm前後と浅い。底面はやや起伏のある形状を呈する舟底状となっている。

覆土はオリーブ褐色土による単一層であるが、自然堆積か人為的なものかは判断しかねる。

遺物は検出されなかった。

第18号土坑（第37図）

2区B'－14グリッドに位置する。第19号土坑を切っている。

確認段階では第18号土坑の平面プランを確認できず、断面図作成時に重複関係が判明したため、正確な平面形は把握できなかった。推定では径0.94 m前後の円形か方形と推測される。深さは27 cm前後で、ほぼ平坦な底面である。壁の立ち上がりは急である。

覆土は3層からなるが、自然堆積か人為的なものかは判断しかねる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第19号土坑（第38図）

2区B'・C'-14グリッドに位置する。第18号土坑に切られている。

規模は長径1.16m、短径0.98mの不整楕円を呈する形であるが、本来は方形を意識して作られたと思われる。深さは52cmで、底面は舟底状の形態をなしている。壁の立ち上がりは急な立ち上りを呈している。

覆土は黒褐色土による単一層で、混入物を含む。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第20号土坑（第38図）

2区C'・D'-13・14グリッドに位置する。

規模は長径1.12 m、短径1.1 mの隅丸の楕円形を呈するが、本来は方形を意識して作ったものと思われる。深さは最深部で0.78 mを測り、底面はほぼ平坦であるが、西壁よりが崩れたように盛り上がっている。

覆土は人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第21号土坑（第38図）

2区D'-13グリッドに位置する。北側は調査区外となり、全形は把握できなかった。

規模は東西方向で0.74 m、南北方向は検出された範囲で0.75 mを測り、長方形に近い形と推測される。深さは最深部で43cmを測り、底面は西側にやや傾く。壁の立ち上がりは急で、ほぼ垂直に近い。

覆土は混入物を含む黒褐色土2層からなるが、自然堆積か人為的なものかは判断しかねる。

遺物は検出されなかった。

第22号土坑（第38図）

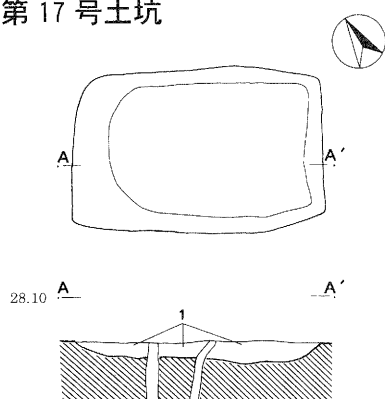
2区H'-15グリッドに位置する。

規模は長径3.33m、短径0.61mの東西に長い溝状を呈する。深さは最深部で15 cmを測り、横断面形は舟底状を呈している。

覆土は混入物を含む黒褐色土2層からなるが、自然堆積か人為的なものかは判断しかねる。

遺物は検出されなかった。

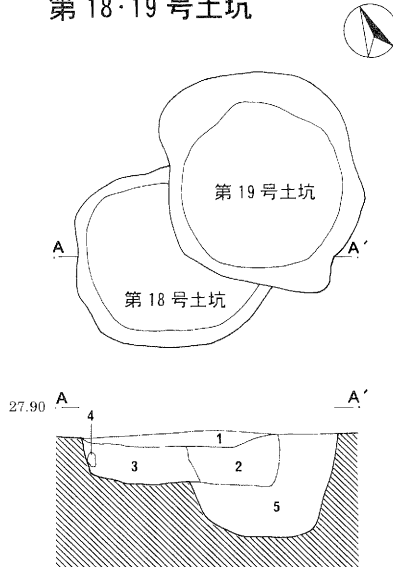
第 17 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 オリーブ褐色土: 黒褐色粒含む。

第 18・19 号土坑

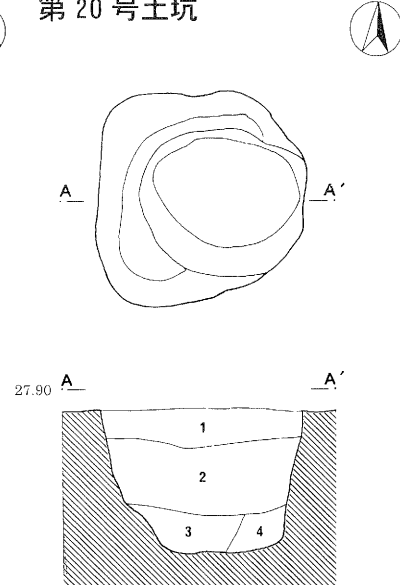


4 オリーブ褐色土ブロック

19号土坑

- 1 オリーブ褐色土: スコリア・焼土含む。
- 2 黒褐色土: 炭化物・焼土・オリーブ褐色粒含む。
- 3 黒褐色土: 黒褐色粒含む。
- 4 オリーブ褐色土ブロック
- 5 黒褐色土: 炭化物・焼土・オリーブ褐色粒含む。

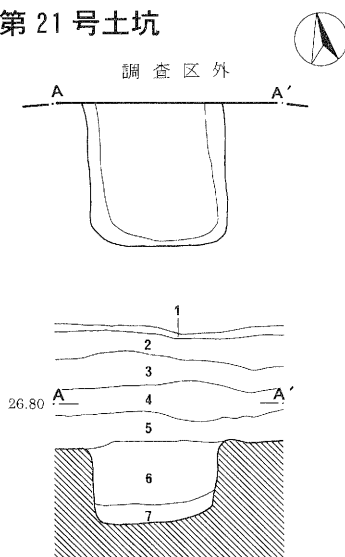
第 20 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 暗オリーブ褐色土: スコリア・炭化物・焼土・オリーブ褐色粒微量含む。
- 2 黒褐色土: オリーブ褐色粒少量、炭化物・焼土・黒褐色粒微量含む。
- 3 暗灰黄色土: 黒褐色粒・ブロック少量、炭化物微量含む。
- 4 黒褐色土: オリーブ褐色粒少量、炭化物・焼土・黒褐色粒含む。

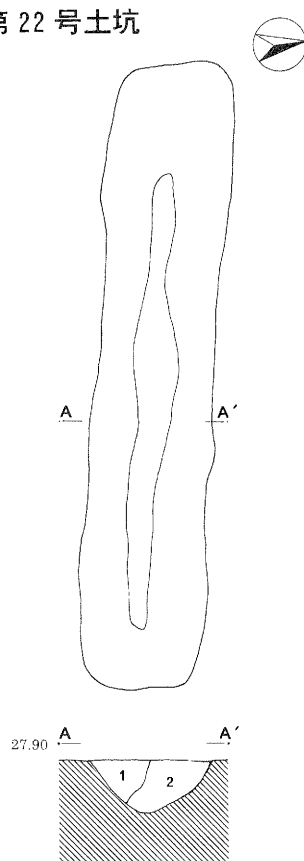
第 21 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 盛土
- 2 暗灰黄色土: スコリア・黒褐色粒・ブロック含む。
- 3 暗灰黄色土: スコリア少量、炭化物・焼土・黒褐色粒微量含む。
- 4 暗灰黄色土: スコリア少量、礫・焼土微量含む。
- 5 黒褐色土: 礫・焼土微量含む。
- 6 黒褐色土: 黒褐色粒・ブロック少量、焼土微量含む。
- 7 黒褐色土: 黒褐色粒含む。

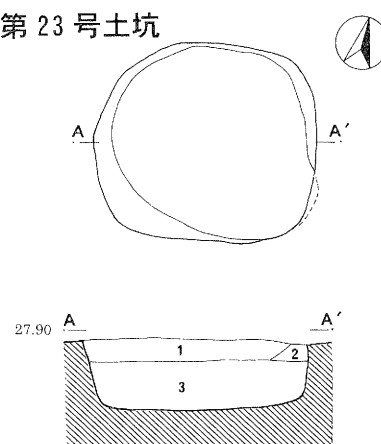
第 22 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土: 焼土・黒褐色粒含む。
- 2 黒褐色土: 焼土・黒褐色粒・オリーブ褐色粒含む。

第 23 号土坑

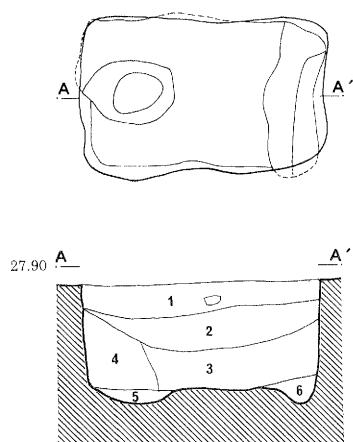


土層説明 (A A')

- 1 暗オリーブ褐色土: スコリア・炭化物・焼土・オリーブ褐色粒微量含む。
- 2 黒褐色土: 2層より明るい。
- 3 黒褐色土: 礫・炭化物・焼土・オリーブ褐色粒微量含む。

第38図 第17～23号土坑

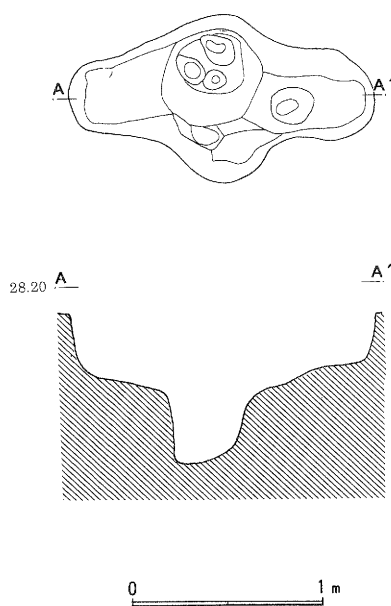
第 24 号土坑



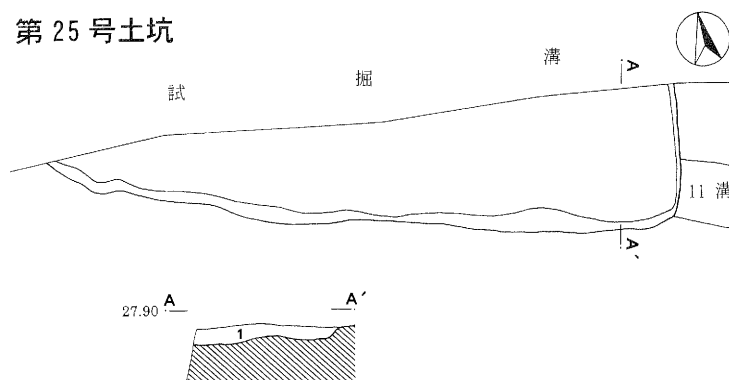
土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土: 礫・スコリア・炭化物・焼土・黒褐色粒含む。
- 2 黒褐色土: 礫・炭化物・焼土・黒褐色粒・利-ブ 褐色粒含む。
- 3 黒褐色土: 黒褐色粒・利-ブ 褐色粒含む。
- 4 黒褐色土: 炭化物・焼土・黒褐色粒含む。
- 5 黒褐色土: 黒褐色粒含む。
- 6 黒褐色土

第 26 号土坑



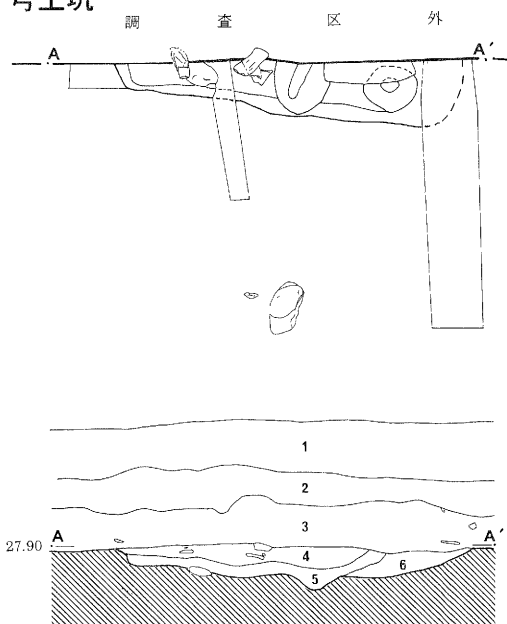
第 25 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土: 黒褐色粒含む。

第 27 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 盛 土
- 2 耕 作 土: 灰色土。スコリア・炭化物・黄灰色粒含む。
- 3 黒 褐 色 土: スコリア・礫・炭化物・焼土含む。
- 4 利-ブ 褐色土: 焼土多量、礫・炭化物少量含む。
- 5 黒 褐 色 土: 焼土多量、炭化物・利-ブ 褐色粒少量含む。
- 6 黒 褐 色 土: 炭化物・焼土・利-ブ 褐色粒含む。

第39図 第24～27号土坑

第23号土坑（第38図）

2区H'-14グリッドに位置する。第1号石組遺構の南を切っている。

規模は長径1.18m、短径1.04mを測り、不整楕円形であるが、本来は方形を意識して作られたものと推測される。

深さは35cm前後で、底面はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは急でほぼ垂直に近い形状である。

覆土は人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第24号土坑（第39図）

2区I'-14グリッドに位置する。

規模は長径1.31m、短径0.91mを測り、長方形状を呈する。底面は概ね平坦で深さは55cm前後であるが、西側にはピット状、東側には溝状の掘り込みがみられる。立ち上がりはほぼ垂直、ないしややオーバーハングする箇所がみられる。

覆土は混入物を含む黒褐色土を主体とする。自然堆積か人為的なものは判断しかねる。

遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第25号土坑（第39図）

2区I'-14・15グリッドに位置する。第11・12号溝跡と重複関係にあり、両溝跡を切っている。また、北側大半を試掘溝により欠いているため、規模は不明である。平面プランについては長方形になるものと思われる。深さは最深部で10cm、底面はやや凹凸がみられるが、概ね平坦である。

覆土は黒褐色土を主体とするが、自然堆積か人為的なものは判断しかねる。

遺物は検出されなかった。

第26号土坑（第39図）

1区B-6グリッドに位置する。新旧関係は不明であるが、本土坑中央にはピットがみられ、膨らんだ状態となっている。規模は長径1.63m、短径0.50m前後で中央のピットを除くと隅丸の長方形状になると思われる。深さは最深部で40cm程、底面は概ね平坦であるが、西側が一段高くなっている。

覆土は記録できなかった。

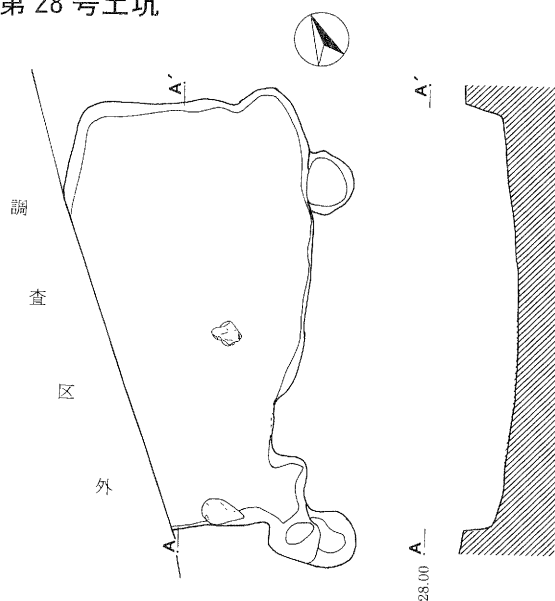
遺物は土器の小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第27号土坑（第39図）

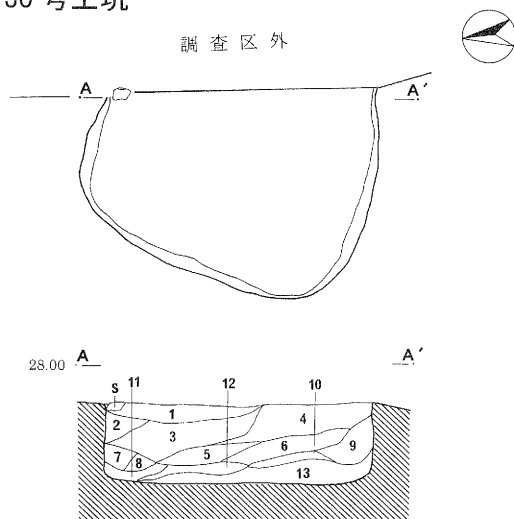
2区G'-14グリッドに位置する。大半が調査区外にある。規模は確認された範囲では東西方向で1.85m、南北で0.33mを測る。平面プランは長方形になるうか。深さは最深部で22cmである。底面は船底状を呈し、凹凸がみられる。またピット状の掘り込みが2箇所みられるが、付随するものかどうかは不明である。

覆土はレンズ状を呈する自然堆積層である。

第 28 号土坑



第 30 号土坑

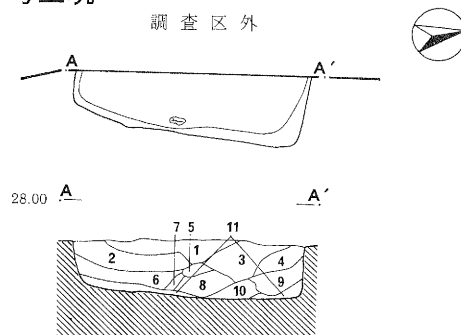


土層説明 (A A')

- 1 褐灰色土: しまりやや有。粘性有。
- 2 褐灰色土: 黄白色粒含む。しまりやや有。粘性有。
- 3 褐灰色土: 黄色粒含む。しまりやや有。粘性有。
- 4 褐灰色土: 炭化物・黄色粒含む。しまりやや有。粘性有。
- 5 褐灰色土: 黄白色粒・暗褐色土含む。しまり強。粘性有。
- 6 褐灰色土: 黄白色粒含む。しまり強。粘性有。
- 7 黄灰色土: 炭化物・黄白色粒含む。しまり強。粘性有。
- 8 黄灰色土: 黄白色粒含む。しまり強。粘性有。
- 9 暗灰黄色土: 黄白色粒含む。しまりやや有。粘性有。
- 10 黒褐色土: 黄白色粒含む。しまり強。粘性有。
- 11 灰利-ブ色土: 暗褐色土含む。しまり強。粘性やや有。
- 12 灰黄褐色土: 暗褐色土含む。しまり強。粘性やや有。
- 13 黒褐色土: 炭化物含む。しまり強。粘性やや有。

0 1 m

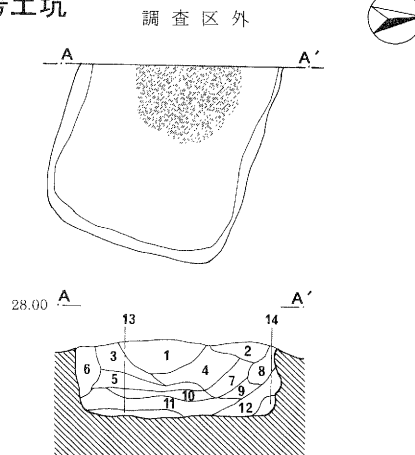
第 29 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黄灰色土: しまり・粘性やや有。
- 2 灰利-ブ色土: 炭化物・暗褐色粒少量含む。しまり・粘性やや有。
- 3 灰色土: 暗褐色粒・黄白色粒少量含む。しまり・粘性やや有。
- 4 暗灰黄色土: 暗褐色粒・黄白色粒少量含む。しまり・粘性やや有。
- 5 灰利-ブ色土: しまり・粘性やや有。
- 6 灰黄褐色土: 炭化物・暗褐色粒・黄灰色粒含む。しまり・粘性やや有。
- 7 褐灰色土: 炭化物含む。しまり強。粘性やや有。
- 8 灰黄褐色土: 炭化物含む。しまり強。粘性やや有。
- 9 灰色土: 炭化物含む。しまり・粘性強。
- 10 灰黄褐色土: 炭化物含む。しまり強。粘性やや有。
- 11 黄灰色土: 炭化物含む。しまり・粘性強。

第 31 号土坑



土層説明 (A A')

- 1 黄灰色土: 炭化物・黄色粒含む。しまり有。粘性やや有。
- 2 灰色土: 黄色粒含む。しまり・粘性有。
- 3 灰色土: 炭化物・黄色粒含む。しまり・粘性有。
- 4 褐灰色土: 黄色粒含む。しまり・粘性有。
- 5 褐灰色土: 焼土・黄色粒含む。しまり・粘性やや有。
- 6 暗利-ブ色土: 黄白色土含む。しまり・粘性やや有。
- 7 褐灰色土: 炭化物・黄色粒含む。しまり有。粘性やや有。
- 8 褐灰色土: 黄白色粒含む。しまり・粘性やや有。
- 9 褐灰色土: 黄色粒含む。しまりやや有。粘性強。
- 10 褐灰色土: 焼土含む。しまりやや有。粘性強。
- 11 褐灰色土: 炭化物・焼土・黄白色粒含む。しまり・粘性強。
- 12 褐灰色土: 炭化物・黄色粒含む。しまり・粘性やや有。
- 13 褐灰色土: 焼土多量含む。しまり・粘性強。
- 14 黄灰色土: 炭化物少量含む。しまり・粘性強。

第40図 第28～31号土坑

遺物は礫がいくつか検出されたのみである。

第28号土坑（第40図）

3区B-1・2グリッドに位置する。南西部が調査区外にある。規模は南北方向で2.28 m、確認された範囲での東西は1.27 mあり、平面プランは長形状を呈すると思われる。また、ピットにより一部切られている。底面は中央部がやや深くなり、最深部で28 cmを測る。立ち上がりは垂直ないし、急である。

覆土は記録できなかった。

遺物はかわらけが一点（第46図9）検出されたのみである。

第29号土坑（第40図）

3区B-2・3グリッドに位置する。西側大半が調査区外にある。規模は確認された範囲での南北方向が1.24 m、東西が0.37 mを測る。平面プランは正方形、ないし長方形になるものと思われる。深さは最深部で32 cmを測り、底面はほぼ平坦である。立ち上がりはほぼ垂直である。

覆土は複雑な層位をなしており、人為的な埋め戻しによるものと思われる。

遺物はかわらけの小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第30号土坑（第40図）

3区B・C-2グリッドに位置する。東側が調査区外にある。規模は南北方向が1.55 m、確認された範囲での東西が1.24 mである。平面プランは正方形、ないし長方形になろうか。深さは最深部で43 cm、底面は平坦で立ち上がりは垂直である。

覆土は複雑な層位をなしており、人為的な埋め戻しによるものと思われる。

遺物はかわらけの小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第31号土坑（第40図）

3区B-3グリッドに位置する。西側が調査区外にある。規模は南北方向が1.05 m、確認された範囲での東西は1.13 mである。平面プランは長方形になろうか。深さは最深部で43 cm、立ち上がりはほぼ垂直である。

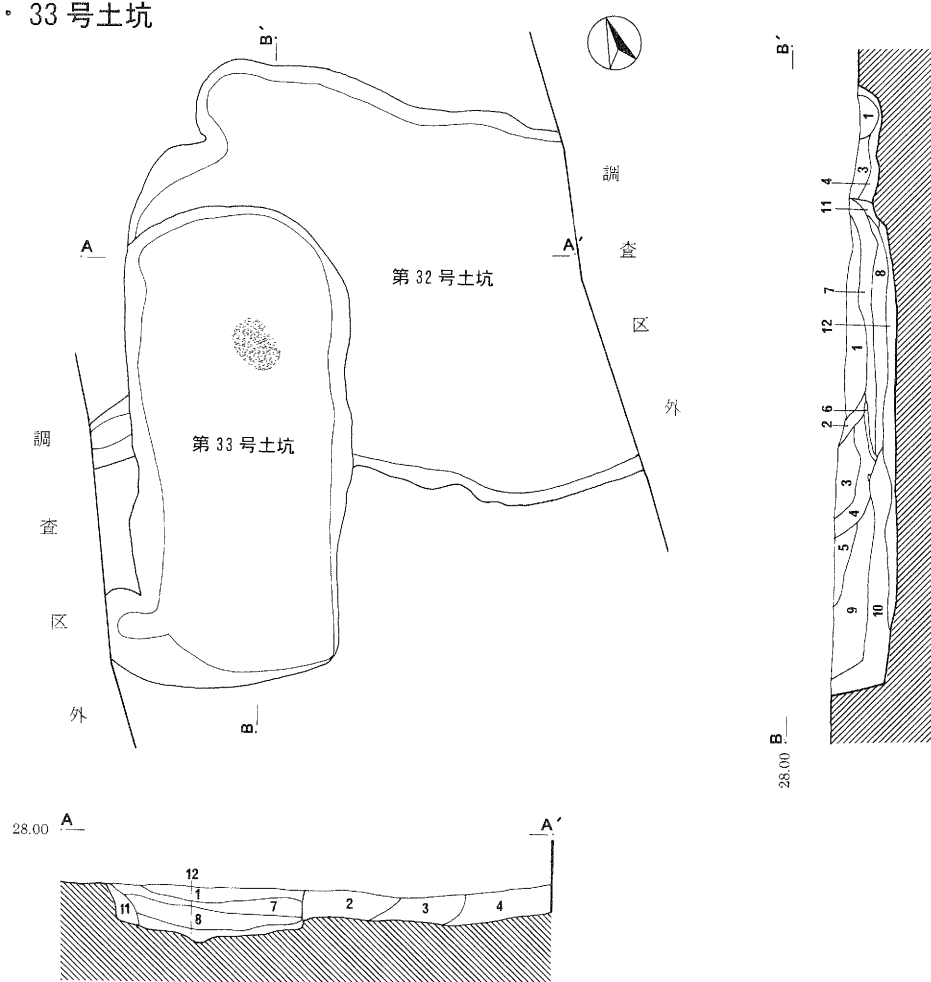
覆土は複雑な層位をなしており、人為的な埋め戻しによるものと思われる。調査区境の底面からは焼土がまとまって検出された。

遺物はかわらけの小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第32号土坑（第41図）

3区B-4グリッドに位置する。第34号土坑と重複関係にあり、本土坑が切られている。東側は調査区外に延びている。規模は、南北方向で2.05 m、確認された範囲での東西は2.45 mである。深さは14 cmで、底面は凹凸がみられる。立ち上がりは緩やかである。

第 32 ・ 33 号土坑



土層説明 (A A' B B')

第 32 号土坑

- 1 褐灰色土:鉄分・炭化物・黄色粒含む。しまり強。粘性有。
- 2 褐灰色土:鉄分・炭化物含む。しまり強。粘性有。
- 3 褐灰色土:黄色粒少量含む。しまりやや有。粘性有。
- 4 褐灰色土:黄色粒微量含む。しまりやや有。粘性有。

第 33 号土坑

- 1 褐灰色土:鉄分・炭化物・黄色粒含む。しまり強。粘性有。
- 2 褐灰色土:炭化物含む。しまりやや有。粘性有。
- 3 褐灰色土:黄色粒少量含む。しまりやや有。粘性有。
- 4 褐灰色土:黄色粒微量含む。しまりやや有。粘性有。
- 5 褐灰色土:黄色粒少量含む。しまりやや有。粘性有。
- 6 褐灰色土:黄色粒少量含む。しまりやや有。粘性有。
- 7 褐灰色土:鉄分・炭化物含む。しまり強。粘性有。
- 8 黄灰色土:黄色粒含む。しまりやや有。粘性強。
- 9 暗灰黄色土:黄色粒含む。しまり・粘性強。
- 10 暗灰黄色土:炭化物含む。しまり・粘性強。
- 11 灰褐色土:黄色粒・褐灰色土含む。しまりやや有。粘性強。
- 12 暗灰黄色土:炭化物・黄色粒含む。しまり・粘性強。

0 1 m

第41図 第32・33号土坑

覆土はランダムな層位をなしており、人為的な埋め戻しによるものと思われる。
遺物はかわらけの小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

第33号土坑（第41図）

3区B-4グリッドに位置する。第32号土坑と重複関係にあり、本土坑が切られている。東側は調査区外に延びている。規模は、南北方向で2.05m、確認された範囲での東西は2.45mである。深さは14cmで、底面は凹凸がみられる。立ち上がりは緩やかである。

覆土は複雑な層位をなしており、人為的な埋め戻しによるものと思われる。北側底面からは焼土がややまとまって検出された。

遺物はかわらけの小破片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。

（4）土壌墓

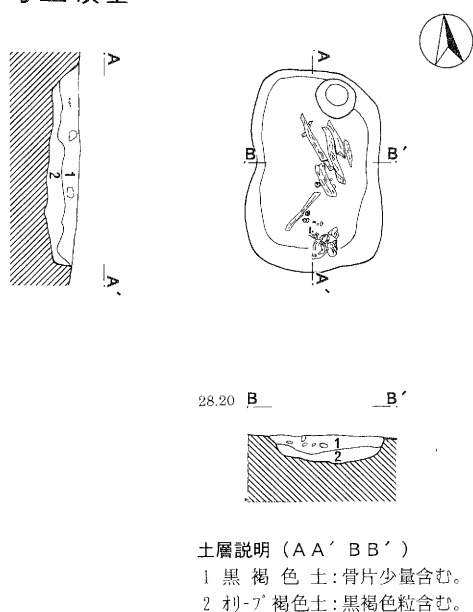
第1号土壌墓（第42図）

1区B-9グリッドに位置する。規模は南北方向で1.08m、東西で0.73mを測り、平面プランは長方形である。深さは最深部で13cm、底面はやや凹凸がみられ、北側にはピット状の掘り込みがみられる。立ち上がりは急な箇所とやや斜めの箇所がみられる。底面中央からは骨片がまとまって検出された。

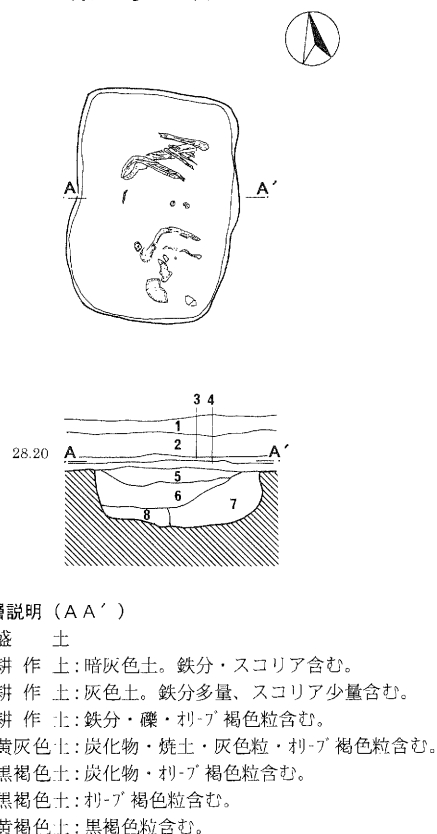
覆土は2層からなるが水平に堆積しており、人為的な埋め戻しによるものである。

遺物は古銭（第46図11～18）が5枚検出されたのみである。

第1号土壌墓



第2号土壌墓



第42図 第1・2号土壌墓

第2号土墳墓（第42図）

1区C・D-6グリッドに位置する。規模は南北方向で1.25m、東西で0.88mを測り、平面プランは長方形である。深さは最深部で32cm、底面はやや凹凸がみられるが、概ね平坦である。立ち上がりはほぼ垂直、ないし急な傾斜である。底面からは東向きに屈葬された人骨片が検出された。

覆土は入り組んだ層位をなし、人為的な埋め戻しによるものである。

遺物は古銭（第46図16～18）が3枚検出されたのみである。

（5）火葬跡

第1号火葬跡（第43図）

1区B・C-8グリッドに位置する。規模は長径0.92m、短径0.50mの長方形で、深さは最深部で16cmを測る。南壁沿い、及び東壁沿い中央にはピット状の掘り込みがみられる。自然石は検出されず、骨片が東側から検出された。東壁の中央付近からはやや緩やかな傾斜をもって立ち上がる溝が付随しており、規模は幅35cm、長さは62cmである。壁沿いは非常に焼けており、赤褐色を呈していた。

覆土は複雑な層位をなしており、炭化物、焼土、骨片を含む。

遺物は検出されなかった。

第2号火葬跡（第43図）

2区A'-13グリッドに位置し、南西には第3号火葬跡が隣接している。規模は長径0.55m、短径0.26mの長方形で、確認面の関係から深さは最深部で4cmと非常に浅い。そのため、自然石は検出されず、付随する溝も確認されなかった。

覆土は浅いながらも3層に分かれ、炭化物、焼土、骨片を含んでいた。特に南壁沿いからは焼土がまとまって検出された。

遺物は検出されなかった。

第3号火葬跡（第43図）

2区A'-13グリッドに位置し、東には第2号火葬跡が隣接している。規模は長径0.83m、短径0.47mの長方形で、第2号火葬跡同様、確認面の関係から深さは最深部で2cmと非常に浅い。そのため、自然石は検出されず、付随する溝も確認できなかった。

覆土は単一層であり、骨片を少量含んでいた。

遺物は検出されなかった。

第4号火葬跡（第43図）

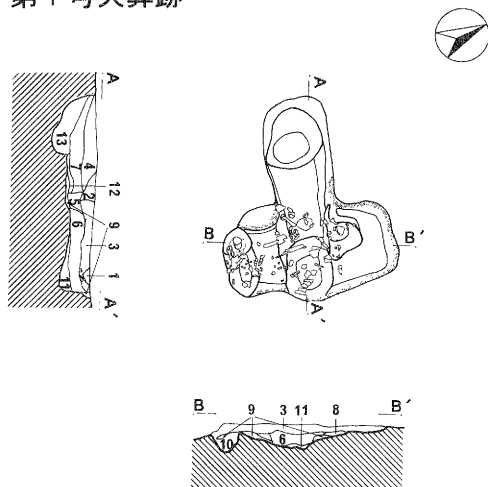
1区B-9・10グリッドに位置する。東側を後世の削平により欠く。規模は長径が1.09mであるが、短径は確認された範囲では0.45mを測る。深さは最深部で34cmである。付随するべき溝は検出されなかったが、東壁中央にあったものと思われる。北、西壁沿いは焼けており、赤褐色を呈していた。底面

からは焼けた石や骨片が検出された。

覆土中には炭化物、焼土、骨片等が検出された。

遺物は検出されなかった。

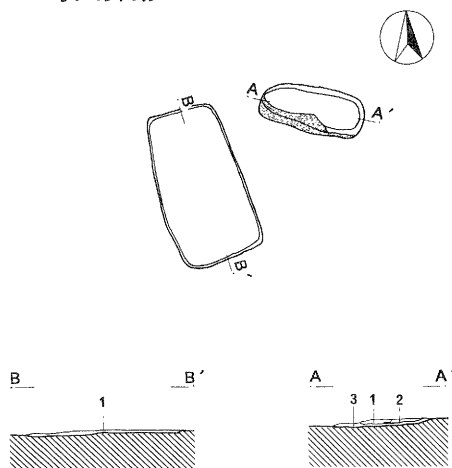
第1号火葬跡



土層説明 (A A' B B')

- 1 黒褐色土:炭化物・焼土・骨片含む。
- 2 黒褐色土:炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 3 黒褐色土:炭化物・焼土多量、骨片少量含む。
- 4 黒褐色土:灰色粒・判-ブ褐色粒含む。
- 5 判-ブ黒色土:焼土多量、炭化物・骨片少量含む。
- 6 判-ブ黒色土:炭化物多量、焼土・骨片少量含む。しまり無。
- 7 黒褐色土:焼土・判-ブ褐色粒含む。
- 8 黒褐色土:焼土含む。
- 9 焼土ブロック
- 10 黒褐色土:炭化物・焼土・骨片含む。
- 11 判-ブ黒色土:炭化物多量、焼土・骨片少量含む。
- 12 黒褐色土:灰・炭化物多量含む。
- 13 黒褐色土:炭化物・焼土・判-ブ褐色粒含む。

第2・3号火葬跡



第2号火葬跡

土層説明 (A A')

- 1 灰色土:骨片多量、炭化物・焼土少量含む。
- 2 灰色土:焼土多量、炭化物・骨片少量含む。
- 3 灰色土:炭化物・焼土・骨片含む。

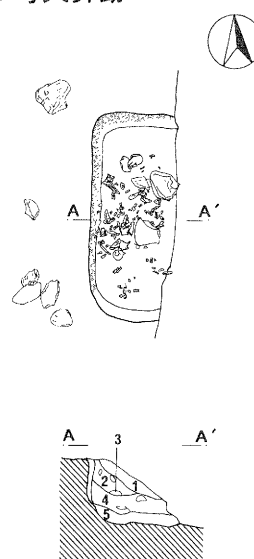
第3号火葬跡

土層説明 (B B')

- 1 暗灰黄色土:骨片少量含む。

0 1 m

第4号火葬跡



土層説明 (A A')

- 1 灰色土:鉄分含む。
- 2 黒褐色土:鉄分・炭化物・被熱した黒色土含む。
- 3 黒色土:焼土含む。
- 4 黒褐色土:炭化物・骨片多量、焼土少量含む。
- 5 黒褐色土:炭化物・焼土含む。

第43図 第1～4号火葬跡

(6)井戸跡

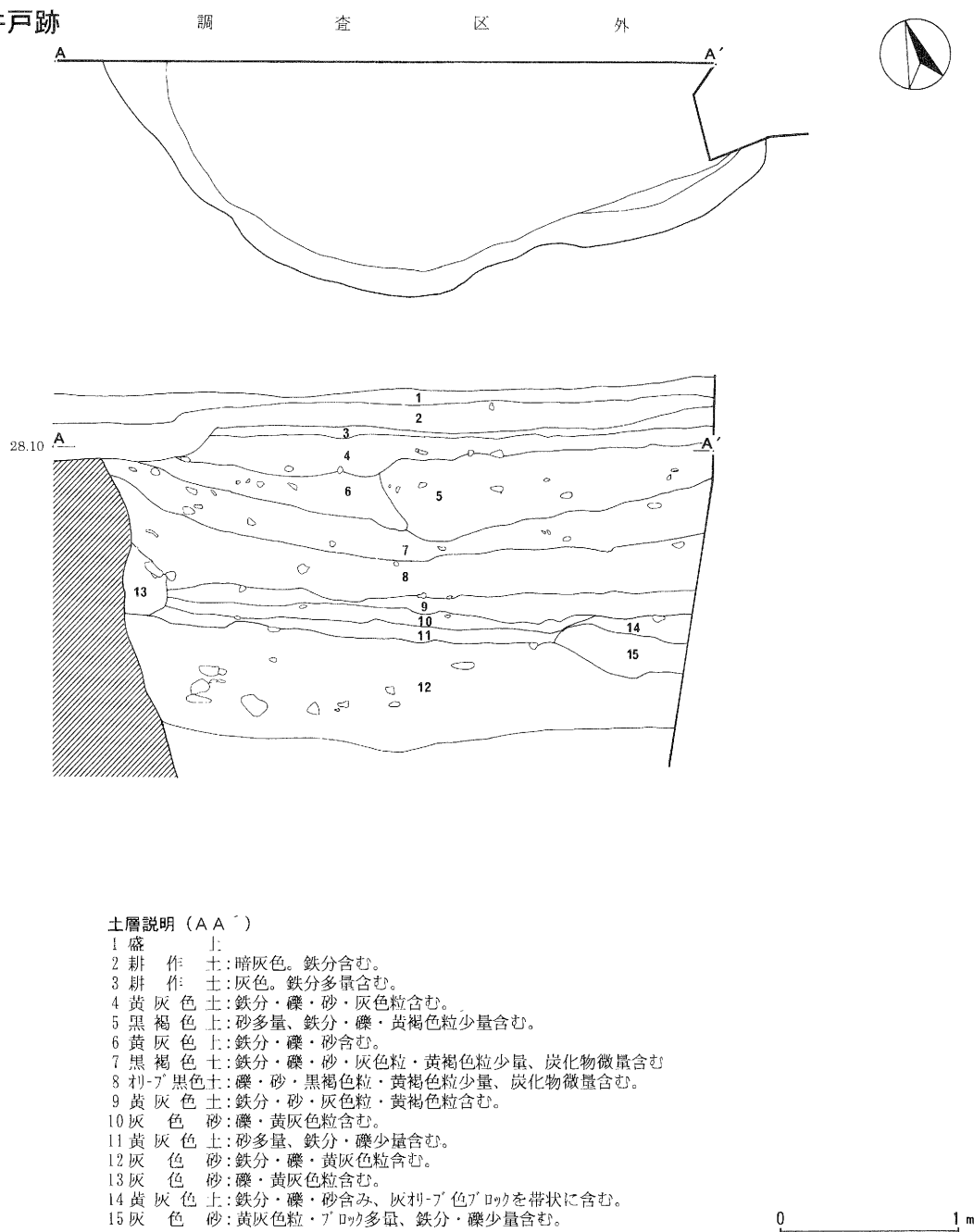
第1号井戸跡（第44図）

1区D・E-6グリッドに位置する。北側大半が調査区外にある。規模は確認された範囲では東西方向で3.82m、南北で1.35mを測る。深さは完掘していないため不明であるが、確認された深さは1.84mである。やや急な角度で掘り込まれており、素堀りの井戸跡である。

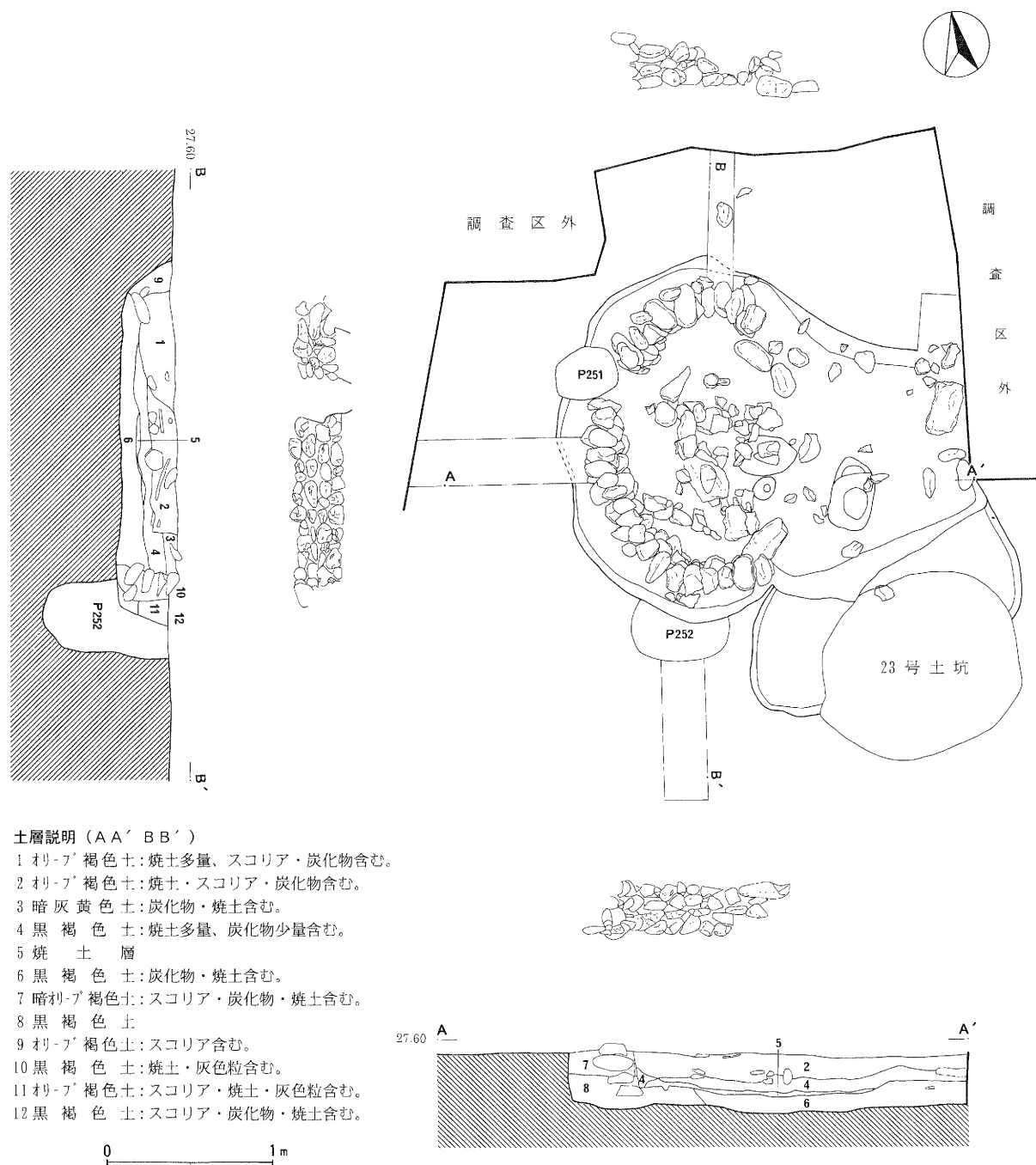
覆土はレンズ状に堆積した自然堆積層である。所々で礫を含む。

遺物は陶磁器類が若干検出されたが、図示可能なものは鉢（第46図10）1点のみである。

第1号井戸跡



第44図 第1号井戸跡



第45図 第1号石組遺構

(7) 石組遺構

第1号石組遺構 (第45図)

2区G'・H'-13グリッドに位置する。川原石が積まれていることから当初は古墳の石室かと思われたが、円形に巡っている点や石列内の覆土に焼土層がある点等から石室とはみなさず、石組遺構とした。

東側が調査区外にあるため、規模、及びその形態さえ定かではないが、掘り方は確認された範囲での東西方向が2.54mであり、短径となる南北は2.29mを測る。深さは最深部で39cmであり、垂直、ないしやや急な傾斜で掘り込まれている。なお、所々をピットと重複関係にある。また、南側では張り出した

テラス状のものがみられたが、第23号土坑により切られている。

石組は東側がくずれてしまっているものの、南北に長い楕円形に積まれていたものと推察される。

石組のみの長径は2.06m、短径は不明である。

石組はある程度土を埋めた段階で設置されているため、遺構の機能時は焼土層が最下層になるものと考えられる。石組内の覆土は炭化物、焼土等を多量に含んでおり、また崩れた石も多数みとめられた。やや入り組んだ層位ではあるが、人為的な埋め戻しかどうかは判断しかねる。

遺物は検出されなかった。

本遺構の性格については不明である。

(8)ピット

調査区内ほぼ全面より計350基のピットが検出された。特に集中してみられたのは、2区B'～J'グリッドであるが、規則的に並ぶものはみられなかった。また、出土遺物もほとんどみられなかったため、時期の特定も難しい。各ピットの数値については第9表を参照のこと。

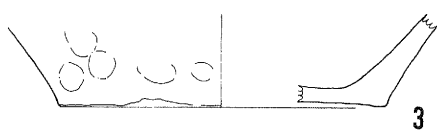
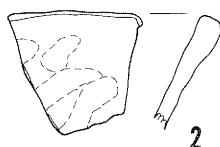
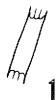
第9表 ピット計測表

No.	出土位置	長	短	深さ	備 考	No.	出土位置	長	短	深さ	備 考
1	A-14	122	23	16		40	D-6	66	58	15	
2	A-14	115	25	20		41	D-6	34	30	12	
3	A-14	98	40	20		42	D-6	30	28	28	
4	A-12	74	47	20		43	D-6	33	27	16	
5	A-12	(95)	(46)	33		44	D-6	26	26	12	
6	B-11	35	28	19		45	D-6	24	20	11	
7	A-11	(57)	(70)	9		46	E-7	30	29	16	
8	B-10	56	(53)	29	第3・4号土坑より新。	47	F-7	37	29	13	
9	B-9	28	26	24		48	F-7	28	22	12	
10	C-9	48	25	26		49	F-7	57	35	22	
11	B-9	34	30	24		50	F-7	20	17	22	
12	C-9	33	31	24		51	F-7	21	18	12	
13	B-8	28	28	12		52	F-7	42	37	25	第4号溝跡との新旧不明。
14	B-8	35	30	22		53	G-7	47	38	24	第3号溝跡との新旧不明。
15	B-8	39	39	30		54	G-7	39	24	46	第13号土坑より新。
16	C-8	39	35	12		55	I-7	39	28	11	
17	C-8	57	30	28		56	I-7	36	25	6	
18	B-7	23	23	11		57	J-7	30	(27)	24	
19	C-7	45	38	15		58	J-7	34	26	17	
20	B-6	28	25	14		59	J-7	27	22	17	
21	B-6	30	29	23		60	J-7	40	35	19	
22	B-6	(50)	(32)	91		61	J-7	47	47	29	
23	B・C-6	28	25	24		62	J-7	40	40	26	
24	C-6	31	27	13		63	J-7	19	15	5	
25	C-6	66	31	23		64	J-7	27	25	22	
26	C-6	26	23	13		65	J-7	27	27	21	
27	C-6	29	24	20		66	J-7	19	16	8	
28	C-6	38	37	14		67	J-7	32	30	20	
29	C-6	33	23	15		68	J-7	27	24	26	
30	C-6	23	19	9		69	J-7	39	32	7	
31	C-6	26	25	16		70	J-7	37	34	13	
32	C-6	22	17	9		71	J-7	26	21	13	
33	C-6	42	34	24	第7号土坑より新。	72	J-7	20	19	12	
34	C-6	28	25	25	第7号土坑より新。	73	J-7	27	26	13	
35	C-6	33	27	25	第7号土坑より新。	74	J-7	30	27	12	
36	C-6	33	30	14		75	K-7	26	26	10	
37	C-6	33	31	28	第8号土坑より新。	76	K-7	75	56	9	
38	D-6	40	37	19		77	K-7	50	34	19	
39	D-6	38	34	25		78	K-7	25	25	18	

No.	出土位置	長	短	深さ	備 考	No.	出土位置	長	短	深さ	備 考
79	K-7	27	27	23		147	X-13	32	27	4	
80	K-7	34	33	15		148	Y-13	32	22	14	
81	K-8	29	21	13		149	Y-13	18	17	5	
82	K-8	32	25	31		150	Y-13	26	20	10	
83	K-8	46	40	32		151	Y-13	19	17	8	
84	O-7	34	30	25		152	Y-13	21	18	7	
85	L-8	19	16	13		153	Y-13	16	15	9	
86	L-8	24	21	39		154	Z-13	30	21	8	
87	L-8	20	18	21		155	A'-13	74	60	30	
88	L-8	21	21	7		156	B'-13	26	26	15	
89	L-7	28	24	8		157	B'-13・14	29	26	18	第10・11号溝跡より新。
90	L-7	18	16	7		158	B'-13	30	26	19	
91	L-7	16	13	7		159	B'-13	25	20	10	
92	L-7	15	14	13		160	B'-13	30	23	6	
93	L-7	31	27	50		161	B'-14	29	26	10	
94	L-8	21	17	19		162	B'-14	29	20	8	
95	M-7	31	30	21		163	B'C'-14	84	41	9	
96	M-7	26	24	14		164	C'-14	19	15	3	
97	M-7	28	22	11		165	C'-14	21	21	13	
98	M-7	32	28	12		166	C'-14	24	17	10	
99	M-8	41	39	10		167	C'-14	(26)	19	15	
100	M-8	19	19	37		168	C'-14	21	21	5	
101	M-8	100	86	46		169	C'-14	27	24	13	
102	M-8	27	21	16		170	C'-14	27	23	9	
103	M-8	31	30	22		171	C'-14	25	20	7	
104	M-8	24	22	9		172	C'-14	32	29	11	
105	M-7	30	28	12		173	C'-14	(84)	57	22	
106	M-7	26	22	18		174	D'-14	32	(30)	34	
107	M-7	25	24	17		175	D'-14	22	20	11	
108	M-7	25	25	17		176	D'-14	14	10	5	
109	M-7	30	25	20		177	D'-14	29	22	13	
110	N-8	26	23	14		178	D'-14	63	(25)	40	
111	N-8	25	23	16		179	D'-14	27	22	15	
112	N-8	57	28	29		180	D'-14	30	29	20	
113	N-8	59	56	20		181	E'-14	27	26	22	
114	N-8	19	19	30		182	E'-14	37	30	34	
115	N-8	39	33	18		183	E'-14	29	25	17	
116	N-8	32	31	13		184	E'-14	39	35	37	
117	O-8	28	25	22		185	E'-14	65	40	34	
118	O-8	27	22	26		186	E'-14	23	16	4	
119	P-11	30	28	14		187	E'-14	21	19	14	
120	P-11	62	50	5		188	E'-13	45	(35)	18	
121	P-12	60	45	4		189	E'-14	17	17	3	
122	P-11	20	19	13		190	E'-14	49	43	35	
123	G-6	29	23	55		191	E'-14	33	29	4	
124	Q-12	51	47	16		192	E'-14	37	34	16	
125	Q-12	55	40	30		193	E'-14	43	28	6	
126	Q-12	31	26	16		194	E'-14	44	32	46	
127	Q-12	38	31	17		195	E'-14	31	28	24	
128	R-12	30	28	16		196	E'-14	33	24	10	
129	R-12	40	34	21		197	E'-14	24	24	3	
130	R-12	31	29	32		198	E'-14	21	21	13	
131	R-13	25	24	11		199	E'-14	43	40	24	
132	R-13	(22)	(9)	31		200	E'-14	30	22	11	
133	S-12・13	137	34	6		201	E'-14	35	29	16	
134	S-12	43	39	14		202	E'-14	35	29	21	
135	S-12	31	26	14		203	E'-14	24	20	6	
136	S-12	44	27	18		204	F'-13	25	22	11	
137	S-12	32	31	9		205	F'-14	30	26	11	
138	S-12	36	30	19		206	F'-14	(35)	(21)	17	
139	T-12	42	33	6		207	F'-14	16	16	9	
140	T-13	27	23	6		208	F'-14	(61)	(20)	11	
141	U-13	51	51	6		209	F'-14	58	51	32	
142	U-12	61	59	7		210	F'-14	37	31	19	
143	U-13	26	22	19		211	F'-14	52	40	48	
144	U-12	39	37	29		212	F'-14	30	28	24	
145	U-13	33	24	14		213	E'-15	27	25	11	
146	V-13	44	39	7		214	F'-15	29	-	12	

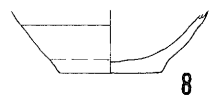
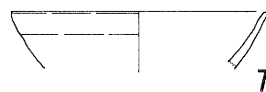
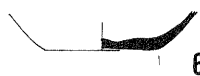
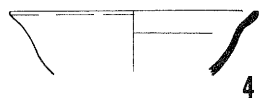
No.	出土位置	長	短	深さ	備 考	No.	出土位置	長	短	深さ	備 考
215	F'-15	42	42	46		283	K'-15	22	20	10	
216	F'-15	(37)	36	54		284	K'-15	50	39	19	
217	F'-15	29	22	8		285	K'-15	21	20	20	
218	F'-15	52	28	16		286	K'-16	45	32	30	
219	F'-15	27	21	27		287	K'-16	29	20	30	
220	F'-14	53	38	56		288	K'-16	34	30	30	
221	F'-14	25	22	27		289	L'-15	31	28	22	
222	F'-14	37	32	23		290	L'-15	73	62	13	
223	F'-14	41	33	40		291	L'-15	28	21	27	
224	F'-14	36	28	16		292	L'-15	24	19	17	
225	F'-14	37	32	7		293	L'-15	26	24	31	
226	F'-14	53	37	47		294	L'-15	18	18	6	
227	G'-14	22	22	13		295	L'-15	18	16	13	
228	G'-14	60	58	65		296	L'-15	15	(7)	32	
229	G'-14	19	17	20		297	M'-15	18	16	10	
230	G'-15	22	18	9		298	M'-15	24	20	17	
231	G'-15	27	27	6		299	M'-16	39	25	24	
232	G'-15	27	27	12		300	I'-15	(34)	27	17	第11号溝跡との新旧不明。
233	G'-15	26	24	5		301	C-8	61	54	30	
234	G'-15	36	35	5		302	B-6	89	55	79	
235	G'-15	66	64	70		303	O-8	27	(18)	26	
236	G'-15	53	41	10		304	P-7	28	27	31	
237	G'-14	57	55	36		305	O-7	22	20	30	
238	G'-14	27	17	4		306	O-6	27	22	21	
239	G'-14	85	69	12		307	O-6	40	29	29	
240	G'-14	51	48	61		308	P-6	35	28	31	
241	G'-14	28	28	9		309	P-6	44	25	28	
242	G'-14	24	20	8		310	P-6	18	(10)	6	第15号溝跡との新旧不明。
243	G'-14	65	59	56		311	O-6	22	16	8	
244	H'-14	57	38	59		312	P-6	28	22	26	
245	H'-15	47	38	68		313	O-6	35	26	12	
246	H'-15	77	54	77		314	P-6	26	21	14	
247	G'-15	32	30	17		315	P-6	44	42	5	
248	G'-15	(35)	30	7		316	P-5	33	29	15	
249	H'-15	30	27	15		317	P-5	19	16	12	
250	H'-14	45	45	31		318	P-5	45	30	15	
251	H'-14	39	34	60	第1号石組より新。	319	P-4	42	35	6	
252	H'-14	60	54	75	第1号石組より古。	320	P-4	40	37	5	
253	H'-14	20	18	13		321	P-4	32	27	8	
254	H'-14	35	30	7		322	P-4	22	15	9	
255	I'-14	28	28	11		323	Q-4	34	29	11	
256	I'-14	38	30	20		324	P-4	25	22	12	
257	I'-15	18	18	15		325	P-3・4	34	27	31	
258	I'-15	32	19	11		326	P-4	(39)	(26)	3	第15号溝跡との新旧不明。
259	I'-15	89	69	41		327	P-3・4	(33)	19	2	第15号溝跡との新旧不明。
260	I'-15	42	30	31		328	Q-4	21	20	10	
261	J'-15	26	26	9		329	Q-3	36	30	17	
262	J'-15	40	36	9		330	C-1	42	36	17	
263	J'-15	40	37	38		331	B-1	34	(24)	9	第28号土坑より新。
264	J'-15	23	23	14		332	B-2	47	29	33	第28号土坑より新。
265	J'-15	34	32	27		333	B-2	40	31	11	
266	J'-15	40	35	9		334	B-2	34	32	17	
267	J'-15	32	32	8		335	B-2	46	42	24	
268	J'-15	(48)	62	21		336	B-2	27	22	18	
269	J'-15	32	24	5		337	B-3	29	28	9	
270	J'-15	32	27	16		338	B-3	18	16	11	
271	J'-15	35	29	11		339	B・C-3	(32)	(11)	15	
272	J'-15	39	28	3		340	B-3	21	17	11	
273	J'-15	25	21	6	第11号溝跡との新旧不明。	341	B-3	25	21	10	
274	J'-15	45	36	46		342	B-3	27	25	15	
275	J'-14	80	67	12		343	B-3	33	32	9	
276	J'-14	47	43	29		344	B-4	25	23	13	
277	J'-14	95	60	50		345	B-4	(27)	(22)	12	
278	J'-14	64	51	14		346	B-4	41	(22)	22	
279	J'-14	27	24	14		347	B-4・5	25	22	8	
280	J'-14	29	20	8		348	B-5	29	22	10	
281	K'-14	29	27	27		349	B-5	87	37	20	
282	K'-15	38	35	24		350	B-5	20	20	14	

第3号溝跡



第10号土坑

第12号溝跡



第28号土坑

第1号井戸跡

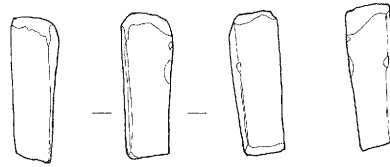
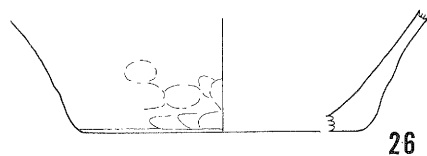
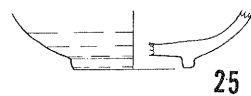
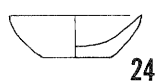
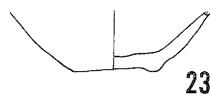
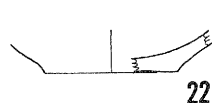
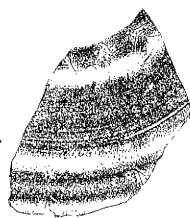
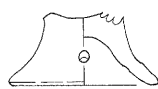


第1号土墳墓

第2号土墳墓



遺構外出土遺物



3 ~ 9 · 19 · 20 · 22 ~ 27 0 10cm

1 · 2 · 10 · 21 0 10cm

11 ~ 18 0 5cm

第46図 溝跡・土坑・井戸跡・土墳墓・遺構外出土遺物

(9) 遺構外出土遺物

調査区のほぼ全面より検出されたが、図示可能なものは少ない。出土遺物は、土器、磁器、石製品等である。図示可能なものは9点（第46図19～27）のみである。土器には須恵器、土師器、かわらけ等がみられる。石製品は砥石1点のみである。

第10表 溝跡・土坑・井戸跡・遺構外出土土器観察表

No.	出土位置	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	第3号溝跡	縄文・深鉢	—	—	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	暗褐色	良	—	後期前半。
2	第3号溝跡	鉢	—	—	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	やや良	—	
3	第3号溝跡	甕	—	(4.8)	(17.4)	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	25	
4	第12号溝跡	須恵器・坏	(13.2)	(3.2)	—	やや粗／白色粒、片岩	灰色	良	20	末野産。
5	第12号溝跡	須恵器・坏	(12.8)	(1.7)	—	やや粗／白色粒、片岩	灰色	良	35	末野産。
6	第12号溝跡	須恵器・坏	—	(2.1)	(5.8)	やや粗／白色粒、片岩	灰色	良	20	末野産。
7	第10号土坑	かわらけ・坏	(13.4)	(3.2)	—	密／砂粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	20	
8	第10号土坑	かわらけ・坏	—	(3.2)	(5.4)	やや粗／砂粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	80	
9	第28号土坑	かわらけ・坏	(12.2)	3.7	(5.4)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	60	
10	第1号井戸跡	青磁・碗	—	—	—	緻密／黒色粒	緑灰色	良	—	
19	遺 構 外	須恵器・坏	—	(0.8)	(4.2)	やや粗／白色粒、片岩	灰色	良	5	末野産。
20	遺 構 外	土師器・高坏	—	(3.9)	(7.8)	密／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄色	良	80	
21	遺 構 外	須恵器・甕	—	—	—	やや粗／白色粒、片岩	青灰色	良	—	末野産。
22	遺 構 外	かわらけ・坏	—	(2.1)	(7.0)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	30	
23	遺 構 外	かわらけ・坏	—	(3.0)	4.4	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒	浅黄橙色	良	70	
24	遺 構 外	かわらけ・坏	7.0	2.2	3.6	密／砂粒、黒色粒	浅黄橙色	良	90	
25	遺 構 外	白磁・碗	—	(3.1)	6.3	密／黒色粒	灰白色	良	70	
26	遺 構 外	鉢	—	(5.9)	(9.8)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	25	

第11表 土墳墓出土古銭観察表

No.	出土位置	分 類	径(cm)	孔径(cm)	厚(cm)	備 考
11	第1号土墳墓	天聖元寶	2.4	0.8	0.1	
12	第1号土墳墓	元豐通寶	2.4	0.7	0.1	
13	第1号土墳墓	元祐通寶	2.4	0.7	0.1	
14	第1号土墳墓	永樂通寶	2.4	0.6	0.2	
15	第1号土墳墓	熙寧元寶	2.4	0.7	0.1	
16	第2号土墳墓	熙寧元寶	2.2	0.7	0.1	
17	第2号土墳墓	元口通寶	2.3	0.6	0.1	
18	第2号土墳墓	□□元寶	2.4	0.7	0.1	

第12表 遺構外出土石製品観察表

No.	出土位置	分 類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備 考
27	遺 構 外	砥 石	7.7	2.5	1.8	完形。全面使用。

3 出口下遺跡

(1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は、計27軒確認された。すべてが古墳時代後期のものであった。

第1号住居跡（第47図）

1区X-10グリッドを中心に位置する。一部に攪乱が入るとともに、南西壁よりは第5号溝跡と重複している。遺構の新旧関係は本住居跡の方が古い。

平面形は長軸8.0m、短軸7.18mの長方形を呈し、面積はおよそ57.44m²となる。カマドが二つあることから北側のカマドを主軸と考えると方向はN-38°-Wを指す。

確認面から床までの深さは40cm前後であった。覆土は自然堆積と思われる。

カマドは北壁の中央付近と東壁の南寄りの2箇所確認された。北壁のカマドは全長240cm、燃焼部幅約60cm、煙道部幅も広く50cmを越えている。燃焼部は床面より20cmほど掘り窪められている。東壁のカマドは長さおよそ180cm、煙道部約40cmを測る。燃焼部は袖が残っていなかったため、正確な規模は確認できなかった。

貯蔵穴は北東部と南東部の2箇所で確認されたが、2つのカマドにそれぞれ付随するものである。前者は長軸1.34m、短軸0.96m、深さは床面から30cmを測る。後者は長軸1.46m、短軸0.66m、深さは16cmである。

柱穴は確認できなかったが、壁溝は四方の壁で確認できた。南壁際から1mほど内側に入った位置に南壁に並行して溝が確認されている。この内側の溝は、北側のカマドが東壁のカマドに先行して使用され、そのときの住居の南壁に伴う壁溝と推測される。その後、住居跡を拡大し、東壁に新たにカマドを設けられたものと推測される。

出土遺物は、本遺跡の中では最も豊富で、須恵器蓋・坏、土師器坏・高坏・甕・甔など多数確認された他、中央に孔のある鉄製の円板も検出された（第48～50図）。

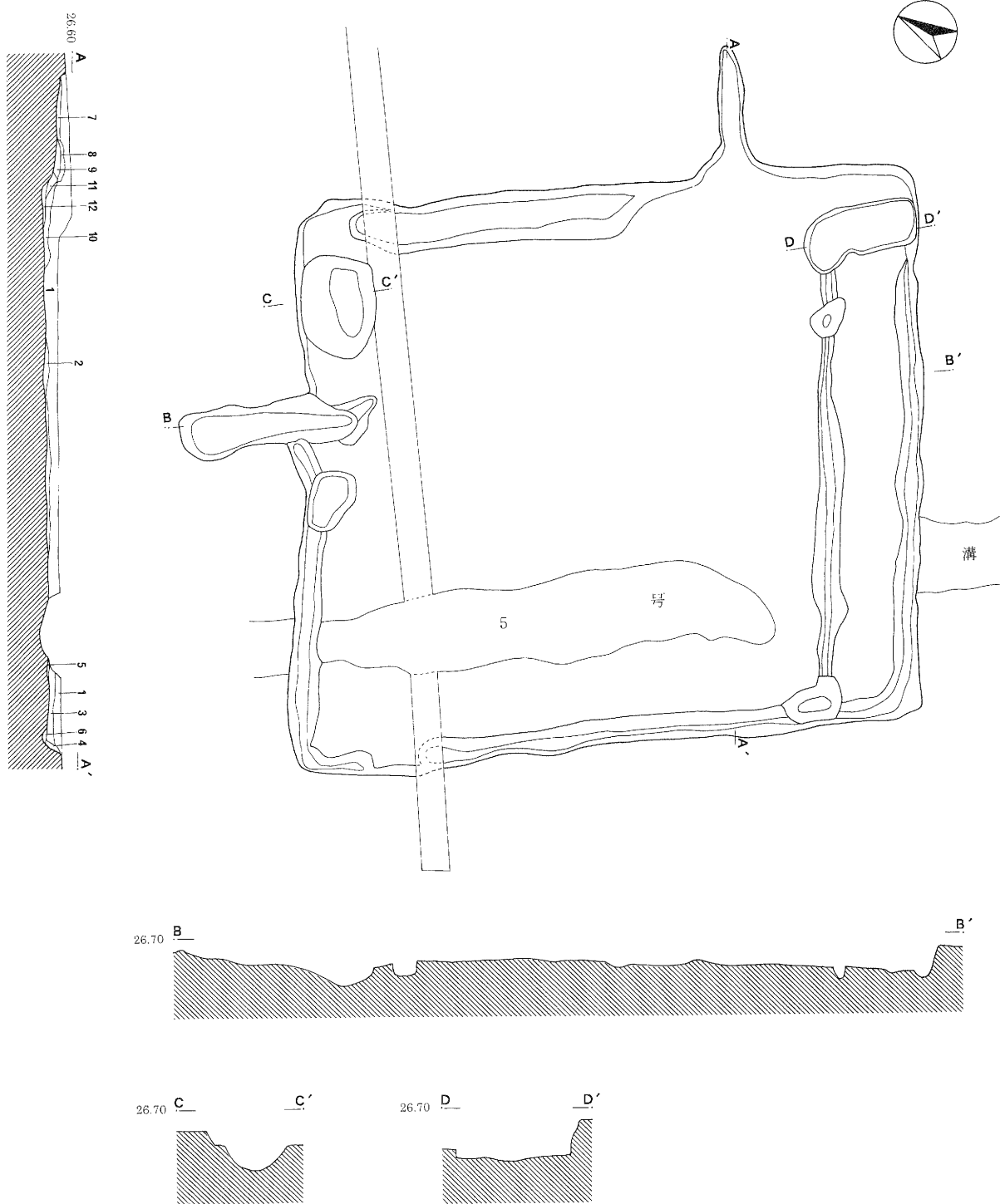
第2号住居跡（第51図）

1区P-10グリッドを中心に位置する。南西コーナーは調査区域の外となり、北東コーナー及び竈煙道部分は、第1号溝跡と重複する。遺構の新旧関係は、第2号住居跡の方が古い。

平面形は長軸4.05m、短軸5.18mの長方形を呈し、面積は20.98m²となる。主軸はN-43°-Wを指す。遺構の確認が難しく、確認面から床までの深さは5～20cm前後であった。

覆土は自然堆積と思われる。中央部と東壁にはピットが重複しており、前者は本住居跡より新しく、後者は古い。壁溝は北壁で長さ1.3mほどが確認された。幅は35cmと幅広で、深さは数cmとわずかに窪むのみであった。

カマドは北壁の東よりに設けられる。燃焼部は幅50cm、煙道部よりは第1号溝跡に切られているため、全長は判らない。袖部は地山を掘り残して造られている。火床部は地山土が貼られている。



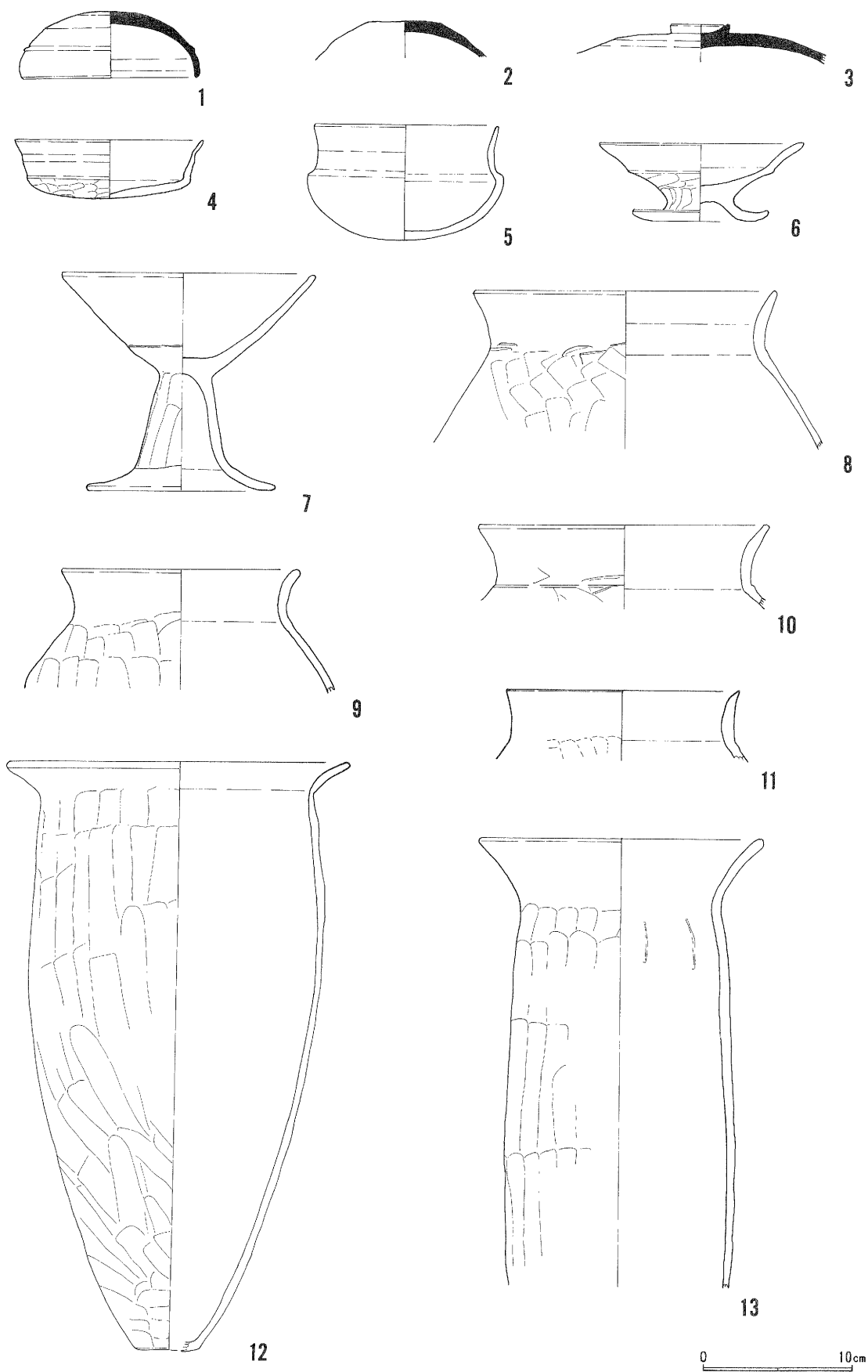
土層説明 (A A' E E')

- 1 黒褐色土:鉄分・スコリア・礫・灰色粒含む。
- 2 灰色土:鉄分・灰色粒含む。しまり強。
- 3 刈-ブ褐色土:鉄分・礫・灰色粒含む。しまり強。
- 4 黒褐色土:炭化物・灰色粒含む。
- 5 刈-ブ褐色土:鉄分・灰色粒含む。3層より明るい。
- 6 刈-ブ褐色土:鉄分・灰色粒含む。
- 7 黒褐色土:灰色粒含む。
- 8 黒褐色土:焼土多量、灰色粒少量含む。

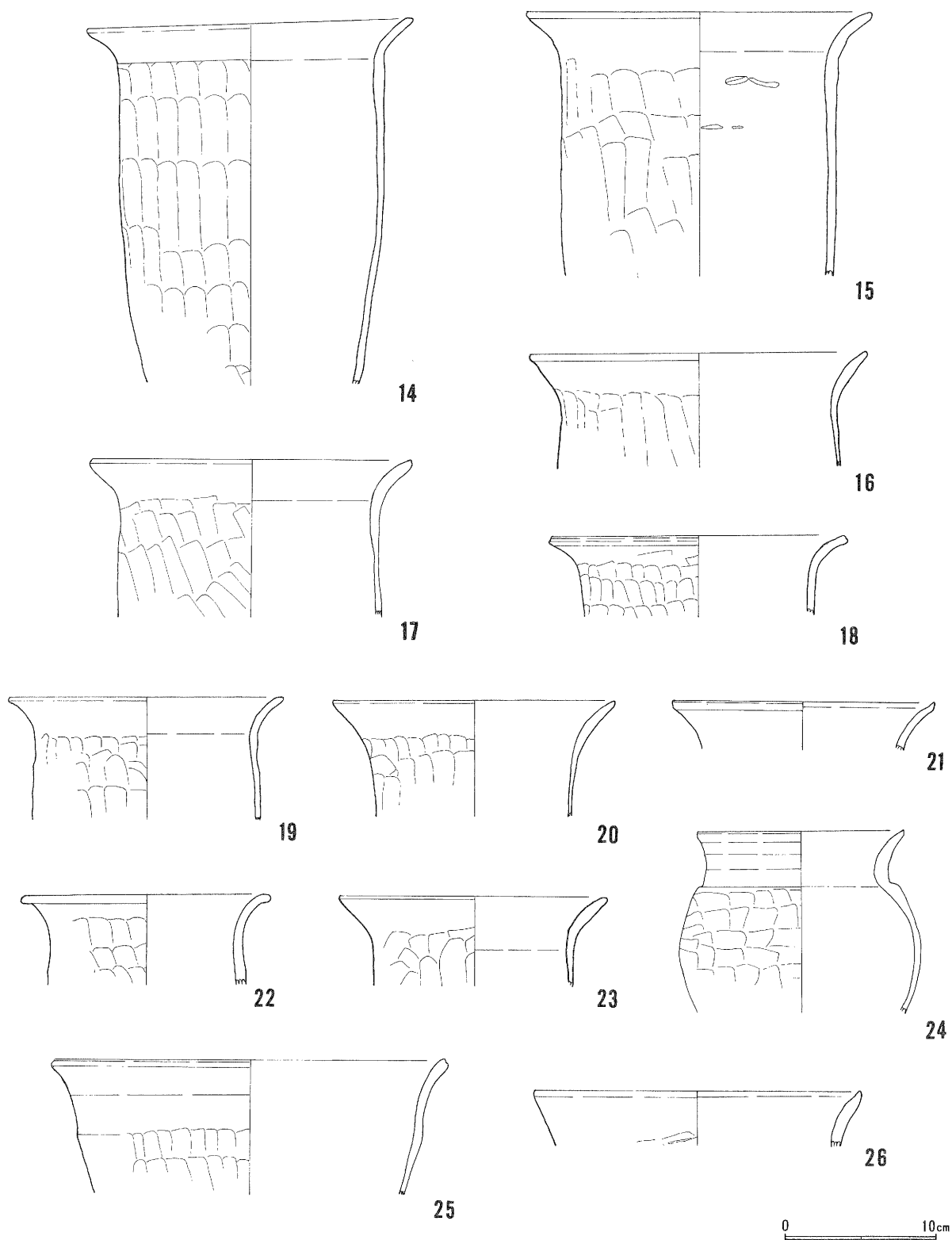
- 9 黒褐色土:焼土・灰色粒含む。
- 10 暗灰黄色土:焼土・灰色粒含む。
- 11 暗灰色土:焼土多量含む。
- 12 暗灰色灰層:焼土含む。

0 2 m

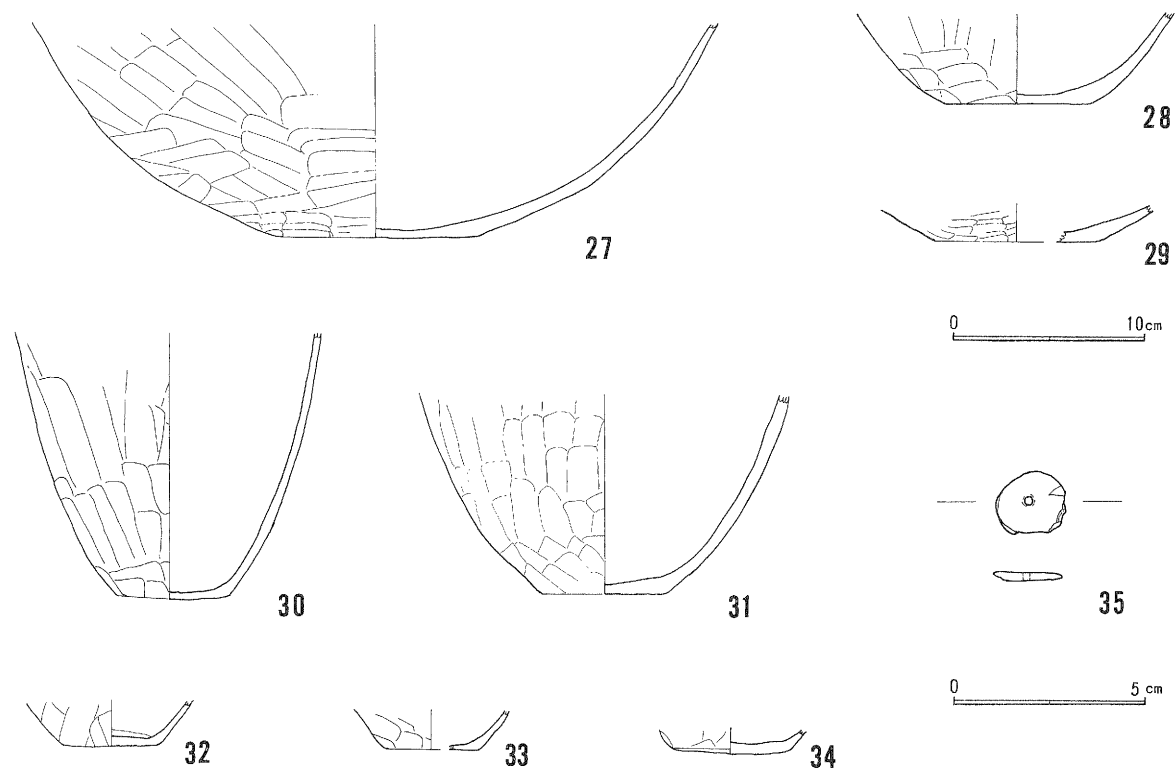
第47図 第1号竪穴住居跡



第48図 第1号竖穴住居跡出土遺物 (1)



第49図 第1号竖穴住居跡出土遺物 (2)



第50図 第1号竪穴住居跡出土遺物 (3)

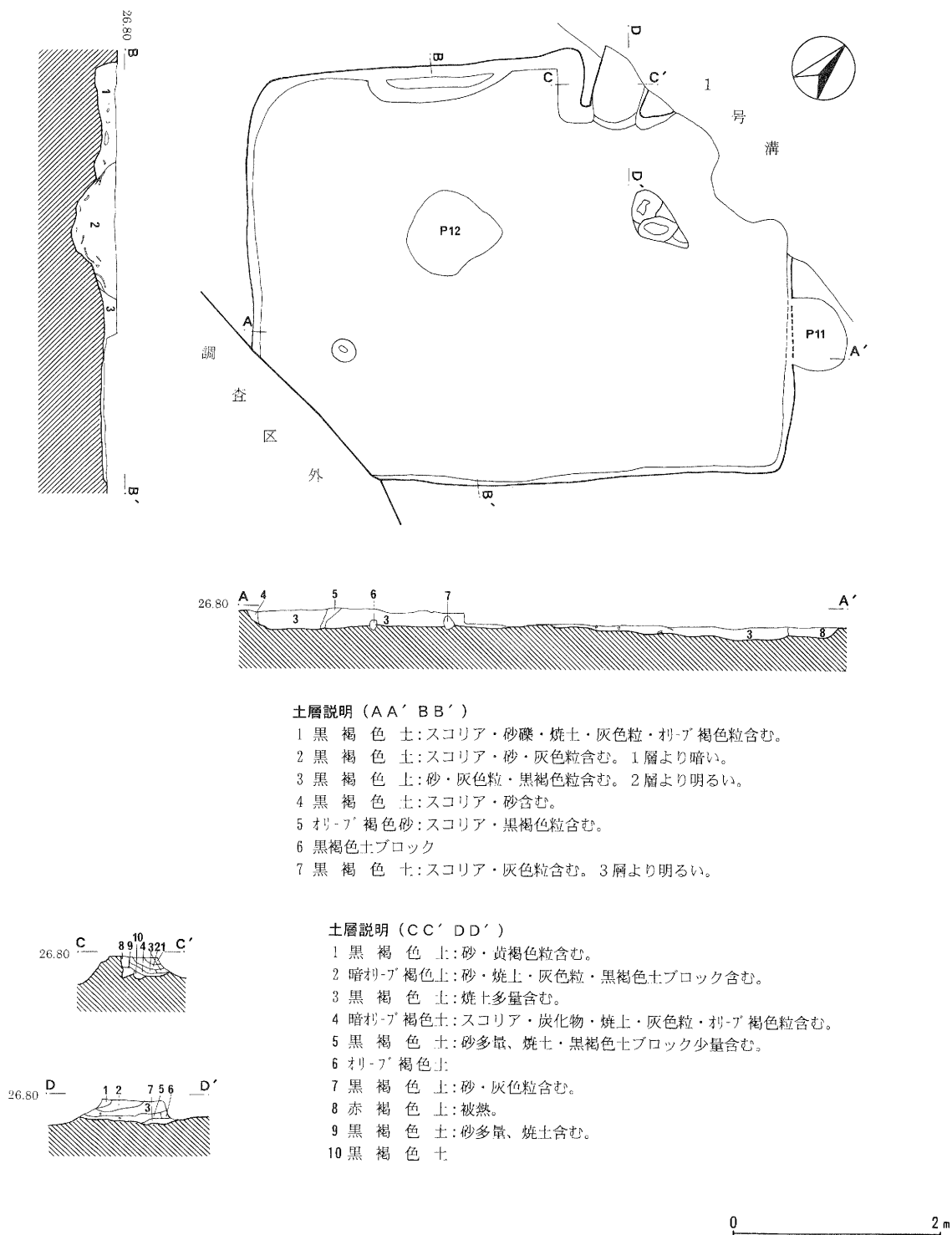
第13表 第1号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	須恵器・蓋	(12.2)	4.5	—	密／白色粒、黒色粒	灰色	良	50	
2	須恵器・蓋	—	(2.5)	—	密／白色粒、黒色粒、白色針状物質	灰色	やや不良	90	南比企産。
3	須恵器・蓋	—	(2.5)	—	密／白色粒、黒色粒、白色針状物質	青灰色	良	40	南比企産。
4	土師器・坏	12.7	4.0	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒	明赤褐色	良	100	
5	土師器・坏	12.6	7.9	—	密／砂粒、黒色粒、小石	にぶい橙色	良	40	
6	土師器・高坏	13.8	5.3	9.2	密／白色粒、黒色粒、赤色粒	明赤褐色	やや良	40	
7	土師器・高坏	17.1	14.6	12.8	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	明赤褐色	良	90	
8	土師器・甕	20.6	10.6	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	にぶい黄褐色	やや良	85	
9	土師器・甕	(16.2)	(8.2)	—	粗／砂粒、白色粒、赤色粒	暗灰色	やや不良	40	
10	土師器・甕	(19.7)	(5.7)	—	密／白色粒、黒色粒、赤色粒、石英	にぶい橙色	良	10	
11	土師器・甕	(15.8)	(4.8)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、長石	にぶい橙色	やや不良	20	
12	土師器・甕	23.3	39.9	(4.4)	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	橙色	やや不良	70	
13	土師器・甕	18.4	30.6	—	粗／砂粒、黒色粒、赤色粒	灰色	良	30	
14	土師器・甕	21.7	24.1	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	にぶい黄褐色	良	95	
15	土師器・甕	23.2	17.5	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒	淡黄褐色	良	50	
16	土師器・甕	(22.7)	(7.6)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	にぶい赤褐色	やや良	25	
17	土師器・甕	(21.4)	(10.5)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	にぶい橙色	良	60	
18	土師器・甕	(20.0)	(5.5)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、雲母、小石	にぶい橙色	良	20	
19	土師器・甕	(18.5)	(8.2)	—	密／砂粒、白色粒、角閃石、石英	明赤褐色	やや良	40	
20	土師器・甕	(19.0)	(7.7)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	橙色	良	20	
21	土師器・甕	(17.6)	(3.2)	—	やや粗／白色粒、黒色粒、角閃石	橙色	やや良	15	
22	土師器・甕	(16.8)	(6.0)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、小石	橙色	良	20	
23	土師器・甕	(18.0)	(6.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	橙色	やや不良	25	
24	土師器・甕	13.8	(12.2)	—	密／白色粒、黒色粒、角閃石	にぶい黄褐色	良	90	
25	土師器・甕	(26.6)	(9.0)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、小石	浅黄褐色	良	15	
26	土師器・甕	(22.0)	(3.7)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	明黄褐色	良	15	
27	土師器・甕	—	(11.3)	10.0	密／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	にぶい褐色	良	60	
28	土師器・甕	—	(4.8)	(7.6)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	灰黄褐色	やや良	60	
29	土師器・甕	—	(2.0)	(8.6)	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい黄褐色	やや良	20	
30	土師器・甕	—	(14.1)	5.9	密／砂粒、黒色粒、石英、小石	にぶい黄褐色	良	100	
31	土師器・甕	—	(10.6)	6.8	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	黒褐色	良	100	
32	土師器・甕	—	(2.3)	5.1	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、石英	浅黄褐色	良	100	

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
33	土師器・甕	—	(2.1)	4.9	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石	明赤褐色	やや良	70	
34	土師器・甕	—	(1.4)	6.4	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	赤色	良	55	

第13表 第1号竖穴住居跡出土鉄製品観察表

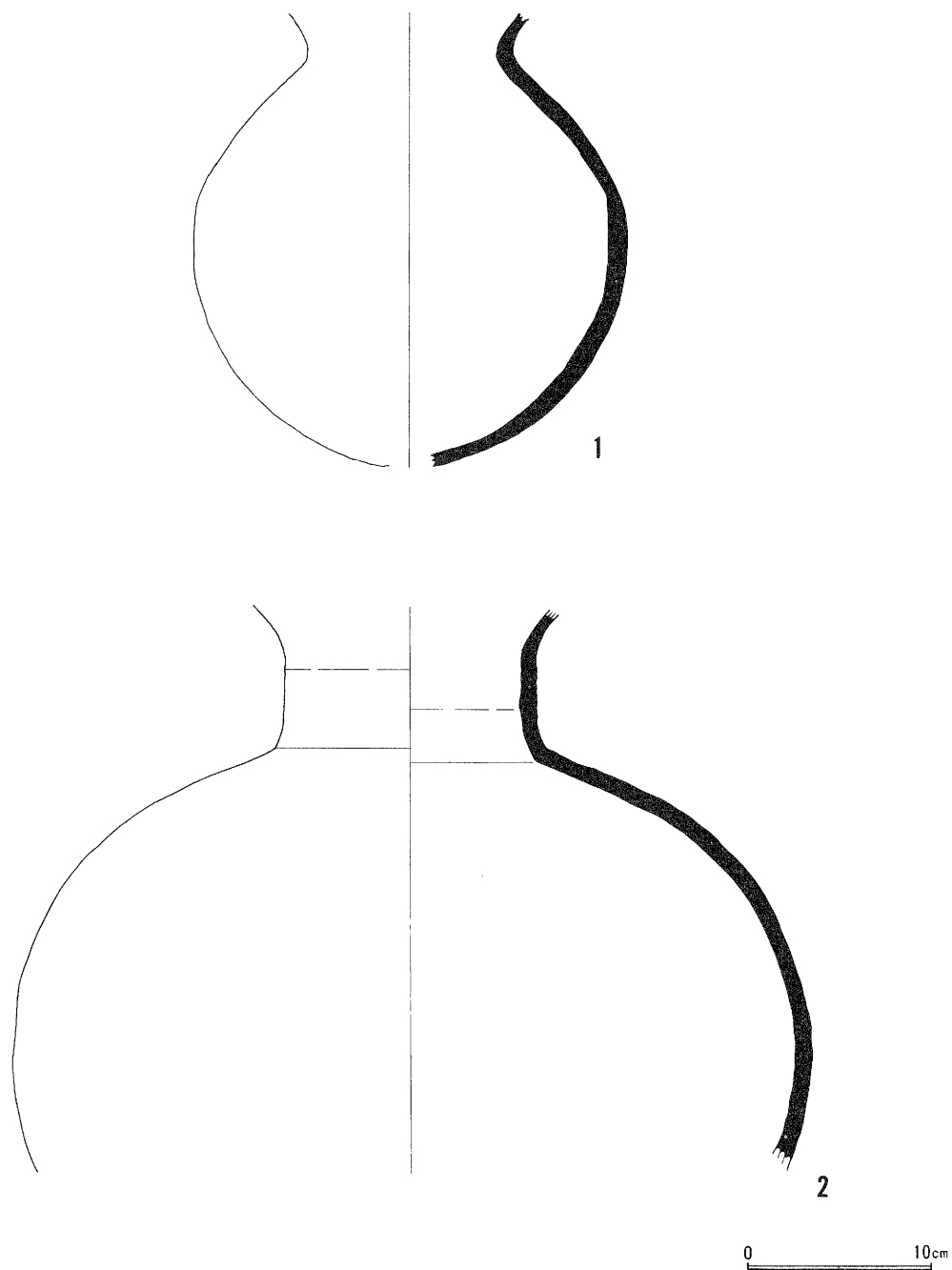
No.	分 類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備 考
35	有孔円盤	1.6	1.8	0.2	完形？



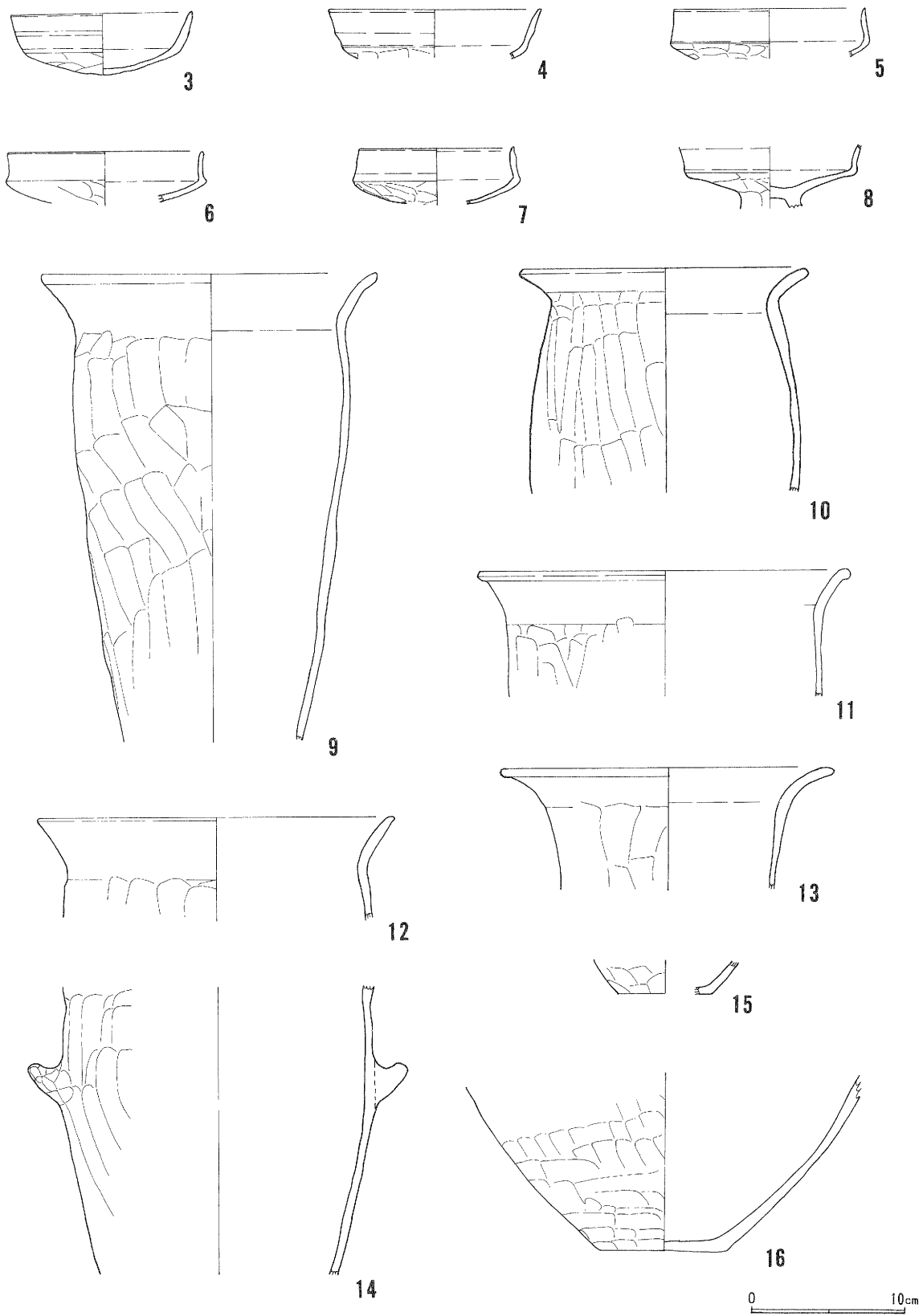
第51図 第2号竖穴住居跡

柱穴は2つ検出されたが、付随するものかどうかは不明である。

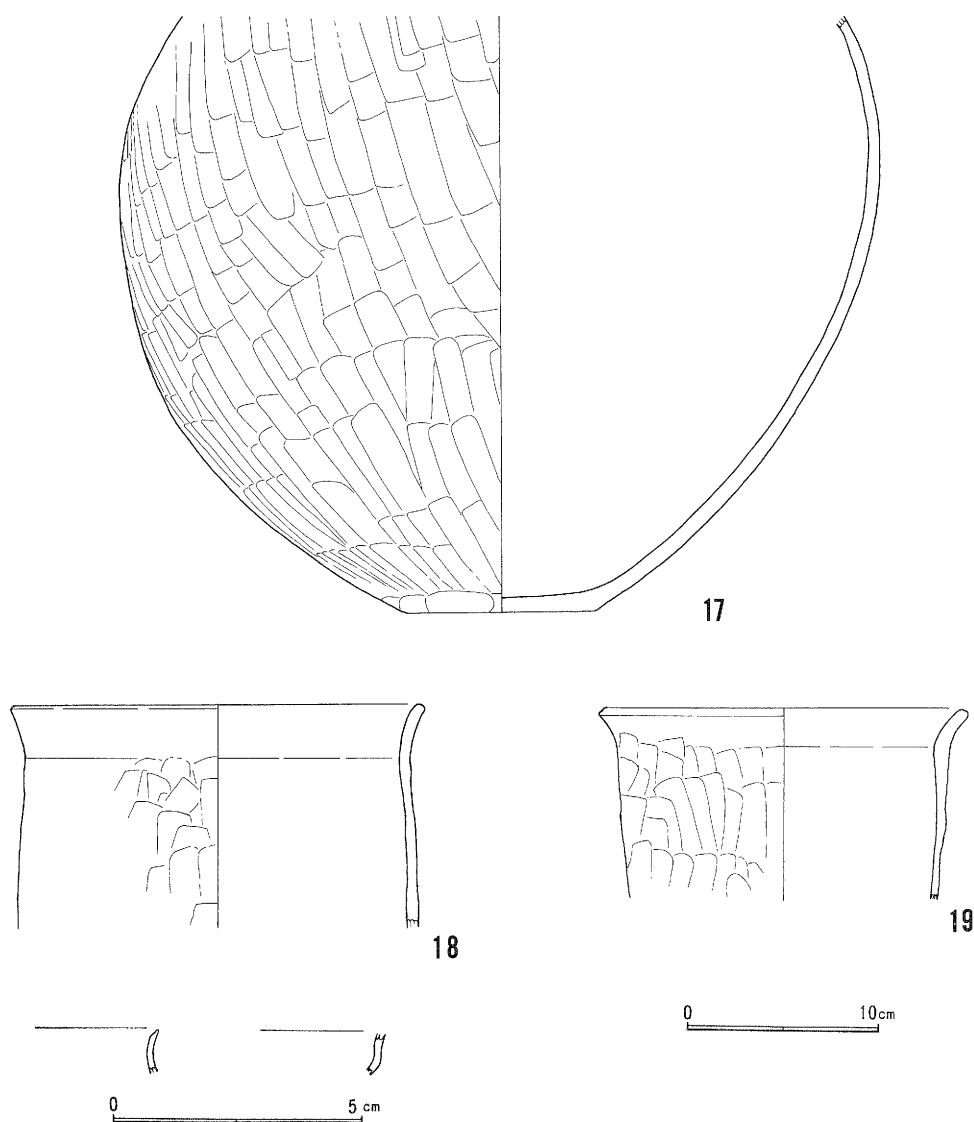
出土遺物は、須恵器甕、土師器坏・高坏・甕・甑などがカマド周辺を中心に出土している（第52～54図）。



第52図 第2号竪穴住居跡出土遺物（1）



第53図 第2号竖穴住居跡出土遺物 (2)



第54図 第2号竪穴住居跡出土遺物（3）

第15表 第2号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	須恵器・壺	—	25.7	—	やや粗／白色粒、黒色粒、赤色粒、長石、石英	にぶい黄褐色	良	30	
2	須恵器・甕	—	(31.8)	—	やや粗／白色粒、片岩	青灰色	良	30	
3	土師器・坏	(12.0)	4.0	—	密／砂粒、白色粒、角閃石、石英、小石	褐灰色	良	40	
4	土師器・坏	(14.0)	3.2	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石、石英、小石	赤褐色	良	25	
5	土師器・坏	(12.6)	3.3	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石	明褐色	良	20	
6	土師器・坏	(13.0)	3.3	—	密／砂粒、黒色粒、石英	にぶい橙色	良	20	
7	土師器・坏	(10.2)	3.8	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	明赤褐色	良	35	
8	土師器・高坏	—	(4.2)	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英	明赤褐色	良	75	
9	土師器・甕	(22.0)	(30.8)	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英、角閃石、小石	橙色	良	45	
10	土師器・甕	(19.0)	(14.8)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	35	
11	土師器・甕	(24.5)	(8.4)	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒、長石、小石	にぶい褐色	やや良	30	
12	土師器・甕	(23.6)	(6.8)	—	やや粗／白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母	にぶい橙色	良	25	
13	土師器・甕	(22.0)	(8.1)	—	粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英、小石	にぶい黄褐色	やや不良	15	
14	土師器・甕	—	(11.8)	8.2	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい黄褐色	やや良	100	
15	土師器・甕	—	(2.2)	(6.2)	密／砂粒、黒色粒、石英	にぶい黄褐色	良	25	
16	土師器・甕	—	(11.8)	8.2	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい黄褐色	やや良	100	
17	土師器・甕	—	(31.6)	9.8	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	にぶい黄褐色	良	80	
18	土師器・甕	(22.0)	(11.9)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	にぶい褐色	良	20	

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
19	土師器・甗	(19.6)	(10.1)	—	やや粗／白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、	にぶい橙色	良	20	
20	土師器・坏	—	—	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	赤褐色	良	—	比企型坏。
21	土師器・坏	—	—	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	赤褐色	良	—	比企型坏。

第3号住居跡（第55図）

1区W・X－2グリッドを中心に位置する。住居跡の南西部分のみが残る。住居跡の北側は調査区外となり、東側は第2号井戸跡と重複する。本住居跡が第2号井戸跡に切られている。主軸方向はほぼS－51°－Wを指している。

住居跡の大半が調査区外と他の遺構と重複しているため、平面形は把握できなかった。

床までの深さは、残存個所で40cmほどを測る。

南西壁にカマドが50cm間隔で3基確認された。東のカマド（第3号カマド）は残りが一番良く、燃焼部は50×50cmの不整形を呈しており、燃焼部が壁ラインと直行する辺りに支脚と思われる長楕円の河原石が立てられていた。燃焼部から緩やかに10cmほど上がり、煙道部となる。煙道部の長さは1.2mと長く、煙出しは垂直に立ち上がっている。

中央のカマド（第1号カマド）は、燃焼部の掘り方は50×40cmの不整形を呈するが、残りが悪い。煙道の長さは1mを測る。

西側のカマド（第2号カマド）は、燃焼部の掘り方は55×50cmの不整形を呈するが、中央のカマド同様に残りが悪い。燃焼部から煙道部へは15cmほど立ち上がる。煙道の長さは80cmであった。当然、カマドは同時使用と考えられず、造り替えを行い使用されたものと推測される。新旧関係は燃焼部の残り具合から推測して、東側のものが一番新しいと考えられる。他の2つについては、明確な新旧関係は判らなかった。

出土遺物は、カマド内及びカマド周辺から土師器坏・甗・鉢の他、石製の紡錘車が出土している（第56～58図）。

第4号住居跡（第59図）

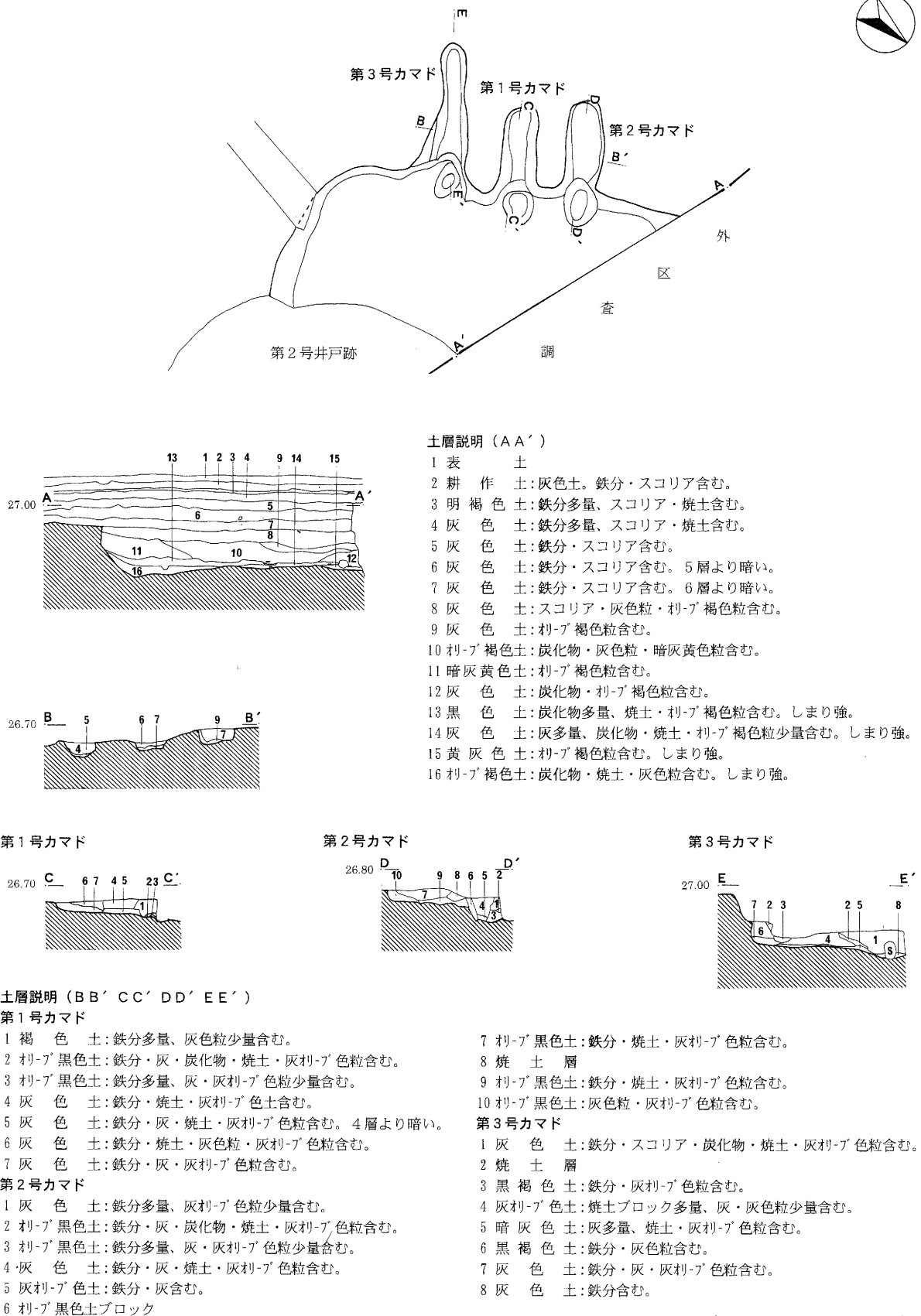
1区Z－9グリッドを中心に位置する。住居跡の北側部分は攪乱により破壊され、正確な規模は把握できなかった。

住居跡の規模は長軸3.6m、短軸3.1mの歪みの著しい長方形を呈している。主軸の方向はN－51°－Eを指す。

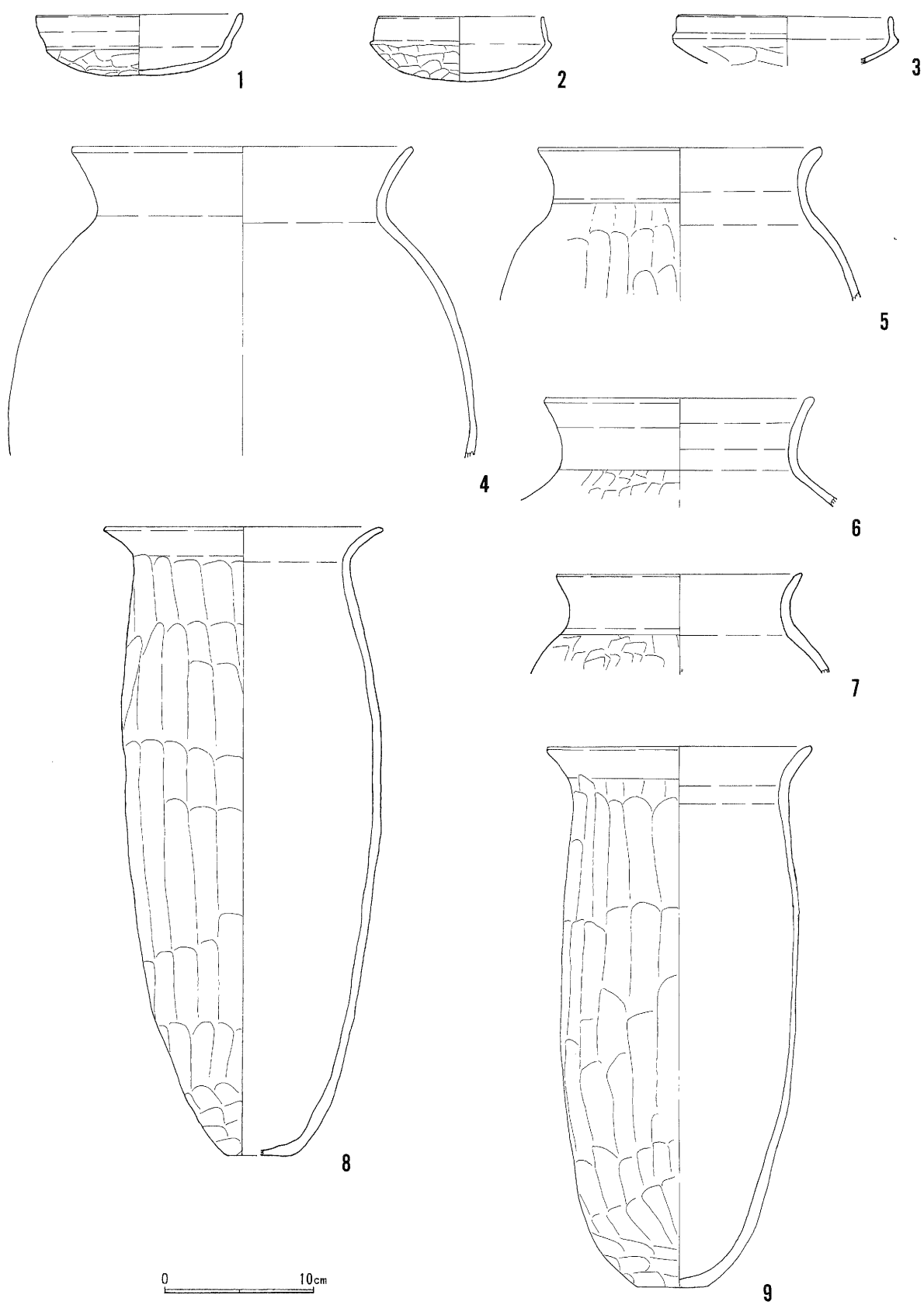
カマドは北東壁に設けられている。長さおよそ80cm、燃焼部幅45cm、住居跡の床面とカマドの火床面の境はメリハリがなく不鮮明であった。

柱穴、壁溝などの遺構は確認できなかった。

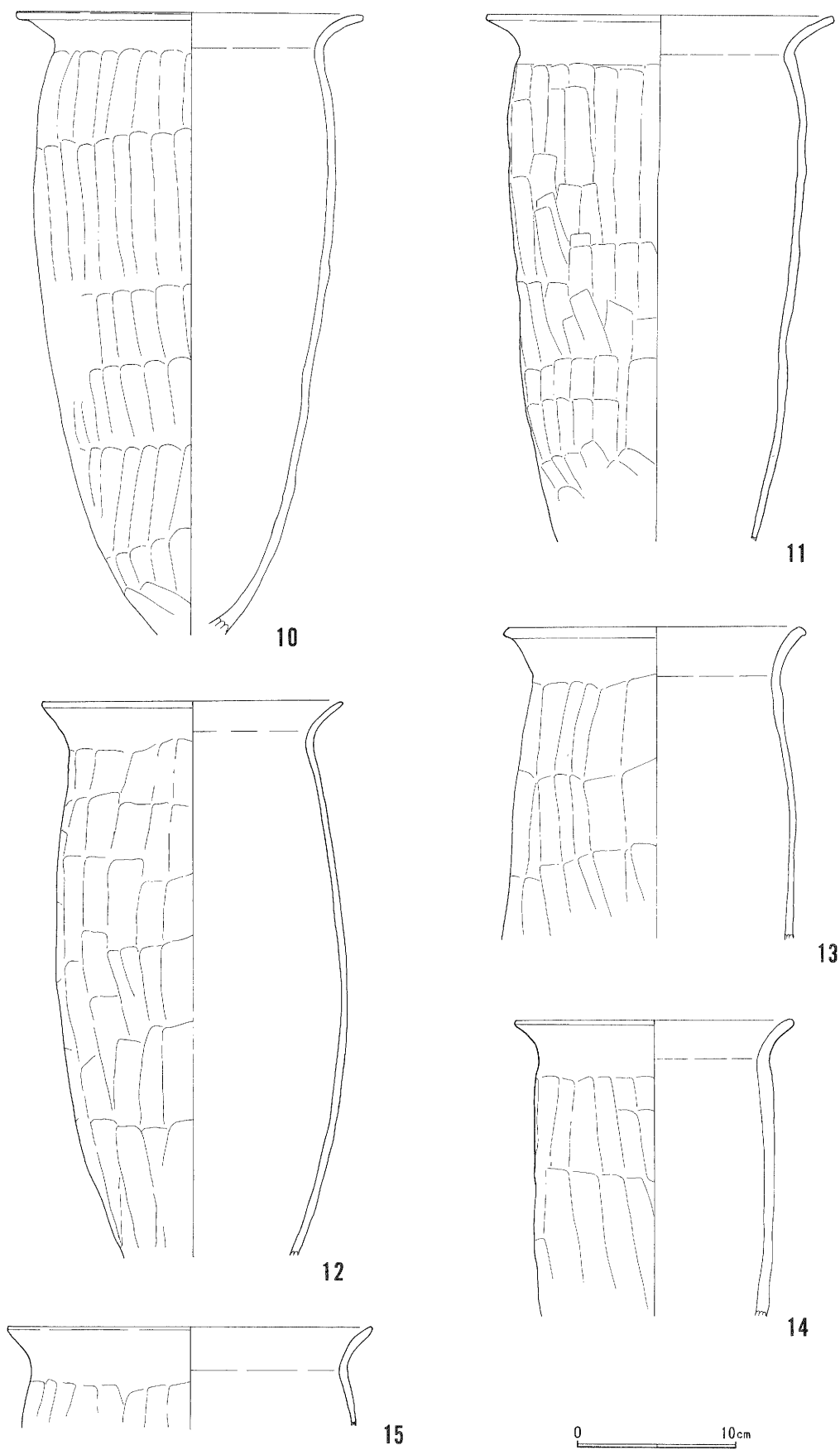
出土遺物は土師器坏・高坏・甗などが床面から確認された（第60図）。



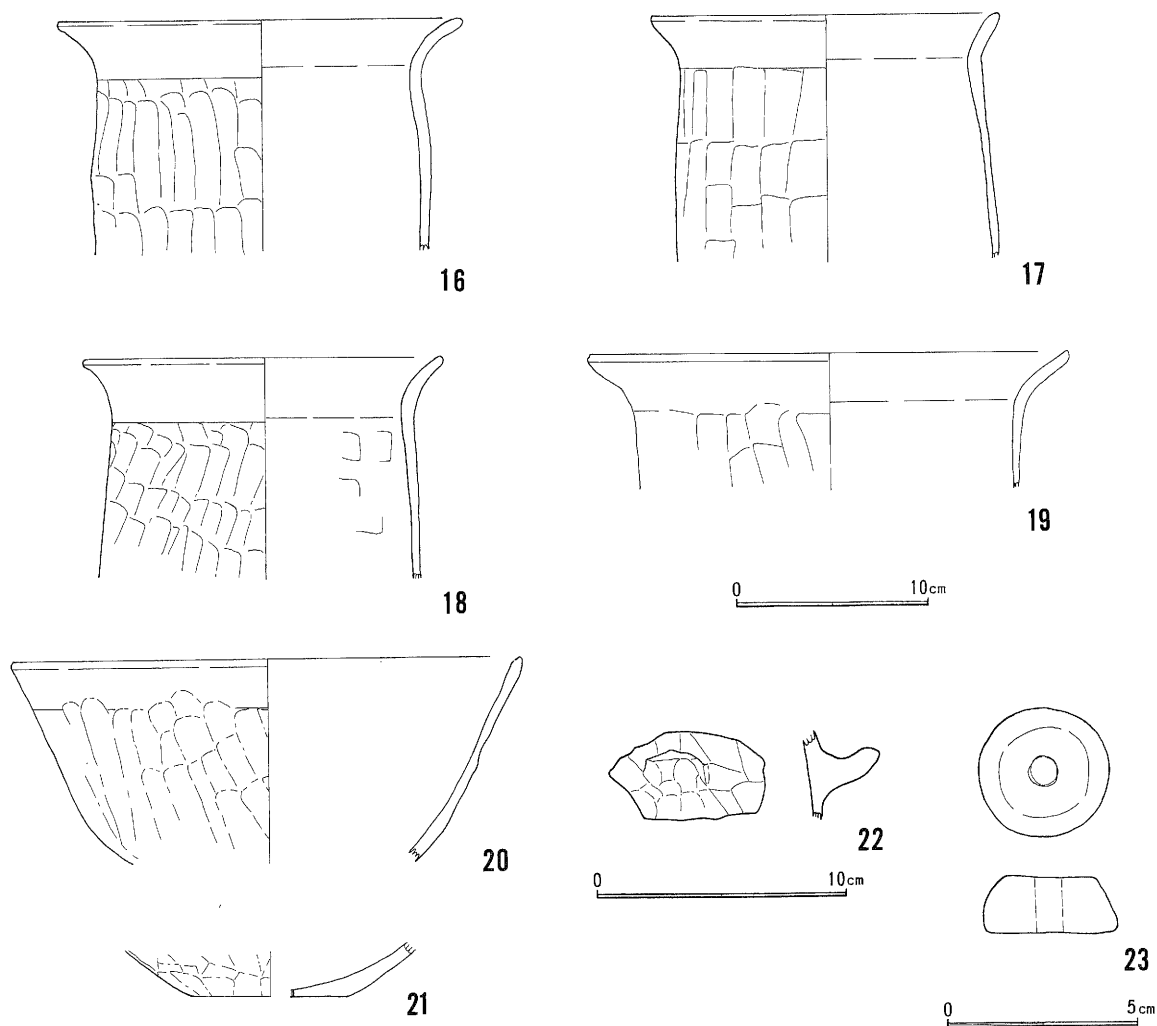
第55図 第3号竪穴住居跡



第56図 第3号竪穴住居跡出土遺物 (1)



第57図 第3号竪穴住居跡出土遺物 (2)



第58図 第3号竪穴住居跡出土遺物（3）

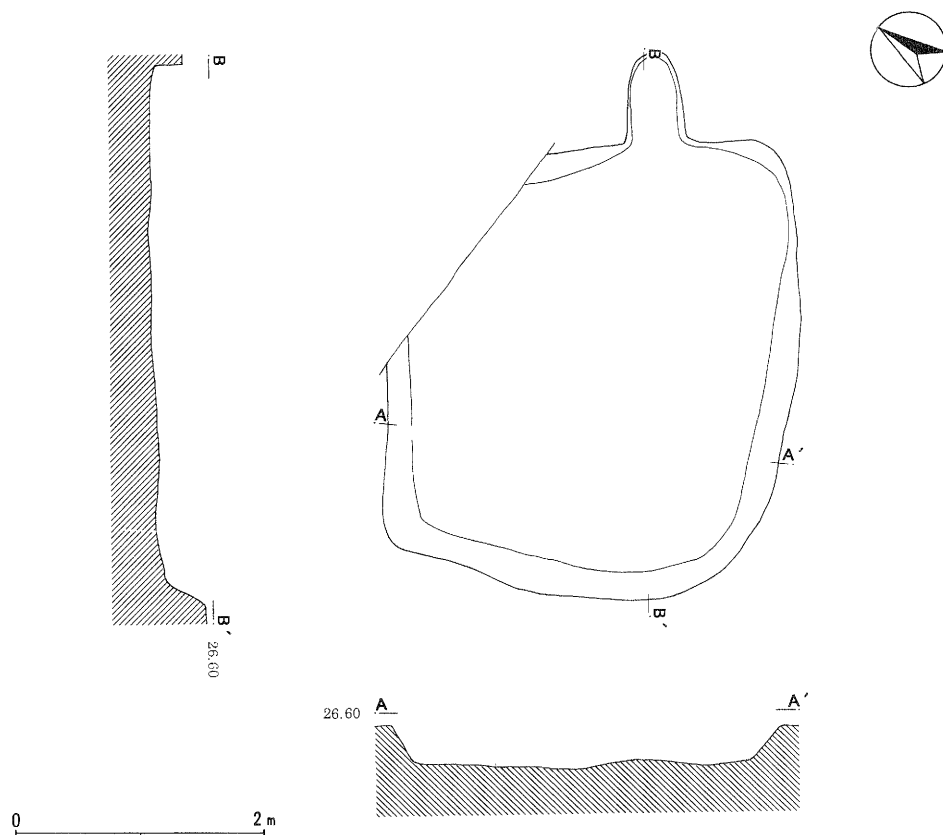
第16表 第3号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	土師器・坏	(14.2)	4.1	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、	橙色	良	20	
2	土師器・坏	11.2	4.4	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英、小石	橙色	やや良	85	
3	土師器・坏	(14.6)	2.0	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	明赤褐色	良	20	
4	土師器・甕	(23.2)	(21.3)	—	粗／砂粒、白色粒、赤色粒、小石	浅黄橙色	良	25	
5	土師器・甕	19.4	(10.7)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石	灰黄色	やや良	75	
6	土師器・甕	(18.4)	(7.5)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい黄橙	良	40	
7	土師器・甕	(16.8)	(6.8)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、石英、小石	黒褐色	良	45	
8	土師器・甕	19.0	43.0	(4.5)	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、石英、小石	にぶい黄橙	良	70	
9	土師器・甕	18.2	37.0	4.9	粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英	にぶい黄橙	やや良	100	
10	土師器・甕	22.0	(39.9)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石	褐灰色	良	50	
11	土師器・甕	22.2	(33.6)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英、小石	褐灰色	良	80	
12	土師器・甕	19.2	(35.6)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石	橙色	やや良	90	
13	土師器・甕	19.2	(19.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい橙色	良	100	
14	土師器・甕	(17.8)	(19.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	灰黄褐色	やや良	40	
15	土師器・甕	(23.4)	(6.5)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	浅黄橙色	良	30	
16	土師器・甕	(21.4)	(12.4)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英、小石	浅黄橙色	やや不良	30	
17	土師器・甕	18.4	(13.1)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい橙色	良	60	
18	土師器・甕	(19.0)	(11.8)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、石英、小石	灰黄色	良	80	
19	土師器・甕	(25.4)	(7.2)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	橙色	やや不良	20	
20	土師器・甕	(27.0)	(10.8)	—	粗／砂粒、石英、小石	赤橙色	良	35	

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
21	土師器・鉢	—	(2.9)	(8.4)	粗／砂粒、石英、小石	赤褐色	良	40	
20	土師器・甕	—	—	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい黄褐色	やや不良	—	

第16表 第3号竖穴住居跡出土石製品観察表

No.	分 類	径 (cm)	孔径 (cm)	厚 (cm)	備 考
23	紡錘車	3.4	0.8	2.1	完形。



第59図 第4号竖穴住居跡

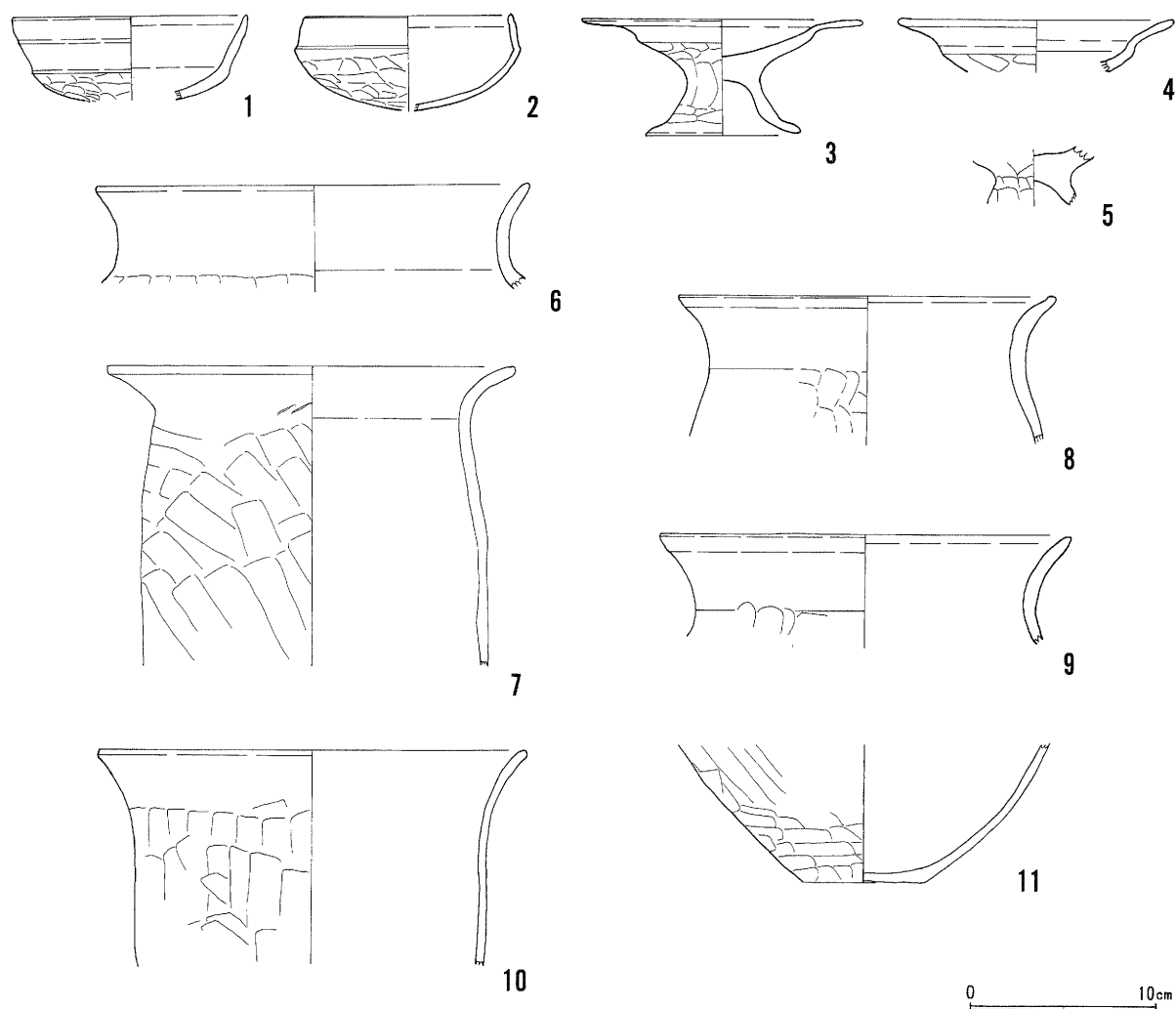
第 主居跡（第61図）

1区L・M-5・6グリッドに位置する。第1号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は把握できなかった。加えて、掘立柱建物跡の確認のために削平が著しく、住居跡のプランは不鮮明であった。

軸長はおよそ長軸5.16m、短軸4.45mの長方形を呈し、面積はおよそ22.96㎡を測る。主軸方向はN-38°-Wを指す。

確認面からの深さはほとんどなく、1cmから精々2cmと極めて浅い。

カマドは北西壁のやや北寄りに位置する。袖は住居内に地山を50cmほど掘り残して作られている。カ



第60図 第4号竪穴住居跡出土遺物

第18表 第4号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・坏	(12.8)	(4.6)	—	やや粗／白色粒、白色粒、黒色粒、角閃石、石英	明赤褐色	良	40	
2	土師器・坏	(11.2)	(5.2)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、小石	橙色	良	20	
3	土師器・高坏	(15.2)	6.3	8.4	密／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英、小石	橙色	良	70	
4	土師器・坏	(15.0)	(2.9)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、角閃石	明赤褐色	良	20	
5	土師器・高坏	—	(3.2)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、小石	橙色	良	90	
6	土師器・甕	(23.4)	(5.9)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄色	良	30	
7	土師器・甕	22.0	(16.3)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	褐灰色	良	90	
8	土師器・甕	(20.4)	(8.1)	—	粗／白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	橙色	やや良	20	
9	土師器・甕	(22.3)	(6.1)	—	粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、小石	明黄褐色	良	20	
10	土師器・甕	(23.2)	(11.7)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい橙色	良	20	
11	土師器・甕	—	(7.6)	6.5	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	橙色	良	100	

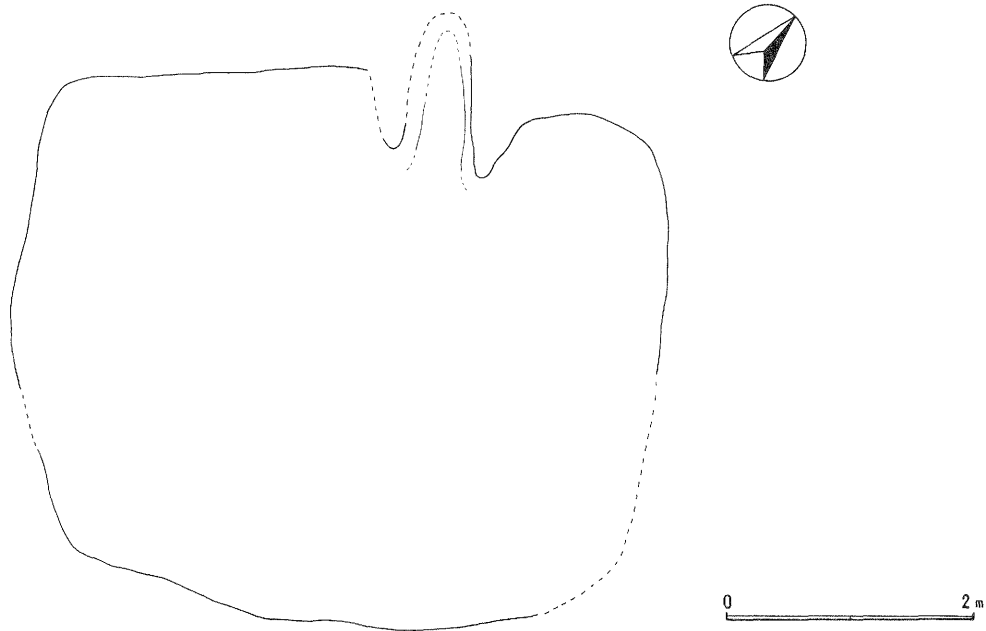
マドの全長はおよそ130cm、燃焼部の幅はおよそ60cm、煙道部の幅も比較的幅広く作られている。

住居跡内の壁溝、柱穴、貯蔵穴などは一切確認できなかった。

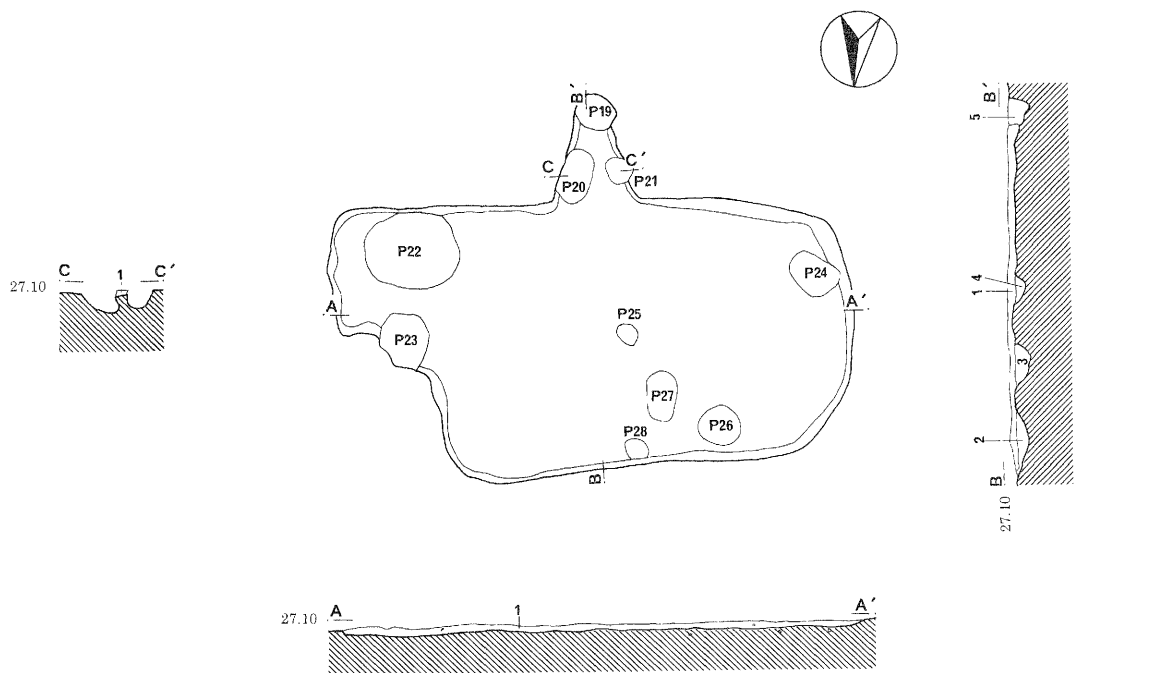
出土遺物も僅かに土師器の破片があったのみで、図化するに至らなかった。

第6号住居跡（第62図）

1区L・M-4グリッドに位置する。住居跡の東側がえぐれた状態になっているが、他の遺構との重



第61図 第5号竪穴住居跡



土層説明 (A A' B B' C C')

- 1 黒 褐 色 土: 礫・スコリア・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 2 暗赤-ブ 褐色土: スコリア・灰色粒・赤-ブ 褐色粒含む。
- 3 暗赤-ブ 褐色土: スコリア・焼土・灰色粒・黒褐色粒含む。
- 4 暗赤-ブ 褐色土: 灰色粒・黒褐色粒含む。
- 5 黒 褐 色 土: スコリア・炭化物・焼土・灰色粒含む。

第62図 第6号竪穴住居跡

複によるものではなく、本住居跡に付随する張り出し部である。至る所でピットと重複関係にあり、新旧関係は様々である。

軸長は長軸4.1m、短軸2.15mの長方形を呈し、面積は約7.3m²と非常に小さな住居跡であった。主軸方向はS-5°-Eを指す。

確認面からの深さは5~10cmと非常に浅い。

カマドは南壁に設けられている。カマドの現長は90cm、幅50cmを測る。袖部は破壊され明確な形は確認できなかった。煙道は、現在のカマドの残存する先端から立ち上がったものと推定される。

遺物は土師器坏の破片などがわずかに確認されたが、図化できるものはなかった。

第7号住居跡（第63図）

2区R~T-18・19グリッドに位置する。住居跡の北側と南側が発掘調査区域外となっている。さらに北側の一部が攪乱により破壊されている。

軸長は長軸6.1m、短軸5.95mのほぼ方形を呈し、面積はおよそ36.30m²を測り、比較的大形の住居跡である。主軸の方向はN-52°-Eを指す。

確認面からの深さは30cm前後で、床は多少凹凸があった。カマドのある北東壁より径10cmほどのピットが二つ、南西壁より径10cm、20cm、50cmのピットが確認された。柱穴の可能性が考えられる。カマドの脇には径70×80cmの土坑が確認されたが、貯蔵穴の可能性が考えられる。

カマドは北東壁の南寄りに設けられていた。燃烧部の大半が住居壁の外に位置し、煙道部との境は明確でなく、漸移的に移行している。カマドの全長は185cm、燃烧部の幅が70cm、煙道の先端付近の幅が30cmであった。

遺物は比較的豊富で、土師器坏・甕・鉢、土錘などが確認されている（第64・65図）。

第9号住居跡（第66図）

2区U・V-18・19グリッドに位置する。住居跡の大半が調査区域外となっており、正確な規模は把握できなかった。

確認された壁は2辺のみで、検出長は南壁が3.65m、西壁が3.3mであった。深さは15cm前後と浅い。

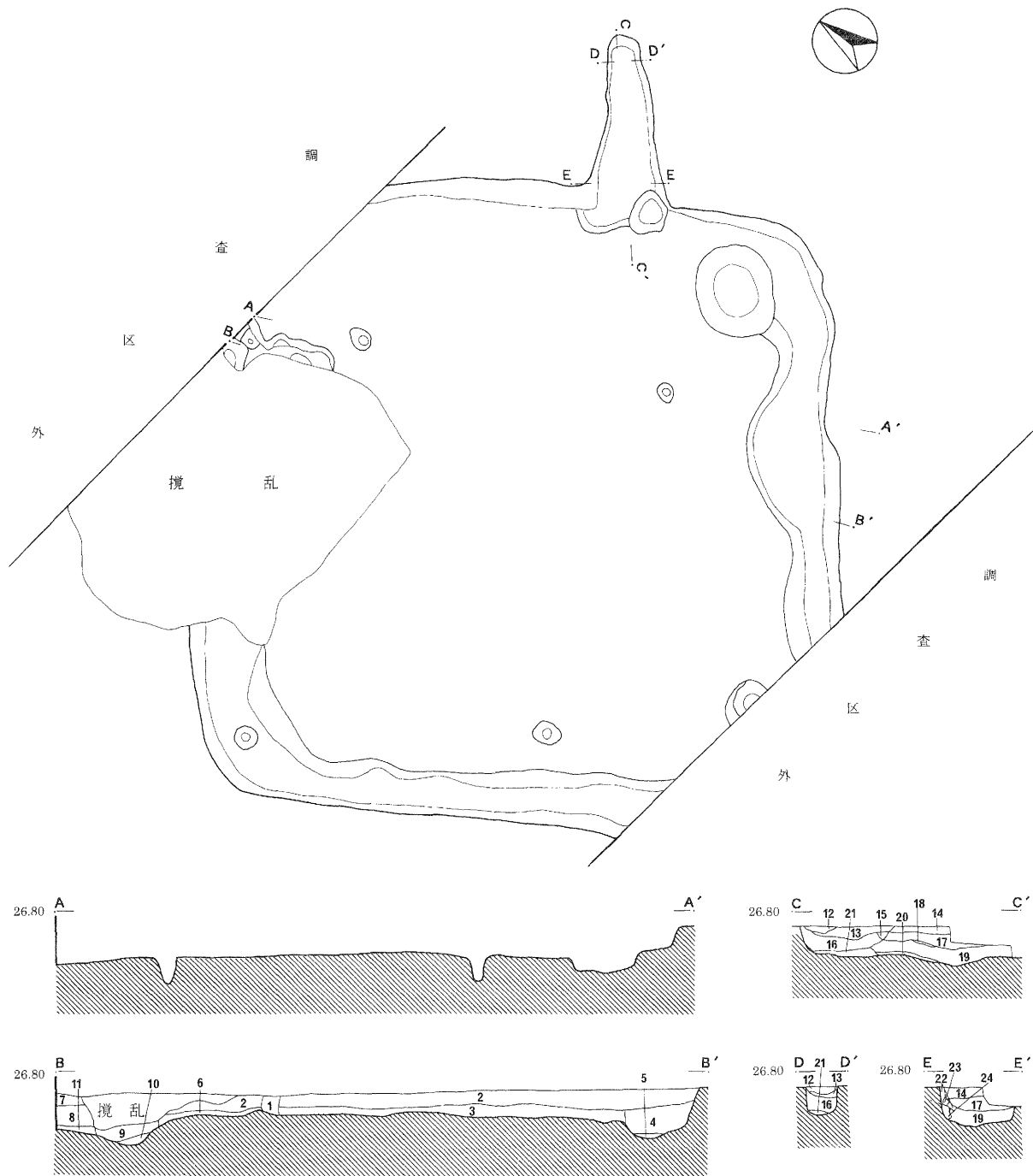
カマド、柱穴、壁溝などの施設は確認できなかった。

出土遺物は、住居跡の西側に床から15cmほど浮いた状態で礫が集中して確認された。土器類は極めて少なく、土師器甕の底部破片と孔のある石製玉類がわずかに確認された。

第10号住居跡（第67図）

3区B'-23グリッドに位置する。第12号住居跡に北側コーナーが切られている。

長軸3.17m、短軸3.04mで、南北に長い菱形の形状を呈している。面積は推定で9.5m²である。主軸方



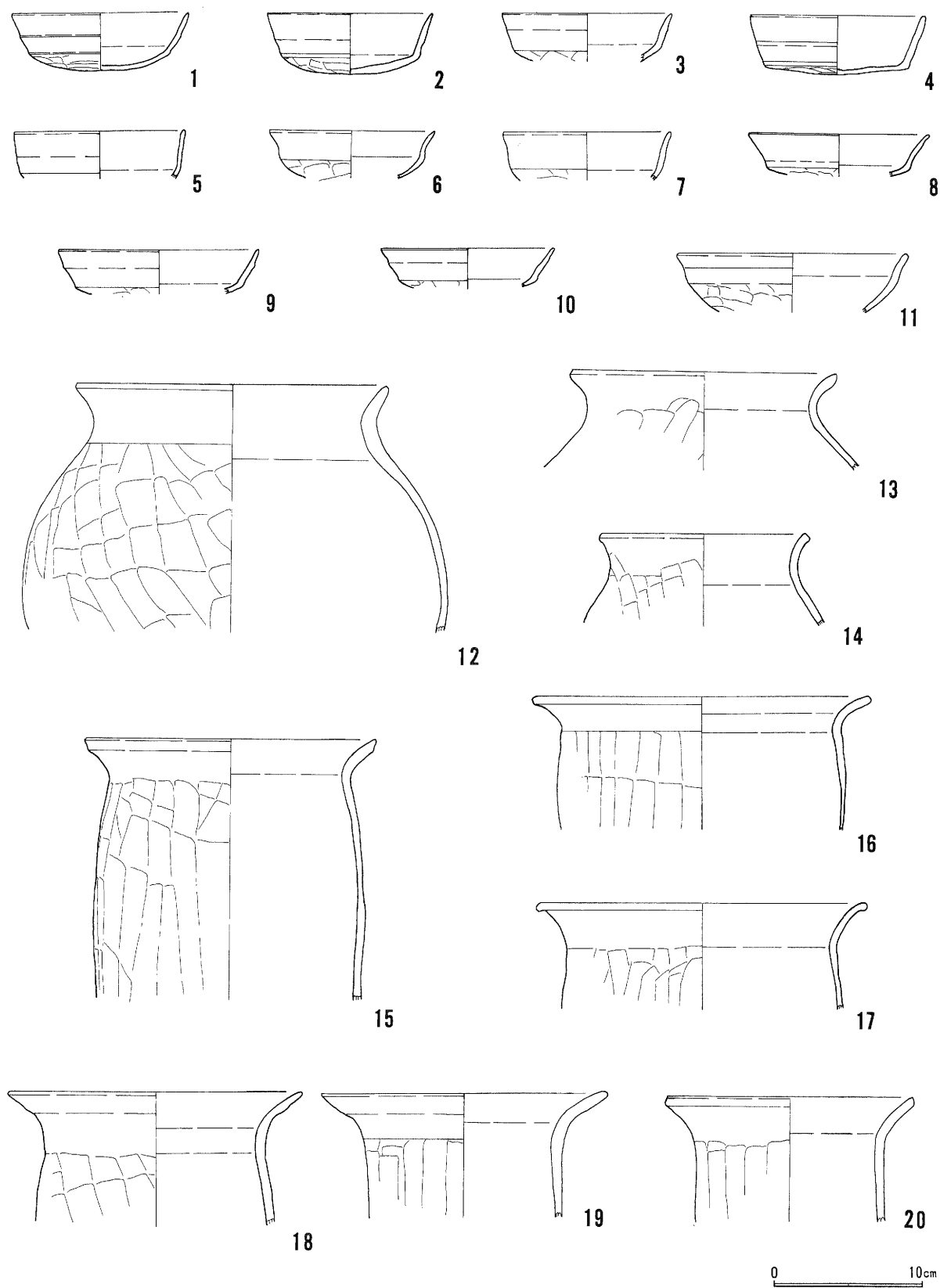
土層説明 (BB' CC' DD' EE')

- 1 黒褐色土: 焼土含む。
- 2 黒褐色土: 礫・炭化物・焼土・灰色粒・オリーブ褐色粒・ブロック含む。
- 3 黄灰色土: 鉄分・礫・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 4 黄灰色土: 鉄分・砂礫・焼土・灰色粒含む。2層より明るい。粘性有。
- 5 暗灰黄色土: 鉄分・砂・灰色粒含む。粘性有。
- 6 黒褐色土: 鉄分・炭化物・焼土・灰色粒・暗灰黄色粒含む。
- 7 黒褐色土: オリーブ褐色粒含む。
- 8 黒褐色土: 焼土・灰色粒含む。
- 9 黒褐色土: 砂含む。粘性有。
- 10 黒褐色土: 灰色粒含む。9層より暗い。粘性有。
- 11 黒褐色土: 灰色粒含む。粘性有。
- 12 暗灰黄色土: 焼土多量含む。

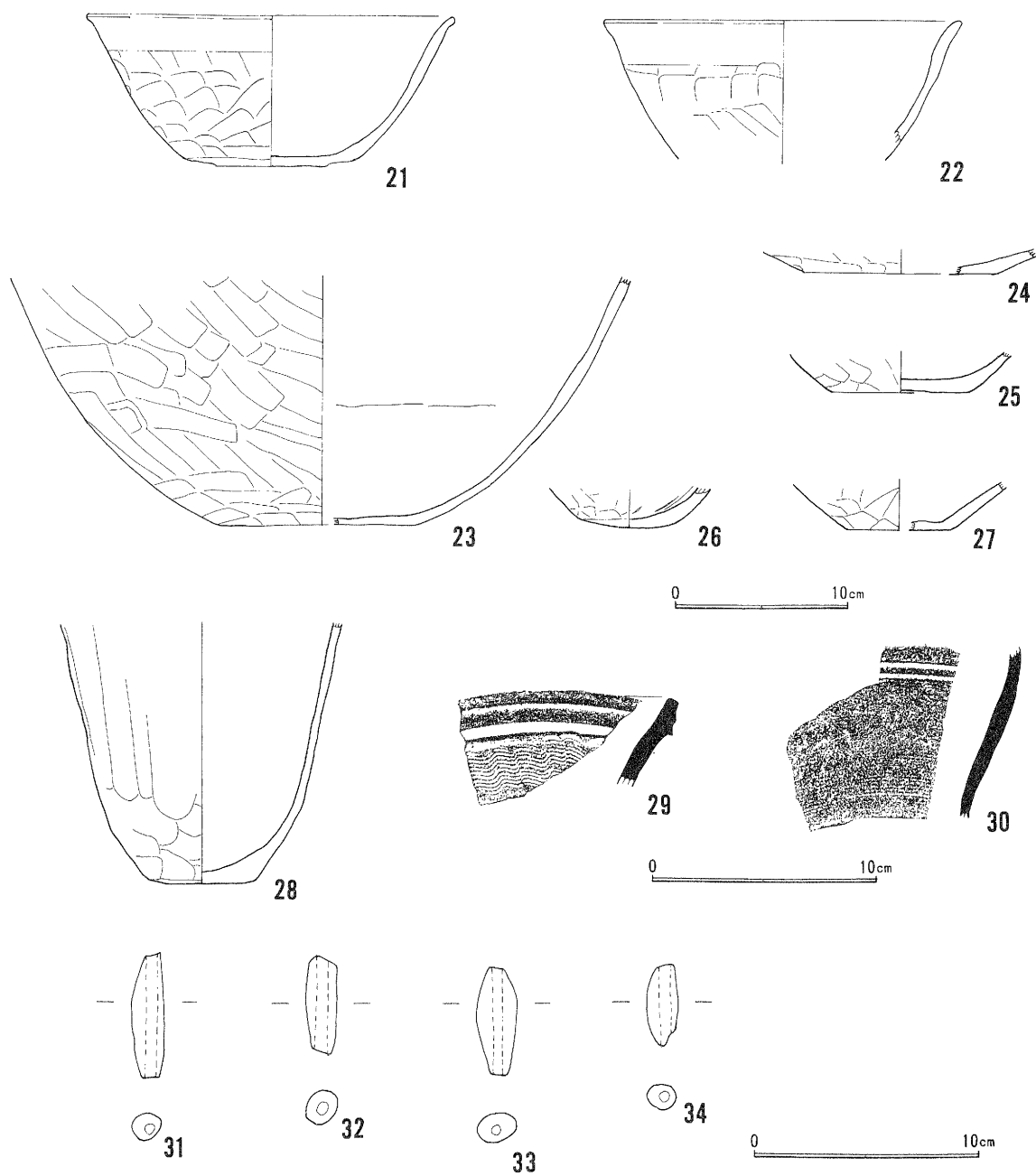
- 13 暗灰黄色土: 焼土含む。
- 14 黒褐色土: スコリア・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 15 暗灰黄色土: 炭化物・焼土含む。
- 16 黒褐色土: 炭化物・焼土含む。
- 17 黒褐色土: スコリア・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 18 黒褐色土: 炭化物多量・焼土少量含む。
- 19 黒褐色土: 焼土・灰色粒含む。
- 20 黒褐色土: 炭化物・焼土含む。
- 21 黒褐色土: 焼土・オリーブ褐色粒含む。
- 22 焼土壁・焼土ブロック
- 23 オリーブ褐色土: 砂含む。
- 24 黒褐色土: 焼土含む。

0 2 m

第63図 第7号竪穴住居跡



第64図 第7号竪穴住居跡出土遺物 (1)



第65図 第7号竪穴住居跡出土遺物（2）

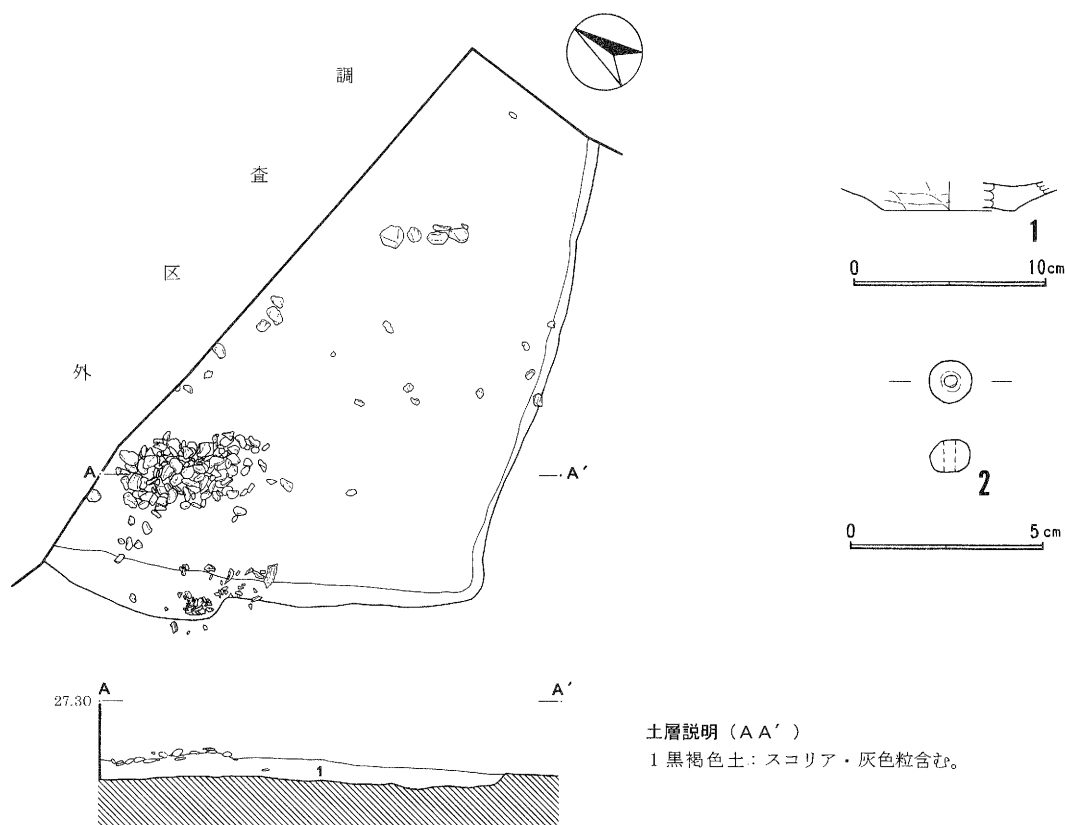
第19表 第7号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・坏	12.0	3.9	—	密／砂粒、白色粒、黑色粒、石英、小石	灰白色	良	50	
2	土師器・坏	(11.2)	4.1	—	密／砂粒、白色粒、黑色粒、石英	灰褐色	良	30	
3	土師器・坏	(11.6)	(3.2)	—	密／砂粒、黑色粒、赤色粒、角閃石	橙色	良	20	
4	土師器・坏	(12.0)	4.0	—	密／砂粒、白色粒、黑色粒、赤色粒、角閃石、小石	褐灰色	良	40	
5	土師器・坏	(11.6)	(3.2)	—	密／砂粒、黑色粒、赤色粒、石英	浅黄橙色	良	20	
6	土師器・坏	(11.2)	(3.2)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黑色粒、角閃石、石英	明赤褐色	良	20	
7	土師器・坏	(11.4)	(3.3)	—	密／砂粒、白色粒、赤色粒、石英、小石	にぶい赤褐色	良	15	
8	土師器・坏	(12.4)	(2.8)	—	密／砂粒、白色粒、赤色粒、角閃石、小石	橙色	やや良	15	
9	土師器・坏	(13.6)	(3.0)	—	密／砂粒、赤色粒、石英	橙色	良	10	
10	土師器・坏	(11.8)	(2.6)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黑色粒	にぶい橙色	良	20	
11	土師器・坏	(15.8)	(4.0)	—	粗／砂粒、白色粒、赤色粒、小石	黒褐色	良	20	
12	土師器・甕	21.2	(16.8)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黑色粒、赤色粒	にぶい橙色	良	100	
13	土師器・甕	(18.0)	(6.5)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黑色粒、石英、小石	明褐色	良	45	

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
14	土師器・甕	(14.2)	(6.3)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	明赤褐色	良	25	
15	土師器・甕	19.6	(17.7)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	灰黄褐色	良	100	
16	土師器・甕	(23.0)	(9.1)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、小石	褐灰色	良	30	
17	土師器・甕	(22.4)	(7.2)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、黒雲母、小石	橙色	良	20	
18	土師器・甕	(20.0)	(9.1)	—	密／砂粒、白色粒、赤色粒、角閃石、石英	橙色	良	20	
19	土師器・甕	(19.2)	(8.5)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石、小石	橙色	良	20	
20	土師器・甕	(16.9)	(8.5)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	浅黄褐色	良	20	
21	土師器・鉢	21.6	8.9	6.4	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄褐色	良	90	
22	土師器・鉢	21.0	(8.4)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	灰褐色	良	70	
23	土師器・甕	—	(14.6)	11.4	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石、小石	浅黄褐色	良	90	
24	土師器・甕	—	(1.5)	(11.4)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄褐色	良	25	
25	土師器・甕	—	(2.4)	8.0	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	灰黄褐色	良	70	
26	土師器・甕	—	(2.3)	5.6	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	褐灰色	良	60	
27	土師器・甕	—	(3.0)	(6.0)	やや粗／砂粒、白色粒、石英、小石	橙色	良	35	
28	土師器・甕	—	(15.3)	6.2	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	灰褐色	良	80	
29	土師器・甕	—	—	—	やや粗／白色粒、片岩	灰色	良	—	末野産。
30	土師器・甕	—	—	—	密／白色粒、片岩	青灰色	良	—	末野産。

第20表 第7号竖穴住居跡出土土製品観察表

No.	分 類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備 考
31	土 錘	5.5	1.4	1.2	完形。
32	土 錘	4.2	1.4	1.5	完形。
33	土 錘	4.6	1.8	1.8	完形。
34	土 錘	3.5	1.4	1.2	ほぼ完形。



第66図 第9号竖穴住居跡・出土遺物

第21表 第9号竖穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・甕	—	(1.5)	(6.8)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	褐灰色	良	20	

第22表 第9号竖穴住居跡出土石製品観察表

No.	分 類	径(cm)	孔径(cm)	厚(cm)	備 考
2	丸 玉	1.1	0.3	0.9	完形。



第10号竪穴住居跡

土層説明 (CC' DD')

- 1 灰オリブ色土:炭化物・焼土含む。
- 2 褐灰色土:1層より粘性有。
- 3 褐灰色土:2層よりしまり・粘性強。

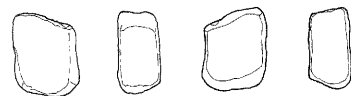
第12号竪穴住居跡

土層説明 (AA' BB')

- 1 耕作土:灰色。
- 2 耕作土:赤灰色。鉄分含む。
- 3 赤灰色土:鉄分含む。しまりやや有。粘性有。
- 4 暗赤灰色土:黒色粒含む。しまりやや有。粘性有。
- 5 褐灰色土:黒色粒含む。しまり・粘性やや有。
- 6 灰赤色土:しまり・粘性強。
- 7 褐灰色土:炭化物・黒色粒含む。しまり・粘性やや有。
- 8 褐灰色土:黒色粒含む。しまりやや有。粘性強。
- 9 灰オリブ色土:しまり・粘性強。



0 10cm



0 10cm

第67図 第10・12号竪穴住居跡・出土遺物

向はN-76°-Wを指す。

床までの深さは、確認面から10cm前後と浅い。壁溝は確認できなかった。

カマドは北東壁のほぼ中央辺りに設置されている。壁際から外に伸びたカマドの長さは120cm、幅25cmであった。壁外の部分は大半が煙道部と思われる。壁内の燃焼部と思われる辺りは焼土、灰などの分布もあまりなく明確でなく、燃焼部の範囲を確定できなかった。燃焼部と煙道との境も明瞭でなかった。

カマドの同一軸上に、2つのピットが確認できた。カマド寄りのものは径25cm、深さ10cmと浅い形状を呈している。南西壁寄りのピットは4.0×4.5cm、深さ2.5cmであった。北西壁際にも二つのピットは確認できた。北よりのピットは径20cm、深さは10cmを測る。南よりのピットは径25cm、深さ10cmを測り、両ピットとも小規模なものである。四つのピットは間の距離は、1.2m、1.3m、1.5m、1.5mを測り、間隔に多少ばらつきがあるが、柱穴と考えられる、東南壁にはピットが確認されなかったが、この際にも柱が立てられた可能性がある。

床面上には、多量の礫が散らばっており、用具としての礫と考えられるよりも、投棄されたものと推定され、住居は人為的に埋められたと推測される。

土器類は覆土中から散らばって確認されたが、いずれも小破片で図化できなかった。礫中から砥石が1点のみ検出された。

第23表 第10号竪穴住居跡出土石製品観察表

No.	分類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備	考
2	砥石	3.9	3.6	2.3	砂岩。完形。	

第11号住居跡 (第68図)

3区A'-27グリッドを中心に位置する。北西部は調査区外となっており、住居跡の全体の規模はわからない。

主軸は3.68mを測る。一方の軸は調査区外の際で、コーナーになると思われ、ほぼ方形に近い形態の住居跡と推定される。主軸方向はN-34°-Eを指す。

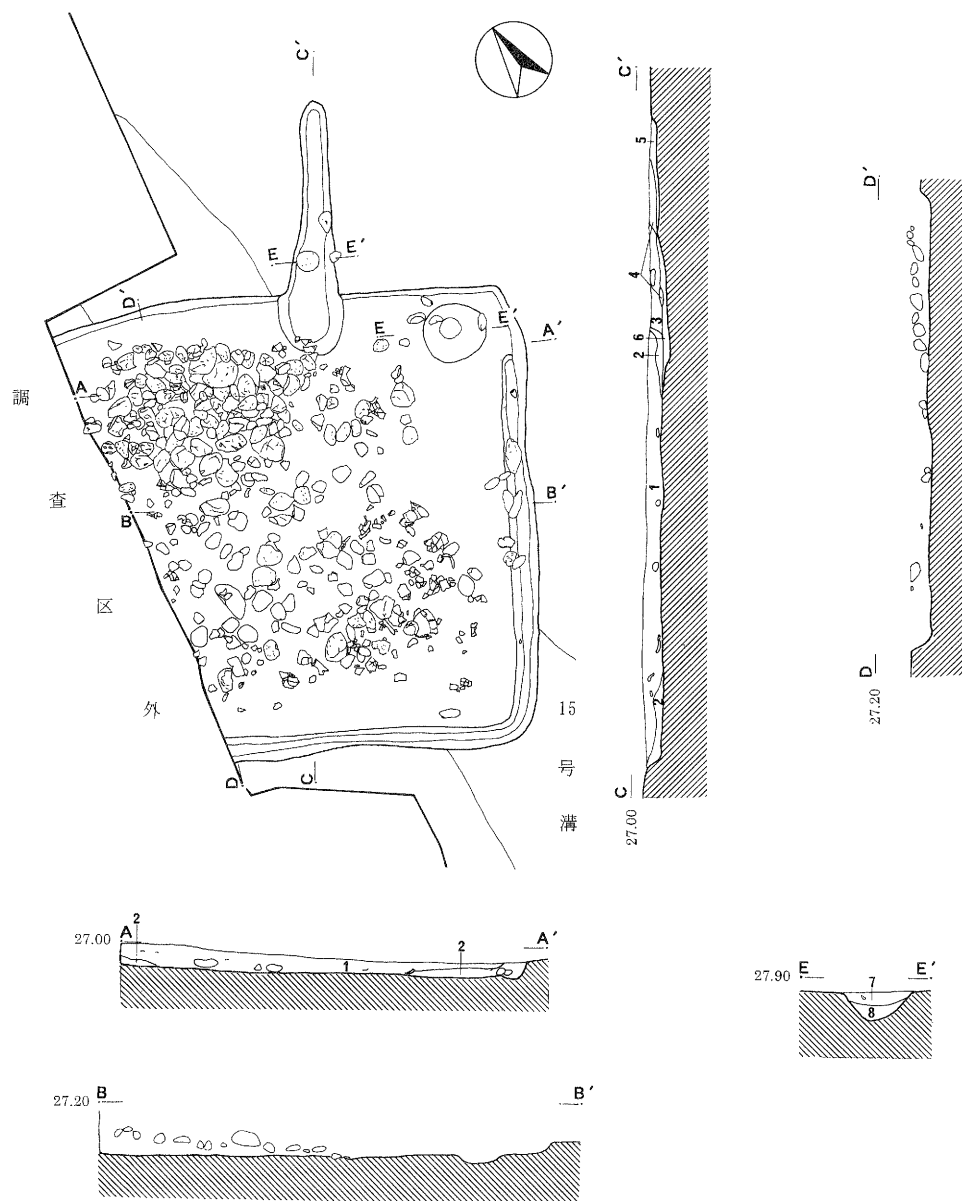
遺構確認面からの深さは10~20cmを測る。覆土は自然堆積と思われる。壁溝は北東壁と南東壁で確認でき、全周はしない。幅15~20cm、深さ5cmである。

東コーナー寄りに、50×45cm、深さ28cmの土坑が確認された。貯蔵穴と思われる。

カマドは北東壁の中央付近に設けられている。カマドの全長は202cmを測り、非常に長い。燃焼部は長さ110cm、幅48cmを測り、大半が壁の外に位置する。火床面わずかに焼土を含んだ灰層からなっている。煙道は燃焼部からわずか5cmほど立ち上がっている。煙道は長さ約90cmを測り、ほぼ平坦な形状を呈している。

柱穴は確認できなかった。

遺物は、床面上には大量の礫が散乱して検出された。土器類は床面上に散らばって出土した。いずれも破片で、土師器坏・椀・甕・甗などがみられた (第69図)。



土層説明 (AA' CC' EE')

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1 暗緑-ブ 褐色土: 礫・炭化物含む。しまり弱。 | 5 暗緑-ブ 褐色土: 礫含む。しまり有。 |
| 2 暗緑-ブ 褐色土: 礫含む。1層より明るい。しまり強。 | 6 オリ-ブ 褐色土: しまり強。 |
| 3 暗緑-ブ 褐色土: 礫微量含む。しまり強。 | 7 にぶい黄色土: 礫含む。しまり強。 |
| 4 暗緑-ブ 褐色土: 焼土含む。 | 8 暗緑-ブ 褐色土: 礫含む。しまり強。 |

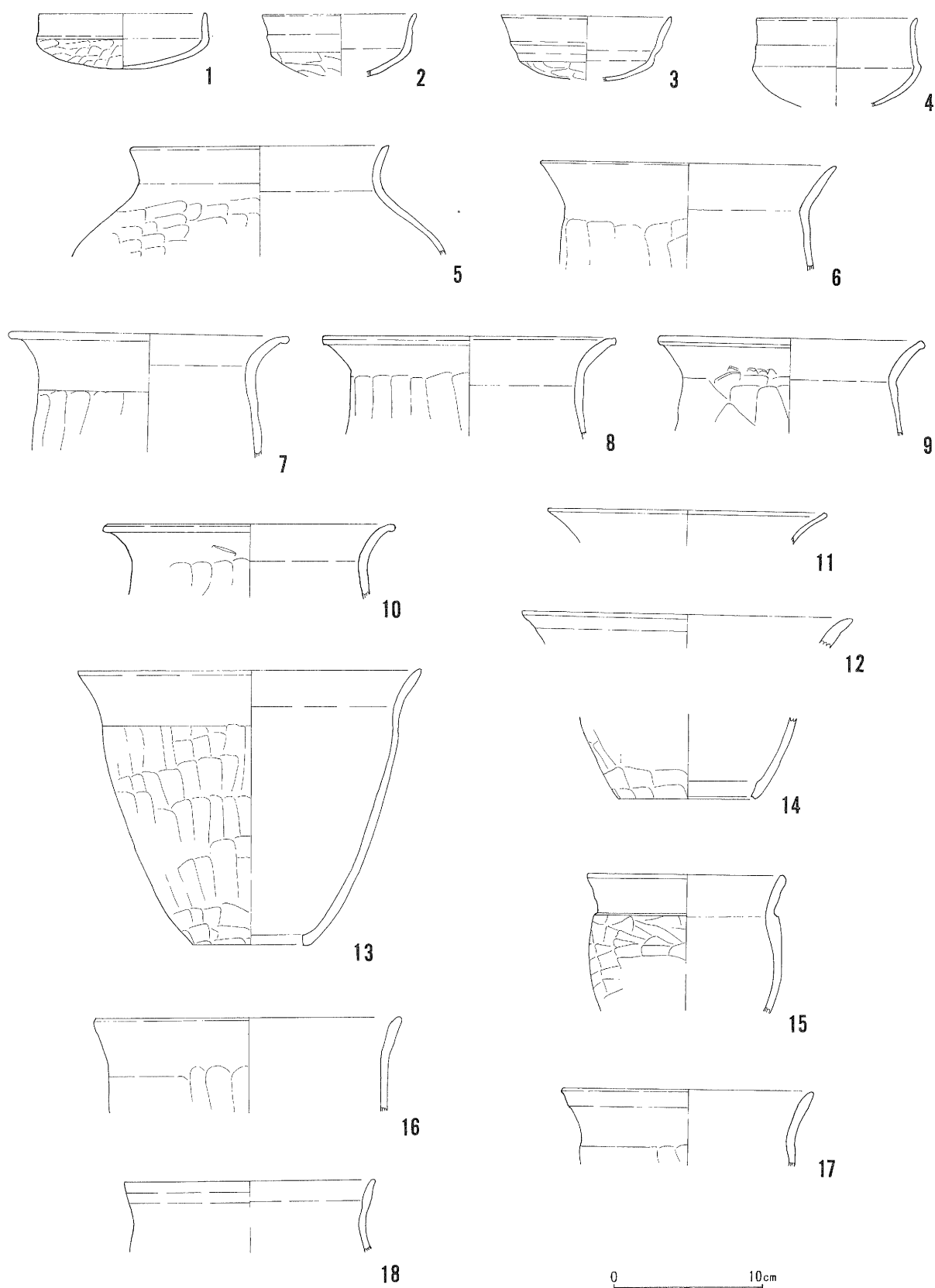
0 2 m

第68図 第11号竪穴住居跡

第12号住居跡 (第66図)

3区B'-22・23グリッドに位置する。南東部で第10号住居跡と重複するが、本住居跡の方が新しい。住居跡の西側と北側は調査区外となっており、住居跡の平面形は正確に把握できなかったが、南西コーナーが把握できており、東西軸はおよそ3.6m前後と推測される。主軸方向はおよそN-49°-Eを指す。

床までの深さは、調査区域外との境の断面から推測して、耕作土直下から40cmほどであった。床は明



第69図 第11号竪穴住居跡出土遺物

第24表 第11号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・坏	(11.4)	3.8	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	明赤褐色	良	40	
2	土師器・坏	(10.6)	(4.3)	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒	橙色	良	20	
3	土師器・坏	(11.6)	(4.4)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石	明赤褐色	良	30	
4	土師器・坏	(11.0)	(6.0)	—	やや粗／砂粒、赤色粒、角閃石	にぶい黄橙色	良	45	
5	土師器・甕	(17.6)	(7.5)	—	密／砂粒、赤色粒、小石	橙色	良	30	
6	土師器・甕	(20.2)	(7.1)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒	橙色	良	20	
7	土師器・甕	(19.0)	(8.1)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	浅黄橙色	良	20	
8	土師器・甕	20.0	(7.2)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	黒褐色	良	40	
9	土師器・甕	(18.2)	(6.5)	—	やや粗／砂粒、白色粒、赤色粒、長石	橙色	良	25	
10	土師器・甕	(20.0)	(5.1)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	橙色	良	20	
11	土師器・甕	(19.0)	(2.3)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒	橙色	良	15	
12	土師器・甕	(22.6)	(2.1)	—	密／砂粒、黒色粒、角閃石	黄橙色	良	20	
13	土師器・甕	(11.4)	19.0	—	やや粗／砂粒、白色粒、角閃石、小石	明赤褐色	良	40	
14	土師器・甕	(13.6)	(5.8)	—	密／砂粒、白色粒、赤色粒、角閃石	橙色	良	25	
15	土師器・甕	(13.6)	(9.4)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、角閃石、小石	橙色	良	20	
16	土師器・甕	(21.2)	(6.5)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、石英、長石	にぶい橙色	良	15	
17	土師器・甕	(21.2)	(5.2)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、石英、長石	灰黄褐色	良	10	
18	土師器・甕	(17.2)	(5.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	灰褐色	良	20	

確な貼り床を確認できなかった。断面から判断すると東壁際がわずかに窪んでおり、壁溝の痕跡を確認することができる。

カマドは南壁の中央に設置されている。燃焼部と煙道との境は明瞭でなく、燃焼部付近の火床面と思われる辺りに灰が堆積していた。全長は182cm、燃焼部の幅は55cmを測る。煙道部は中央付近で幅34cmを測り、幅広なメリハリのない形状を示している。南西コーナーよりに柱穴らしきピットが確認できたが断定はできない。

遺物は床面上に礫が散らばって出土した。土器は小破片で、図化できたものは土師器坏が南東コーナー際から1点出土したのみであった。

第25表 第12号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・坏	11.6	3.7	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒	明赤褐色	良	100	

第13号住居跡（第70図）

3区C'・D'—23グリッドを中心に位置する。

住居跡は、著しくゆがんでいる。主軸方向は北西壁よりで3.1m、南東壁よりで2.6mを測る。一方の軸はほぼ3.0mを測る。面積は約8.5㎡を測る。主軸方向はN—41°—Eを指す。

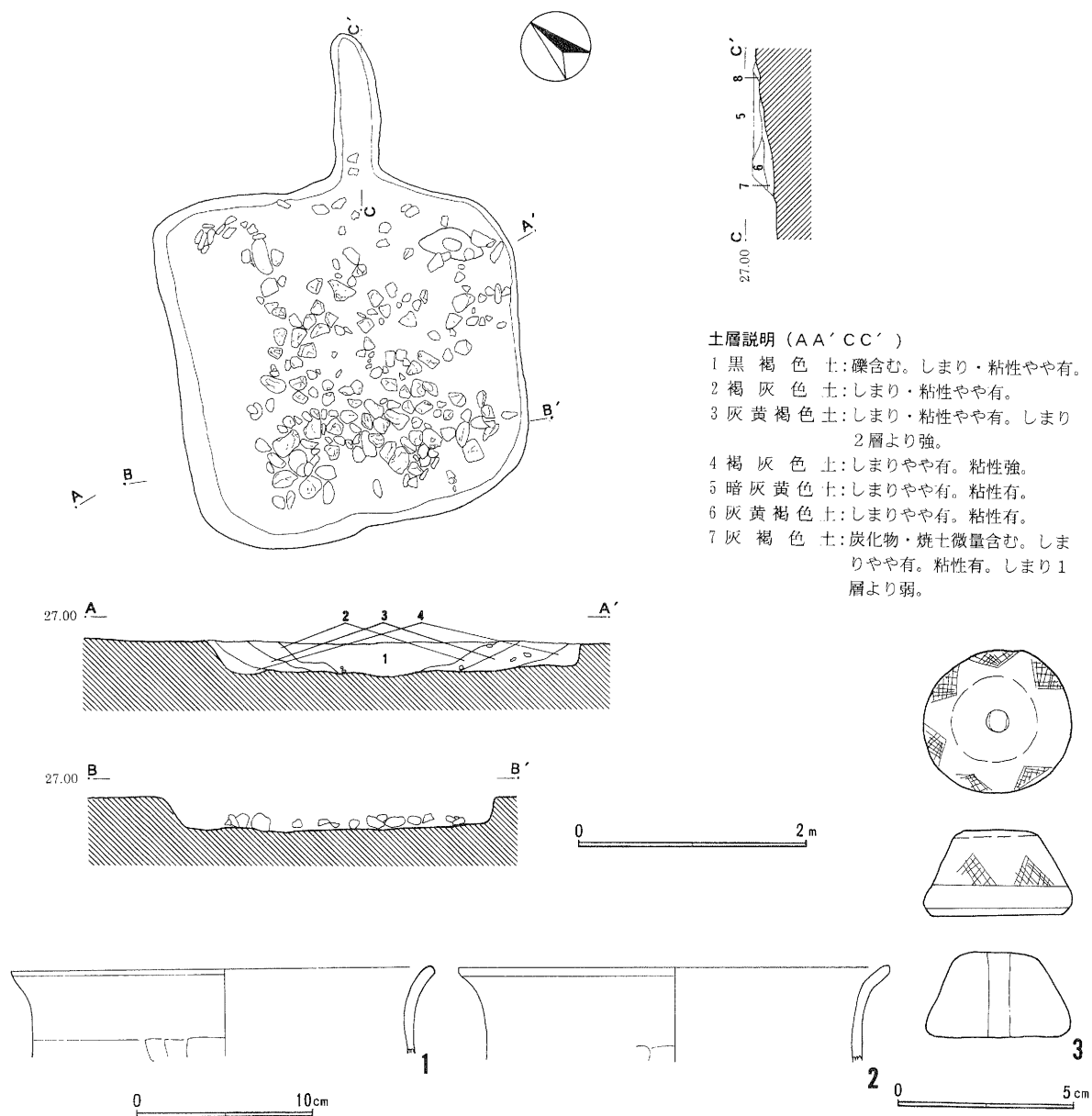
床までの深さは25cm前後、覆土は自然堆積と思われる。壁溝は確認できなかった。

カマドは北東壁のやや東よりに設置されている。住居跡の壁際より、120cmほど住居跡外に出ている。その大半は煙道と思われる。煙道の中央付近で幅20cmほどを測り、先端に行くに従い、浅くなっている。燃焼部分は壁際に設置されていたと思われるが、袖も確認できず、さらに灰や焼土の分布も明確に確認できなかった。

北東コーナー寄りに50×25cm、深さ20cmほどの小土坑が確認された。貯蔵穴の可能性も考えられる。

柱穴は確認されなかった。

第10、11、12号住居跡同様、床面上に礫が散らばっていた。その中に、土師器坏・甕の破片が確認されたが、図化できるものはわずか2点ほどであった。



第70図 第13号竪穴住居跡・出土遺物

第26表 第13号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・甗	(24.8)	(5.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	20	
2	土師器・甗	(25.0)	(5.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	橙色	良	15	

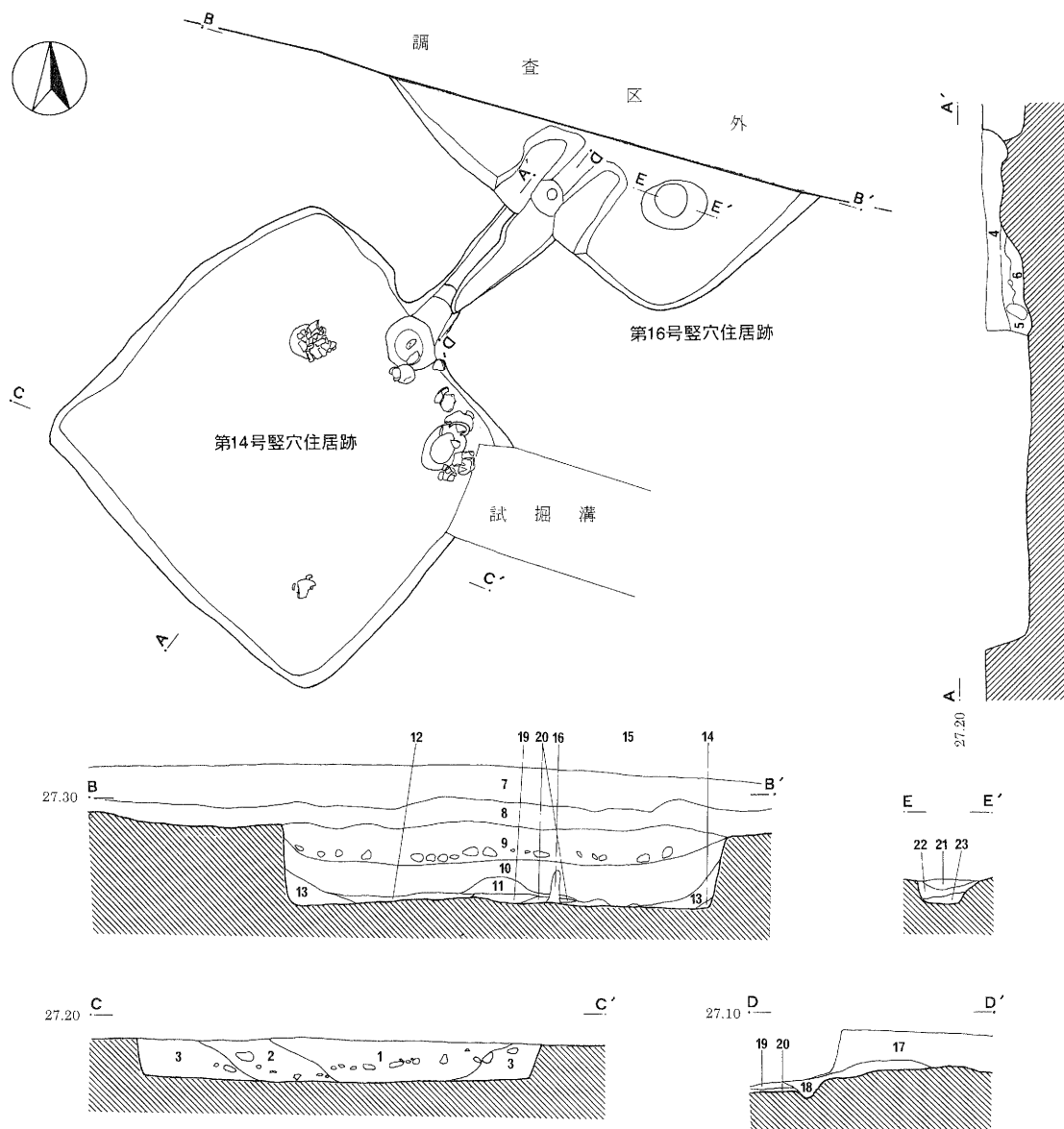
第27表 第13号竪穴住居跡出土石製品観察表

No.	分 類	径(cm)	孔径(cm)	厚(cm)	備 考
3	紡錘車	4.2	0.6	2.4	完形。鋸歯文有。

第14号住居跡 (第71・72図)

3区E'・F'—24グリッドを中心に位置する。北東壁に位置するカマドが第16号住居跡のカマドにより切られており、本住居跡の方が古い。また、北東コーナーは試掘溝で破壊されている。

主軸方向の長さは北西壁よりで3.08m、南東壁よりで2.81mを測る。北西—南東方向は3.15mを測る。面積はおよそ9.3㎡を測る。主軸方向はN—42°—Eを指す。



第14号竪穴住居跡

土層説明 (AA' CC')

- 1 黒褐色土：しまり・粘性やや有。
- 2 黒褐色土：しまり・粘性やや有。しまり1層より強。
- 3 灰褐色土：しまり・粘性やや有。
- 4 褐灰色土：しまり・粘性やや有。
- 5 褐灰色土：炭化物・焼土少量含む。しまり・粘性やや有。
- 6 褐灰色土：砂質。炭化物・焼土少量含む。しまり強。粘性弱。

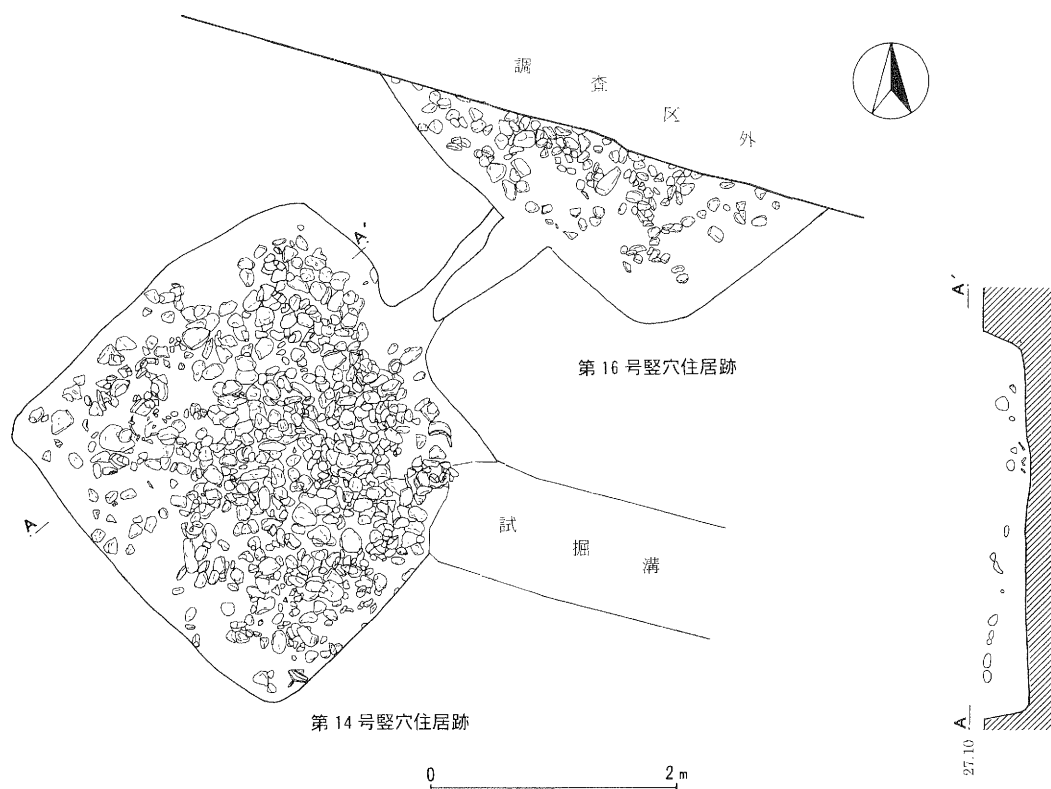
第16号竪穴住居跡

土層説明 (BB' DD' EE')

- 7 耕作土：粘性・しまり無。
- 8 耕作土：粘やや有。しまり強。
- 9 黒褐色土：粘性有。しまり強。
- 10 灰褐色土：粘性有。しまり強。
- 11 灰褐色土：焼土少量含む。粘性やや有。しまり強。
- 12 褐灰色土：焼土少量含む。粘性強。しまりやや有。
- 13 灰褐色土：粘性強。しまり有。
- 14 灰褐色土：やや砂質。粘性強。しまりやや有。
- 15 灰黄褐色土：砂質。粘性有。しまりやや有。

- 16 暗灰黄色土：砂質。粘性有。しまりやや有。
- 17 褐灰色土：粘性・しまり強。
- 18 褐灰色土：焼土少量含む。粘性・しまり強。
- 19 暗赤灰色土：焼土多量、炭化物少量含む。粘性・しまりやや有。
- 20 灰色土：やや砂質。炭化物多量含む。粘性やや有。しまり有。
- 21 灰褐色土：やや砂質。粘性強。しまり有。
- 22 灰褐色土：砂質。粘性有。しまりやや有。
- 23 暗灰黄色土：砂質。粘性強。しまり有。

第71図 第14・16号竪穴住居跡



第72図 第14・16号竪穴住居跡遺物・礫出土状況

床までの深さは確認面から35cm前後あり、この遺跡では比較的高い位置での検出であった。壁溝は確認できなかった。

カマドは北東壁の中央付近に設置されている。先に述べたように、カマド煙道の大半が第16号住居跡によって切られており、壁際からおよそ110cmほどの残っている。煙道と燃焼部は一体となっており、境は明瞭でない。また、燃焼部の火床面は明確でなく、その範囲も不明確であった。

柱穴および貯蔵穴は確認できなかった。

第10～13住居跡同様に、床から少し浮いたレベルに大量の礫が散乱していた。人為的に投棄され埋められたものと思われる。この中に、破片の状態の土師器杯・甕・甔、土錘などが散らばって検出された(第73・74図)。

第15号住居跡 (第75図)

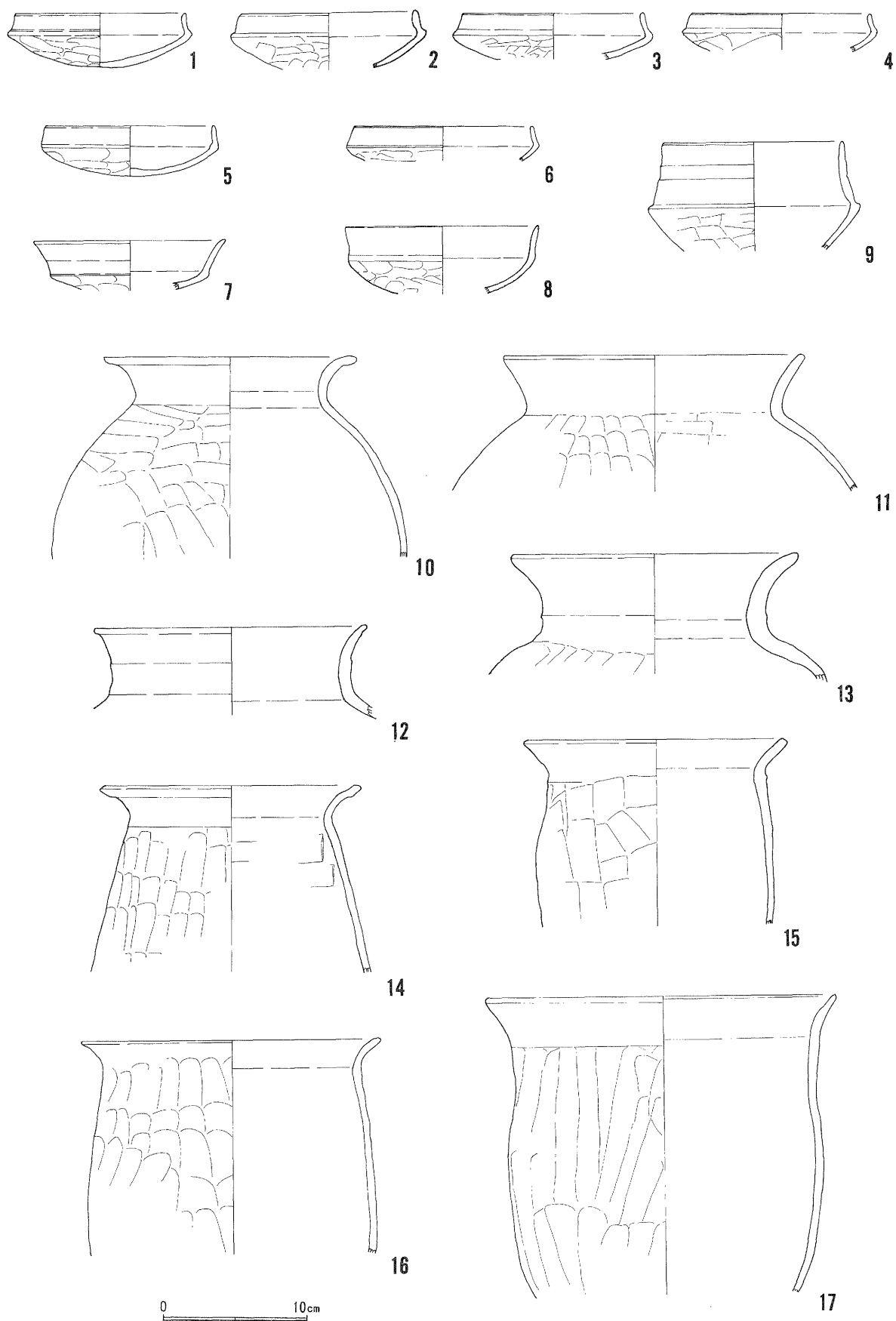
3区G'-24・25グリッドを中心に位置する。住居跡の大半は調査区域外になっており、全体の三分の一ほどが調査されたのみである。北東コーナーが調査区外にかかる場所に位置し、推定される一方の軸長はおよそ4.5mほどである。

床までの深さは50cm前後、覆土は自然堆積と思われる。壁溝は確認できなかった。

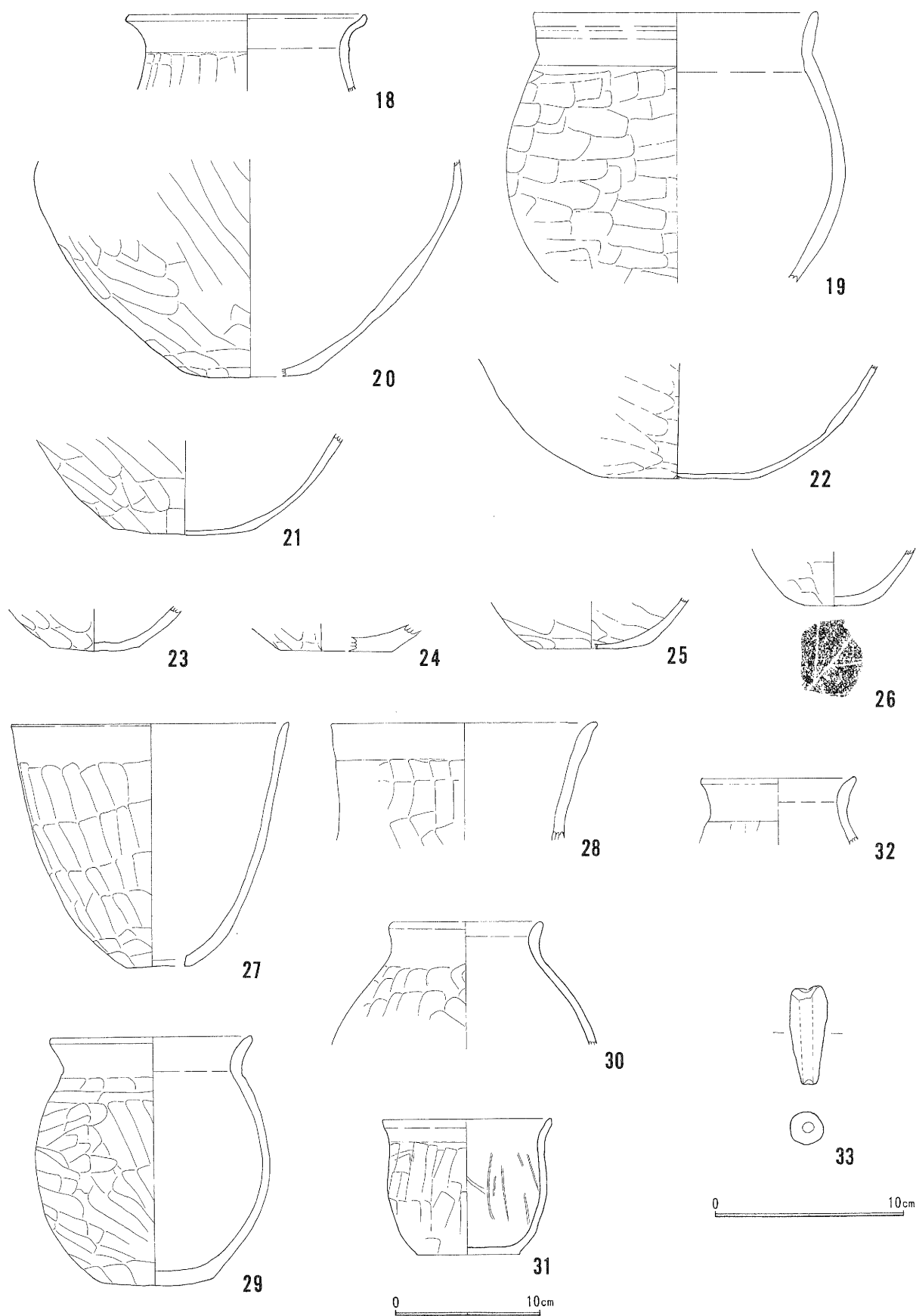
カマドは調査区域外のため調査できなかった。

柱穴も確認できなかった。

北東壁際に、編物石と思われる自然石が集中して検出された。土器類はわずかであるが、土師器甕・甔、須恵器杯、土錘などの破片が確認されたのみで、極めて少ない。



第73図 第14号竪穴住居跡出土遺物 (1)



第74図 第14号竖穴住居跡出土遺物 (2)

第28表 第14号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・坏	(12.0)	3.7	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石	黒褐色	良		
2	土師器・坏	(12.2)	(4.0)	—	密／白色粒、黒色粒、赤色粒	橙色	良	20	
3	土師器・坏	(12.6)	(3.2)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒	橙色	良	30	
4	土師器・坏	(12.6)	2.6	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒	にぶい赤褐色	良	25	
5	土師器・坏	(11.6)	3.5	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒	橙色	良	30	
6	土師器・坏	(12.4)	(2.5)	—	密／砂粒、赤色粒	明褐色	良	10	
7	土師器・坏	(13.4)	(3.5)	—	密／砂粒、赤色粒、石英	橙色	良	20	
8	土師器・坏	(13.6)	(4.7)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	明赤褐色	良	30	
9	土師器・坏	(12.8)	(7.5)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	にぶい赤褐色	良	35	
10	土師器・甕	17.6	(14.1)	—	粗／砂粒、白色粒、赤色粒	明赤褐色	良	70	
11	土師器・甕	21.2	(9.5)	—	粗／砂粒、白色粒、赤色粒	橙色	良	60	
12	土師器・甕	(19.2)	(6.2)	—	粗／砂粒、黒色粒、赤色粒	橙色	良	45	
13	土師器・甕	20.2	(8.4)	—	やや粗／砂粒、黒色粒	橙色	良	50	
14	土師器・甕	18.2	(13.1)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒	橙色	良	50	
15	土師器・甕	18.6	(13.0)	—	や粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	淡橙色	良	80	
16	土師器・甕	21.0	(15.0)	—	粗／砂粒、黒色粒	淡橙色	良	50	
17	土師器・甕	24.6	(21.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、小石	にぶい黄褐色	良	60	
18	土師器・甕	16.8	(5.5)	—	やや粗／砂粒、白色粒、石英	暗黒褐色	良	80	
19	土師器・甕	(19.8)	(19.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒	橙色	良	25	
20	土師器・甕	—	(15.4)	9.0	粗／砂粒、白色粒、黒色粒	黒色	良	90	
21	土師器・甕	—	(7.2)	9.8	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒	赤褐色	やや良	90	
22	土師器・甕	—	(8.2)	(10.6)	粗／砂粒、白色粒、赤色粒、小石	明赤褐色	良	30	
23	土師器・甕	—	(3.2)	(6.0)	粗／砂粒、黒色粒、赤色粒	明赤褐色	良	30	
24	土師器・甕	—	(1.8)	(7.8)	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	明褐色	良	25	
25	土師器・甕	—	(3.5)	8.0	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	にぶい赤褐色	良	90	
26	土師器・甕	—	(4.0)	4.0	粗／砂粒、白色粒、石英、小石	にぶい褐色	良	95	
27	土師器・甕	19.4	(17.2)	4.5	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	明赤褐色	良	95	
28	土師器・甕	(18.6)	(8.2)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒	橙色	良	60	
29	土師器・甕	14.0	17.8	8.0	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	橙色	やや良	80	
30	土師器・甕	(10.8)	(8.7)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、雲母	橙色	良	30	
31	土師器・甕	12.0	9.7	7.0	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	暗褐色	良	95	
32	土師器・甕	(11.6)	(4.8)	—	やや粗／砂粒、白色粒、石英、小石	橙色	良	15	

第29表 第14号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	分 類	長(cm)	幅(cm)	重(g)	備 考
33	土 錘	—	1.8	—	半分欠。

第16号住居跡（第71・72図）

3区F'—24グリッドに位置する。住居跡の大半は北側の調査区域外となっている。南西壁にカマドがあり、このカマドが第14号住居跡を切って作られており、本住居跡の方が新しい。

軸長は、どちらの方向も測定できなかった。主軸方向はN—133°—Wを指す。

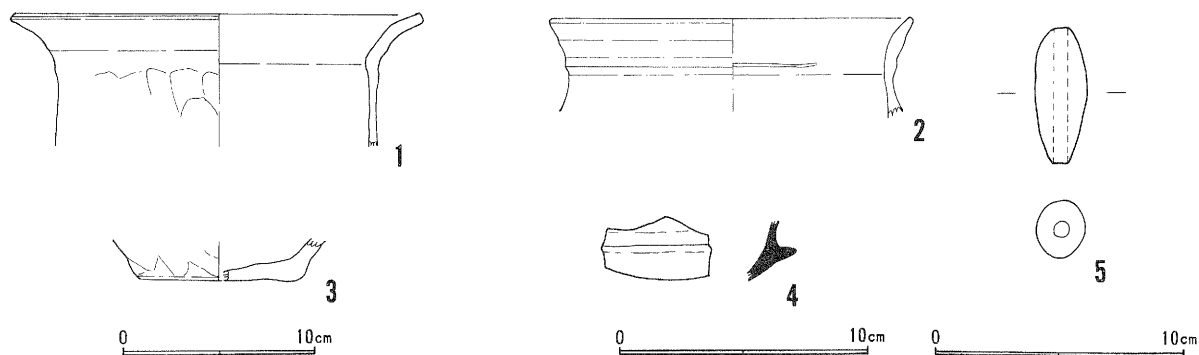
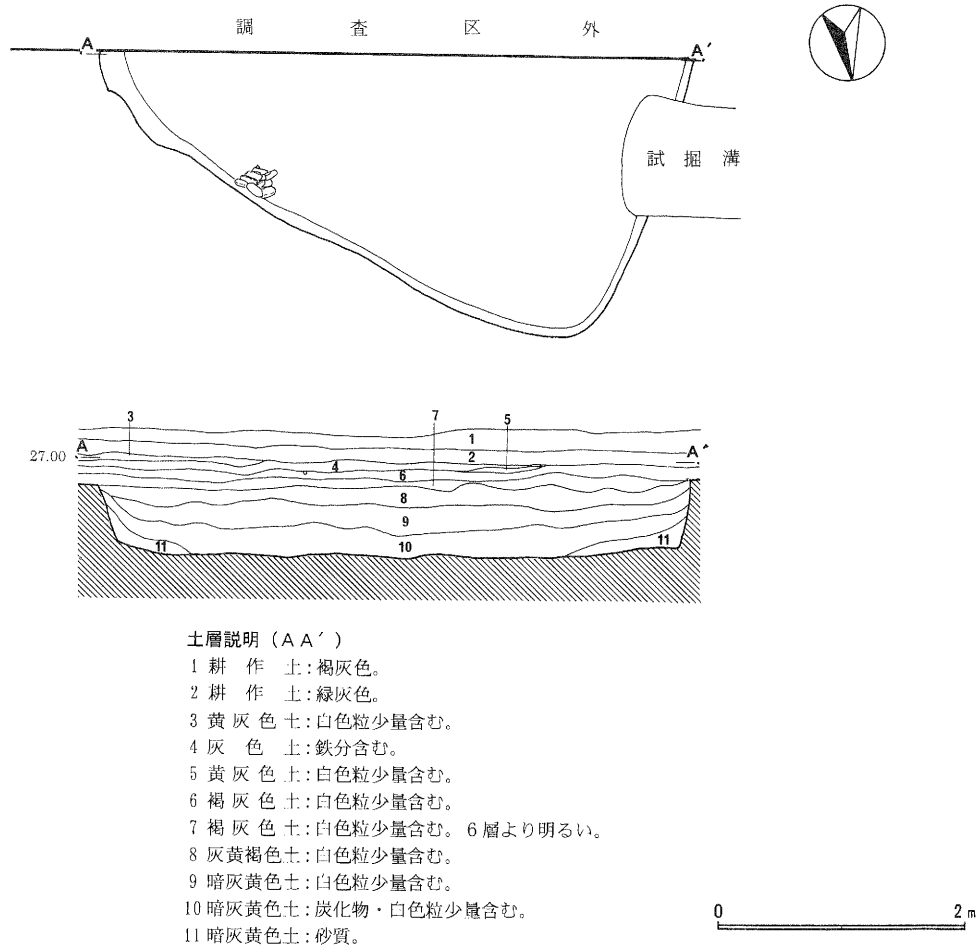
カマドは南西壁に設置され、壁際から100cmほど住居の外に延びている。燃焼部と煙道部は一体となっており、境は明瞭でない。燃焼部の火床面には灰、焼土の分布が認められる。

柱穴、貯蔵穴、壁溝などの施設は、調査範囲内では確認できなかった。

やはり、第11～14号住居跡同様に覆土中に大量の礫が検出された。やはり人為的に埋められたものと推定できる。遺物は、土師器坏・甕などの破片が確認されたが、図化できたものはわずかであった（第76図）。

第17号住居跡（第77図）

3区G'・H'—24グリッドを中心に位置する。住居跡の北側部分の大半は調査区域外となっている。南西コーナーがわずかに確認でき、そこから推定される軸長は2.6mほどである。主軸方向はS—24°—Wを指す。



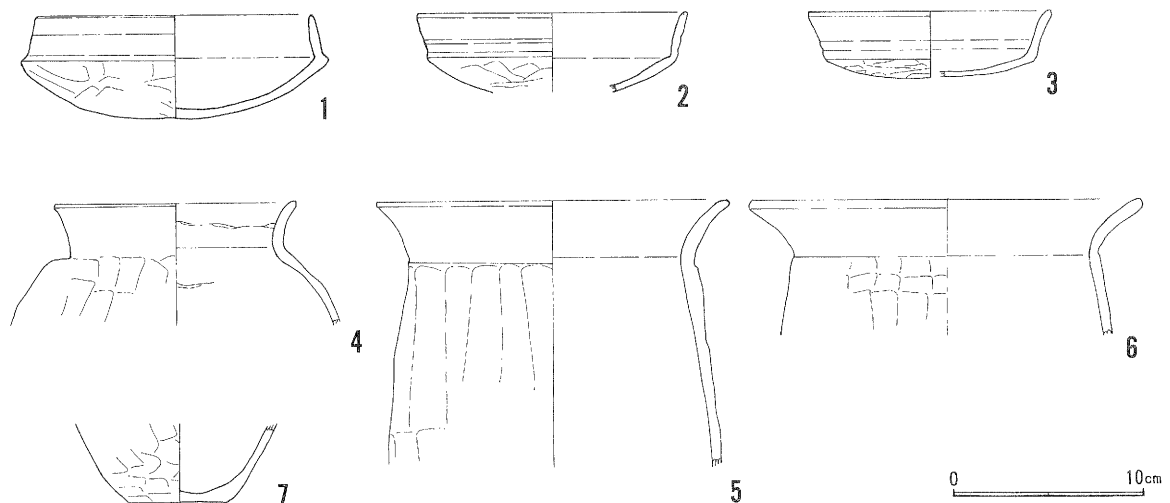
第75図 第15号竪穴住居跡・出土遺物

第30表 第15号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	土師器・甕	(21.8)	(6.8)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、角閃石	にぶい黄橙	良	20	
2	土師器・甕	(19.2)	(4.9)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒	橙色	良	10	
3	土師器・甕	—	(2.3)	(8.4)	やや粗／砂粒、白色粒、赤色粒、小石	橙色	良	10	
4	須恵器・坏	—	(1.6)	—	密／白色粒	灰褐色	良	—	

第31表 第15号竪穴住居跡出土土製品観察表

No.	分類	長(cm)	幅(cm)	重(g)	備考
5	土錘	5.4	2.0	21.0	完形。



第76図 第16号竪穴住居跡出土遺物

第32表 第16号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	土師器・坏	(14.8)	5.6	—	密／砂粒、白色粒、角閃石	にぶい赤褐色	良	20	
2	土師器・坏	(14.6)	(4.4)	—	密／砂粒、白色粒、赤色粒	暗褐色	良	20	
3	土師器・坏	(12.8)	3.8	—	密／砂粒、白色粒、石英	暗褐色	良	25	
4	土師器・甕	12.8	(6.6)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	暗褐色	良	80	
5	土師器・甕	18.6	(14.2)	—	粗／砂粒、白色粒、黒色粒	にぶい赤褐色	良	60	
6	土師器・甕	(20.8)	(7.2)	—	粗／砂粒、白色粒、小石	明赤褐色	良	30	
7	土師器・甕	—	(4.2)	5.1	粗／砂粒、赤色粒、角閃石、石英	明赤褐色	良	90	

床までの深さは20cm前後を測る。床面は概ね平坦な状況であった。覆土はほぼ平行に堆積しており、人為的な堆積と思われる。壁溝は確認できなかった。

カマドは南壁の中央に設けられている。燃烧部は長さ110cm、最大幅60cmを測り、煙道に近づくに従いすぼまる形状を呈し、住居跡床面からおおよそ5cm窪んだ形状である。煙道は燃烧部から20cmほど立ち上がっている。煙道の長さは確認されている部分でおおよそ70cmを測る。

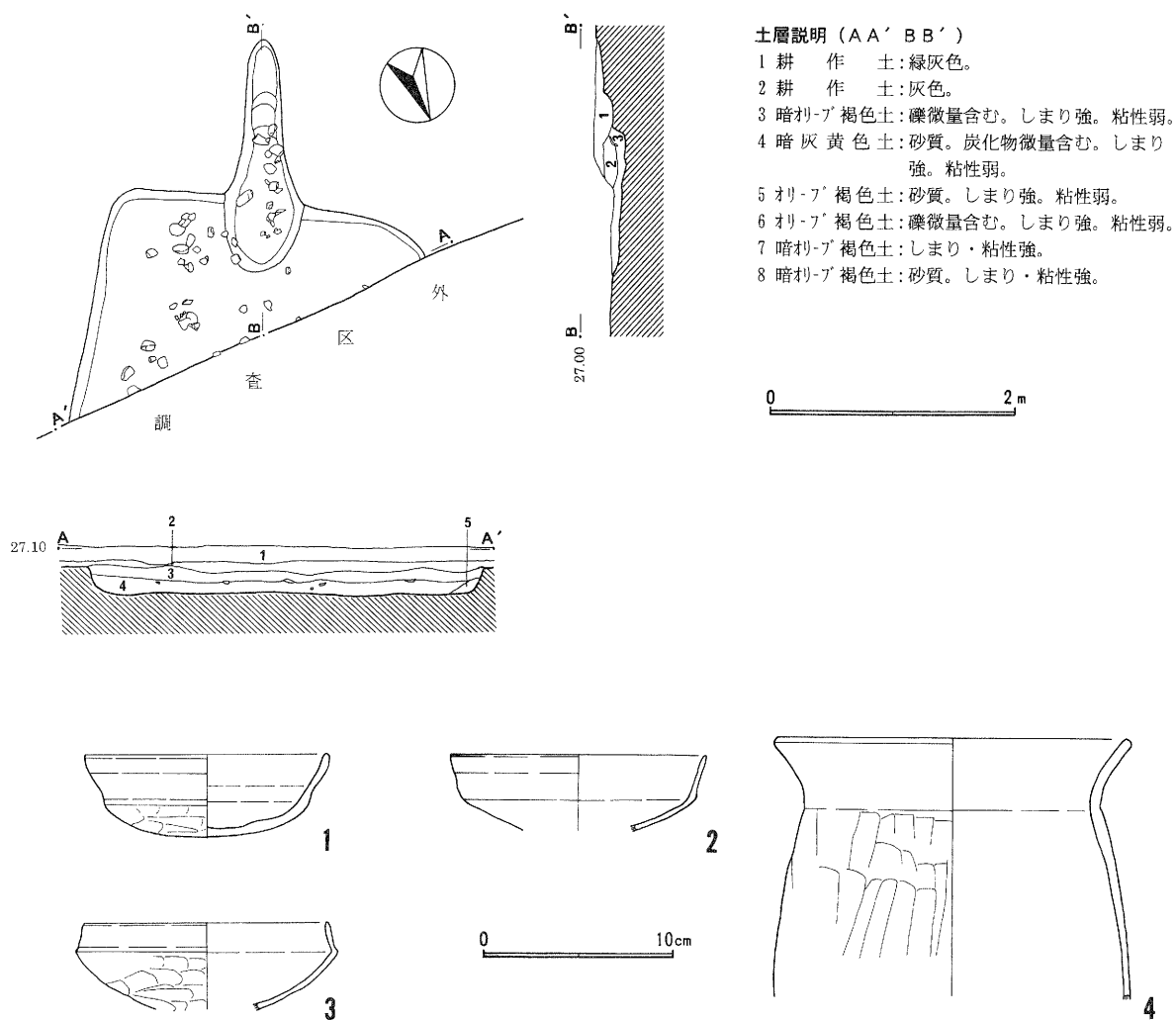
床面には礫が散乱しており、その中に土師器坏・甕の破片が検出された。図化できたものは3点のみであった。

第18号住居跡（第78図）

3区Ⅰ'-24グリッドに位置する。住居跡北側部分の二分の一ほどは調査区外となる。東西軸の長さが、推定で2.6mを測る。カマドは調査区外となり主軸方向は不明であった。

床までの深さは、調査区域外の断面でみると、おおよそ30cm前後と比較的浅い状況であった。貼り床、壁溝などの遺構は確認できなかった。

やはりこの住居跡も覆土中に礫が散乱していたが、土師器などの遺物は極めて少なく、図化できない破片が数点確認されたのみである。



第77図 第17号竪穴住居跡・出土遺物

第33表 第17号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	土師器・坏	(13.0)	4.5	—	密/砂粒、白色粒、黒色粒	橙色	良	45	
2	土師器・坏	(13.6)	(4.0)	—	密/砂粒、白色粒、赤色粒	橙色	良	15	
3	土師器・坏	(13.0)	(4.6)	—	密/砂粒、白色粒、赤色粒	橙色	良	20	
4	土師器・甕	(19.2)	(13.7)	—	やや粗/砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	40	

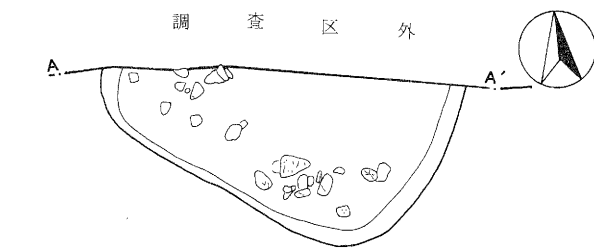
第19号住居跡 (第78図)

3区H'-24グリッドを中心に位置する。住居跡南側は試掘溝によって切られる。

確認された住居跡はゆがみが著しく、南にやや開きぎみの形状を呈している。東西方向の軸長は2.5m前後であるが、北壁よりは2mと短い。主軸方向はおよそN-53°-Eを指す。

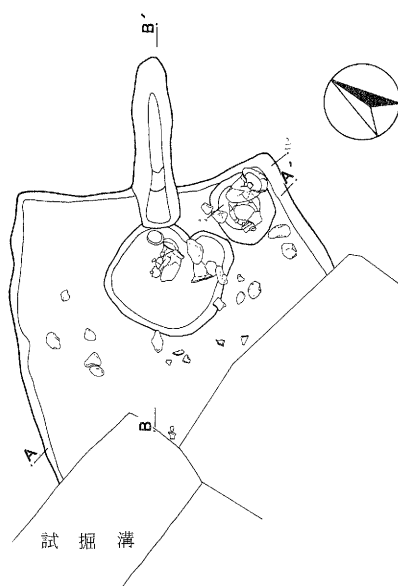
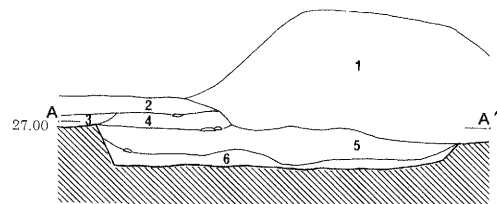
床までの深さは、確認面から15cm前後と浅い。壁溝は確認できなかった。覆土は単純な2層に分かれているのみである。

カマドは北東壁のほぼ中央に設けられている。燃烧部は長さ30cm、最大幅34cmを測り、住居跡床面からおよそ12cm窪む。煙道は燃烧部から33cmほど立ち上がっている。煙道の長さは確認されている部分でおおよそ102cmを測る。袖は確認できなかった。



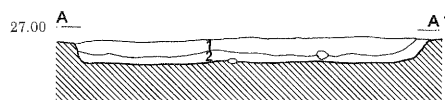
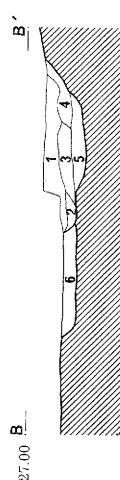
土層説明 (A A')

- 1 盛土
- 2 耕作土: 灰色。
- 3 灰緑-ブ色土: 鉄分含む。
- 4 暗灰黄色土
- 5 暗緑-ブ褐色土: 礫少量含む。しまり有。粘性強。
- 6 暗緑-ブ褐色土: やや砂質。しまり強。粘性有。



土層説明 (A A' B B')

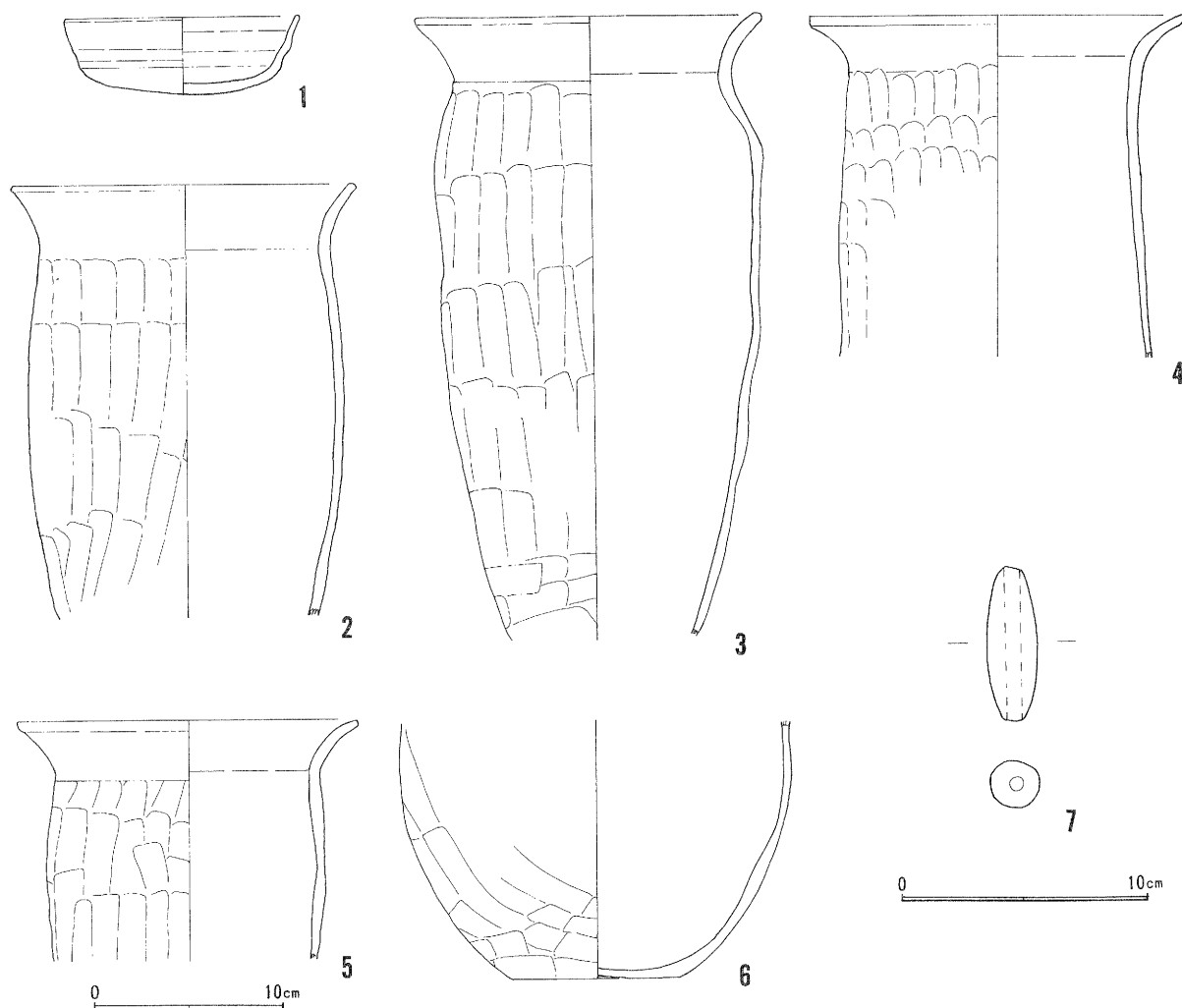
- 1 オリ-ブ褐色土: 砂質。鉄分・礫・スコリア少量含む。しまり強。粘性弱。
- 2 暗緑-ブ褐色土: 礫少量含む。しまり強。粘性有。
- 3 暗灰黄色土: 砂質。礫少量含む。しまり強。粘性弱。
- 4 暗緑-ブ褐色土: 砂質。焼土粒微量含む。しまり強。粘性弱。
- 5 暗緑-ブ褐色土: しまり・粘性強。
- 6 オリ-ブ褐色土: 砂質。しまり強。粘性弱。



0 2 m

第78図 第18・19号竪穴住居跡

柱穴などの遺構は確認できなかったが、カマド前から径90cm前後、深さ11cmの床下土坑が検出された。遺物はカマド周辺と東コーナー付近から土師器坏・甕が確認された（第79図）。



第79図 第19号竪穴住居跡出土遺物

第34表 第19号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・坏	12.6	4.2	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、石英	橙色	良	100	
2	土師器・甕	18.4	(23.4)	—	粗／黒色粒、赤色粒、角閃石、石英、小石	にぶい黄橙色	良	70	
3	土師器・甕	18.6	(33.6)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英	褐灰色	良	70	
4	土師器・甕	20.0	(18.4)	—	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい黄橙色	良	70	
5	土師器・甕	(18.4)	(13.0)	—	粗／砂粒、白色粒、赤色粒、石英、小石	にぶい黄橙色	良	20	
6	土師器・甕	—	(13.9)	(9.2)	密／砂粒、角閃石、石英、小石	黒褐色	良	20	

第35表 第19号竪穴住居跡出土土製品観察表

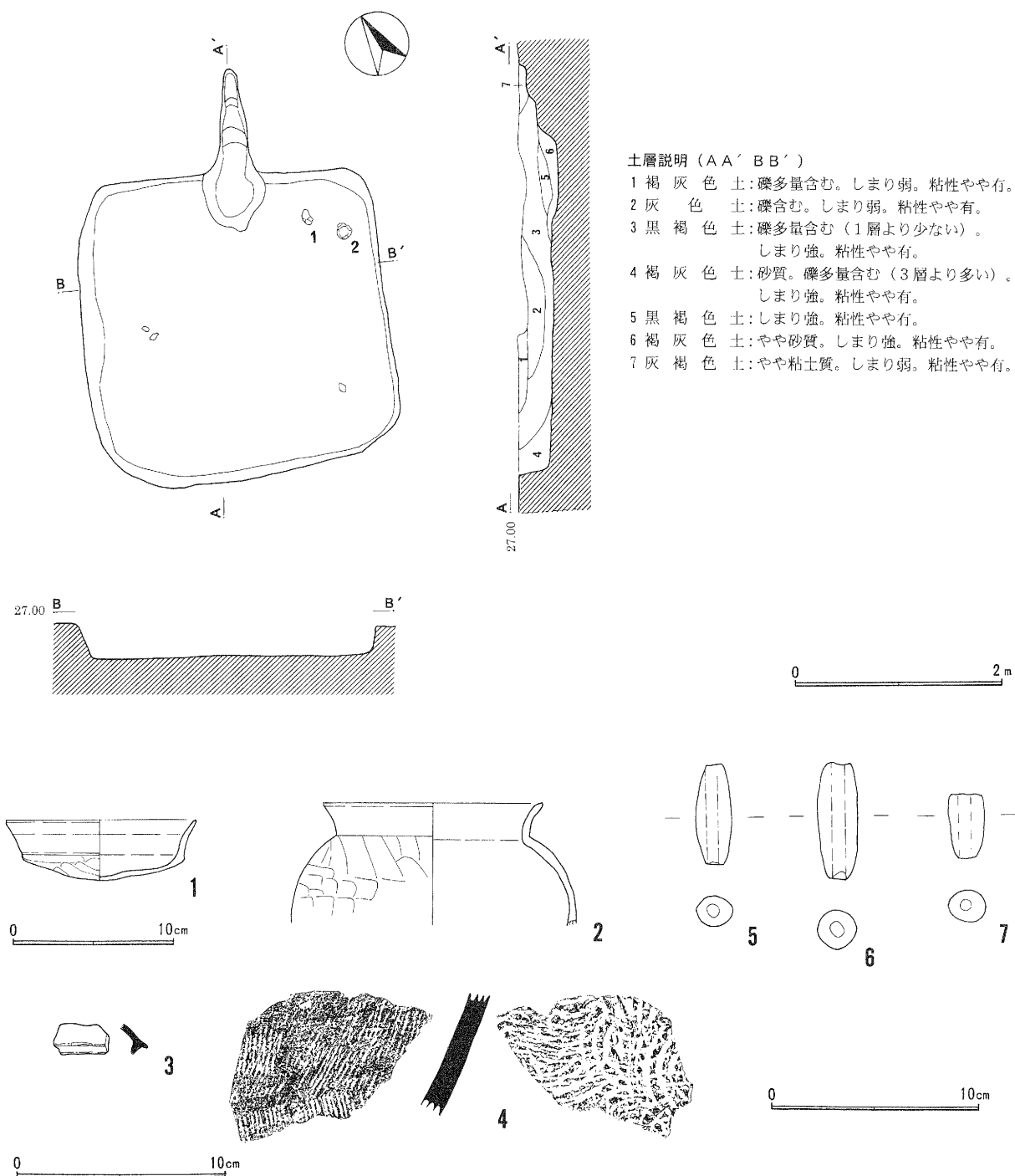
No.	分 類	長(cm)	幅(cm)	重(g)	備 考
7	土 錘	6.2	2.0	28.0	完形。

第20号住居跡（第80図）

3区Ⅰ'・Ⅱ'-24・25グリッドを中心に位置する。軸長2.96m×2.9mとほぼ方形を呈し、面積は8.59㎡と比較的小型の住居跡である。主軸方向はおおよそN-49°-Eを指す。

床までの深さは確認面から30cmと比較的深い。床には貼床、壁溝等は確認できなかった。

カマドは北壁中央に設けられている。燃焼部は長さ56cm、最大幅58cmを測り、煙道に近づくに従いすばまる形状を呈し、床面からおおよそ5cm窪む。煙道は燃焼部から36cmほどで立ち上がる。煙道の長さは確認されている部分でおおよそ96cmを測る。



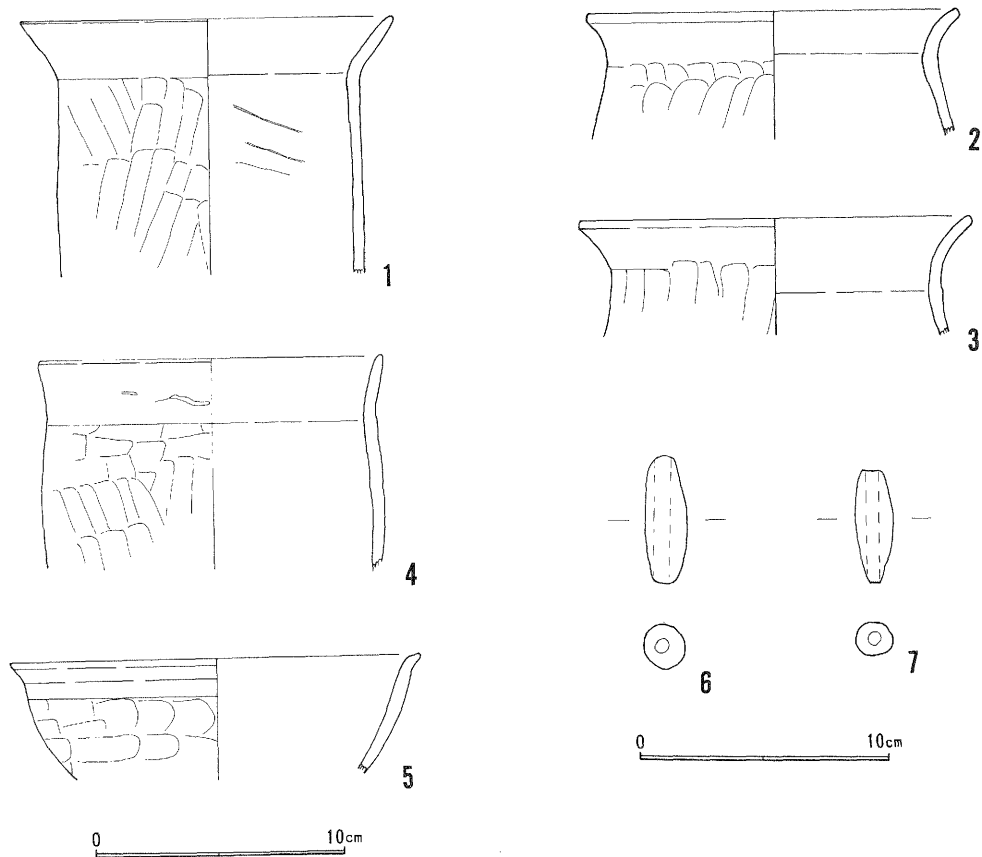
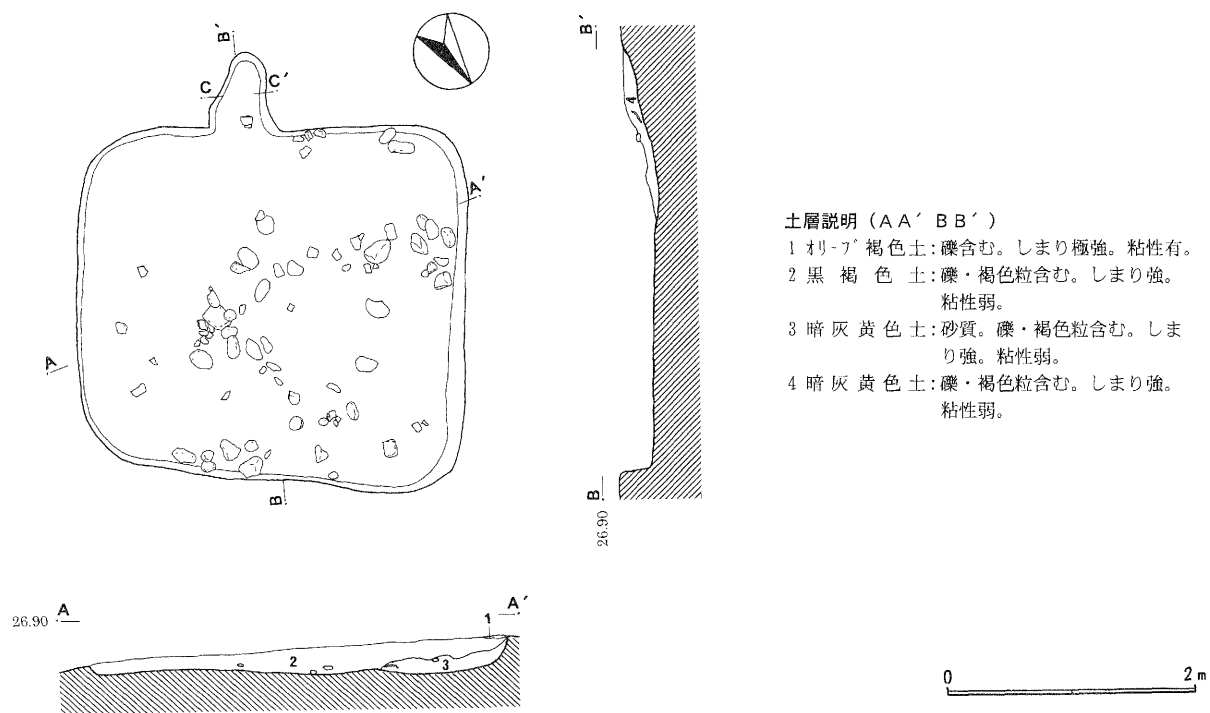
第80図 第20号竪穴住居跡・出土遺物

第36表 第20号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・坏	(12.1)	3.8	—	密/砂粒、白色粒、小石	にぶい橙色	良	80	
2	土師器・甕	14.0	(7.7)	—	密/砂粒、黒色粒、小石	にぶい橙色	良	30	
3	須恵器・蓋	—	(1.8)	—	密/白色粒、黒色粒	灰色	良	5	
4	須恵器・甕	—	—	—	密/白色粒、石英、片岩	灰褐色	良	—	

第37表 第20号竪穴住居跡出土土製品観察表

No.	分 類	長 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	備 考
5	土 錘	4.8	1.7	10.0	完形。
6	土 錘	5.5	1.9	18.0	完形。
7	土 錘	—	1.7	9.0	半分欠。



第81図 第21号竪穴住居跡・出土遺物

第38表 第21号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・甕	(19.6)	(13.6)	—	粗／砂粒、白色粒	にぶい黄橙色	良	30	
2	土師器・甕	(19.6)	(6.7)	—	やや粗／砂粒、黒色粒	にぶい黄橙色	良	20	
3	土師器・甕	(20.6)	(6.3)	—	粗／砂粒、白色粒、小石	灰褐色	良	15	
4	土師器・甕	(18.2)	(11.2)	—	粗／砂粒、白色粒、角閃石、小石	にぶい黄橙色	良	10	
5	土師器・鉢	(21.6)	(6.2)	—	粗／砂粒、赤色粒	にぶい黄橙色	良	20	

第39表 第21号竪穴住居跡出土土製品観察表

No.	分 類	長(cm)	幅(cm)	重(g)	備 考
5	土 錘	5.1	1.7	12.0	完形。
6	土 錘	4.4	1.5	10.0	完形。

柱穴、貯蔵穴などの施設は確認できなかった。

遺物は土師器坏・甕の破片が確認されたのみである。

第21号住居跡（第81図）

3区J'・K'—25グリッドを中心に位置する。長軸3.05 m、短軸2.78 m、面積は8.48 m²の比較的小型の住居跡である。主軸方向はS—38°—Wを指す。

床までの深さは確認面から10～20 cmと比較的浅い。貼床、壁溝は確認できなかった。

カマドは南壁のやや西寄りに設けられている。燃焼部の火床面は住居跡の床からわずか数cmほど下がっているのみであった。形状は楕円に近い。煙道は確認されている部分で長さ50 cm、幅40 cmであった。燃焼部からは緩やかな傾斜を持って煙道に移行している。

柱穴、貯蔵穴などの施設は確認できなかった。

覆土中には礫が散乱していた。遺物は土師器甕・鉢、土錘が床面を中心に確認された。

第22号住居跡（第82図）

4区I'・J'—11グリッドに位置する。第16号溝跡、第17・21号土坑と重複しており、第16号溝跡、第17号土坑は住居跡より新しい。第21号土坑との新旧関係は不明である。

長軸3.45 m、短軸2.75 mの東西に長い形状を呈しており、面積は推定で9.48 m²を測る。主軸方向はN—39°—Wを指す。

床までの深さは確認面から15 cm前後と浅い。試掘溝と重複が著しいため、覆土の把握は十分できなかった。壁溝は確認できなかった。

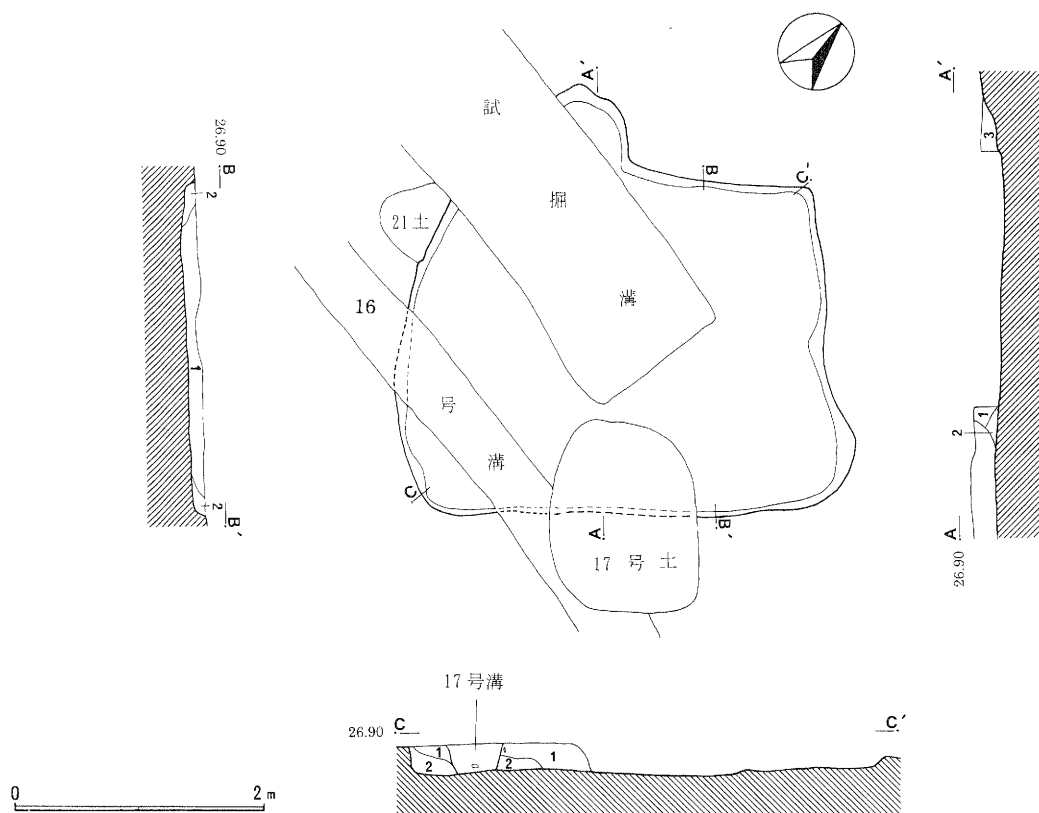
カマドは北西壁のやや西寄りに設けられている。カマドの大半は試掘溝により破壊されており、全貌は把握できなかった。ただ、残存する部分から推定すると煙道部は削平されて確認できなかった。

柱穴、貯蔵穴などの施設は確認できなかった。

遺物は土師器坏・甕などの破片が床面に散らばって確認された。

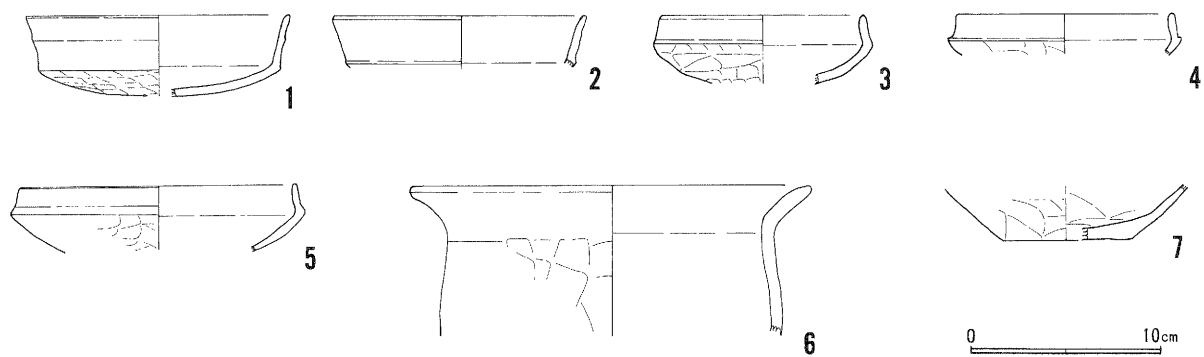
第23号住居跡（第83図）

4区G'—10・11グリッドに位置する。北側は調査区域外となっている。さらに北東側で第26号住居跡と重複しており、本住居跡が切られている。



土層説明 (AA' BB' CC')

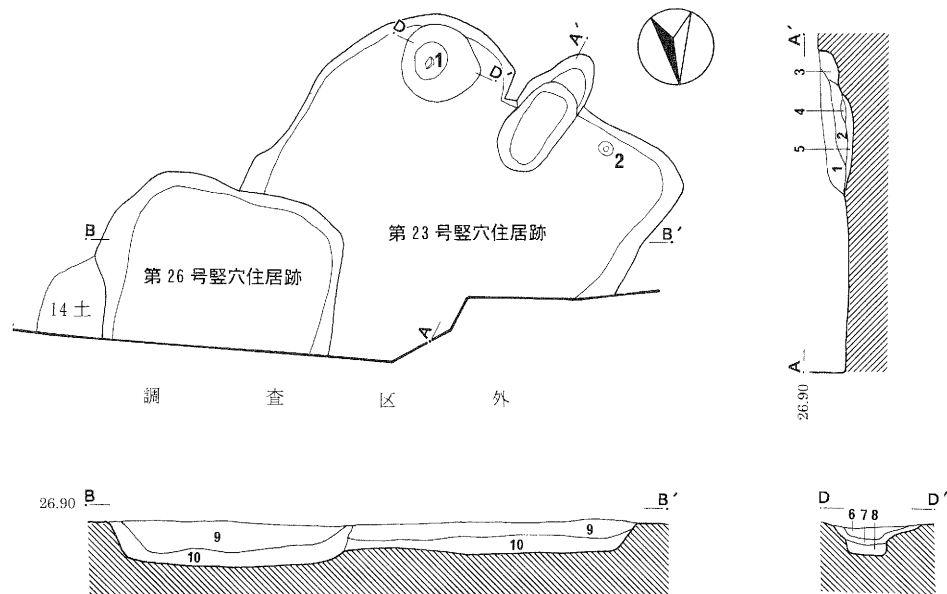
- 1 黒褐色土：砂質。炭化物・焼土・灰白色粒・黄褐色土ブロック含む。しまり有。粘性弱。
- 2 黄褐色土：砂質。灰白色土ブロック含む。しまり有。粘性弱。
- 3 灰褐色土：スコリア・黄灰色粒含む。しまり有。粘性弱。



第82図 第22号竪穴住居跡・出土遺物

第40表 第22号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・坏	(14.0)	4.3	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、石英	赤橙色	良	25	
2	土師器・坏	(13.4)	(2.7)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	にぶい褐色	良	20	
3	土師器・坏	(11.0)	(3.6)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、石英	にぶい褐色	良	20	
4	土師器・坏	(11.6)	(2.2)	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒、石英	灰褐色	良	15	
5	土師器・坏	(14.6)	(3.5)	—	密／砂粒、白色粒、赤色粒、石英	橙色	良	5	
6	土師器・甕	(21.2)	(8.9)	—	やや粗／砂粒、白色粒、赤色粒、石英、雲母	にぶい橙色	良	10	
7	土師器・甕	—	(2.9)	(6.8)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	にぶい褐色	良	40	



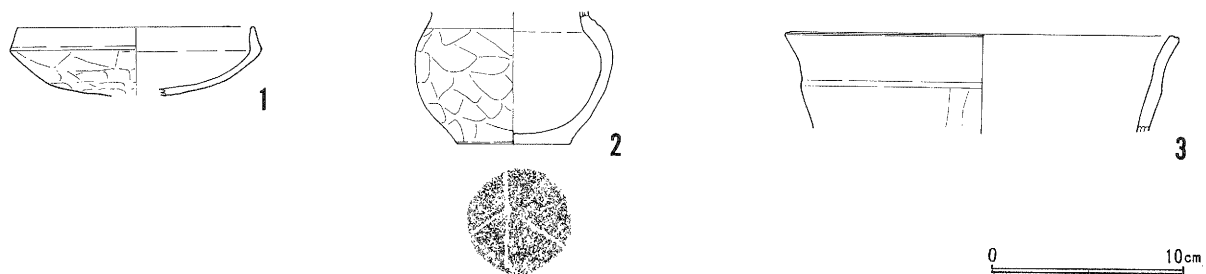
土層説明 (AA' BB' DD')

第23号竪穴住居跡

- 1 オリーブ褐色土: スコリア・焼土含む。しまり有。粘性弱。
- 2 暗判・グ褐色土: 炭化物含む。しまり有。粘性弱。
- 3 オリーブ褐色土: スコリア含む。しまり有。粘性弱。
- 4 焼土ブロック
- 5 黒褐色土: 砂質。礫多量含む。しまり有。粘性弱。
- 6 オリーブ褐色土: 砂質。スコリア・炭化物含む。しまり有。粘性弱。
- 7 オリーブ黒色土: 炭化物含む。しまり有。粘性弱。
- 8 オリーブ黒色土: 砂質。しまり有。粘性弱。

第26号竪穴住居跡

- 9 オリーブ褐色土: 砂質。スコリア・焼土含む。しまり有。粘性弱。
- 10 オリーブ褐色土: 焼土・礫多量含む。しまり有。粘性弱。



第83図 第23・26号竪穴住居跡・出土遺物

第41表 第23号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	土師器・坏	(12.4)	(3.6)	—	密/砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母	淡橙色	良	30	
2	土師器・壺	—	(7.0)	6.0	粗/砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	にぶい褐色	良	90	
3	土師器・甕	(20.8)	(5.1)	—	粗/砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	赤褐色	良	10	

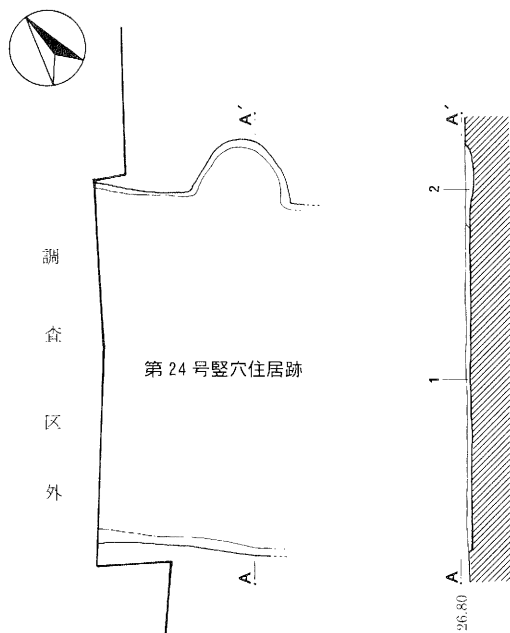
東西方向の軸長は2.9mを測る。主軸方向はS-44°-Wを指す。

床までの深さは20～30cmで、覆土は平行に堆積している。壁溝は確認できなかった。

カマドは南西壁の中央付近に設けられている。カマドの全長は110cm、幅45cmの長方形に近い形状を呈している。火床部は舟底状にわずかに窪んでいる。カマド左は地山を掘り残して袖を作っている。右側は明瞭な地山は確認できなかった。燃焼部から煙道には緩やかな傾斜をなしている。

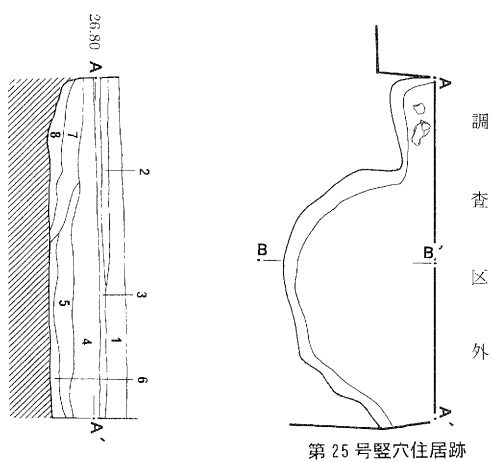
柱穴は確認できなかった。カマドの左側、南東コーナーに貯蔵穴が確認された。規模は60cm×55cmのほぼ円形を呈し、深さは23cmであった。

遺物はカマド付近から土師器坏などの小破片が確認されたのみである。



土層説明 (A A')

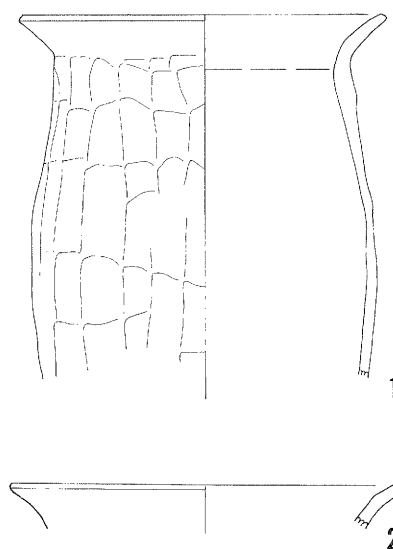
- 1 オリーブ褐色土：砂質。焼土・スコリア少量含む。しまり有。粘性弱。
- 2 オリーブ褐色土：焼土多量、スコリア少量含む。しまり有。粘性弱。



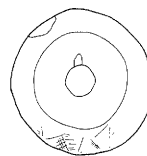
土層説明 (A A')

- 1 耕作土：暗灰色。
- 2 耕作土：灰色。スコリア含む。
- 3 明褐色土：鉄分多量含む。
- 4 オリーブ褐色土：黒色土含む。
- 5 オリーブ褐色土：鉄分・礫・スコリア含む。しまり有。粘性弱。
- 6 黒褐色土：やや砂質。しまり強。粘性弱。
- 7 オリーブ褐色土：炭化物・焼土含む。しまり有。粘性弱。
- 8 黒褐色土：礫・焼土含む。しまり強。粘性弱。

0 2 m



0 10 cm



0 5 cm

第84図 第24・25号竪穴住居跡・出土遺物

第24号住居跡（第84図）

4区E'－11グリッドに位置する。西側は調査区外となり、東側は削平が著しく、正確な範囲を把握できなかった。主軸長は2.8mを測る。主軸方向はN－37°－Eを指す。

床面までの深さは、確認面からわずか5cm前後と極めて浅い。壁溝は確認できなかった。

カマドは北東壁に設けられている。現長は約60cm、幅75cmを測る不整楕円の形状を呈して、火床面と思われるところがわずかに窪んでいる。煙道部は明確に確認できなかった。

柱穴、貯蔵穴などの施設は確認できなかった。

遺物は、床面上から土師器坏・高坏の小破片が確認されたのみである。

第25号住居跡（第84図）

4区E'－12グリッドに位置する。住居跡の南側と東側は調査区域外になっているため、正確な住居跡の規模は把握できなかった。また、遺構のプランも不明確であったため、形状が不整な形状となってしまう。主軸の方向はおおよそS－89°－Wを指す。

床面までの深さは、20cm前後であった。

カマドは東壁に設けられている。確認されている範囲で、長さ120cmほどであった。燃烧部わずかに窪んでいるが、床面との境は明確でなかった。

柱穴、貯蔵穴、壁溝などの施設は確認できなかった。

遺物は、カマド内から土師器甕の破片がわずかに出土したのみである。

第42表 第24号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・坏	(12.0)	(3.3)	—	密／砂粒、黒色粒、赤色粒	橙色	良	20	
2	土師器・高坏	—	(2.1)	—	粗／砂粒、白色粒、石英	黒褐色	良	60	

第43表 第25号竪穴住居跡出土土器観察表

No.	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	残存率	備 考
1	土師器・甕	(19.6)	(19.2)	—	粗／砂粒、白色粒、赤色粒	にぶい黄褐色	良	20	
2	土師器・甕	(20.8)	(2.4)	—	粗／砂粒、白色粒、赤色粒、小石	にぶい黄褐色	良	20	

第44表 第25号竪穴住居跡出土石製品観察表

No.	分 類	径(cm)	孔径(cm)	厚(cm)	備 考
3	紡錘車	3.8	0.8	2.1	一部欠。

第26号住居跡（第83図）

4区G'・H'－11グリッドに位置する。西側で第23号住居跡を切っている。北側は発掘調査外となっており、正確な規模は把握できなかった。

調査区外との境で確認できる住居跡の軸長は1.95mであり、極めて小形の住居跡である。

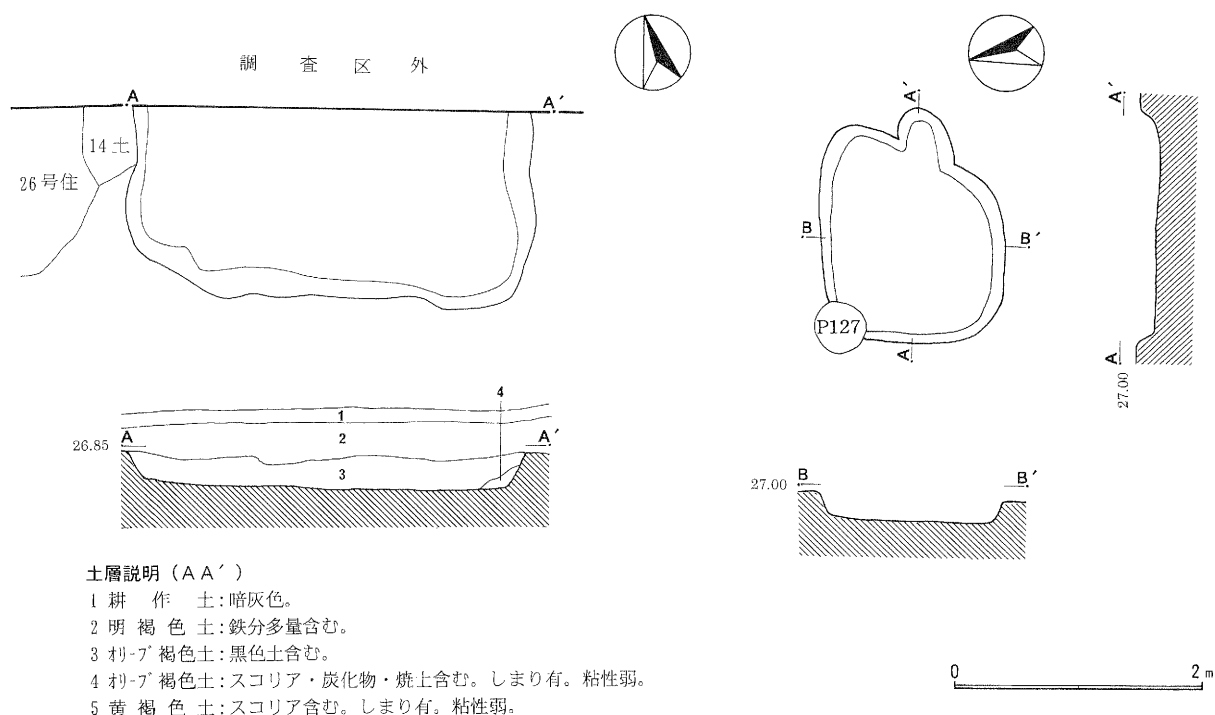
床までの深さは、確認面から35cm前後であった。

カマド、壁溝、柱穴、貯蔵穴などの施設は確認できなかった。

遺物は小破片のみで、図化するにいたらなかった。

第27号住居跡（第85図）

4区H'－11グリッドに位置する。住居跡の大半は北側の調査区域外となっている。



第85図 第27・28号竪穴住居跡

東西軸長は、およそ3.2 mを測る。

床面までの深さは、およそ30 cmを測り、西側に行くに従って、やや高くなる。

カマドは調査区域外と思われ、確認できなかった。

壁溝、柱穴、貯蔵穴などの施設も確認できなかった。

遺物も小破片があったのみで、図化するに至らなかった。

第28号住居跡 (第85図)

4区K'・L'-11グリッドに位置する。地山がこぶし大の石に被われており、遺構の把握が著しく難しかった。そのため、本住居跡もカマドが先ず確認され、その後に住居のプランを追ったが著しく小形の不整な形の把握となった。住居跡の主軸はN-103°-E。

長軸1.6m、短軸1.45mを測るが、北壁の長さは1.75 mあるのに対して、南壁は1.2 mしかなく、著しくいびつな形となっている。

壁溝、柱穴、貯蔵穴などの施設は確認されなかった。

遺物は土師器の小破片が確認されたのみで、図示できなかった。

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第86図)

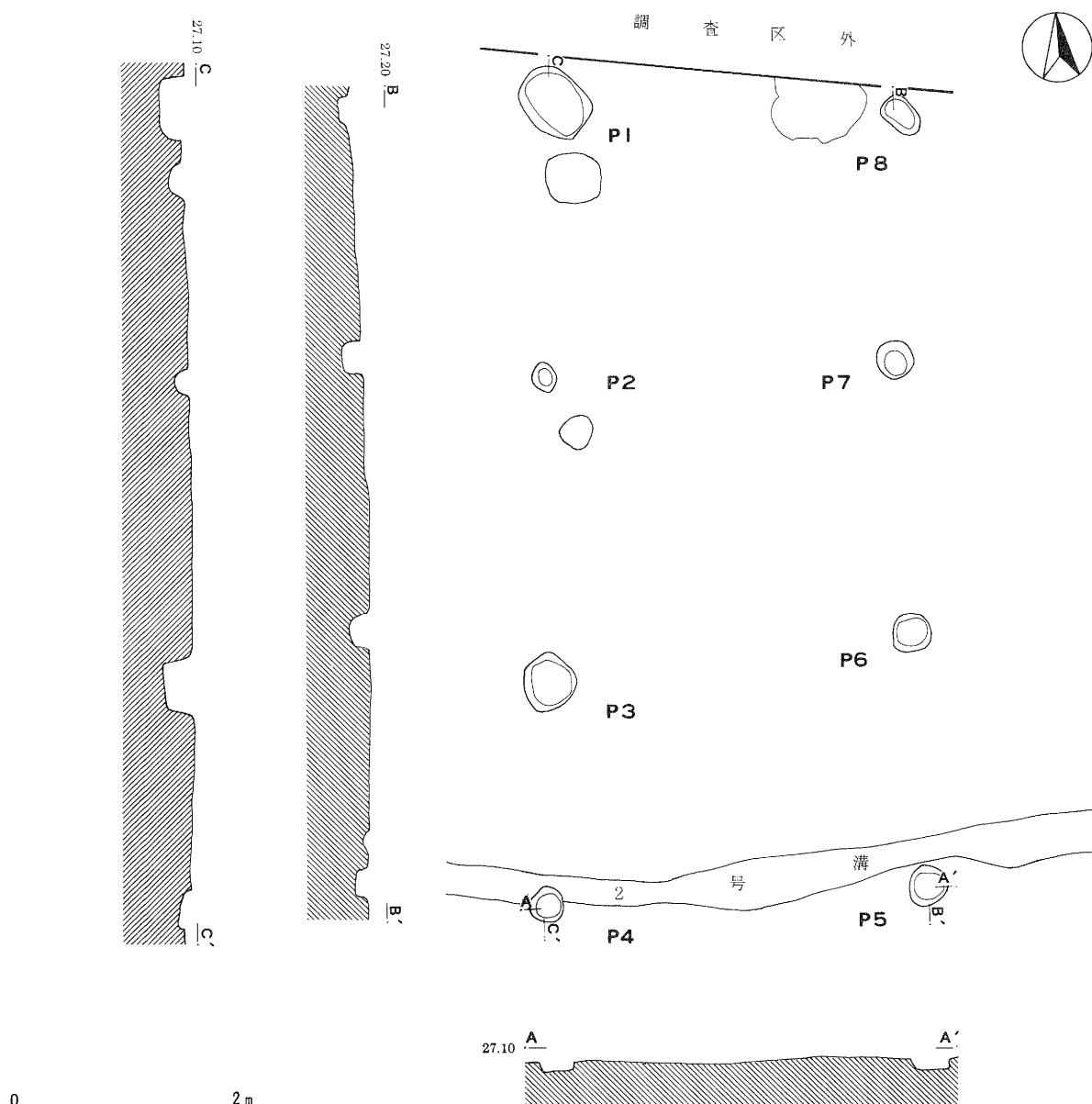
1区M・N-6・7グリッドに位置する。第5号住居跡と掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は確

認できなかった。

北東側は調査区外にある。現存する柱穴の並びから想定して、2間×3間の南北棟で、検出部分で桁行7.85m、梁行4.0mを測り、面積はおよそ32㎡を測る。柱間は桁行が西側の柱間で、北から2.65m、2.5m、2.7mを測る。梁行は南側で東から2.05m、1.95mを測り、桁行の柱間がかなり長い。主軸の方向はほぼ真北である。

柱穴は、ピット2からピット8までの規模は、径20cmから30cm、深さ20cmと非常に小さな形態でいずれも円形を呈する。ピット8のみやや隅丸方形状となっている。ピット1はやや大きく、60cm×50cmの隅丸の方形を呈し、深さは50cmとしっかりした形状であった。いずれのピットも柱痕は確認できなかった。

建物に伴うと思われる遺物は確認できなかった。



第87図 第2号掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡（第87図）

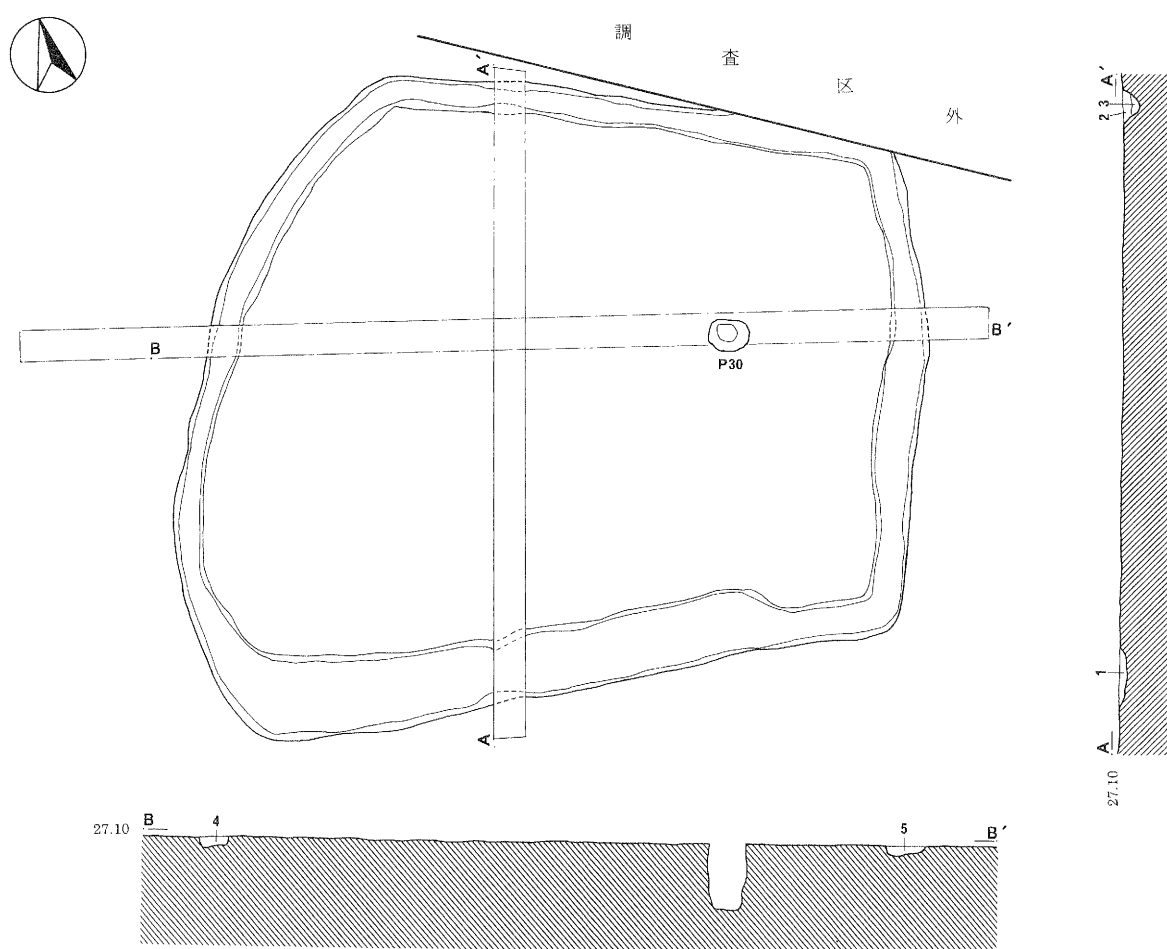
1区N・Oー7・8グリッドに位置する。第2号溝跡と重複し、新旧関係は掘立柱建物跡が溝跡を切っている。1間×3間の南北棟で、桁行6.95m、梁行3.1m、面積はおよそ21.55㎡となる。

柱間は桁行が2.3m、梁行3.1mとなるものの、東辺と西辺の桁行は揃わず、対応関係が乱れている。主軸方向はNー6°ーEを指す。

柱穴は小さなもので径20cm、大きなもので60cm、多くが30cm前後と不揃いであった。

深さも20cmから30cmといずれも浅い。柱筋の通りもありよくない。柱痕は確認できなかった。

遺物は確認できなかった。



土層説明（A A' B B'）

- 1 オリ-ブ 褐色土：灰色粒多量、鉄分・黒褐色粒少量含む。
- 2 オリ-ブ 褐色土：灰色粒多量、鉄分少量含む。
- 3 暗赤-ブ 褐色土：灰色粒・赤-ブ 褐色粒含む。
- 4 オリ-ブ 褐色土：灰色粒多量、鉄分・炭化物・焼土少量含む。
- 5 オリ-ブ 褐色土：鉄分・灰色粒含む。

0 2 m

第88図 第1号方形周溝状遺構

(3) 方形周溝状遺構

第1号方形周溝状遺構（第88図）

1区Z-3グリッドを中心に位置する。非常にいびつな形状となっており、南西側にふくらみを持つ隅丸の楕円状となっている。溝の幅は狭いところで40cm、幅広な部分で120cmを測る。深さもほぼ一定で、20cm前後と非常に浅い形態となっている。方形周溝墓の可能性も考えられるが、削平が著しいこと、溝が方形でなく著しく不整な形態であることなどから方形周溝墓と断定はできない。

(4) 溝 跡

溝跡は多数検出されているが、いずれも短いものが多く、全体を把握できるものが少なく、方向にも法則性のあるものはほとんどない。加えて遺物を伴うものもほとんどなく、時期、性格とも判然としない。

第1号溝跡（第89図）

1区N-9グリッドからQ-10グリッドにかけて検出された。肥塚古墳群15号古墳、第2号住居跡、第6号溝跡と重複し、新旧関係は第1号溝跡が最も新しい。

検出長は17.2mで、最大幅は1.5m、最深部で0.78mを測る。第6号溝跡と重複する東端部辺りでは幅0.8m、深さも0.5mと小規模となる。西端部は深さが二段となり、幅も細くなっている。横断面は幅広のU字形を呈している。覆土はランダムな層をなしており、人為的な堆積と考えられなくもない。

遺物は奈良・平安期の土師器の甕、坏の破片が確認されたが、この溝の時期を特定付けるものとは言えない。少なくとも奈良時代以降の時期と判るのみである。

第2号溝跡（第89図）

1区L-8グリッドからP-8グリッドに位置する。15号古墳、第2号掘立柱建物跡と重複し、古い順に15号古墳、第2号溝跡、第2号掘立柱建物跡となる。

検出長は17.4m、最大幅0.5m、深さは0.2mと浅い。溝の平面形状は緩やかに蛇行している。断面形状は、確認面が深かったことも災いして、浅い船底状を形づくっており、原形からほど遠いと推測される。

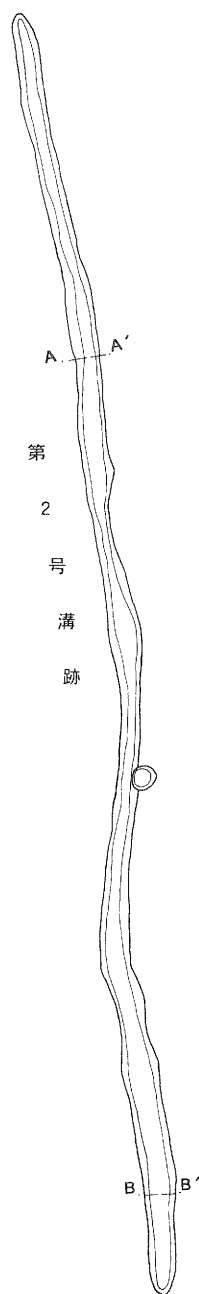
遺物は確認できなかった。

第1号溝跡とほぼ平行している点から、同時期の可能性もある。

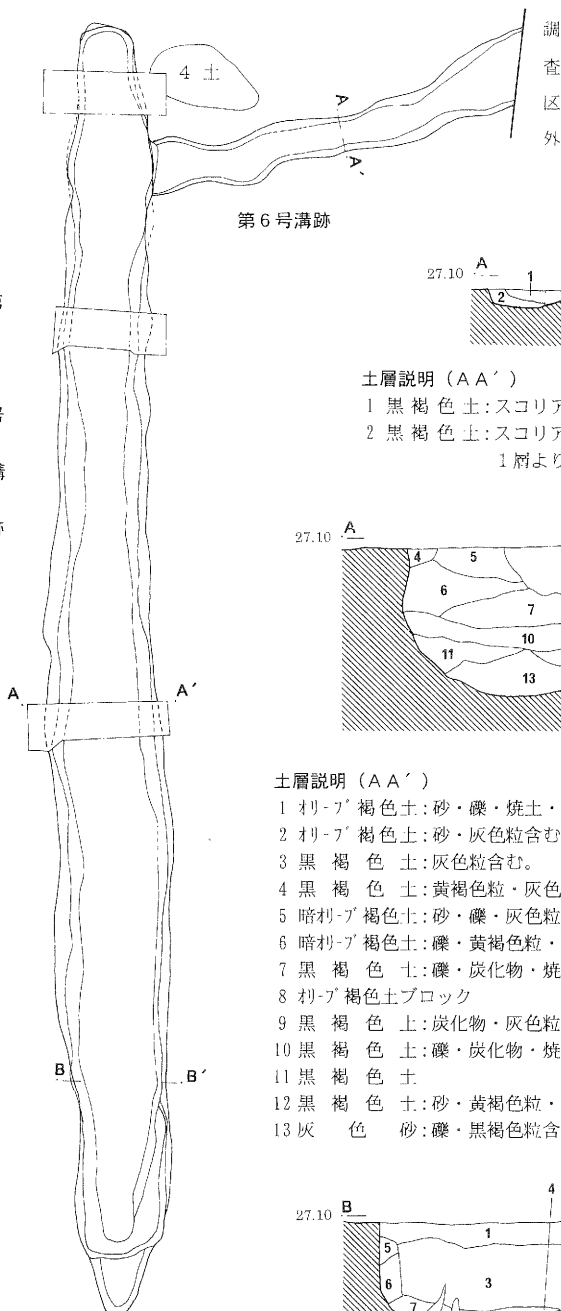
第3号溝跡（第90図）

1区I-10グリッドからI~L-7グリッドに位置する。第4号溝跡と重複しているが、第3号溝跡の方が新しい。

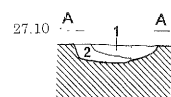
遺構の北側で調査区域外となり、南も調査区域外となる。検出長は23.2mであり、I-7グリッドからL-7グリッドまでは、やや南に振る東西方向溝となっており、長さ10mを測る。W-6グリッドではほぼ直角に方向を変え、南におよそ13m延びて調査区域外になる。溝幅は、直角に方向転換する部分は幅2.1m、深さ0.25mと浅く幅広の形状を呈し、東西部分で東に行くに従って細くなり、調査区域外との境



第
1
号
溝
跡

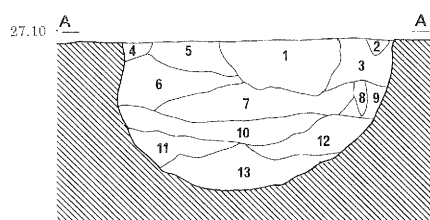


第6号溝跡



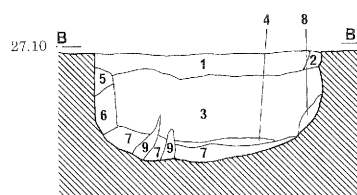
土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土:スコリア・黄褐色粒・灰色粒含む。
- 2 黒褐色土:スコリア・黄褐色粒・灰色粒含む。
- 1層より暗い。



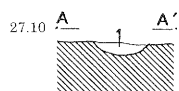
土層説明 (A A')

- 1 刈-ブ 褐色土:砂・礫・焼土・黄褐色粒・灰色粒含む。
- 2 刈-ブ 褐色土:砂・灰色粒含む。
- 3 黒褐色土:灰色粒含む。
- 4 黒褐色土:黄褐色粒・灰色粒含む。
- 5 暗刈-ブ 褐色土:砂・礫・灰色粒含む。
- 6 暗刈-ブ 褐色土:礫・黄褐色粒・灰色粒含む。5層より暗い。
- 7 黒褐色土:礫・炭化物・焼土・黄褐色粒・灰色粒含む。
- 8 刈-ブ 褐色土ブロック
- 9 黒褐色土:炭化物・灰色粒含む。
- 10 黒褐色土:礫・炭化物・焼土・黄褐色粒・灰色粒含む。
- 11 黒褐色土
- 12 黒褐色土:砂・黄褐色粒・灰色粒含む。
- 13 灰色砂:礫・黒褐色粒含む。



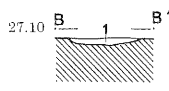
土層説明 (B B')

- 1 暗灰黄色土:鉄分・灰色粒含む。
- 2 刈-ブ 褐色土:炭化物・黒褐色粒・灰色粒含む。
- 3 暗刈-ブ 褐色土:礫・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 4 黒色土:暗刈-ブ 褐色粒・ブロック含む。
- 5 黒褐色土:刈-ブ 褐色粒・灰色粒含む。
- 6 黒褐色土:灰色粒含む。
- 7 黒褐色土:黒色粒・灰色粒含む。
- 8 黒褐色土:刈-ブ 褐色粒・灰色粒含む。
- 9 黄灰色砂:噴砂



土層説明 (A A')

- 1 黄灰色土:鉄分・スコリア・灰色粒含む。

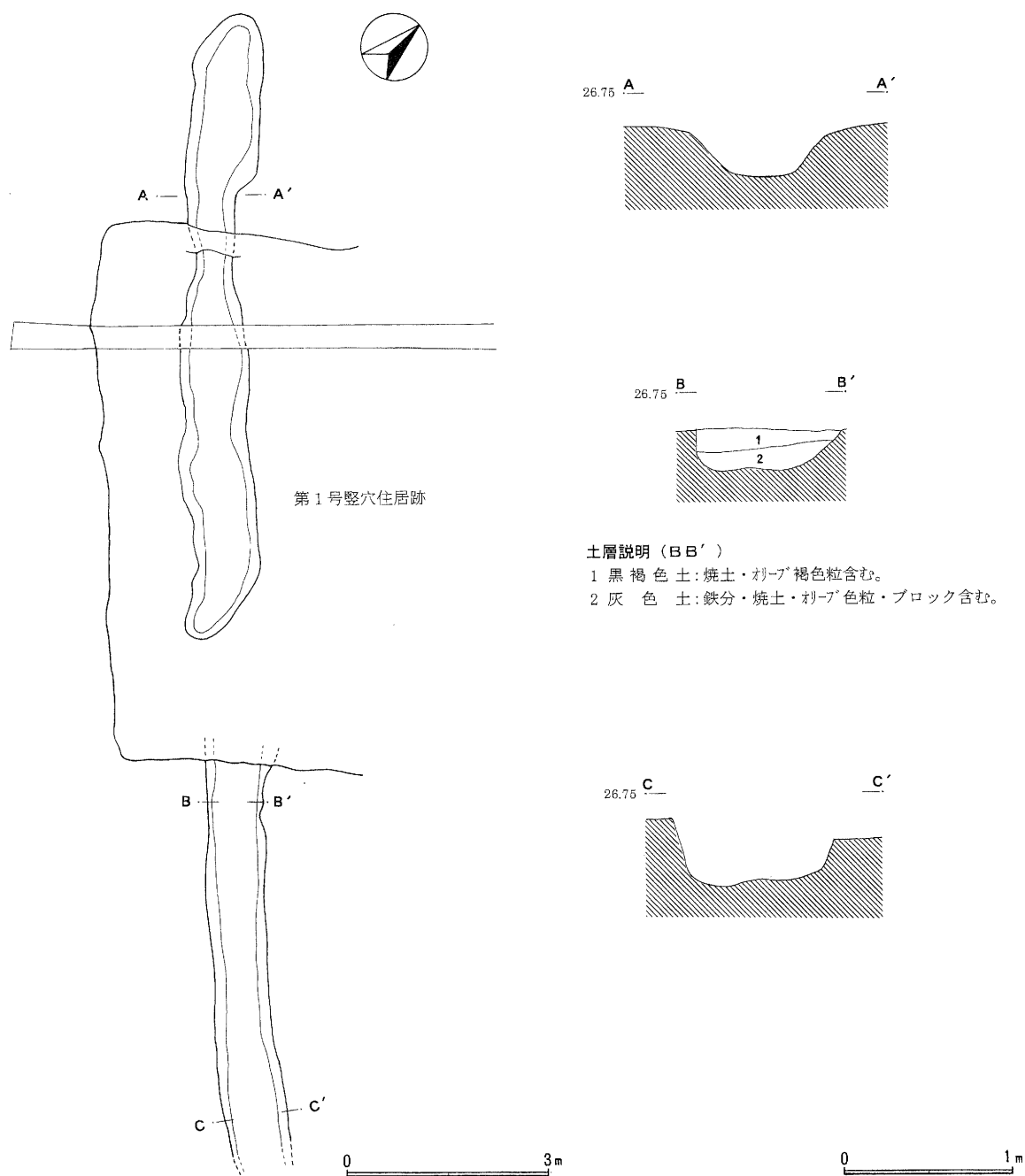


平面図 0 3m 断面図 0 1m

第99図 第1・2・6号溝跡

で幅 0.3 m、深さ 5 cm と小規模な形状となる。南北部分では直角に曲がった個所から 3 m で急激に窄まり、幅 0.25 m、深さ 8 cm となる。

遺物はほとんど確認できず、時期を特定できなかった。



第91図 第5号溝跡

第4号溝跡（第90図）

1区I-7グリッドからJ-10グリッドに位置する。第3号溝跡に切られている。

検出長は13.8mを測る。南北に延びる溝で、確認されている北端より9mほどの位置で東に方向を変えている。幅は0.5～0.6m、深さは0.15～0.2mを測る。北側部分は溝の形状が崩れており、原形が把握できない。

横断面中央付近で逆台形を呈する。

遺物は確認できず、時期を特定できなかった。

第5号溝跡（第91図）

1区W-9グリッドからY-11グリッドに位置する。第1号住居跡を切っている。

検出長は17mを測る。東西に延びる溝で、第1号住居跡と重複する箇所では遺構の把握がやや難しく、確認できなかった部分があった。溝の上幅はおよそ100cm、下幅40～70cm、深さ40cm前後を測る。断面形態はやや不整形ながら、箱薬研状の形態を呈する。

出土遺物は須恵器・坏が検出されたのみである（第112図1）。

第6号溝跡（第89図）

1区Q-10グリッドに位置し、南は調査区域外となり、北は第1号溝跡と重複している。第1号溝跡との新旧関係は明確にできなかった。加えて本溝が、第1号溝跡と重複するところで終わっている点については、やや不自然な感がある。

検出長は5mを測る。溝の方向はほぼ南北に延びる溝である。

溝の上幅は40cm～60cmと不整形な形態である。深さは10cmと極めて浅い。

出土遺物は確認されなかった。

第7号溝跡（第92図）

2区H-16グリッドとH-17グリッドにまたがり位置する。東西方向に延びる溝で、検出長はわずか3mほどであった。K-15からL-15グリッドに、図示できなかったが非常に浅い溝の痕跡が確認できたが、方向的に本溝跡が延びていったものと推定される。

溝の上幅はおよそ65cm、下幅は50cm、深さはおよそ25cm前後であった。

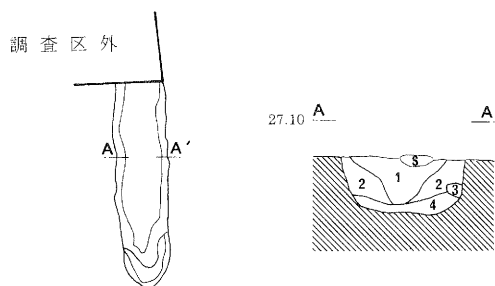
遺物は確認されなかった。

第8号溝跡（第92図）

2区P-18グリッドからQ-18グリッドにまたがり位置する。第16号古墳と重複するが、本遺構が新しい。溝はほぼ真北方向を向く南北溝で、南北ともに調査区域外に延びている。ただ、南16mに位置する調査区からは同様の溝が確認されていないことから、調査区域外で終わるか、曲がるものと推定される。

溝の断面形は舟底状で、溝の上幅は50～70cm、深さは10cmと浅い。

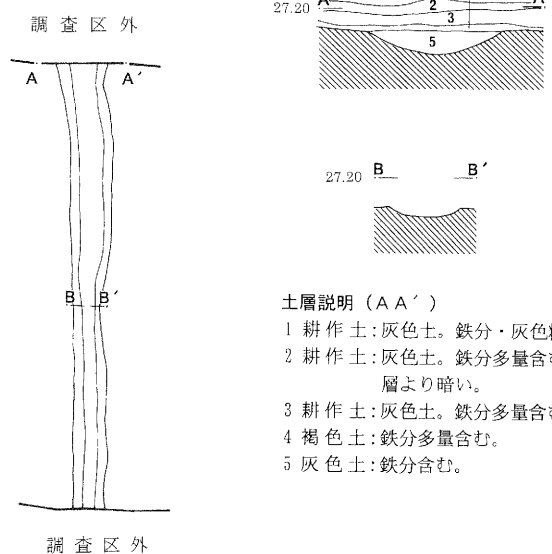
第7号溝跡



土層説明 (A A')

- 1 黄灰色土: 砂・灰色粒・黒褐色粒含む。
- 2 黄灰色土: 砂・灰色粒・暗灰黄色粒含む。
- 3 暗灰黄色土ブロック
- 4 黒褐色土: 砂・灰色粒・暗灰黄色粒含む。

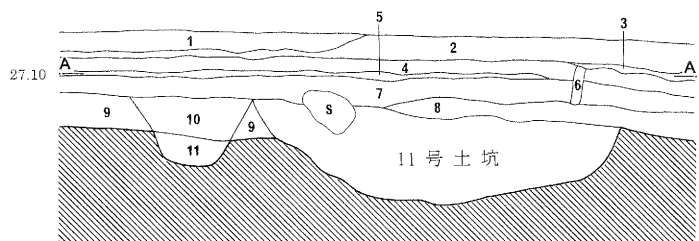
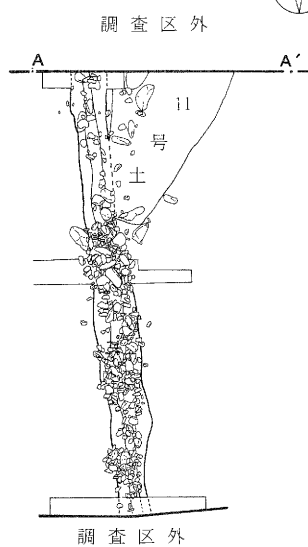
第8号溝跡



土層説明 (A A')

- 1 耕作土: 灰色土。鉄分・灰色粒含む。
- 2 耕作土: 灰色土。鉄分多量含む。1層より暗い。
- 3 耕作土: 灰色土。鉄分多量含む。
- 4 褐色土: 鉄分多量含む。
- 5 灰色土: 鉄分含む。

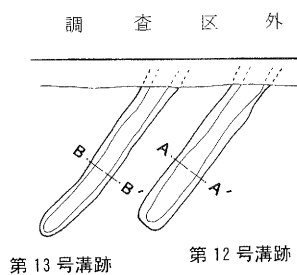
第9号溝跡



土層説明 (A A')

- 1 耕作土: 灰色土。鉄分・スコリア含む。
- 2 耕作土: 灰色土。鉄分多量、スコリア少量含む。1層より明るい。
- 3 褐色土: 鉄分多量含む。
- 4 耕作土: 灰色土。鉄分多量、スコリア少量含む。2層より明るい。
- 5 褐色土: 鉄分多量含む。
- 6 灰色土ブロック
- 7 灰色土: 鉄分含む。
- 8 黒褐色土: 灰色粒含む。
- 9 黒褐色土: 灰色粒含む。(地山)
- 10 黒褐色土: 灰色粒含む。
- 11 黒褐色土: 灰色粒含む。16層より暗い。

第12・13号溝跡



土層説明 (A A' B B')

- 1 暗灰黄色土: 鉄分・灰色粒・黄灰色粒含む。

平面図 0 3 m

断面図 0 1 m

第92図 第7～9・12・13号溝跡

出土遺物は確認されなかった。

第9号溝跡（第92図）

2区R-18グリッドからR-19グリッドにまたがり位置する。第8号溝跡の東6mに並行して南北に走る溝である。肥塚古墳群16号古墳と重複し、本遺構が新しい。また、第11号土坑と重複するが、新旧関係は把握できなかった。

第8号溝跡同様、南北ともに調査区域外に延びており、さらに南16mに位置する調査区からは同様の溝が確認されておらず、調査区域外で終わるか、曲がるものと推定される。

溝の断面形は舟底状を呈しており、断面図から判断すると上幅およそ70cm、深さは30cmほどであった。出土遺物は確認されなかった。

第10号溝跡（第93図）

2区J-16グリッドからL-16・17グリッドにまたがり位置する。第11号溝跡と重複しており、本溝跡が切っている。

検出された長さは10mで、ほぼ東西方向の溝である。

断面形は舟底状を呈し、上幅でおよそ1m、深さ30cmを測る。

出土遺物は確認されなかった。

第11号溝跡（第93図）

2区I-18グリッドからL-16グリッドに向かって延びる幅広で浅い溝である。

I-18グリッド辺りから北に向かって延びて、K-16グリッド辺りで方向を東に変えている。東の調査区域外に移行する部分での幅は3m前後と推定される。深さは確認面からわずか10cm前後と極めて浅く、平面形も一定の形を成しておらず、果たして溝と言えるものか疑問はあった。

出土遺物は検出されなかった。

第12号溝跡（第92図）

2区M-18グリッドからN-18グリッドにまたがり位置する。第9号土坑と重複するが、本溝跡の方が新しい。

検出された長さはおよそ2.5m、幅40cm、深さは3cmほどと極めて浅い。

断面形は舟底状である。

出土遺物は確認されなかった。

第13号溝跡（第92図）

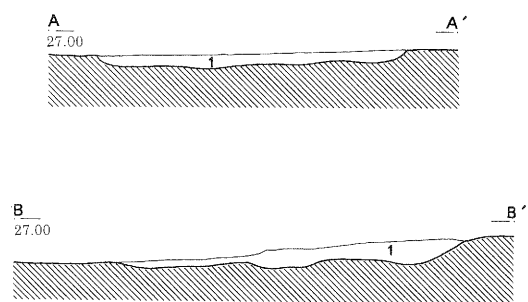
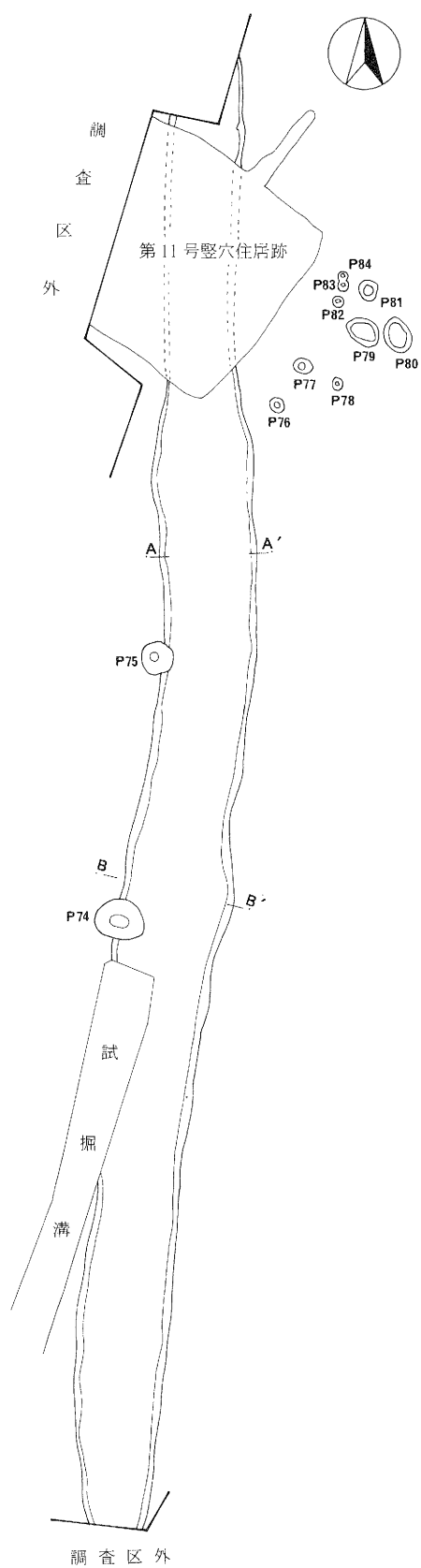
2区N-18グリッドに位置する。

検出された長さは2.5m、幅40cm、深さは3cm前後を測り、第12号溝跡とほとんど同規模である。その第12号溝跡とは50cmほど離れるのみで、並行して確認された。このような状況は二つの溝が、同一時期で、関連しあった遺構と推測される。

第10・11号溝跡



第93図 第10・11号溝跡



土層説明 (A A' B B')

1 褐灰色土:鉄分・礫含む。しまり強。

第94図 第14号溝跡

出土遺物は確認されなかった。

第14号溝跡（第94図）

3区A'－27からA'・B'－32グリッドに位置する。第11号住居跡と重複し、本溝跡が古い。また、ピットと重複する箇所がみられるが、新旧関係は不明である。

検出された長さは20m、平面形はほぼ真北を向く南北溝であり、南北とも調査区域外に延びている。溝の幅は1.6m前後と幅広で、深さは5cm前後と浅い。溝の底はやや凹凸があり、一定でない。

出土遺物は確認できなかった。

第15号溝跡（第95図）

4区F'・G'－10・11グリッドに位置する。北側は調査区域外となっている。

検出された長さは2.8m、東に方向が振れた南北溝跡である。

溝の幅は約50cm、深さ10cmを測る。西側の立ち上がりは急であるのに対して、東側は緩やかである。

出土遺物は確認されなかった。

第16号溝跡（第95図）

4区H'～J'－11グリッドに位置する。第17号溝跡と重複しており、同一の溝か、別の溝跡が合流したのか判断しかねる。その他、第17号土坑、第22号住居跡、ピットと重複する。土坑は溝より新しく、住居跡は溝跡より古い。ピットとの新旧関係は不明である。

溝の方向はほぼ東西方向で、第17号溝跡と合流する個所までの長さは10mであった。実測を行った三ヶ所の断面形は、いずれも共通性がなく、一定した形状を成していなかった。深さも10～20cmであった。

出土遺物は棒状の石製品が1点検出された（第112図2）。

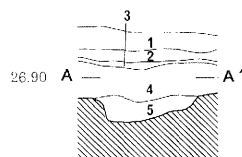
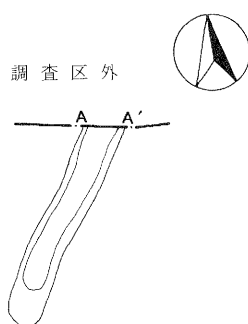
第17号溝跡（第95図）

4区H'－12～J'－11グリッドに位置する。第19・22号土坑と重複しており、第19号土坑は本遺構により古く、第22号土坑は本遺構より新しい。また、J'－12グリッドで第16号溝跡と重複しているが、新旧関係などは不明である。

南西方向から北東方向に走る溝で検出長は9m、南は調査区域外となり、北側は第16号溝跡と合流する。深さは、30～40cmで横断面形は逆台形を呈する。

出土遺物は確認されなかった。

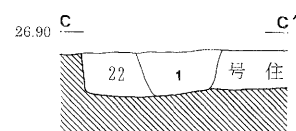
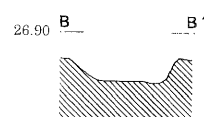
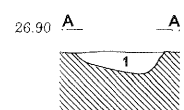
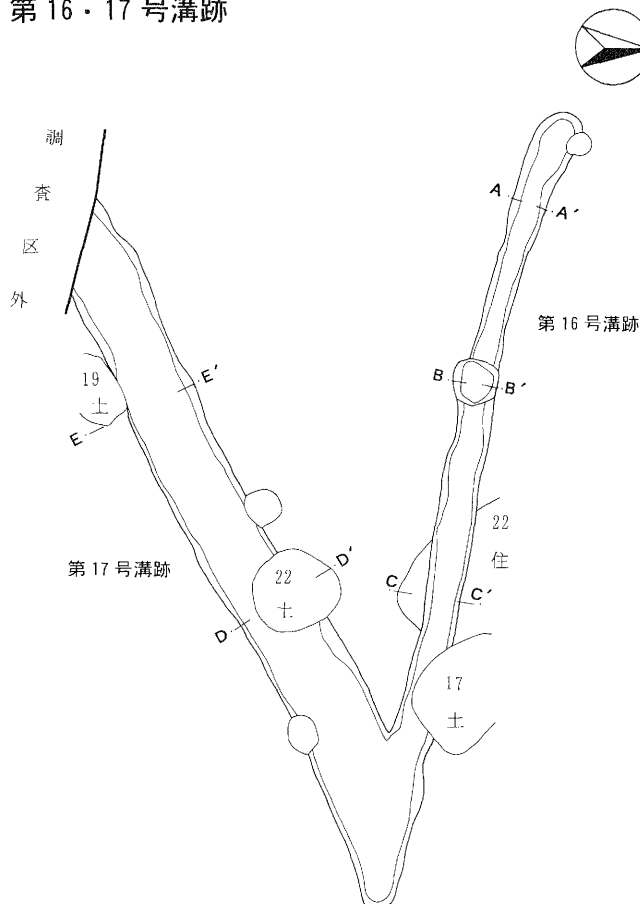
第15号溝跡



土層説明 (A A')

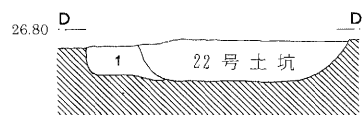
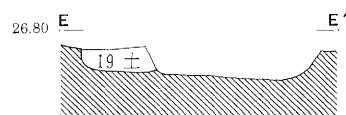
- 1 耕作土: 暗灰色。
- 2 耕作土: 灰色。スコリア含む。
- 3 明褐色土: 鉄分多量含む。
- 4 粘-褐土: 黒色土含む。
- 5 粘-褐土: 砂質。礫含む。しまり有。粘性弱。

第16・17号溝跡



土層説明 (A A' C C')

- 1 粘-褐土: 炭化物・焼土含む。しまり有。粘性弱。



平面図 0 3m

断面図 0 1m

土層説明 (D D')

- 1 粘-褐土: やや砂質。礫・スコリア含む。しまり有。粘性弱。

第95図 第15～17号溝跡

(5)土 坑

第1号土坑 (第96図)

1区H-9・10グリッドに位置する。

平面は長軸2.05m、短軸1.64mの隅丸の長方形で、確認面からの深さは1.42mを測る。底面は凹凸が激しかった。壁は急な傾斜を呈している。覆土は複雑に堆積しており、人為的に一気に埋め戻されたと思われる。

出土遺物は確認されなかった。

第2号土坑 (第96図)

1区L-8, M-8グリッドにまたがり位置する。第15号墳と重複しており、本遺構の方が新しい。

平面は長軸2.38m、短軸1.96mの長方形で、深さは最深部で1mであった。底面は凹凸のある舟底状を成している。覆土は複雑な堆積であり、人為的に一気に埋め戻されたと思われる。

第1号土坑に比較して規模は大きい、長方形であること、底の形状、人為的な堆積であることなど類似する点が多いことが指摘できる。

両土坑とも地下式墳か土壌の可能性が考えられる。

第3号土坑 (第97図)

1区Q-9グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認できなかったが、北側部分の一部が試掘トレンチにより破壊されている。

平面形は長軸1.51m、短軸0.85mの不整な長楕円形を呈し、深さ38cmを測る。

底部は凹凸があり、壁の立ち上がりは垂直に近い。平面形では把握できなかったが、土層断面から推測すると中央付近で層が分かれており、二つの土坑が重複してあった可能性が高い。

出土遺物は1点のみ検出された (第112図3)。

第4号土坑 (第97図)

1区A'-4・5グリッドからB'-4・5グリッドにまたがり位置する。他遺構との重複は確認できなかった。

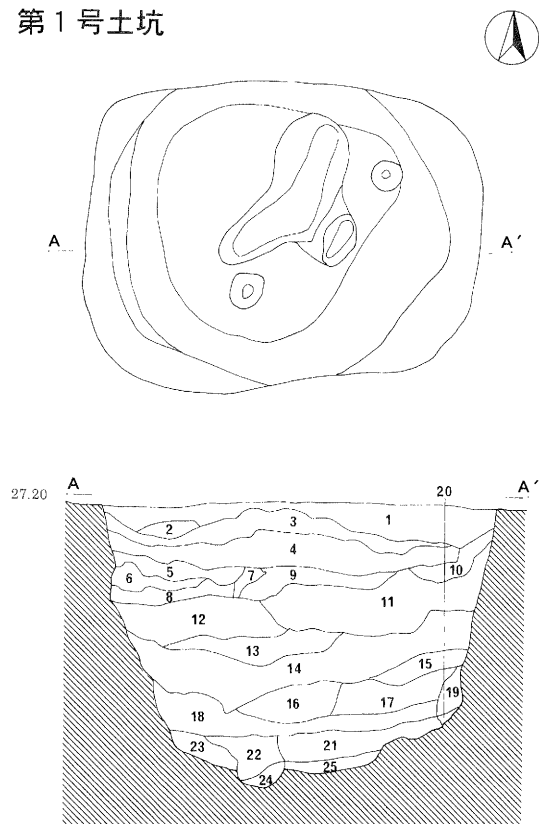
平面は長軸2.45m、短軸1.92mの楕円形を呈し、最深部で1.59mを測る。

底部の形状は舟底状となっている。断面形状は底部から20cmほど上がった位置が最大幅となる袋状の形態であった。底の平面形は長径2.8m、短径2.36mの長方形を呈する。

出土遺物は確認できなかった。

遺物が検出せず、明確な結論は出せないが、平面形状などから中世後半の地下式墳か土壌の可能性が考えられる。

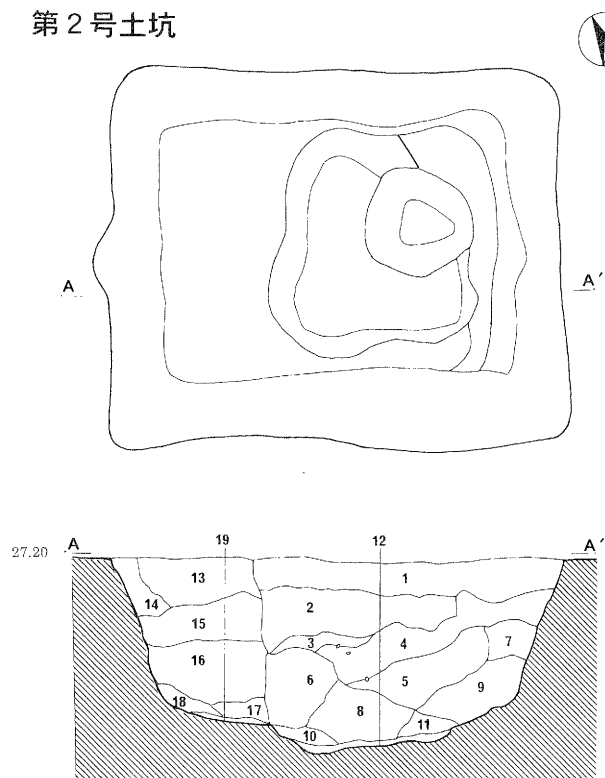
第1号土坑



土層説明 (A A')

- 1 灰黄褐色土:スコリア・灰色粒・にぶい黄褐色粒・ブロック含む。
- 2 灰黄色土:砂・スコリア・灰黄褐色粒・にぶい黄褐色粒含む。
- 3 灰黄色土:砂・スコリア・灰黄褐色粒・ブロック・にぶい黄褐色粒・ブロック含む。
- 4 灰黄色土:黄褐色粒・ブロック多量、にぶい黄褐色粒・ブロック含む。
- 5 灰黄色土:にぶい黄褐色粒・ブロック多量、スコリア・灰黄褐色粒少量含む。
- 6 灰黄色土:鉄分・スコリア含む。
- 7 灰黄褐色土:鉄分・灰色粒含む。
- 8 にぶい黄褐色土:砂・灰色粒・灰黄褐色粒含む。
- 9 にぶい黄褐色土:灰黄褐色粒・ブロック多量、灰色粒少量含む。
- 10 灰黄褐色土:灰色粒・にぶい黄褐色粒含む。
- 11 灰黄褐色土:灰色粒・ブロック・にぶい黄褐色粒・暗灰黄色粒・ブロック含む。
- 12 灰黄色土:砂・灰黄褐色粒・ブロック・にぶい黄褐色粒・暗灰黄色粒・ブロック含む。
- 13 灰黄色土:粘土質。鉄分・砂含む。
- 14 灰黄褐色土:焼土・灰色粒・にぶい黄色粒・ブロック・暗灰黄色粒・ブロック含む。粘性有。
- 15 黄灰色土:灰色粒・にぶい黄色粒・灰黄褐色粒含む。粘性有。
- 16 青灰色土:粘土質。鉄分・灰黄褐色粒含む。
- 17 青灰色土:粘土質。鉄分・砂・灰黄褐色粒含む。
- 18 青灰色シルト:鉄分含む。
- 19 黄褐色シルト
- 20 灰黄色土:粘土質。砂含む。
- 21 暗青灰色シルト:砂含む。
- 22 にぶい黄褐色砂:鉄分多量含む。
- 23 暗青灰色砂:鉄分含む。
- 24 青灰色土:粘土質。鉄分多量、砂少量含む。
- 25 灰黄色土:鉄分・砂含む。

第2号土坑



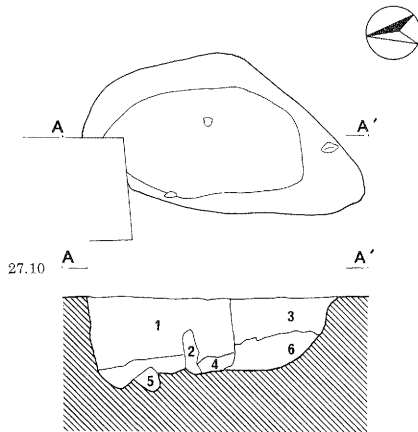
土層説明 (A A')

- 1 黄褐色土:スコリア・灰色粒・ブロック・黒褐色粒・ブロック含む。
- 2 黄褐色土:黒褐色粒・ブロック多量、スコリア・灰色粒少量含む。
- 3 黒褐色土:灰色粒・黄褐色粒含む。
- 4 灰黄色土:鉄分・礫・スコリア・焼土・黒褐色粒・黄褐色粒含む。
- 5 黒褐色土:黄褐色粒・ブロック多量、スコリア・灰色粒少量含む。
- 6 黄褐色土:黒褐色粒・ブロック多量、スコリア・灰色粒少量含む。
- 7 黒褐色土:灰色粒多量、スコリア・黄褐色粒少量含む。
- 8 黄褐色シルト:鉄分・灰色粒・黒褐色粒・暗灰色粒含む。
- 9 黒褐色土:灰色粒・ブロック・黄褐色粒・ブロック含む。
- 10 灰色シルト:鉄分・黄褐色粒・暗灰色粒・ブロック含む。
- 11 灰色シルト:鉄分・黒褐色粒含む。
- 12 黄褐色粘土:鉄分・灰色粒含む。
- 13 灰黄色土:スコリア・黒褐色粒・ブロック・黄褐色粒・ブロック含む。
- 14 暗灰-ブ褐色土:スコリア・灰色粒・黄褐色粒含む。
- 15 暗灰-ブ褐色土:スコリア・灰色粒多量、黄褐色粒少量含む。
- 16 黄褐色土:黒褐色粒・ブロック・暗灰-ブ褐色粒・ブロック多量、灰色粒少量含む。
- 17 灰色シルト:黒褐色粒・ブロック多量、鉄分・黄褐色粒・ブロック少量含む。
- 18 灰色シルト:鉄分・黒褐色粒含む。
- 19 黄褐色土:鉄分含む。

0 1 m

第96図 第1・2号土坑

第3号土坑

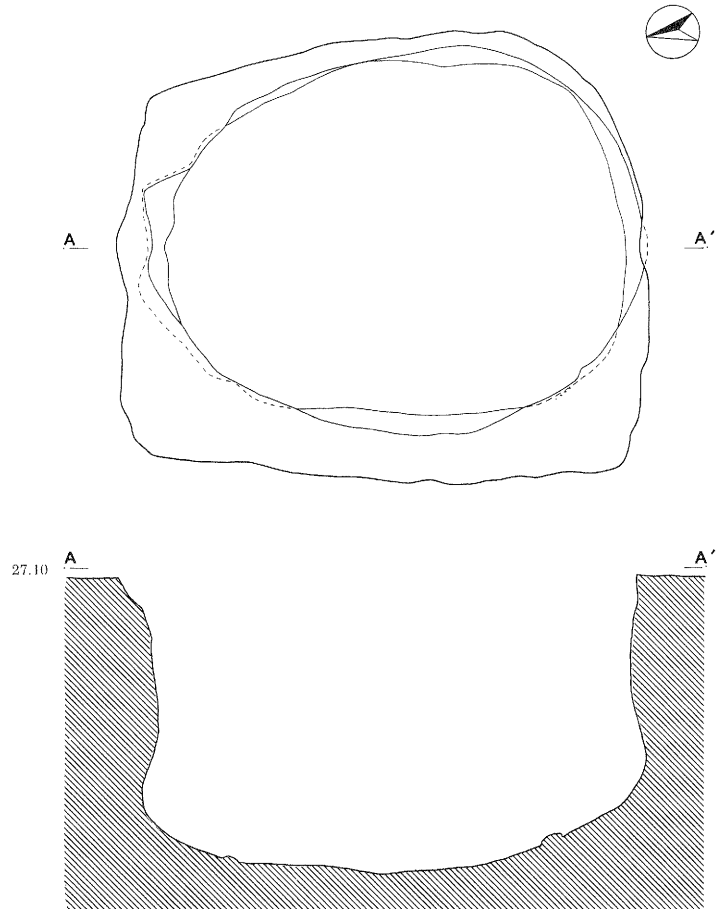


土層説明 (A-A')

- 1 黒褐色土: 灰色粒・黄褐色粒・ブロック含む。
- 2 暗灰黄色砂ブロック
- 3 暗褐色土: スコリア・灰色粒含む。
- 4 黒褐色土: 灰色粒・赤褐色粒・ブロック含む。
- 5 黒褐色土: 灰色粒・黄褐色粒・ブロック含む。
- 6 黒褐色土: 砂・灰色粒含む。

0 1 m

第4号土坑



第97図 第3・4号土坑

第5号土坑 (第98図)

1区U-8グリッドに位置する。

平面は長さ3.62m、幅0.9m、深さ20cmを測り、東に行くに従って浅くなり、消滅する。この土坑と把握した遺構の主軸方向の延長上に第5号溝跡があり、この溝跡との形状が極めて類似することから、本土坑は溝と同一遺構の可能性も考えられる。

出土遺物は確認されなかった。

第6号土坑 (第98図)

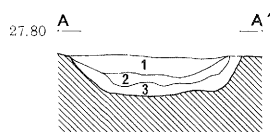
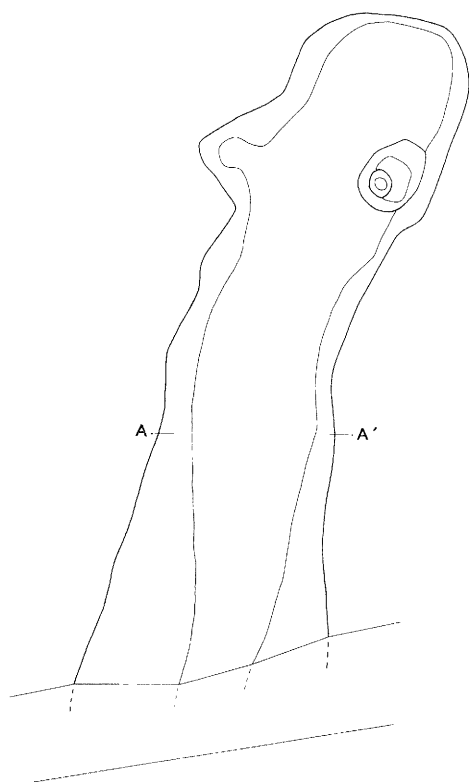
1区A'-9グリッドに位置する。第5号土坑 (第5号溝跡) と並行する位置関係にあり、何らかの関連性が考えられる。

平面は長さ2.76m、幅0.58m、深さは26cmを測り、土坑と言うよりも溝と考えられなくもない。

溝の底面は平坦で、壁の立ち上がりは垂直に近い。

出土遺物は確認されなかった。

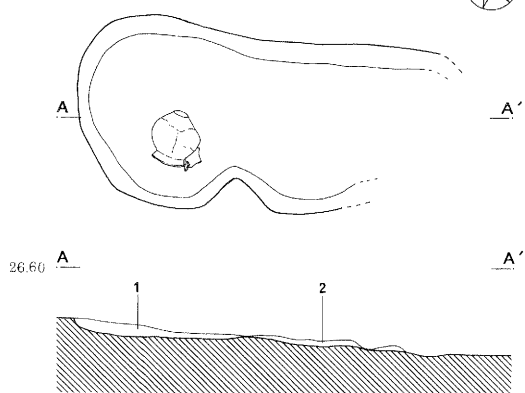
第5号土坑



土層説明 (AA')

- 1 黒褐色土: 灰色粒・オリーブ褐色粒含む。
- 2 黒褐色土: 炭化物・灰色粒・オリーブ褐色粒含む。
- 3 黒褐色土: オリーブ褐色粒・ブロック多量、炭化物・灰色粒少量含む。

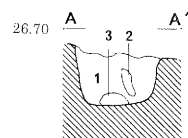
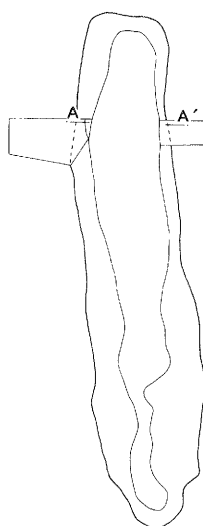
第8号土坑



土層説明 (AA')

- 1 暗オリーブ褐色土: 炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 2 暗オリーブ褐色土: 礫・炭化物・焼土・灰色粒含む。

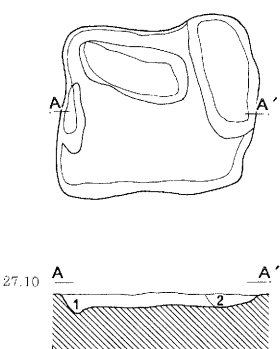
第6号土坑



土層説明 (AA')

- 1 黒褐色土: 灰色粒含む。
- 2 黒褐色土ブロック
- 3 褐灰色土: 灰色粒含む。

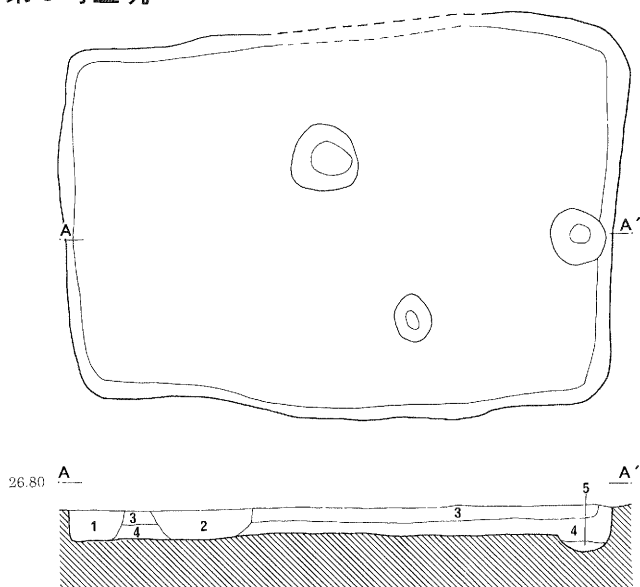
第7号土坑



土層説明 (AA')

- 1 黒褐色土: 炭化物・灰色粒・オリーブ褐色粒含む。
- 2 暗灰黄色土: 灰色粒含む。

第9号土坑



土層説明 (AA')

- 1 黒褐色土: 灰色粒・オリーブ褐色粒・ブロック含む。
- 2 オリーブ褐色土: 灰色粒・オリーブ褐色粒・ブロック含む。
- 3 暗オリーブ褐色土: 灰色粒・オリーブ褐色粒・ブロック含む。
- 4 オリーブ褐色土: 焼土・灰色粒・黒褐色粒含む。
- 5 黒褐色土: 灰色粒含む。

第98図 第5～9号土坑

第7号土坑（第98図）

1区M－4グリッドに位置する。

平面は長軸1m、短軸0.9mの方形に近い形状を呈する。深さは8cm前後と浅い。土坑の東南隅は長軸0.6m、短軸0.3mの長方形の上坑が重なる形となっている。底部は平坦である。

出土遺物は確認されなかった。

第8号土坑（第98図）

1区Y－9グリッドに位置し、第1号住居跡に隣接する。本土坑と第1号住居跡カマドの確認のための削平が著しく、本土坑の東側部分プランが確認できなかった。

残存する土坑の規模は、長さ2.04m、幅0.9mを測る。深さは北寄りも確認面から5cmほどと極めて浅い。

出土遺物は極めて多く、土師器甕・高坏などが多数確認された（第112図4～9）。

第9号土坑（第98図）

1区Y－9グリッドに位置する。第1号住居跡の西側に隣接するが、重複関係は確認されなかった。

平面の径は長軸方向2.94m、短軸方向2.12mの長方形で、深さ15cm前後であった。

底部は平坦で、壁の立ち上がりは急であった。一見、小形の住居跡と考えられなくもない。

出土遺物は確認されなかった。

第10号土坑（第99図）

2区M－18グリッドに位置する。土坑の南側は発掘調査区外となっており、正確な規模は把握できなかった。また、第12号溝跡と重複しており、本土坑の方が古い。

確認された範囲での規模は、長軸4.21m、短軸1.8mほどであった。深さは25cm前後を測る。

底部は凹凸のある形状で、平面プランも楕円に近い形状であった。

土坑と把握したが、住居跡と考えられなくもない。

出土遺物は確認されなかった。

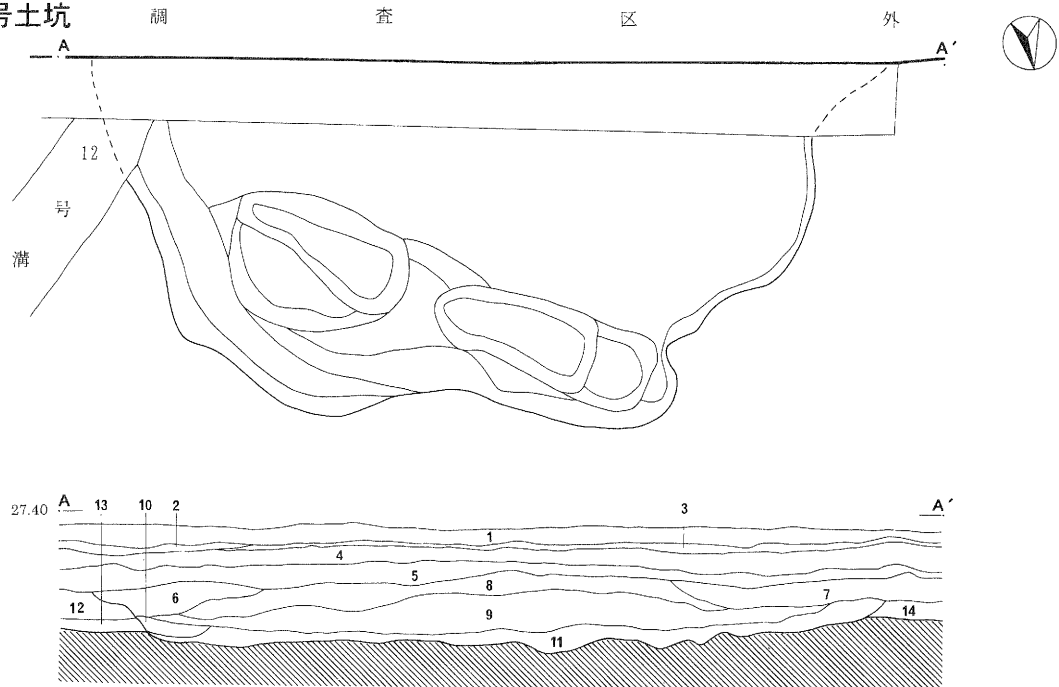
第11号土坑（第99図）

2区R－18グリッドに位置する。土坑の北側は調査区域外になっており、正確な規模は把握できなかった。南西の一部は第9号溝跡と重複している。溝の方が新しいと思われる。

平面の形状は、第9号溝跡に切られており、残存部の長さは2.2m、幅1.2m、深さは50cmほどである。礫や焼土を多数含んでおり、火葬跡の可能性も考えられなくもない。

出土遺物は確認されなかった。

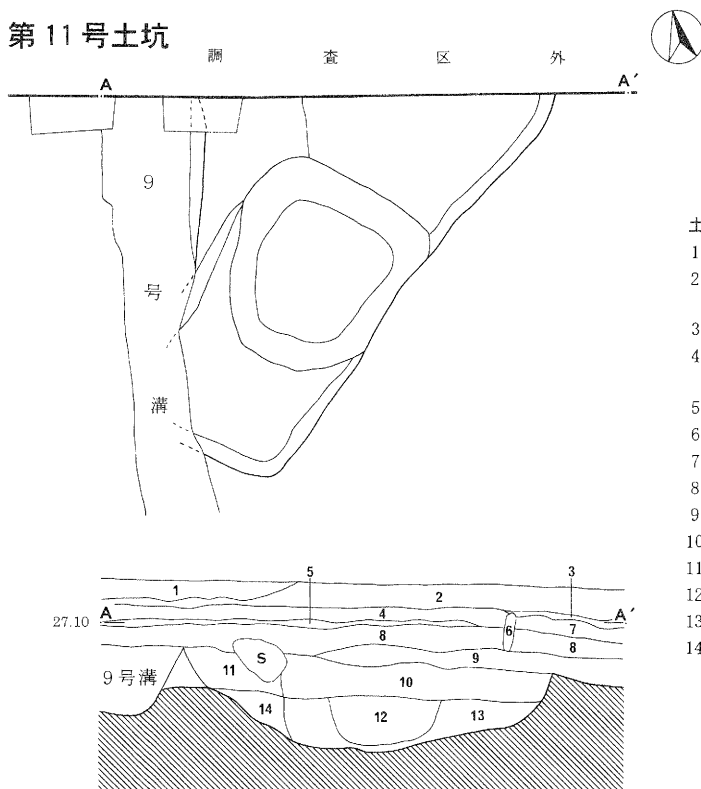
第10号土坑



土層説明 (A A')

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 1 表 土 | 8 刈-ブ 褐色土: 黒褐色粒・ブロック含む。 |
| 2 耕 作 土: 灰色土。鉄分多量含む。 | 9 暗灰黄色土: 黒褐色粒含む。 |
| 3 褐色 土: 鉄分多量含む。 | 10 黒 褐色 土: 灰色粒・黒褐色粒・ブロック含む。(第12号溝跡覆土) |
| 4 黒 褐色 土: 灰色粒・黒褐色粒・刈-ブ 褐色土ブロック含む。 | 11 黒 褐色 土 |
| 5 黒 褐色 土: 刈-ブ 褐色粒・ブロック含む。 | 12 黒 褐色 土 |
| 6 暗灰黄色土: 黒褐色粒・ブロック含む。 | 13 黒 褐色 土: 12層より明るい。 |
| 7 黒 褐色 土: 刈-ブ 褐色粒・ブロック含む。 | |

第11号土坑



土層説明 (A A')

- | |
|---|
| 1 耕 作 土: 灰色土。鉄分・スコリア含む。 |
| 2 耕 作 土: 灰色土。鉄分多量、スコリア少量含む。
1層より明るい。 |
| 3 褐色 土: 鉄分多量含む。 |
| 4 耕 作 土: 灰色土。鉄分多量、スコリア少量含む。
2層より明るい。 |
| 5 褐色 土: 鉄分多量含む。 |
| 6 灰色土ブロック |
| 7 灰 色 土: 鉄分含む。 |
| 8 灰 色 土: 鉄分含む。7層より明るい。 |
| 9 黒 褐色 土: 灰色粒含む。 |
| 10 黒 褐色 土: 灰色粒少量含む。 |
| 11 黒 褐色 土: 礫・焼土・灰色粒含む。 |
| 12 黒 褐色 土: 礫・焼土・灰色粒含む。10層より暗い。 |
| 13 暗刈-ブ 褐色土: 鉄分・灰色粒含む。 |
| 14 黒 褐色 土: 灰色粒・刈-ブ 褐色粒含む。 |

0 1 m

第99図 第10・11号土坑

第12号土坑（第100図）

4区F'ー10グリッドに位置する。

平面は長軸0.8m、短軸0.65mの楕円形を呈し、深さは確認面から10cmと浅かった。

底部は舟底状で、緩やかな立ち上がりを呈している。

出土遺物は確認されなかった。

第13号土坑（第100図）

4区F'ー12グリッドに位置する。遺構の北側は調査区域外となり、遺構の全体規模は把握できなかった。

平面は長軸1.94m、短軸1mの長方形を呈し、深さは最深部で20cmである。底部はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩やかに傾斜である。

出土遺物は確認されなかった。

第14号土坑（第100図）

4区H'ー10・11グリッドに位置する。東西は第26・27号住居跡に切られ、北側は調査区域外にあたるため、規模・プラン等詳細は不明である。深さは36cmを測り、西側に向かってやや傾斜している。壁の立ち上がりは、土層断面の観察から急な傾斜であると思われるが、南側はテラス状になっている。

出土遺物は確認されなかった。

第15号土坑（第100図）

4区F'ー11・12グリッドに位置する。

平面は長軸1.5m、短軸0.97mの長方形を呈し、深さは極めて浅く3cmほどである。

底部はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは浅いためわずかであるが、緩やかな傾斜である。

出土遺物は確認されなかった。

第16号土坑（第100図）

4区G'ー12グリッドに位置する。遺構の西側部分は調査区域外になっており、遺構の全体規模は把握できなかった。

平面は径0.65mの円形に近い形を呈し、深さは8cmほどの浅い。底部は舟底状になっている。

出土遺物は確認されなかった。

第17号土坑（第100図）

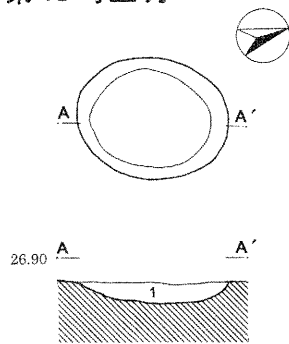
4区I'ー11グリッドに位置する。第2号溝跡と重複しており、本土坑の方が新しい。

平面形は長軸1.51m、短軸1.14mの不整楕円形を呈するが、本来は方形だったと思われる。

底部は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直に近い形状を呈している。

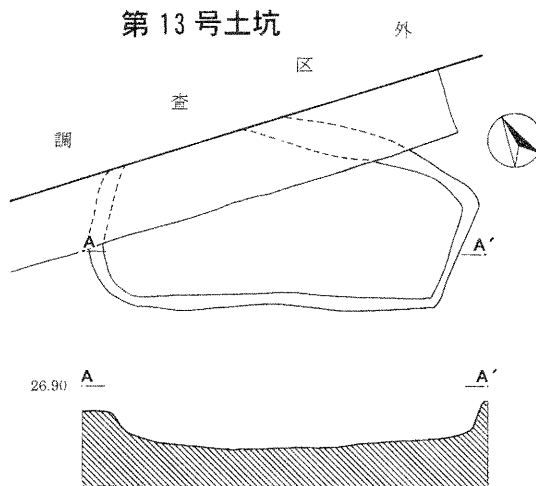
出土遺物は土師器坏の破片が確認された（第112図10）。

第12号土坑

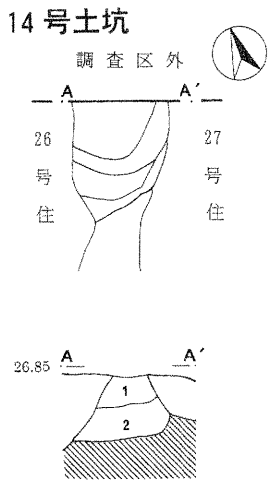


土層説明 (A A')
1 オリーブ褐色土: 礫・焼土微量含む。
しまり有。粘性弱。

第13号土坑

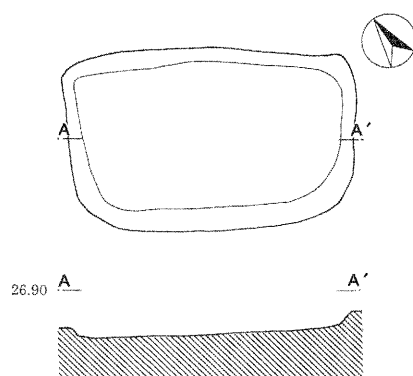


第14号土坑

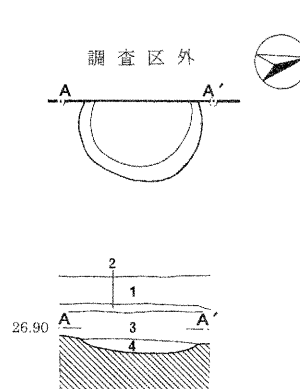


土層説明 (A A')
1 オリーブ褐色土: しまり有。粘性弱。
2 オリーブ褐色土: 礫多量含む。しまり有。
粘性弱。

第15号土坑

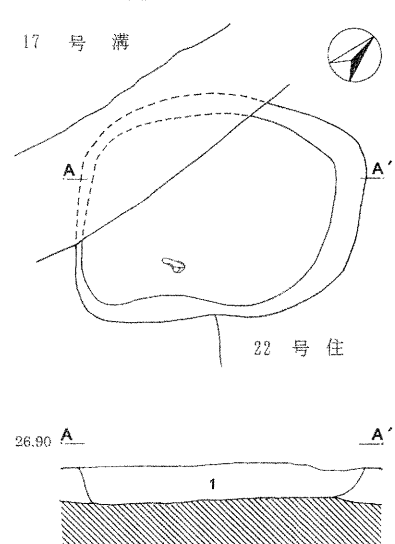


第16号土坑

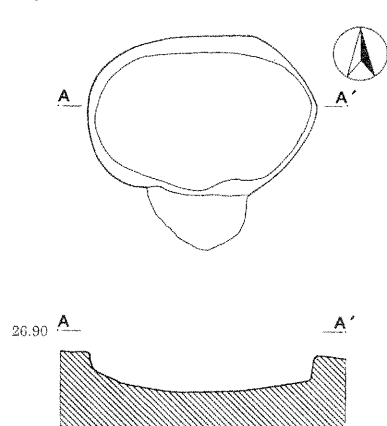


土層説明 (A A')
1 耕作土: 灰色。スコリア含む。
2 耕作土: 灰白色。鉄分・スコリア含む。
3 暗褐色土: 鉄分含む。
4 オリーブ褐色土: スコリア微量含む。しまり強。
粘性弱。

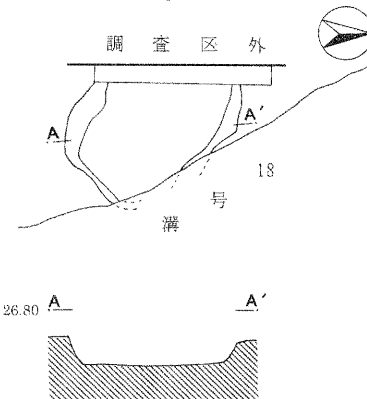
第17号土坑



第18号土坑



第19号土坑



土層説明 (A A')
1 オリーブ褐色土: 砂質。礫・スコリア含む。
しまり強。粘性弱。

0 1 m

第100図 第12~19号土坑

第18号土坑（第100図）

4区G'－12グリッドに位置する。

平面は長径1.22m、短径0.84mの楕円形を呈するが、本来は長方形であった可能性も考えられる。

底部は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直となっている。

出土遺物は確認されなかった。

第19号土坑（第100図）

4区I'－12グリッドに位置する。東側は第3号溝跡が重複し、本土坑が切られている。また、西側は試掘トレンチで原形をとどめていない。

残存する部分での径は0.9mほどで、不整な楕円に近い形状を呈するものと推測される。

底部はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急な斜面となっている。

出土遺物は確認されなかった。

第20号土坑（第101図）

4区E'・F'－12グリッドに位置する。遺構の南側は調査区域外となっており、全体の規模は把握できなかった。

平面形は東西方向2.14m、南北方向残存部で1.72mの方形となっている。中央部付近で南北方向に段差があり、二つの土坑の重複も想定されたが、土層の状況から一つの土坑に段が付いただけのものと推測した。

底部の状況はほぼ平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。

出土遺物は、須恵器坏の底部破片と刀子の破片が検出された（第112図11・12）。

第21号土坑（第101図）

4区I'－11グリッド位置する。本遺構の東側は第1号住居跡によって切られており、さらに北側の一部が調査区外となっている。

平面は径0.64mの楕円形と推測される。底部はほぼ平坦である。

出土遺物は確認されなかった。

第22号土坑（第101図）

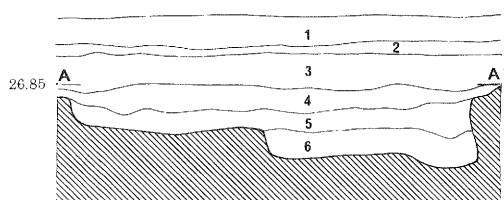
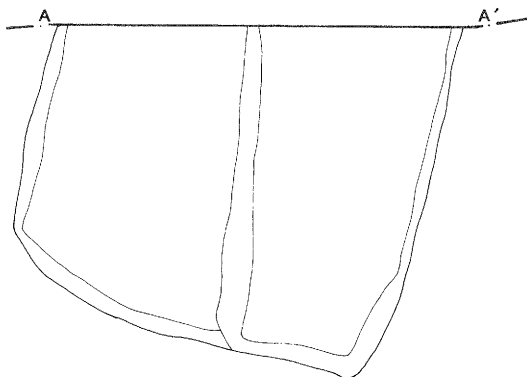
4区I'－12グリッドに位置する。

平面は長軸1.18m、短軸1.05mの楕円形を呈し、深さは20cmを測る。底部はほぼ平坦であり、壁の立ち上がりは北寄りには緩やかな傾斜であるのに対して、南寄りは垂直に近い状況である。

出土遺物は確認されなかった。

第20号土坑

調査区外



土層説明 (AA')

- 1 耕作土: 暗灰色。
- 2 耕作土: 灰色。スコリア含む。
- 3 オリーブ褐色土: 黒色土含む。
- 4 オリーブ褐色土: 砂質。スコリア多量、炭化物・焼土少量含む。しまり有。粘性弱。
- 5 オリーブ褐色土: 砂質。スコリア・炭化物・焼土含む。しまり有。粘性弱。
- 6 黒褐色土: 砂質。しまり有。粘性弱。

0 1 m

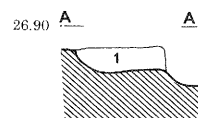
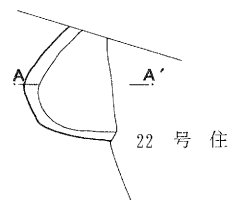
土層説明 (AA')

- 1 オリーブ褐色土: スコリア・焼土含む。しまり有。粘性弱。
- 2 オリーブ褐色土: しまり有。粘性弱。1層より暗い。

第21号土坑



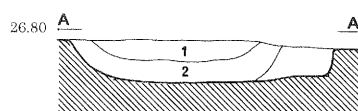
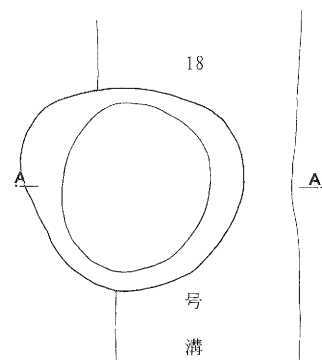
試掘溝



土層説明 (AA')

- 1 オリーブ褐色土: スコリア・黄灰色土ブロック含む。しまり有。粘性弱。

第22号土坑



第101図 第20～22号土坑

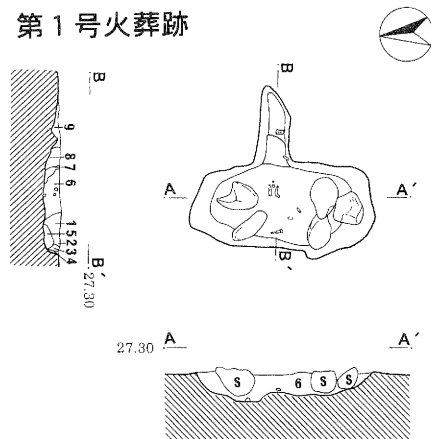
(6)火葬跡

第1号火葬跡 (第102図)

1区H-10グリッドに位置する。規模は長軸0.97 m、短軸0.47 mの長方形の土坑で、深さは確認面から10 cmを測る。土坑の北寄りに径20 cmほどの自然石が二つ、南寄りに20 cmほどの自然石が三つ、不揃いな状態で検出された。土坑の東壁の中央付近が緩やかな傾斜を持ち立ち上がる溝が付随しており、規模は幅17 cmで、長さ40 cmである。

覆土には焼土、灰、炭化物を大量に含んでいる。底に検出された自然石も黒く煤が付着しており、火を受けている。覆土中には骨片も確認された。

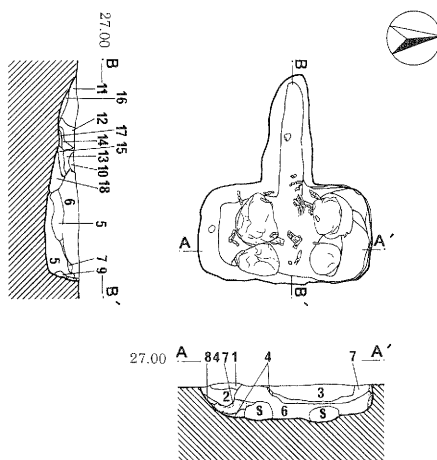
第1号火葬跡



土層説明 (AA' BB')

- 1 灰黄褐色土:炭化物多量、骨片・黄褐色粒少量含む。
- 2 炭化物層
- 3 焼土ブロック
- 4 炭化物層:焼土・灰黄褐色粒少量含む。
- 5 炭化物層:焼土・骨片・灰黄褐色粒少量含む。
- 6 灰黄褐色土:炭化物多量、焼土・骨片少量含む。
- 7 灰黄褐色土:炭化物多量、焼土・骨片少量含む。1層より暗い。
- 8 焼土層:炭化物・骨片含む。
- 9 黒褐色土:炭化物・焼土多量、骨片少量含む。

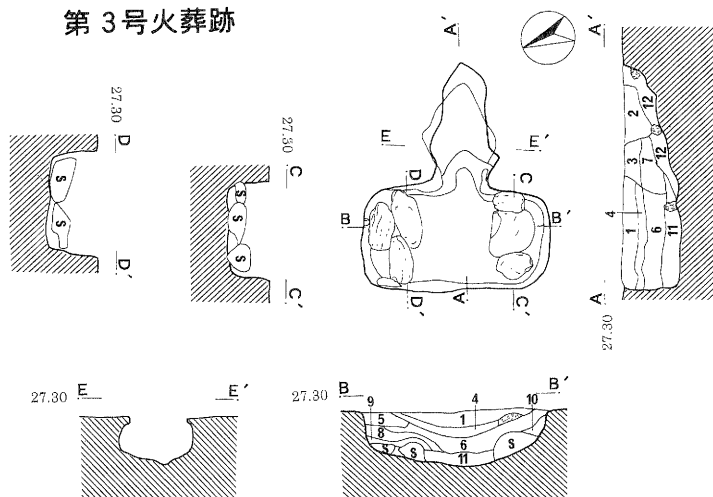
第2号火葬跡



土層説明 (AA' BB')

- 1 暗灰黄色土:焼土多量、炭化物・骨片少量含む。
- 2 炭化物層:暗灰黄色粒・ブロック少量、焼土・骨片微量含む。
- 3 暗灰黄色土:炭化物・焼土・骨片少量含む。
- 4 焼土層:炭化物・骨片・暗灰黄色土少量含む。
- 5 暗灰黄色土:炭化物・焼土・骨片多量含む。
- 6 炭化物層:暗灰黄色粒多量、焼土・骨片少量含む。
- 7 炭化物層:暗灰黄色粒少量含む。
- 8 暗灰黄色土:炭化物含む。
- 9 黒褐色土:被熱。
- 10 暗赤褐色土:焼土含む。
- 11 オリーブ褐色土:灰色粒少量、炭化物・焼土・黄褐色粒微量含む。
- 12 暗赤褐色土:炭化物・焼土含む。
- 13 暗オリーブ褐色土:炭化物多量、焼土・黄褐色粒少量含む。
- 14 炭化物層:焼土・骨片・暗オリーブ褐色粒含む。
- 15 暗オリーブ褐色土:焼土ブロック多量、炭化物少量含む。
- 16 黒褐色土:炭化物・灰色粒含む。
- 17 暗オリーブ褐色土:炭化物含む。
- 18 暗オリーブ褐色土:炭化物多量、焼土少量含む。

第3号火葬跡



土層説明 (AA' BB')

- 1 オリーブ褐色土:スコリア・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 2 暗オリーブ褐色土:スコリア・焼土・灰色粒・黒色ブロック含む。
- 3 暗オリーブ褐色土:スコリア・焼土・灰色粒含む。
- 4 暗赤褐色土:被熱。スコリア・炭化物・焼土含む。
- 5 黒褐色土:焼土多量、スコリア・炭化物・黒色土ブロック・灰色粒少量含む。
- 6 黒褐色土:スコリア・炭化物・焼土含む。
- 7 黒褐色土:被熱。焼土多量、スコリア・炭化物少量含む。
- 8 暗オリーブ褐色土:被熱。スコリア・炭化物・焼土・黒色粒含む。
- 9 黒褐色土:炭化物・焼土多量、骨片少量含む。
- 10 黒褐色土:焼土多量、炭化物・骨片・暗赤褐色土ブロック少量含む。
- 11 黒褐色土:炭化物多量、焼土・骨片少量含む。
- 12 暗オリーブ褐色土:被熱。スコリア・焼土・炭化物・黒色粒含む。

0 1 m

第102図 第1～3号火葬跡

覆土中には骨片、鉄製釘 4 本などが確認された。鉄製の釘は棺に使用されたと推測される（第 113 図 13～16）。

第 2 号火葬跡（第 102 図）

1 区 F・H-10 グリッドに位置する。規模は長軸 0.91 m、短軸 0.50 m の長方形の土坑で、深さは確認面から 18 cm を測る。土坑の北寄りと南寄りに 15～20 cm 前後の自然石がそれぞれ二つずつ並べられていた。土坑の西壁の中央付近から緩やかな傾斜を持ちながら立ち上がる溝が付随しており、規模は幅 0.25 m 前後、長さ 0.53 m である。

覆土には焼土、灰、炭化物を含む。底の検出された自然石も火を受けて、黒く変色した部分が認められる。

覆土中には骨片、鉄製釘 9 本などが確認された。鉄製の釘は棺に使用されたと推測される（第 113 図 17～25）。

第 3 号火葬跡（第 102 図）

1 区 H-9 グリッドに位置する。規模は長軸 1 m、短軸 0.55 m の長方形の土坑で、深さは確認面から最深部で 31 cm を測る。土坑底部の長軸の両端に 20～30 cm ほどの径の自然石が三つずつ並べられていた。土坑の東壁の中央付近から緩やかな傾斜を持ち立ち上がる溝が付随しており、規模は最大幅で 0.20 m、長さ 0.70 m であった。

覆土には焼土、灰、炭化物を大量に含む。底の自然石も火を受けており、黒色に変色していた。覆土中に骨片を含む。

第 4 号火葬跡（第 102 図）

1 区 W-10 グリッドに位置する。規模は長軸 0.95 m、短軸 0.75 m であるが、第 1 から 3 号火葬跡を思いうと形が著しく変形しており、不整形を呈している。他の火葬跡に付随する溝跡も明確に確認するに至らなかった。

覆土中には大きめの炭化物や焼土、灰などが大量に確認された。また、骨片も各層から確認された。

他の火葬跡に認められた自然石は確認できなかった。

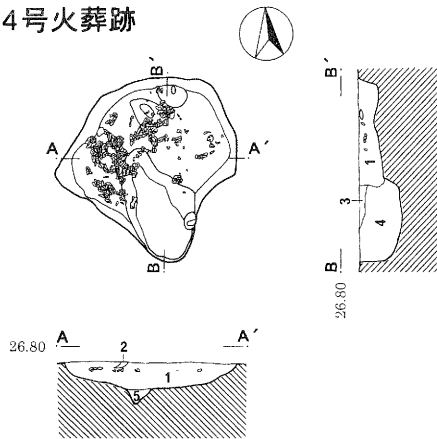
第 5 号火葬跡（第 103 図）

1 区 S-2 グリッドに位置する。規模は長軸 0.54 m、短軸 0.40 m の長方形の土坑で、深さは確認面から最深部で 12 cm と浅い。土坑底部には、他の火葬跡のような自然石は確認されなかった。土坑の西壁の中央付近から緩やかな傾斜を持ちながら立ち上がる溝が付随しており、規模は最大幅で 0.22 m、長さ 0.35 m であった。

覆土には焼土、灰、炭化物を大量に含み、土坑部分の覆土からは骨片も確認された。

確認された火葬跡の中では、一番小さな規模であった。

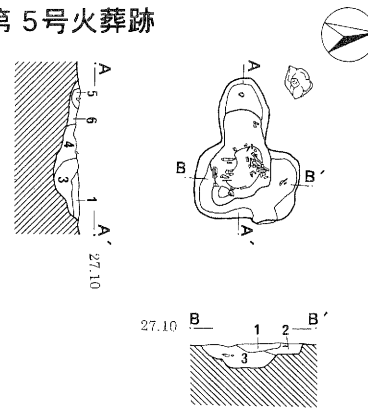
第4号火葬跡



土層説明 (A A' B B')

- 1 黒色土:炭化物・焼土・骨片・黄褐色粒少量含む。
- 2 焼土ブロック
- 3 黒褐色土:焼土・骨片少量含む。
- 4 黒色土:骨片・黄褐色粒少量含む。1層より暗い。
- 5 暗灰黄色土:骨片・黒褐色粒少量含む。

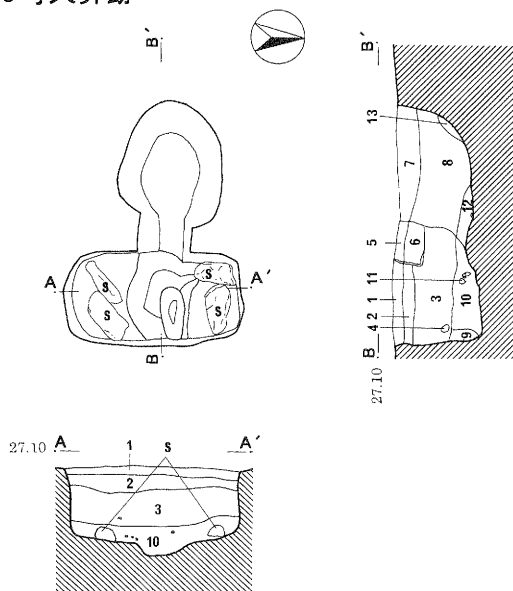
第5号火葬跡



土層説明 (A A' B B')

- 1 暗灰黄色土:炭化物多量・焼土・骨片少量含む。
- 2 黒褐色土:炭化物多量・焼土・骨片少量含む。
- 3 炭化物層:焼土・骨片含む。暗灰黄色粒含む。
- 4 暗灰黄色土:炭化物・焼土多量・骨片少量含む。
- 5 灰色土:鉄分・炭化物・焼土含む。
- 6 黄灰色土:鉄分・炭化物・焼土・灰色粒含む。

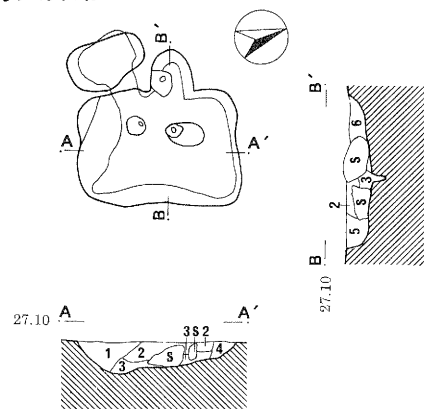
第6号火葬跡



土層説明 (A A' B B')

- 1 暗灰黄色土:鉄分・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 2 暗灰黄色土:スコリア・炭化物・焼土・灰色粒含む。1層より暗い。
- 3 黒褐色土:スコリア・炭化物・焼土・骨片・灰色粒含む。
- 4 黒色土ブロック
- 5 黒褐色土:灰色粒含む。
- 6 黒褐色土:灰色粒含む。5層より明るい。
- 7 黒褐色土:炭化物・焼土・灰色粒含む。5層より暗い。
- 8 黒褐色土:炭化物・焼土・灰色粒含む。6層より暗い。
- 9 暗灰黄色土:炭化物・骨片含む。
- 10 暗灰黄色土:炭化物多量・焼土・骨片少量含む。
- 11 焼土ブロック
- 12 黒褐色土:灰・焼土・灰色粒・リ-ブ褐色粒含む。
- 13 黒褐色土:灰色粒含む。

第7号火葬跡



土層説明 (A A' B B')

- 1 暗灰黄色土:礫・鉄分・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 2 黒褐色土:炭化物多量・鉄分・焼土・灰色粒含む。
- 3 黒褐色土:炭化物多量・鉄分・焼土・骨片・灰色粒少量含む。
- 4 黒褐色土:鉄分・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 5 黄灰色土:鉄分・炭化物・灰色粒含む。
- 6 暗灰黄色土:鉄分・炭化物・焼土・灰色粒含む。

0 1m

第6号火葬跡（第103図）

1区T-1・2グリッドに位置する。規模は長軸0.93 m、短軸0.49 mの長方形の土坑で、深さは確認面から最深部で46 cmを測る。土坑底部の長軸の両端に径30 cmほどの自然石が二つずつ並べられていた。土坑の西壁の中央付近から、深さ数5 cmほど立ち上がり溝が付随しており、溝は長さ0.80 mで、土坑から0.20 mの位置から先は径0.50 mほどの円形を呈している。火葬使用後に崩壊したためであろうか、深さ、形状とも他の火葬跡と異なりを示す。

覆土には焼土、灰、炭化物を大量に含む。底の自然石も火を受けており、黒色に変色していた。覆土中に骨片を含む。

第7号火葬跡（第103図）

1区U-2グリッドに位置する。規模は長軸0.85 m、短軸0.59 mの長方形の土坑で、深さは確認面から最深部で17 cmを測る。他の火葬跡のように底部には石は確認できなかった。土坑の西壁の中央付近から溝が付随して設けられている。溝は長さ0.20 m、幅0.20 mと溝の長さは非常に短かった。確認面が深かったことから溝の大半は削平された可能性が高い。

覆土には焼土、灰、炭化物を含む。骨片は他の火葬跡ほど多く散乱していなかった。

第8号火葬跡（第104図）

1区X-4グリッドに位置する。規模は長軸1 m、短軸0.55 mの長方形の土坑で、深さは確認面から最深部で31 cmを測る。土坑底部の長軸の両端に20～30 cmほどの径の自然石が三つずつ並べられていた。土坑の西壁の中央付近から緩やかな傾斜を持ちながら立ち上がる溝が付随しており、規模は最大幅で0.20 m、長さ0.70 cmであった。

覆土には焼土、灰、炭化物を大量に含む。底の自然石も火を受けており、黒色に変色していた。覆土中に骨片を含む。

第9号火葬跡（第104図）

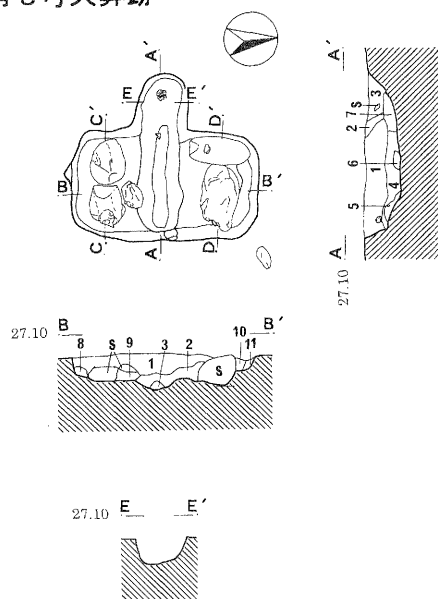
1区W-4グリッドに位置する。規模は長軸0.88 m、短軸0.55 mの長方形の土坑で、深さは確認面から最深部で20 cmを測る。土坑底部の長軸の両端には自然石は確認されなかった。土坑の西壁の中央付近から緩やかな傾斜を持ちながら立ち上がる溝が付随しており、規模は最大幅で0.20～0.30 m、長さ0.40 cmであった。

覆土には焼土、灰、炭化物を大量に含む。覆土中に骨片も含む。

第10号火葬跡（第104図）

1区W-5グリッドに位置する。規模は長軸0.90 m、短軸0.56 mの長方形の土坑で、深さは確認面から最深部で16 cmを測る。土坑底部の長軸の両端に25～30 cmの径の自然石が二つずつ並べられていた。土坑の北壁の中央付近がわずかに外に幅0.30 mで0.10 mほどの膨らみがある。他の火葬跡に見られる溝跡と同じ機能を有するものであるが、確認面が深かったため、溝の大半は削平されたものと思われる。

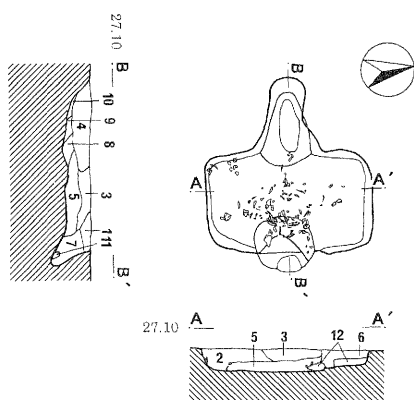
第 8号火葬跡



土層説明 (A A' B B')

- 1 灰 色 土: 灰色粒多量、鉄分・スコリア・焼土少量含む。
- 2 黒 褐 色 土: 焼土多量、灰色粒少量含む。
- 3 灰 色 土: スコリア・炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 4 灰 色 土: 炭化物・焼土・骨片・灰含む。
- 5 灰 色 土: 灰色粒少量、炭化物微量含む。
- 6 黒 褐 色 土: 灰色粒少量、炭化物微量含む。
- 7 灰 色 土: 焼土・灰多量、炭化物少量含む。
- 8 黒 褐 色 土: 炭化物・焼土多量含む。
- 9 暗 灰 黄 色 土: 炭化物多量、焼土・骨片・灰・灰色粒少量含む。
- 10 炭 化 物 層: 焼土・灰色粒含む。
- 11 黒 色 土: 被熱。焼土含む。

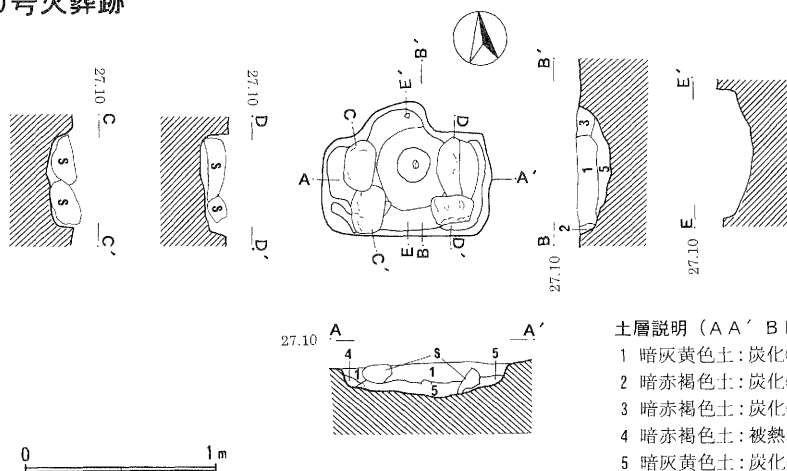
第 9号火葬跡



土層説明 (A A' B B')

- 1 灰 色 土: 炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 2 灰 色 土: 炭化物・焼土・骨片・灰色粒・黒色粒含む。
- 3 黄 灰 色 土: 焼土多量、炭化物・灰色粒・暗赤褐色粒含む。
- 4 黄 灰 色 土: 炭化物・焼土・灰色粒・黒褐色粒含む。
- 5 オリ-ブ 黒色土: 炭化物・焼土・骨片多量、灰色粒少量含む。
- 6 灰 色 土: 炭化物・焼土・灰色粒含む。
- 7 オリ-ブ 黒色土: 焼土多量、炭化物・灰色粒少量含む。
- 8 黒 褐 色 土: 炭化物多量、骨片少量含む。
- 9 黒 褐 色 土: 焼土・灰色粒含む。8層より暗い。
- 10 黄 灰 色 土: 炭化物・焼土・灰色粒含む。4層より明るい。
- 11 炭 化 物 層
- 12 暗 赤 褐 色 土: 炭化物・焼土・灰色粒含む。

第10号火葬跡

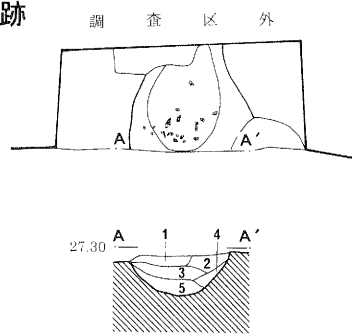


土層説明 (A A' B B')

- 1 暗 灰 黄 色 土: 炭化物・焼土・骨片・灰色粒含む。
- 2 暗 赤 褐 色 土: 炭化物・焼土含む。
- 3 暗 赤 褐 色 土: 炭化物・焼土含む。
- 4 暗 赤 褐 色 土: 被熱。炭化物・焼土・骨片含む。
- 5 暗 灰 黄 色 土: 炭化物・骨片多量、焼土少量含む。

第104図 第 8～10号火葬跡

第11号火葬跡



土層説明 (A A')

- 1 オリ-ブ 褐色土:炭化物多量、焼土・骨片少量含む。
- 2 オリ-ブ 褐色土:炭化物・焼土・骨片含む。
- 3 暗オ-ブ 褐色土:炭化物含む。
- 4 黒 褐 色 土:炭化物多量、焼土少量含む。
- 5 黒 褐 色 土:暗オ-ブ 褐色粒。オ-ブ 褐色粒含む。

0 1 m

第105図 第11号火葬跡

覆土には焼土、灰、炭化物、骨片などを含んでいる。底で確認された石も火を受けている。

第11号火葬跡 (第105図)

2区A-16グリッドに位置する。他遺構との重複と北側が調査区域外なるため、遺構の全体規模は把握できなかった。

平面は残存部で短軸方向0.60 mを測る。長軸方向は計測できなかった。

深さは20 cmと浅い。覆土中には炭化物がたくさん入っており、特に下層は焼土や炭化物がたくさん混入していた。

出土遺物は確認されなかった。

(7)集 石

第1号集石 (第106図)

1区W・X-2グリッドに位置する。

5 m×5 mほどの範囲に自然礫が集中的に確認された。特にこぶし大の礫の分布は2 m四方に四角な分布と捉えられなくもない。礫の間からは瓦質内耳鍋、瓦質壺の破片が確認されている。鍋や壺は日常雑器であるが、骨壺として転用されることも多く、この礫の集中する個所も骨壺を埋葬した場所として把握できなくもない。

出土遺物の瓦質壺、瓦質内耳鍋は、形状から14世紀中頃から後半頃と推定できる。

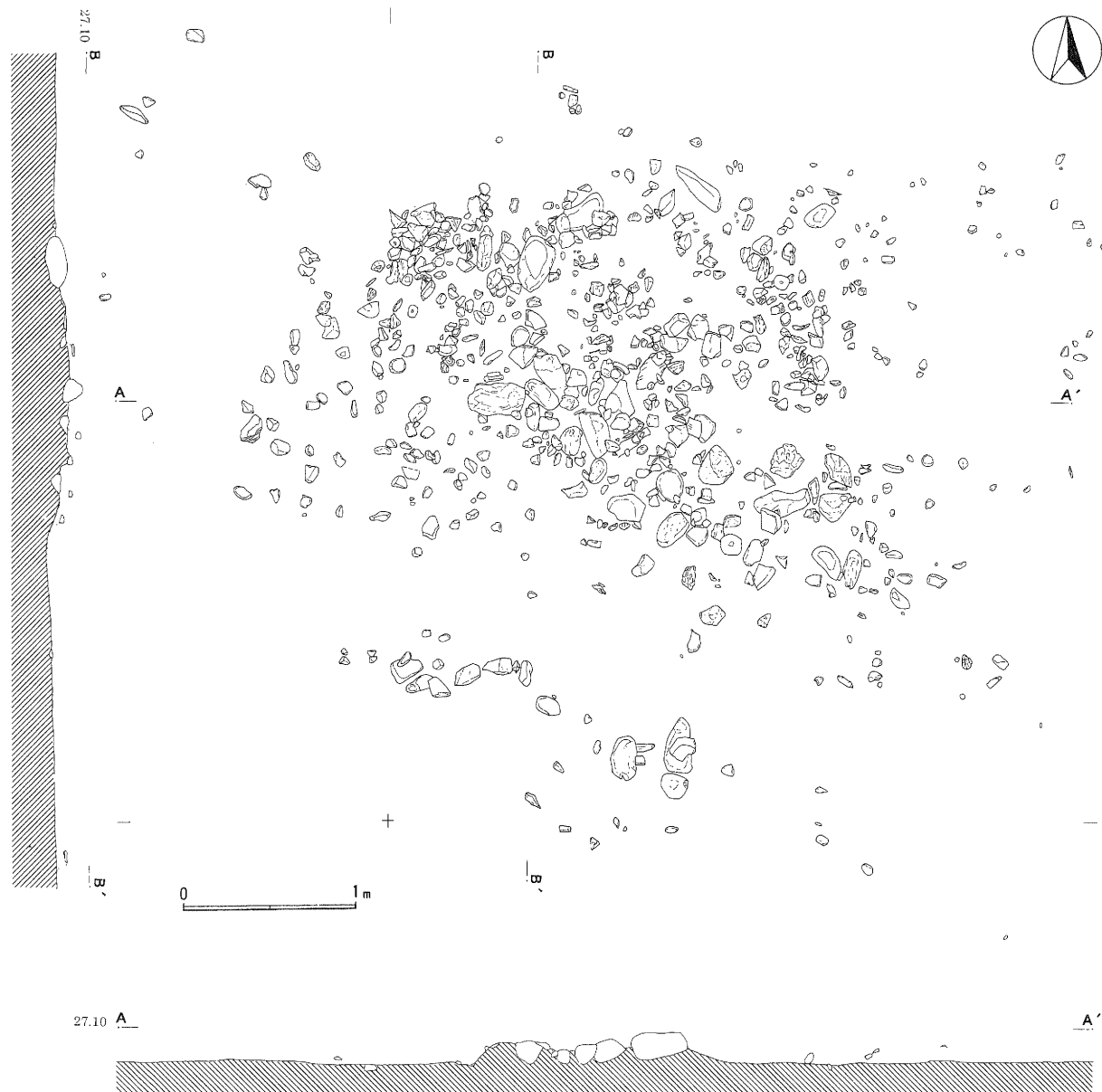
第2号集石 (第107図)

1区X-8・9の二つのグリットにまたがり位置する。

集石遺構というより、土坑の範疇で捉えるべきであろう。規模は南北方向2.28 m、東西方向2.3 mの不整な楕円であるが、隅丸方形と言えなくもない。

中央部付近70 cm×40 cmほどの範囲に礫が集中して確認された。

底部は凹凸が激しく、中央部付近は1 m×0.6 mほどの不整形の落ち込みとなっている。



第106図 第1号集石

また、南壁寄りにも70cm×40cmの楕円形の落ち込みがある。

出土遺物は確認されておらず、この遺構の時期、性格はわからない。

第3号集石（第107図）

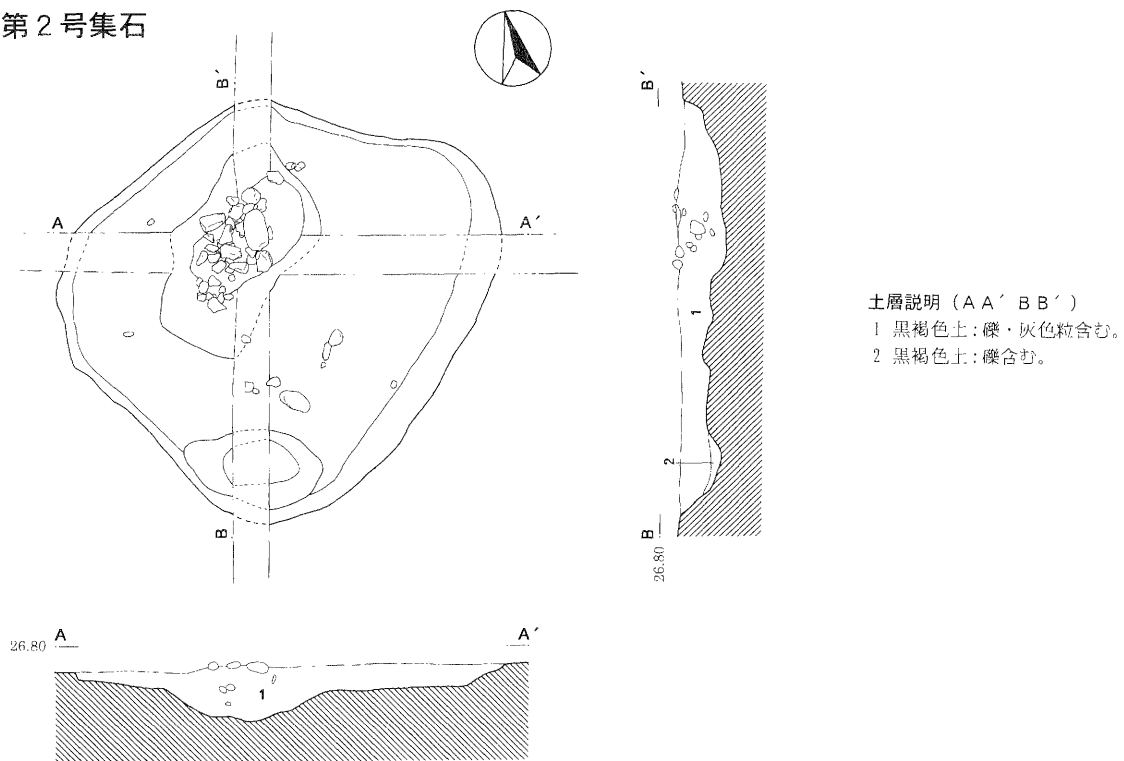
1区R-9グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は確認されなかった。第2号集石と同様に集石遺構というよりは土坑と呼称した方が適切であった。

平面は南北方向2.18m、東西方向3.56mの長楕円形を呈するが、本来は長方形であったかもしれない。深さは40cm前後と比較的深く、底の状態は凹凸がある。

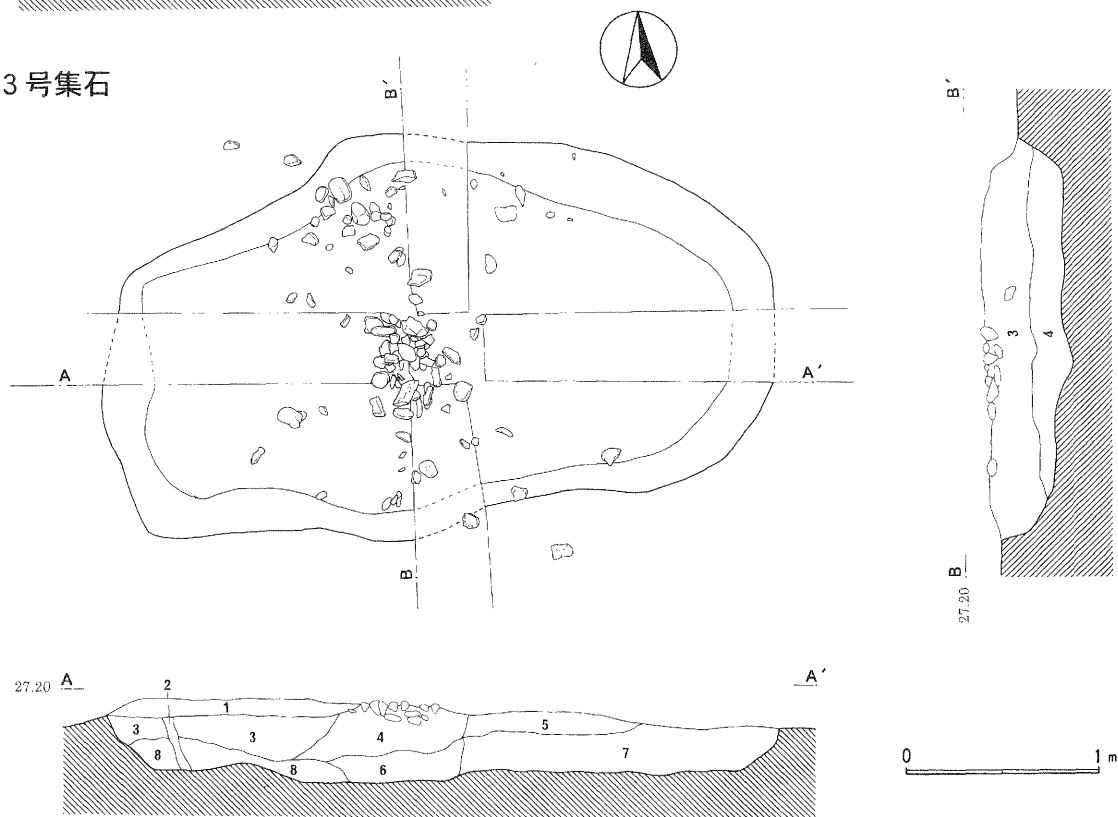
礫は遺構の底部付近でなく、土坑の中央部付近に、浮いた状態で確認された。

出土遺物は確認されなかった。

第2号集石



第3号集石



第107図 第2・3号集石

(8)井戸跡

第1号井戸跡 (第108図)

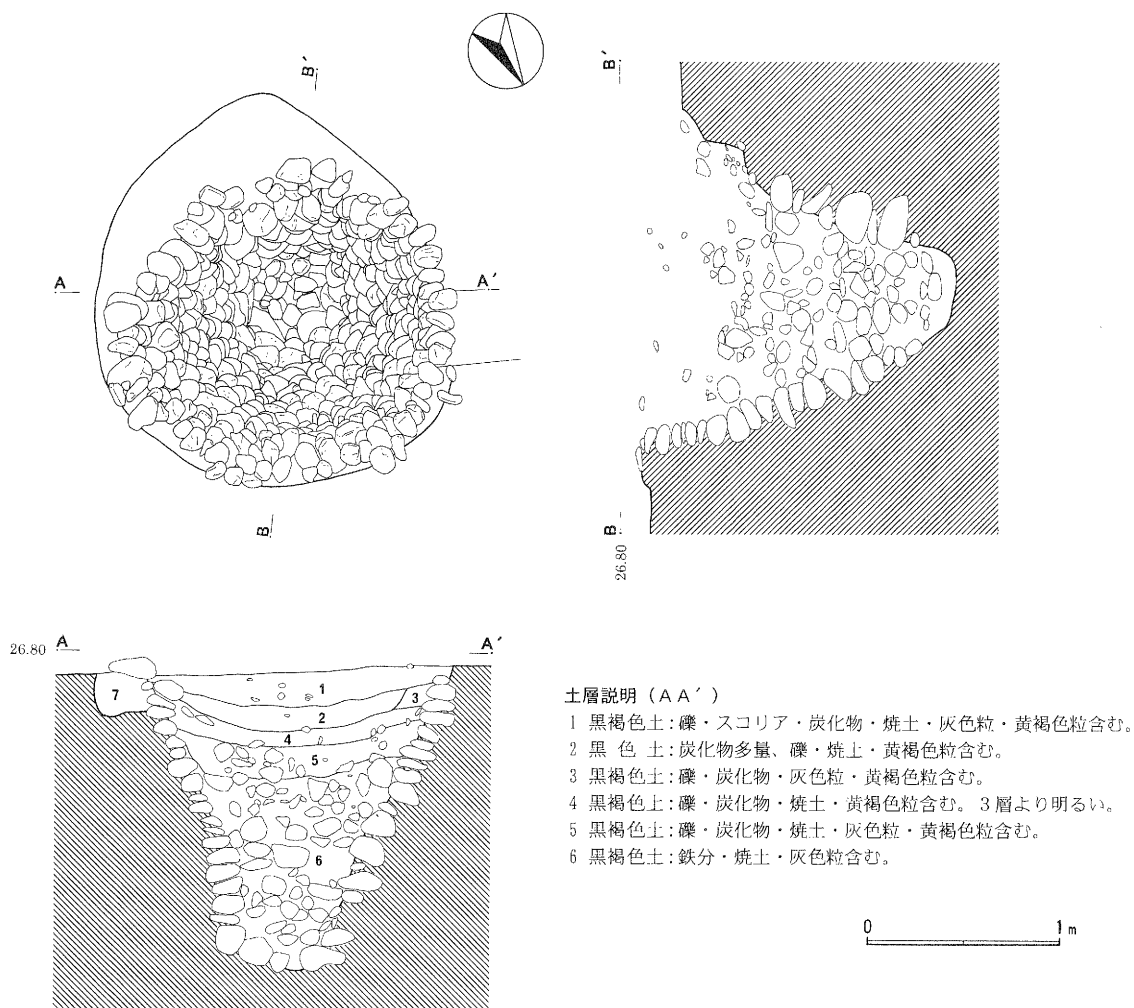
1区A' - 8グリッドの位置する。

平面は径1.4mほどの円形を呈する。井筒は自然礫を積んで作られている。

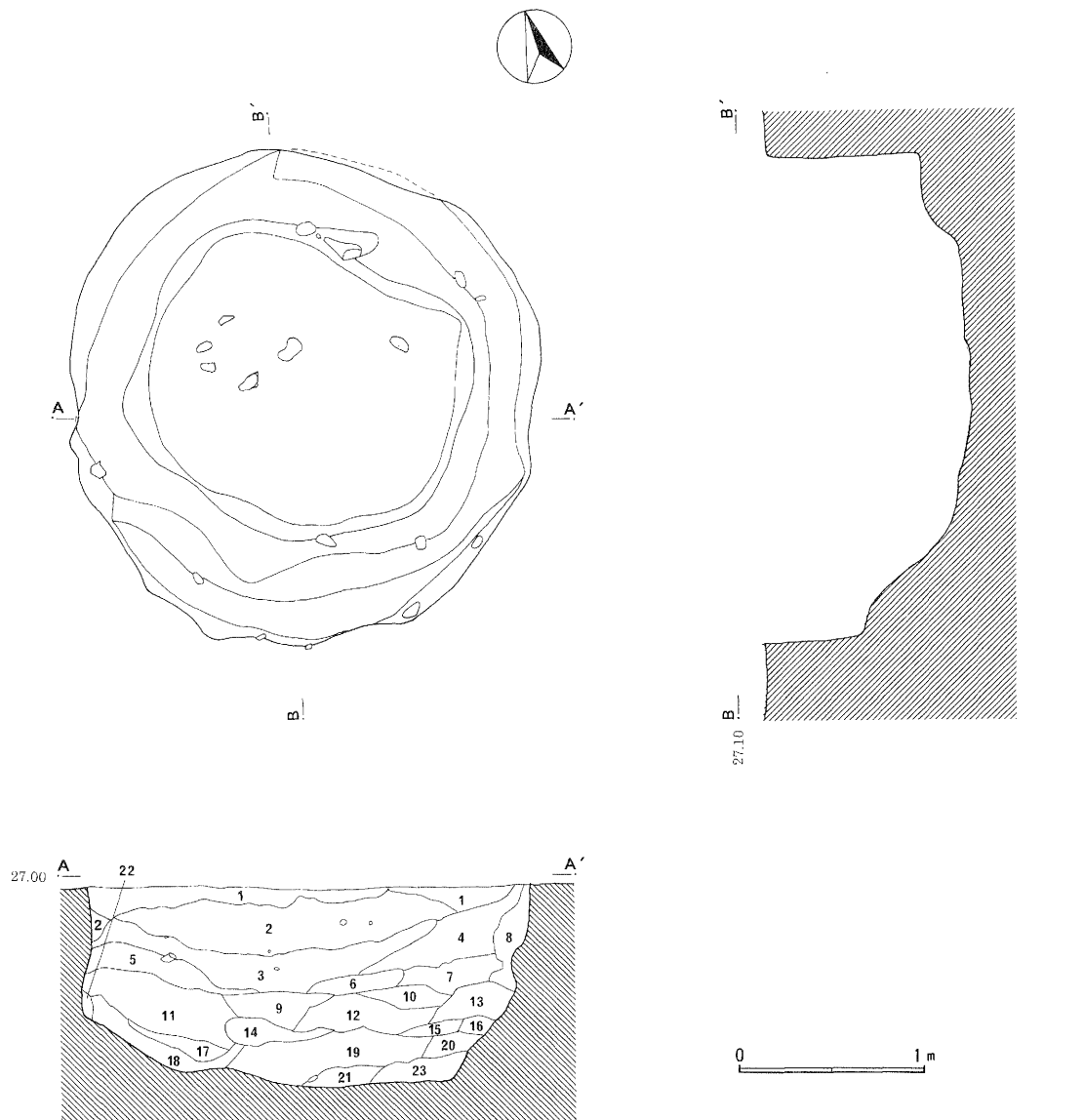
確認面からの深さは1.5mと比較的浅い井戸である。底には溜めのための曲げ物などを置いた施設は確認されなかった。

覆土中には積み石が崩落したものか多数の礫が混在していた。

出土遺物は土師器坏・甕、土錘などが確認されていた。積み石の井戸の製作年代を想定すると古代のものは極めてまれであり、大半が中世後半であることを考えれば、遺物の大半は紛れ込んだものと推測される。



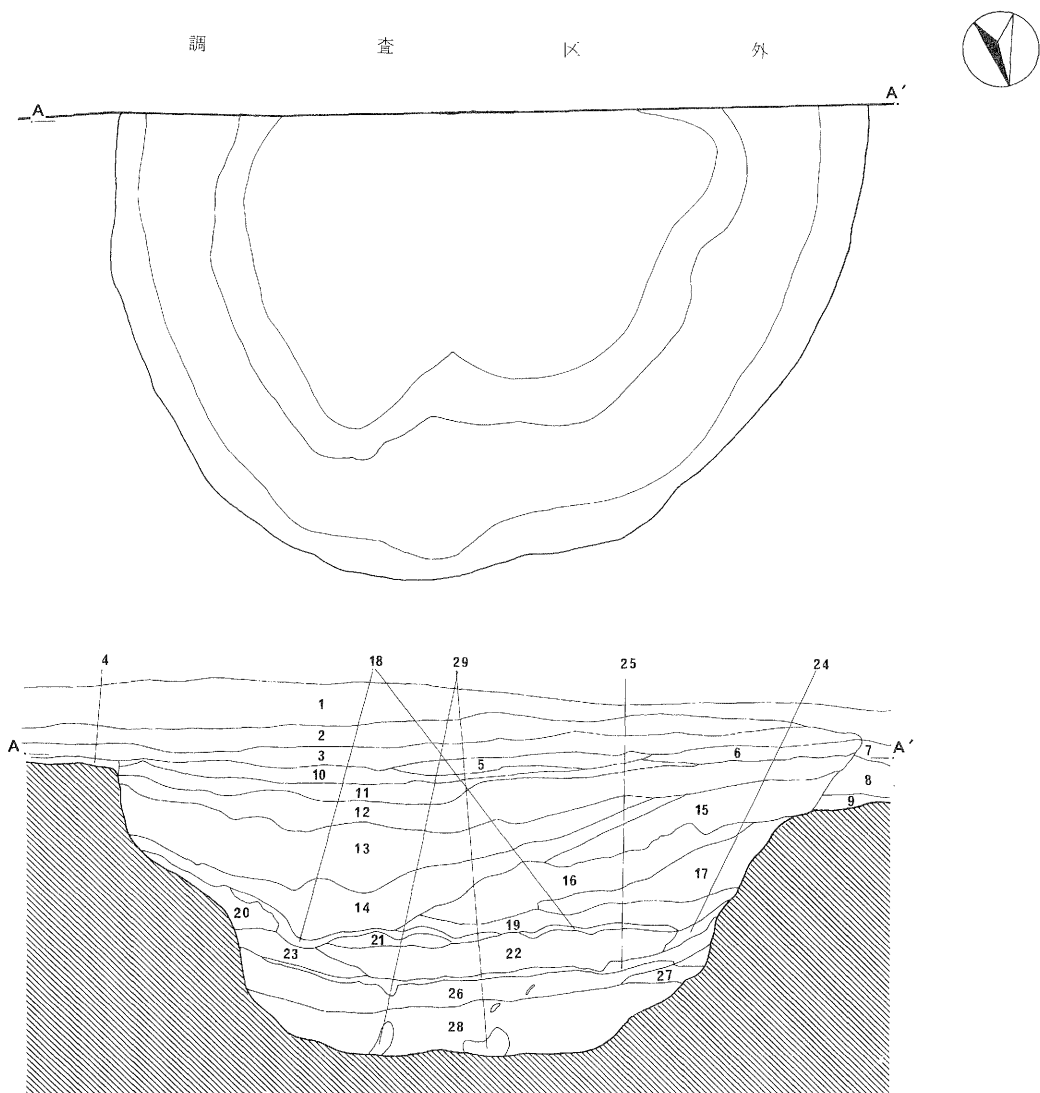
第108図 第1号井戸跡



土層説明 (A A')

- 1 黒褐色土:鉄分・砂礫・スコリア・青灰色土ブロック含む。
- 2 暗青灰色砂:黒褐色粒多量、礫・黄褐色粒少量含む。
- 3 灰色砂:黒褐色粒・ブロック多量、礫・灰色粒・ブロック・黄褐色粒・ブロック含む。
- 4 暗青灰色砂:黒褐色粒・ブロック・黄褐色粒・ブロック多量、礫少量含む。
- 5 青灰色砂:礫・黒褐色粒・黄褐色粒含む。
- 6 黒褐色土:暗青灰色砂・黄褐色粒含む。
- 7 暗青灰色砂:黒褐色粒・ブロック・黄褐色粒・ブロック多量含む。
- 8 暗青灰色砂:礫・黒褐色粒・黄褐色粒含む。
- 9 青灰色シルト:鉄分・灰色粒・黒褐色粒・黄褐色粒・青灰色砂含む。
- 10 灰色土:鉄分・黒褐色粒・黄褐色粒・暗青灰色砂含む。
- 11 黒褐色土:灰色粒・暗青灰色砂含む。
- 12 暗青灰色砂:鉄分・灰色粒・黒褐色粒・ブロック・黄褐色粒含む。
- 13 灰色土:鉄分・黒褐色粒・ブロック・暗青灰色砂含む。
- 14 暗青灰色砂:黒褐色粒多量、黄褐色粒少量含む。
- 15 黄灰色土:黒褐色粒・黄褐色粒・暗青灰色砂含む。
- 16 暗青灰色砂:黄褐色粒・ブロック多量、黒褐色粒少量含む。
- 17 暗青灰色砂:黒褐色粒・ブロック・黄褐色粒含む。
- 18 暗青灰色砂:黄褐色土ブロック含む。
- 19 灰色砂:黄褐色粒・ブロック多量、黒褐色粒・黄灰色粒・暗青灰色砂少量含む。
- 20 暗青灰色砂:黄褐色粒・ブロック多量、黒褐色粒少量含む。
- 21 灰色砂:礫・黒褐色粒・ブロック含む。
- 22 黒褐色土:礫・暗青灰色砂含む。
- 23 灰色砂:礫・黒褐色粒・黄褐色粒含む。

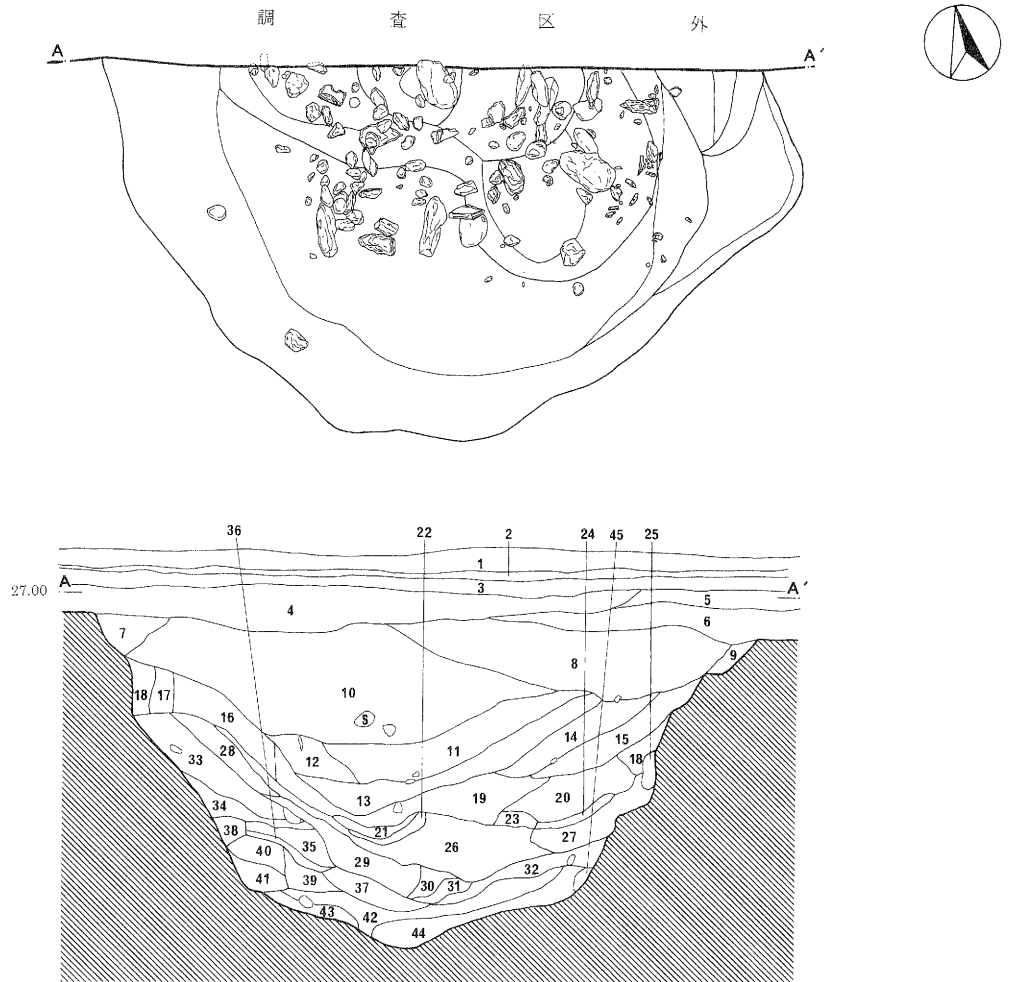
第109図 第2号井戸跡



土層説明 (A A')

- | | |
|--|---------------------------|
| 1 耕 作 土 | 21 灰 色 土:鉄分・スコリア少量含む。 |
| 2 耕 作 土:灰色土。鉄分・スコリア含む。 | 22 灰 色 土:鉄分・スコリア含む。 |
| 3 耕 作 土:灰色土。鉄分・スコリア含む。2層より明るい。 | 23 灰 色 土:鉄分・スコリア・炭化物含む。 |
| 4 黄 褐 色 土:鉄分多量含む。 | 24 灰 色 土:粘土質。鉄分含む。 |
| 5 灰 色 土:鉄分・スコリア含む。 | 25 灰 色 粘 土:鉄分・スコリア含む。 |
| 6 灰 色 土:鉄分多量、スコリア少量含む。 | 26 灰 色 粘 土:鉄分・スコリア含む。 |
| 7 灰 色 土:鉄分・スコリア・褐灰色粒・ブロック含む。 | 27 灰 色 粘 土:鉄分・砂含む。 |
| 8 灰 色 土:鉄分・スコリア・褐灰色粒・ブロック含む。7層より青みがかる。 | 28 暗青灰色土:粘土質。鉄分多量、砂礫少量含む。 |
| 9 灰 色 土:鉄分・スコリア・褐灰色粒・ブロック含む。 | 29 暗青灰色土:粘土質。鉄分・砂礫含む。 |
| 10 黄 褐 色 土:鉄分多量、スコリア少量含む。 | |
| 11 灰 色 土:鉄分・スコリア含む。 | |
| 12 灰 色 土:鉄分多量、スコリア少量含む。 | |
| 13 黄 褐 色 土:鉄分多量、スコリア・炭化物少量含む。 | |
| 14 黄 褐 色 土:鉄分多量、スコリア少量含む。 | |
| 15 灰 色 土:鉄分多量、スコリア少量含む。 | |
| 16 黄 褐 色 土:鉄分多量、スコリア・炭化物少量含む。 | |
| 17 灰 色 土:鉄分多量、スコリア・炭化物少量含む。 | |
| 18 明 褐 色 土:鉄分多量含む。 | |
| 19 灰 色 土:鉄分多量、スコリア少量含む。 | |
| 20 灰 色 土:鉄分・スコリア・炭化物含む。 | |

第110図 第3号井戸跡



土層説明 (A A')

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 耕 作 土:灰色上。鉄分・スコリア含む。 | 24 灰 色 土:粘土質。砂多量、鉄分・礫少量含む。 |
| 2 褐 色 土:鉄分多量含む。 | 25 黄 灰 色 土:鉄分・砂礫・オリーブ褐色粒・ブロック含む。 |
| 3 黒 褐 色 土:鉄分・礫・灰色粒含む。 | 26 灰 色 砂 |
| 4 暗オリーブ褐色土:鉄分・礫・灰色粒含む。 | 27 暗 灰 色 土:粘土質。鉄分・砂礫・黄灰色粒含む。 |
| 5 黒 褐 色 土:鉄分・礫・灰色粒含む。 | 28 灰 色 土:粘土質。鉄分・灰色粒・オリーブ褐色粒含む。 |
| 6 黒 褐 色 土:鉄分・礫含む。5層より暗い。 | 29 灰 色 粘 土 |
| 7 黒 褐 色 土:オリーブ褐色粒・ブロック含む。 | 30 灰 色 粘 土:鉄分・礫・灰オリーブ色粒・ブロック含む。 |
| 8 黒 褐 色 土:礫多量、炭化物・焼土・灰色粒・オリーブ褐色粒含む。 | 31 灰オリーブ色粘土:鉄分・灰色粒含む。 |
| 9 黒 褐 色 土:オリーブ褐色粒・ブロック含む。 | 32 灰 色 粘 土:鉄分・砂礫多量含む。 |
| 10 黒 褐 色 土:粘土質。 | 33 オリーブ褐色土:粘土質。鉄分・礫・灰色粒・ブロック含む。 |
| 11 灰 色 土:粘土質。 | 34 暗 灰 黄 色 土:粘土質。灰色粒・ブロック多量、鉄分少量含む。 |
| 12 灰 色 土:粘土質。鉄分・炭化物含む。11層より明るい。 | 35 黄 灰 色 粘 土:鉄分・暗灰色粒・ブロック含む。 |
| 13 黄 灰 色 土 | 36 暗 灰 色 粘 土:鉄分・灰色粒含む。 |
| 14 灰 色 土:粘土質。鉄分多量、礫・炭化物・オリーブ褐色粒少量含む。 | 37 暗 灰 色 粘 土:36層より明るい。 |
| 15 灰 色 土:粘土質。鉄分・オリーブ褐色粒多量、礫少量含む。 | 38 灰 色 砂:礫多量、鉄分・オリーブ褐色土ブロック少量含む。 |
| 16 黒 褐 色 土:粘土質。鉄分・灰色粒含む。 | 39 灰 色 粘 土:鉄分・暗灰色粒・ブロック含む。 |
| 17 黒 褐 色 土:粘土質。鉄分・灰色粒含む。16層より暗い。 | 40 黄 褐 色 土:鉄分多量含む。 |
| 18 黄 灰 色 土:粘土質。鉄分多量、礫・灰色粒・ブロック少量含む。 | 41 灰 色 砂:鉄分含む。 |
| 19 灰 色 土:粘土質。 | 42 黒 色 粘 土 |
| 20 灰 色 砂:鉄分・礫含む。 | 43 暗 灰 黄 色 粘 土:砂多量、鉄分少量含む。 |
| 21 灰オリーブ色土:粘土質。 | 44 黄 灰 色 粘 土:鉄分・砂礫含む。 |
| 22 灰 色 粘 土 | 45 灰 色 砂:鉄分含む。 |
| 23 灰 色 土:粘土質。鉄分・礫・暗灰色土ブロック含む。 | |

第111図 第4号井戸跡

第2号井戸跡（第109図）

1区S-2グリッドに位置する。

平面は円形を呈する。規模は2.5m×2.7mで、崩壊が著しく危険が伴うことから調査は深さ1mほどで終了した。

覆土は複雑な堆積状況を呈しており、人為的に埋め戻されたと推測される。

出土遺物は確認されなかったため、時期は不明であった。

第3号井戸跡（第110図）

1区Z・A'-4・5グリッドに位置する。井戸の南側は調査区域外となり規模の全貌が把握できなかった。地表面から1.95mほどまで調査を行ったが、底まですべて調査を行うに至らなかった。

覆土は複雑な様相を示しており、人為的に埋められたものと推測される。

出土遺物は確認できなかったため、時期は不明であった。

第4号井戸跡（第111図）

2区M・N-17・18グリッドに位置する。井戸跡のほぼ半分が調査区域外となっている。

平面は径3.4mの円形と思われる。確認面からの深さは1.65mを測る。壁は大きく広がるため、横断面は漏斗状を呈する。

覆土は、層の埋設状況から判断して人為的に埋め戻されたと考えられる。ただ、下層は出水のため、観察することはできなかった。

覆土の中位からは自然石が散らばって確認された。

出土遺物は確認できなかった。

(9)ピット

各調査区内から確認されたが、集中してみられたのは、2区A～C-16・17グリッド、3区B'-25～27グリッドくらいであり、単独で存在するものが多い。3区B'-25～27グリッドのピット群は第14号溝跡に付随するものであろう。各ピットの数値については第45表を参照のこと。

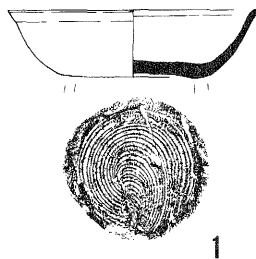
(10)遺構外出土遺物

各調査区ほぼ全面より検出されたが、図示可能なものは少なく、掲載したもののほとんどが1区から検出されたものである。土器は、須恵器蓋・高坏・甕・高台付坏、土師器坏・椀・甕・甌、かわらけ等がある。この他には土錘、紡錘車等がある。完形品は少なく、ほとんどが破片での検出である。

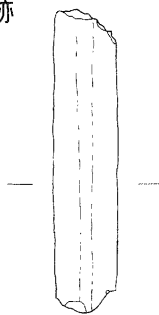
第45表 ピット計測表

No.	出土位置	長	短	深さ	備 考	No.	出土位置	長	短	深さ	備 考
1	X-11	20	20	11		65	E-17	75	24	13	
2	X-11	26	24	16		66	F-17	72	27	7	
3	V・W-10	180	41	7		67	F-17	21	21	11	
4	T・U-8	111	39	8		68	L-11	56	56	12	
5	T-8	45	43	15		69	L-12	56	54	15	
6	T-8	179	47	9		70	L-12	59	52	13	
7	T-9	62	57	6		71	L-13	21	21	11	
8	T-9	21	16	5		72	K-16	57	31	8	
9	S-9	21	19	6		73	O-2・3	116	91	13	
10	S-9	21	18	6		74	A'-29・30	81	67	30	第14号溝跡との新旧不明。
11	Q-9	69	—	4	第2号住より古。	75	A'-29	55	52	35	第14号溝跡との新旧不明。
12	P-10	91	82	42	第2号住より新。	76	B'-28	25	23	7	
13	P-10	28	27	4		77	B'-27	31	27	7	
14	O-7	21	20	19		78	B'-27・28	22	19	5	
15	N-7	—	—	31		79	B'-27	57	41	6	
16	M-8	21	21	19	15号墳より新。	80	B'-27	59	45	7	
17	M-8	22	20	18	15号墳より新。	81	B'-27	32	31	6	
18	M-8	21	19	17	15号墳より新。	82	B'-27	18	17	2	
19	M-4	17	13	15	第2号住より新。	83	B'-27	17	17	3	
20	M-4	22	13	16	第2号住より新。	84	B'-27	18	18	3	
21	M-4	11	10	14	第2号住より新。	85	B'-26	38	30	17	
22	M-4	39	31	26	第2号住より新。	86	B'-26	25	22	12	
23	M-4	22	20	8	第2号住より新。	87	B'-26	23	21	4	
24	L-4	21	14	15	第2号住より新。	88	B'-26	29	27	9	
25	M-4	11	9	12	第2号住より新。	89	B'-26	25	23	6	
26	M-4	18	17	18	第2号住より新。	90	A'-26	28	28	9	
27	M-4	21	13	13	第2号住より新。	91	B'-26	19	16	4	
28	M-4	11	10	11	第2号住より新。	92	B'-25	26	22	7	
29	A-4	62	56	29		93	B'-25	20	19	10	
30	A-4	42	32	63		94	B'-25	33	31	14	
31	A-16	115	—	21		95	B'-25	20	20	6	
32	A-16	21	—	10		96	B'-25	37	31	8	
33	A-16	32	—	24		97	B'-23	56	46	30	
34	B-16	19	—	20		98	B'・C'-23	38	34	12	
35	B-16	34	—	29		99	—	—	—	—	
36	B-16	25	—	25		100	D'-24	26	25	7	
37	A-16	25	—	30		101	D'-24	22	21	5	
38	A-17	85	—	7		102	D'-23	33	22	10	
39	A-17	46	—	21		103	E'-23	19	18	9	
40	A-17	25	17	9		104	E'-23	23	17	5	
41	A-17	26	—	33		105	F'-11	56	47	4	
42	B-16	22	—	8		106	F'-11	58	44	17	
43	A・B-17	83	—	16		107	G'-11	31	27	14	
44	B-17	35	—	19		108	F'-12	39	33	7	
45	B-17	18	—	17		109	G'-12	62	45	13	
46	C-17	25	24	11		110	G'-12	53	—	10	第18号土坑との新旧不明。
47	C-17	37	30	5		111	G'-11	64	50	25	
48	C-17	33	30	13		112	G'-12	56	56	17	
49	C-17	33	25	9		113	H'-12	75	60	23	
50	C-17	27	25	6		114	H'-12	56	45	16	
51	C-17	40	31	7		115	H'-12	27	27	12	
52	C-17	27	27	4		116	H'-12	46	36	13	
53	C-17	40	23	7		117	H'-12	27	26	16	
54	C-17	31	23	12		118	H'-12	25	25	19	
55	B-16	30	23	15		119	H'-11	28	25	10	
56	C-16	35	—	26		120	H'-11	39	39	20	
57	C-16	26	25	6		121	H'-11	71	41	13	
58	C-16	45	41	8		122	H'-11	34	32	13	第16号溝跡との新旧不明。
59	C-16	27	27	5		123	I'-12	51	47	7	
60	C-16	32	27	15		124	I'-12	37	36	12	
61	C-16	30	16	5		125	I'-12	47	—	11	第17号溝跡との新旧不明。
62	C-16	24	24	5		126	J'-12	53	38	15	第17号溝跡との新旧不明。
63	C-16	40	29	11		127	K'・L'-11	43	41	35	第28号住より新。
64	E-17	29	25	22							

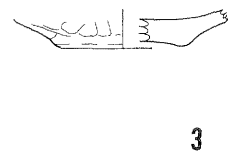
第5号溝跡



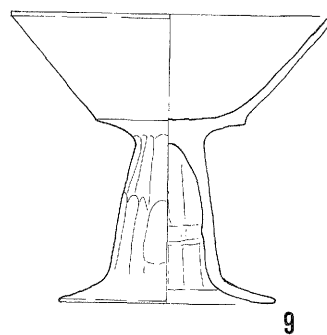
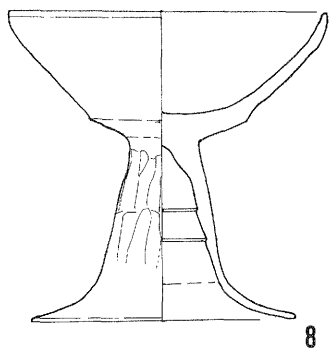
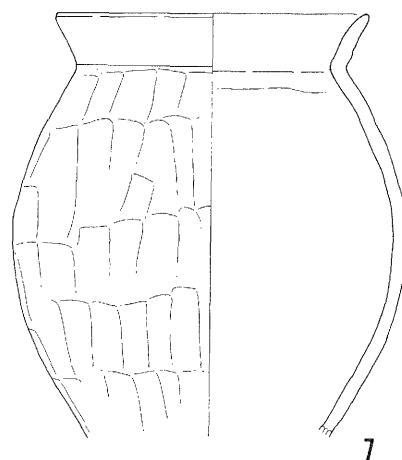
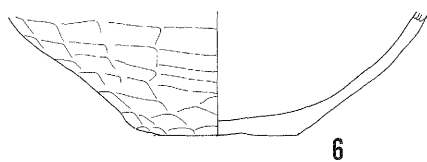
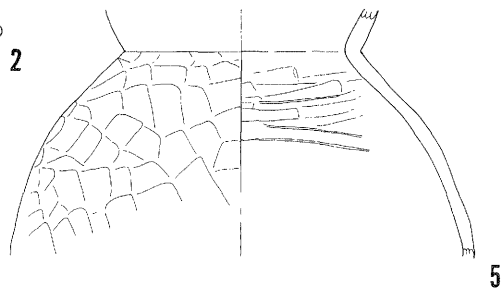
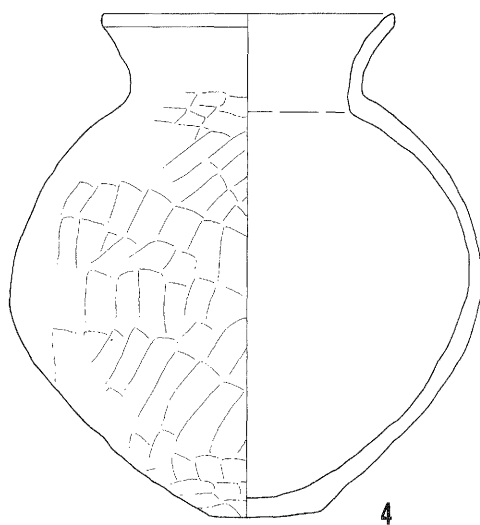
第16号溝跡



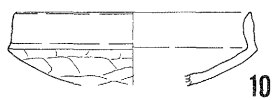
第3号土坑



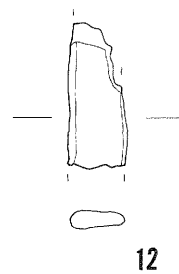
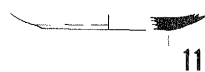
第8号土坑



第17号土坑



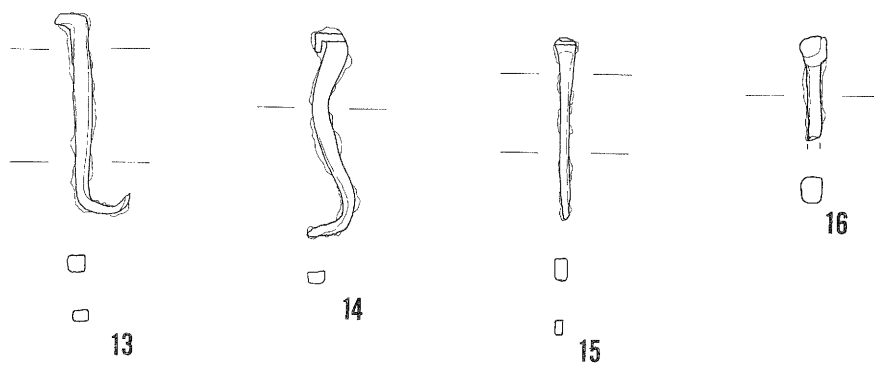
第20号土坑



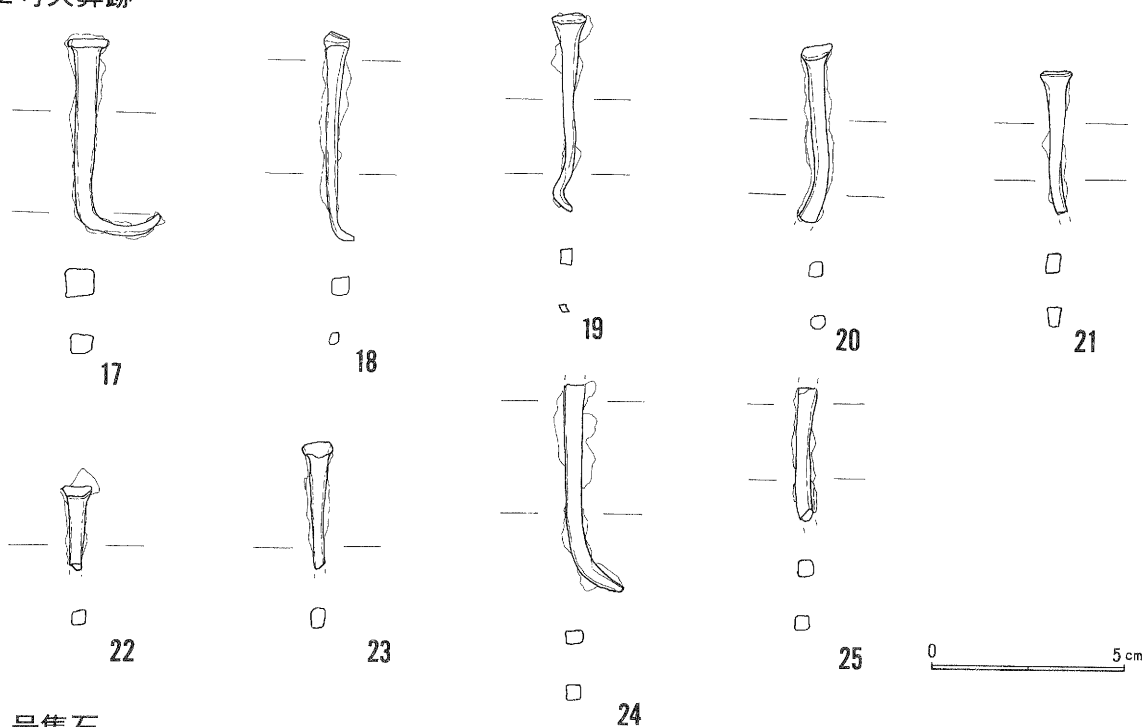
1・3~11 0 10cm 2・12 0 5cm

第112図 溝跡・土坑出土遺物

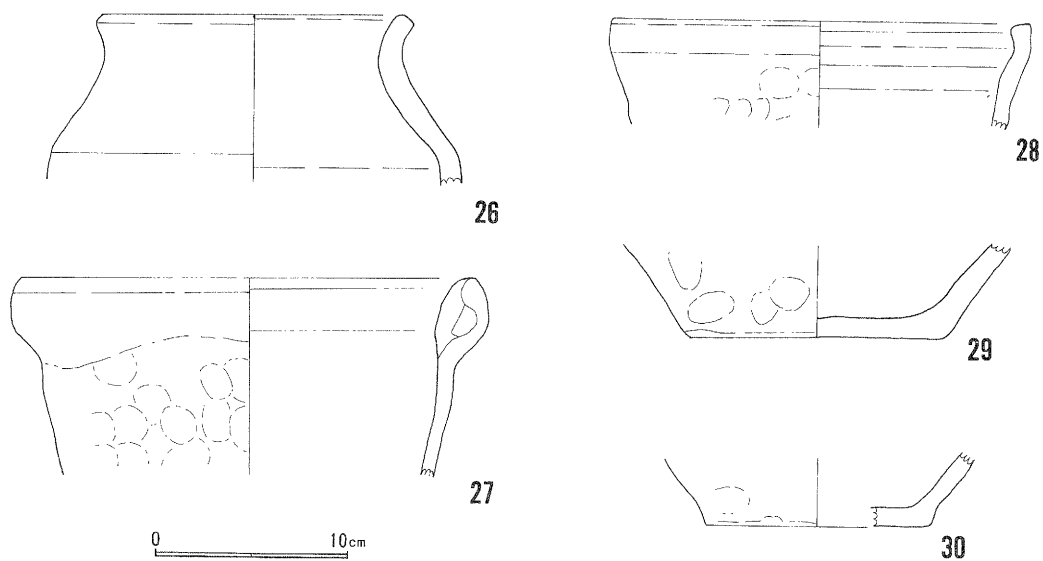
第 1 号火葬跡



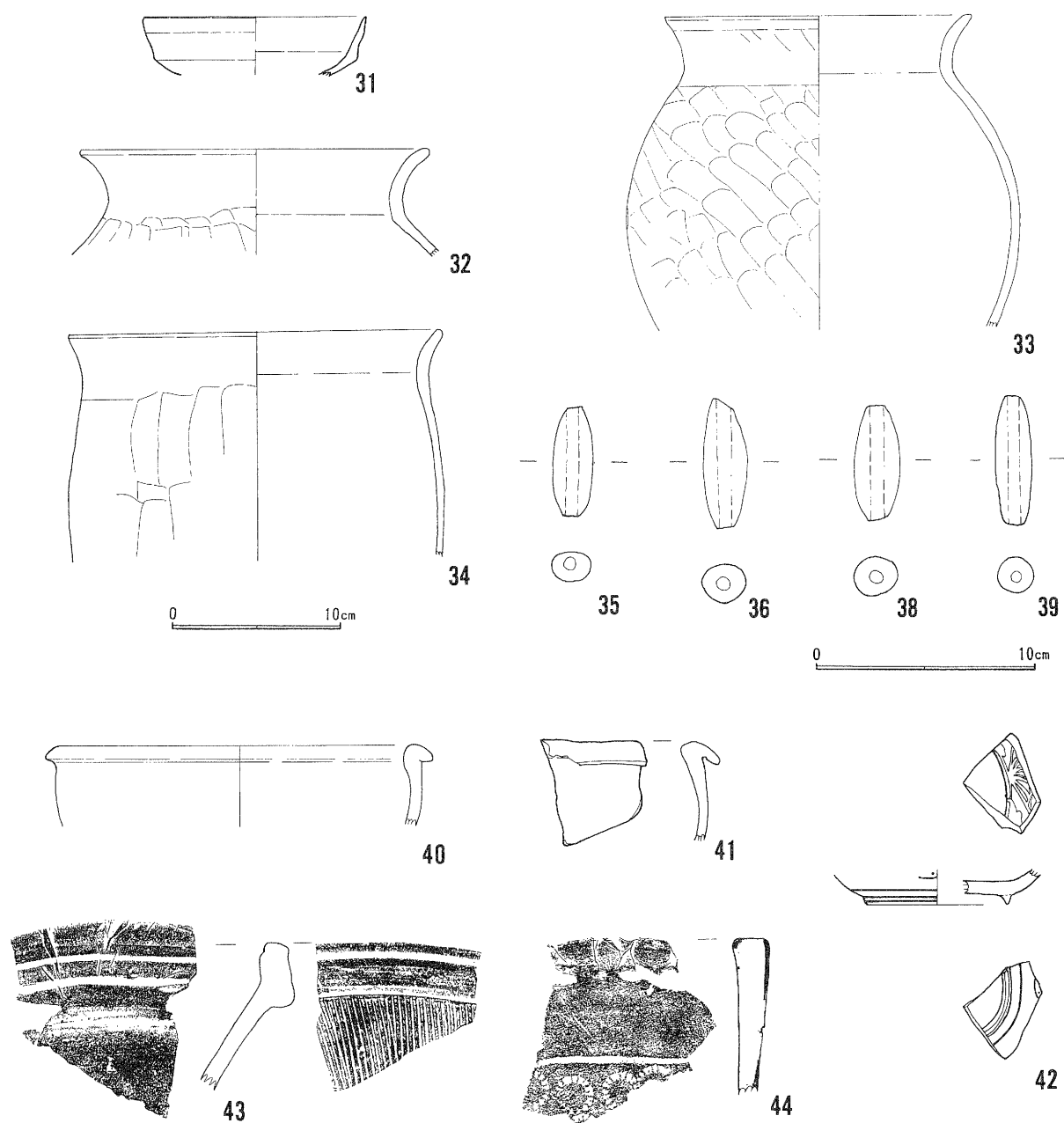
第 2 号火葬跡



第 1 号集石



第113図 火葬跡・集石出土遺物



第114図 井戸跡出土遺物

第46表 溝跡・土坑・集石・井戸跡出土土器観察表

No.	出土位置	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	残存率	備 考
1	第5号溝跡	須忠器・坏	13.2	3.6	7.6	密／白色粒、黒色粒、白色針状物質、小石	黄灰色	良	90	南比企産。
3	第3号溝跡	土師器・甕	—	(2.1)	(6.2)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	橙色	良	30	
4	第8号土坑	土師器・壺	15.4	26.8	6.0	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、石英、小石	橙色	良	90	
5	第8号土坑	土師器・壺	—	(13.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	橙色	良	70	
6	第8号土坑	土師器・壺	—	(6.5)	8.8	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	橙色	良	80	
7	第8号土坑	土師器・甕	(16.6)	(22.4)	—	密／白色粒、黒色粒、赤色粒	明赤褐色	やや良	45	
8	第8号土坑	土師器・高坏	16.7	16.5	14.0	やや粗／砂粒、黒色粒、赤色粒、小石	明赤褐色	良	70	
9	第8号土坑	土師器・高坏	17.0	15.3	(11.6)	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	橙色	良	80	
10	第17号土坑	土師器・坏	(12.2)	(3.9)	—	粗／砂粒、白色粒、赤色粒	橙色	良	40	
11	第20号土坑	須忠器・坏	—	(0.7)	—	密／白色粒、黒色粒、赤色粒、石英	にぶい橙色	良	10	
26	第1号集石	瓦質壺	(16.6)	(8.9)	—	やや粗／砂粒、白色粒、石英、小石	黒褐色	良	20	
27	第1号集石	瓦質内耳鍋	(23.8)	(10.3)	—	やや粗／砂粒、白色粒、小石	褐灰色	良	25	
28	第1号集石	瓦質内耳鍋	(22.0)	(5.7)	—	やや粗／砂粒、白色粒、石英、小石	褐灰色	良	30	
29	第1号集石	瓦質内耳鍋	—	(4.9)	(13.4)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	40	
30	第1号集石	瓦質内耳鍋	—	(3.6)	(11.8)	やや粗／砂粒、白色粒、小石	浅黄橙色	良	25	
31	第1号井戸跡	土師器・坏	(13.2)	(2.5)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	浅黄橙色	良	30	
32	第1号井戸跡	土師器・甕	(20.4)	(6.3)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	灰褐色	良	45	
33	第1号井戸跡	土師器・甕	18.4	(19.0)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	にぶい橙色	良	80	
34	第1号井戸跡	土師器・甕	(22.4)	(13.8)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒	にぶい橙色	良	30	
40	第4号井戸跡	白磁・鉢	(23.2)	(4.8)	—	密／黒色粒	灰白色	良	10	
41	第4号井戸跡	白磁・鉢	—	(6.0)	—	密／黒色粒	灰白色	良	5	
42	第4号井戸跡	白磁・椀	—	(2.2)	(8.4)	密／黒色粒	灰白色	良	20	
43	第4号井戸跡	常滑・鉢	—	—	—	やや粗／白色粒、小石	暗褐色	良	—	
44	第4号井戸跡	鉢	—	—	—	やや粗／白色粒、小石	暗褐色	良	—	

第47表 溝跡・土坑出土石製品観察表

No.	出土位置	分 類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備	考
2	第16号溝跡	棒状石製品	—	3.3	2.5	両端欠。	

第48表 溝跡・土坑出土鉄製品観察表

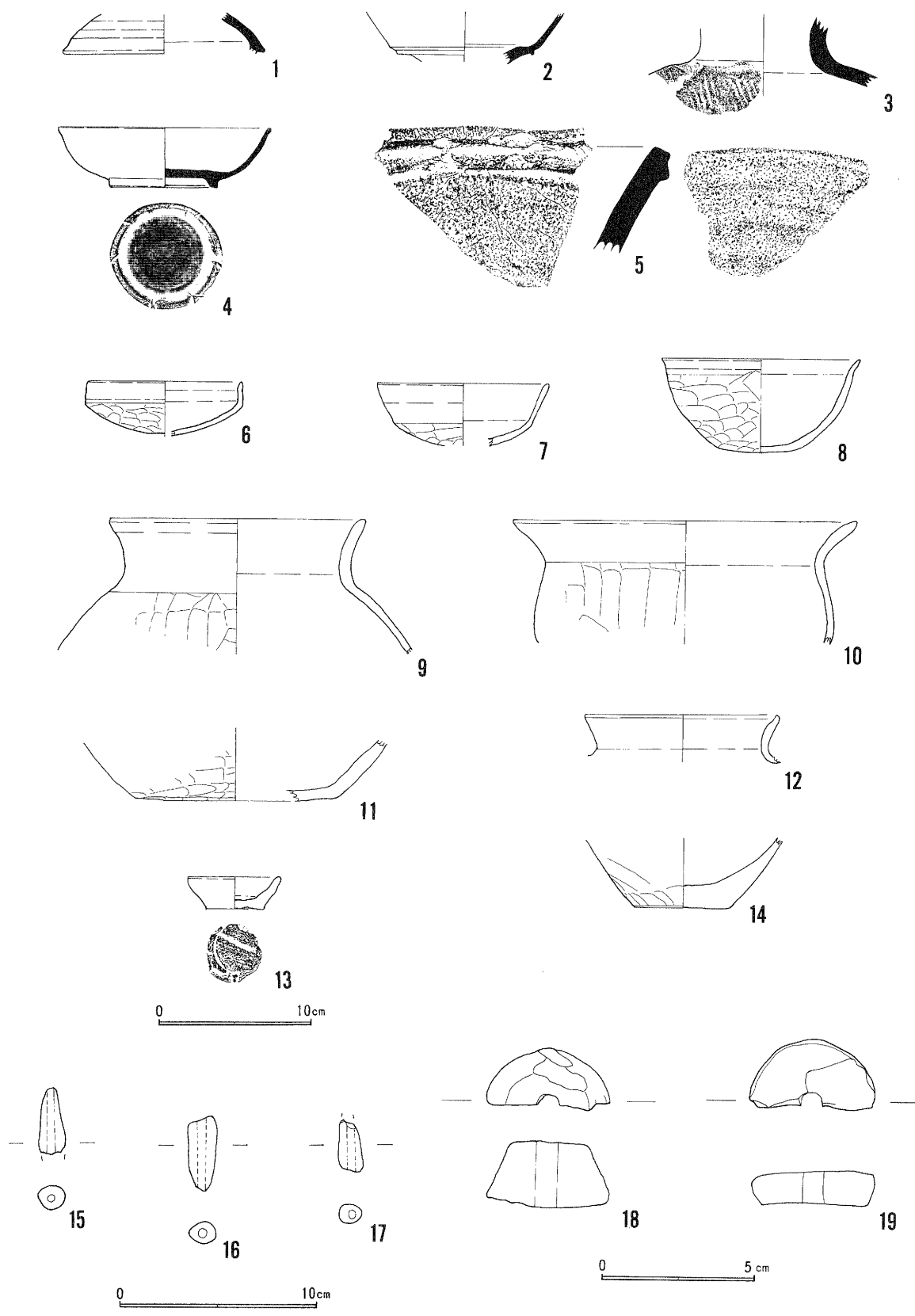
No.	出土位置	分 類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備	考
12	第20号土坑	刀 子	—	1.6	0.5	両端欠。	

第49表 火葬跡出土鉄製品観察表

No.	出土位置	分 類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備	考
13	第1号火葬墓	鉄 釘	5.2	0.5	0.5	完形。	
14	第1号火葬墓	鉄 釘	5.3	0.5	0.3	完形。	
15	第1号火葬墓	鉄 釘	4.7	0.4	0.6	完形。	
16	第1号火葬墓	鉄 釘	—	0.4	0.7	先端欠。	
17	第2号火葬墓	鉄 釘	5.1	0.6	0.7	完形。	
18	第2号火葬墓	鉄 釘	5.2	0.4	0.4	完形。	
19	第2号火葬墓	鉄 釘	5.1	0.4	0.4	完形。	
20	第2号火葬墓	鉄 釘	—	0.4	0.7	先端欠。	
21	第2号火葬墓	鉄 釘	—	0.4	0.4	先端欠。	
22	第2号火葬墓	鉄 釘	—	0.3	0.3	先端欠。	
23	第2号火葬墓	鉄 釘	—	0.3	0.5	先端欠。	
24	第2号火葬墓	鉄 釘	—	0.5	0.4	上端欠。	
25	第2号火葬墓	鉄 釘	—	0.4	0.4	両端欠。	

第50表 井戸跡出土土製品観察表

No.	出土位置	分 類	長(cm)	幅(cm)	重(g)	備	考
35	第1号井戸跡	土 錘	5.0	1.8	16.0	完形。	
36	第1号井戸跡	土 錘	5.9	2.0	21.0	完形。	
37	第1号井戸跡	土 錘	5.2	1.9	20.0	完形。	
38	第1号井戸跡	土 錘	5.8	1.6	20.0	完形。	



第115図 遺構外出土遺物

第51表 遺構外出土土器観察表

No.	出土位置	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	残存率	備 考
1	1区	須恵器・蓋	—	(2.6)	—	密／白色粒、黒色粒	灰白色	良	90	
2	1区	須恵器・高坏	—	(3.4)	—	密／白色粒、片岩	灰色	良	35	末野産。
3	1区	須恵器・壺	—	(4.6)	—	やや粗／白色粒、黒色粒、赤色粒、小石	灰白色	良	20	
4	1区	須恵器・坏	(19.1)	4.0	7.4	密／白色粒、黒色粒、白色針状物質	灰色	良	70	
5	1区	須恵器・甕	—	—	—	粗／白色粒、黒色粒、小石	灰色	やや不良	—	
6	1区	土師器・坏	(10.4)	(3.6)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母	橙色	やや良	30	
7	1区	土師器・坏	11.4	(4.2)	—	密／砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石	明赤褐色	良	70	
8	1区	土師器・碗	13.4	6.3	6.3	密／白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、小石	橙色	良	80	
9	1区	土師器・甕	17.0	(8.9)	—	密／砂粒、黒色粒、石英、小石	にぶい橙色	良	70	
10	1区	土師器・甕	(23.0)	(8.2)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	にぶい橙色	良	10	
11	1区	土師器・甕	—	(4.1)	(13.4)	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	にぶい褐色	良	30	
12	1区	土師器・甕	(13.0)	(3.2)	—	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	暗褐色	良	40	
13	1区	かわらけ・小皿	11.2	2.2	3.8	密／砂粒、黒色粒	浅黄褐色	良	100	
14	1区	土師器・甕	—	(4.5)	6.4	やや粗／砂粒、白色粒、黒色粒、小石	黒褐色	良	80	

第52表 遺構外出土土製品観察表

No.	出土位置	分 類	長(cm)	幅(cm)	重(g)	備 考
15	1区	土 錘	—	1.3	—	上端欠。
16	1区	土 錘	3.8	1.4	10.0	完形。
17	1区	土 錘	—	1.3	—	下端欠。

第53表 遺構外出土石製品観察表

No.	出土位置	分 類	径(cm)	孔径(cm)	厚(cm)	備 考
18	1区	紡錘車	4.1	0.7	2.2	半分欠。
19	1区	紡錘車	4.1	0.8	1.2	半分欠。

4 肥塚古墳群14・15・16号墳

(1)古 墳

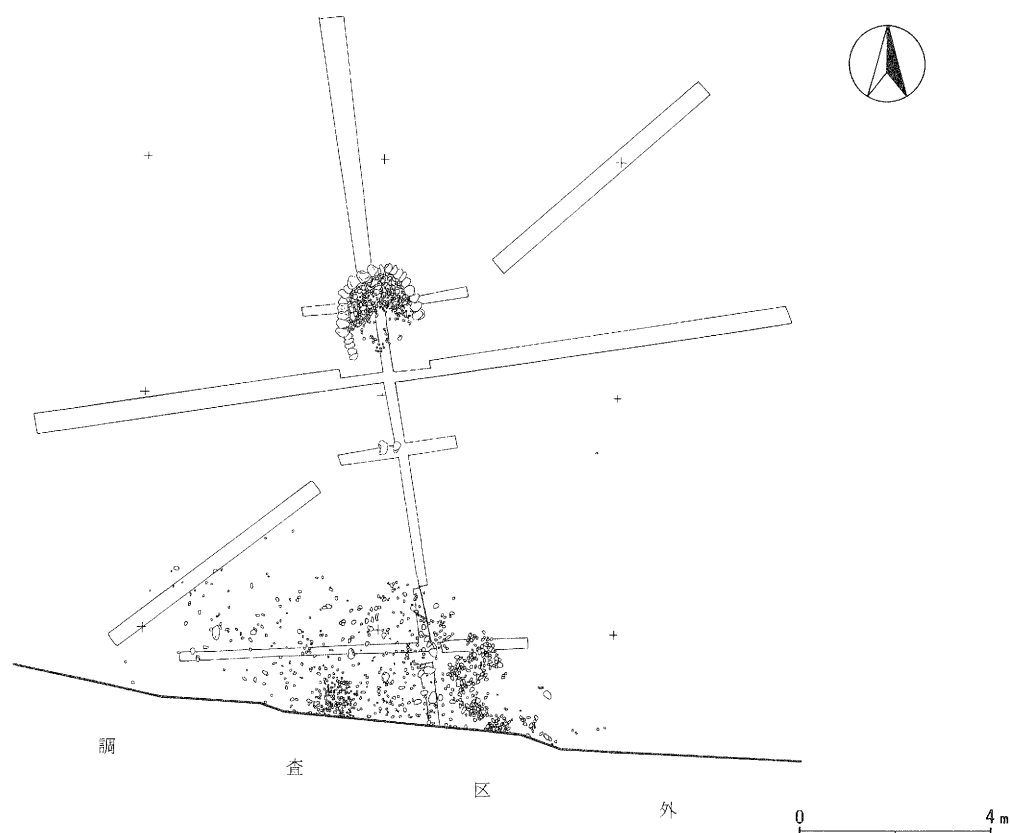
古墳群3基（14～16号墳）はすべて出口下遺跡1・2区より検出された。

14号墳（第116・117図）

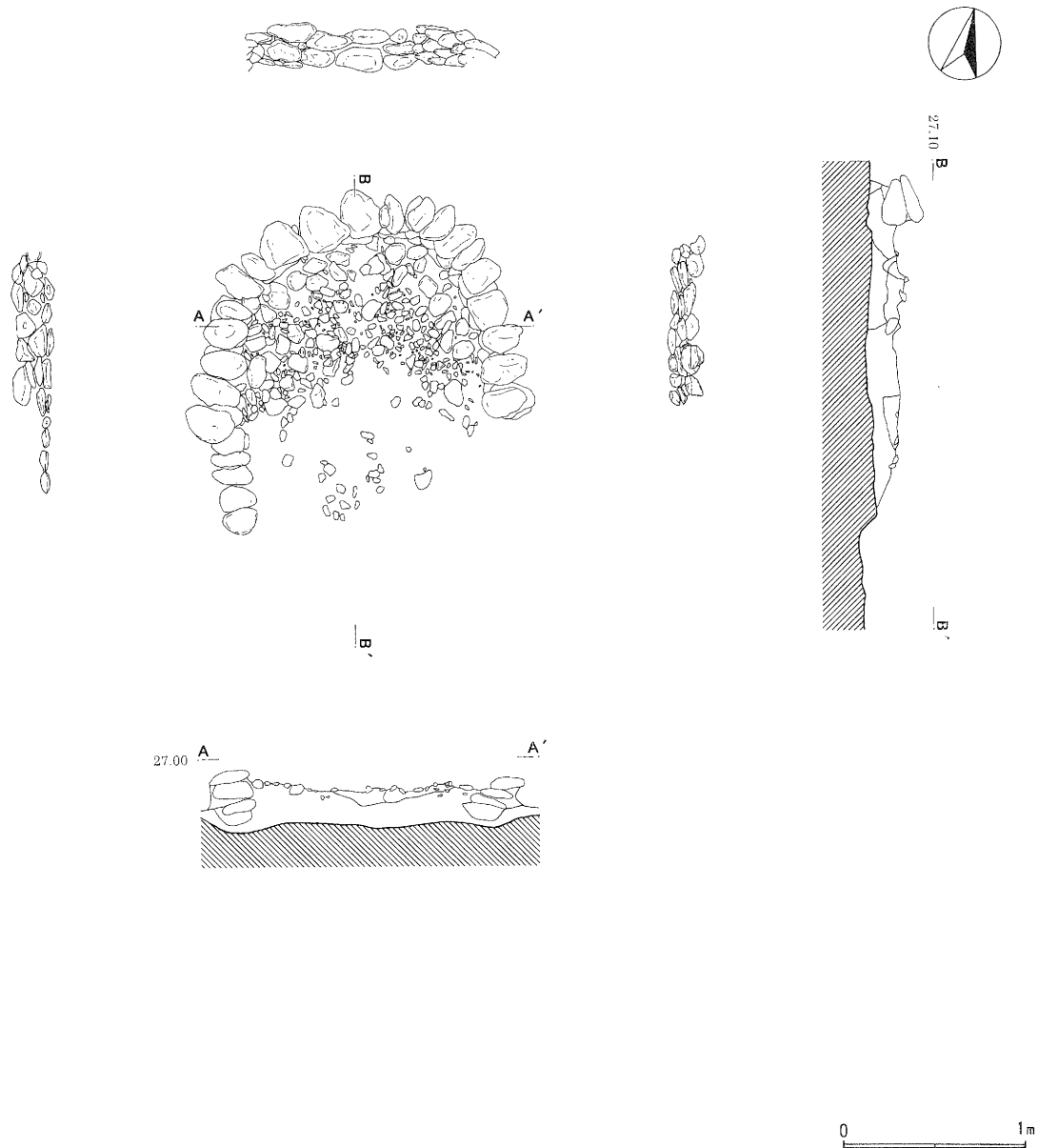
出口下遺跡の平成8年度調査の1区T・U－9・10グリッドより検出された。

本古墳は遺構確認段階で石室が確認されたことから古墳と認められた。周堀は石室を中心にトレンチを放射状に入れたが確認できず、マウンドもはっきりしなかった。よって、古墳の規模等詳細については不明であるが、墳形については周辺に位置する古墳群からみて円墳であろう。

石室は玄室の奥半分が検出されたのみであり、非常に状態が悪い。川原石を使用しており、形状からみて胴張り型の横穴式石室であろう。確認された玄室の最大幅は1.94mを測る。その他、詳細については不明である。



第116図 第14号墳



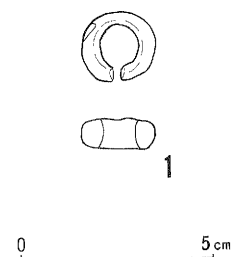
第117図 14号墳石室

石室南側のTU-11グリッド付近からは大量の礫群が確認されたが、これらは石室に使用された礫が後世の削平等によって散らばったものと推察される。

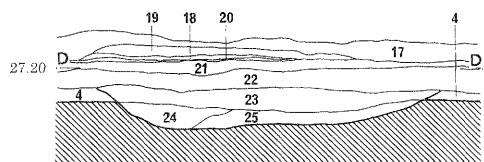
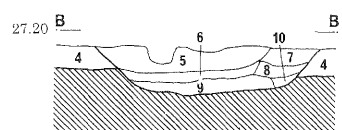
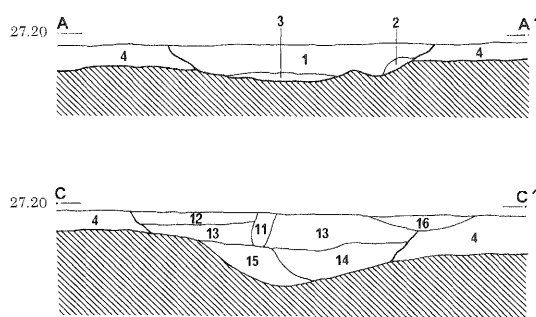
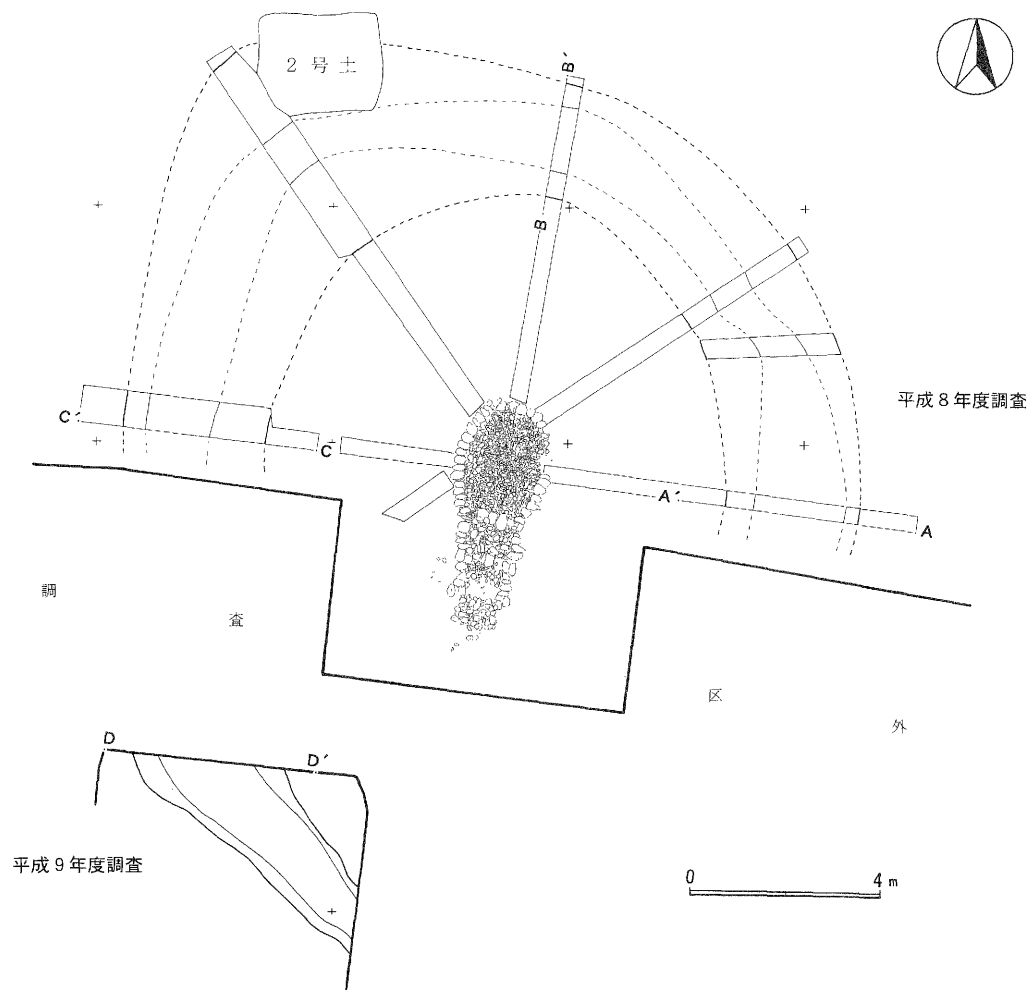
出土遺物は、玄室から金環が1点検出されたのみであり、その他にはみられなかった（第118図1）。

15号墳（第119・120図）

出口下遺跡の平成8年度調査1区L-8・9～O-9・10グリッド、及び平成9年度調査2区L・M-11・12グリッドより検出された。



第118図 14号墳出土遺物

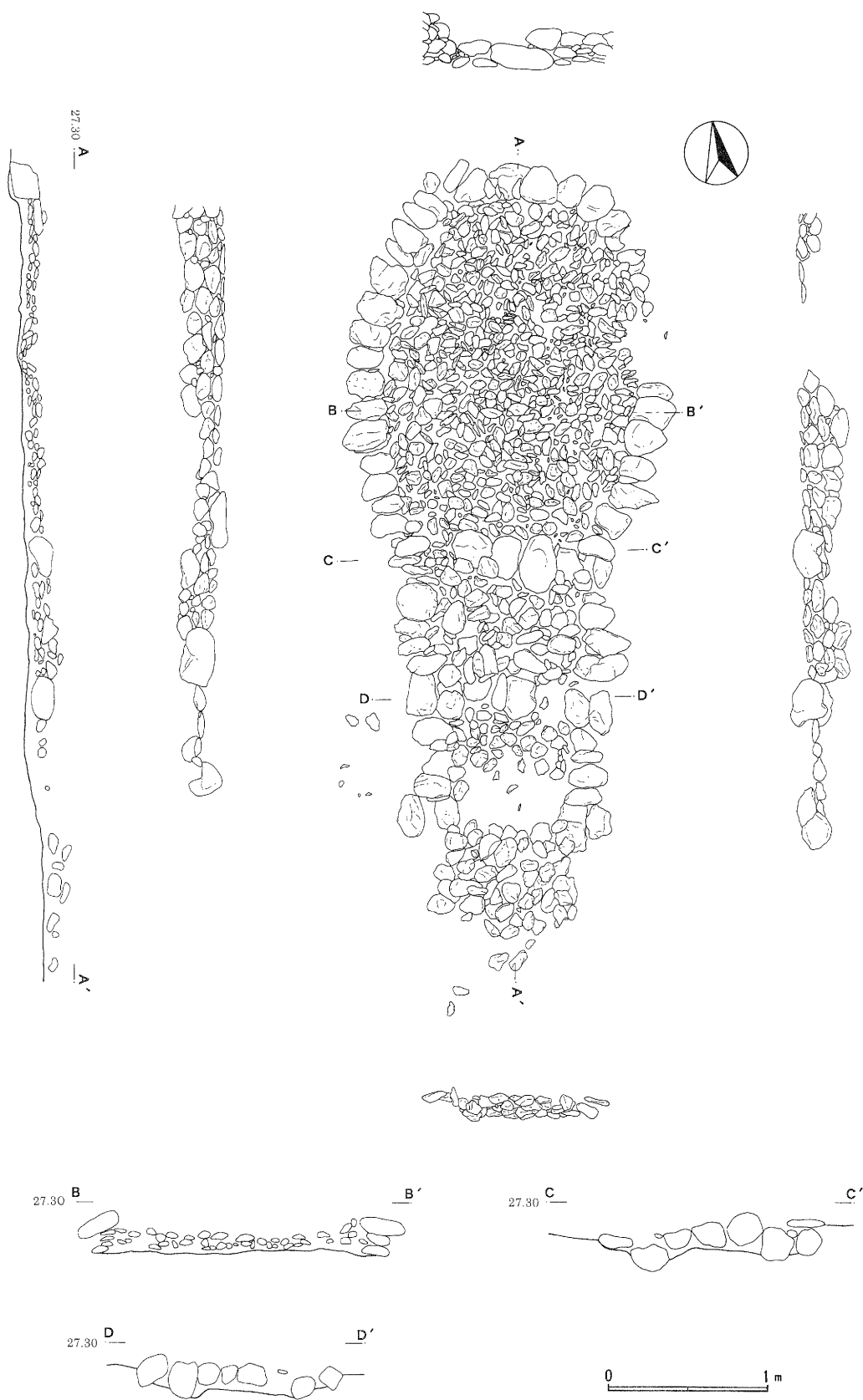


土層説明 (AA' BB' CC' DD')

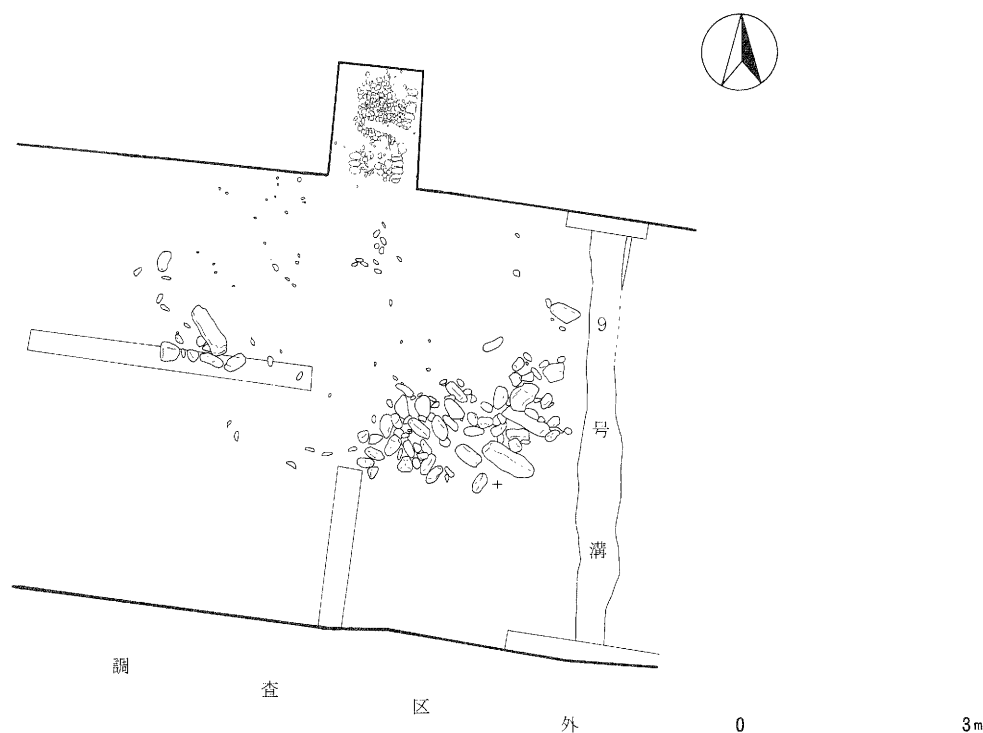
- | | |
|--------------------------------|--|
| 1 黒褐色土: 灰色粒・暗オリーブ褐色粒含む。 | 10 黒褐色土: スコリア・灰色粒含む。8層より暗い。 |
| 2 黒褐色土: 砂・灰色粒・黒褐色粒含む。 | 11 黒褐色土: スコリア・灰色粒含む。 |
| 3 黒褐色土: 砂・灰色粒・暗オリーブ褐色粒・ブロック含む。 | 12 黒褐色土: スコリア・灰色粒・オリーブ褐色粒含む。 |
| 4 黒褐色土: スコリア・灰色粒含む。 | 13 黒褐色土: 灰色粒・オリーブ褐色粒・ブロック含む。 |
| 5 オリーブ褐色土: スコリア・灰色粒含む。 | 14 黒褐色土: スコリア・灰色粒・オリーブ褐色粒含む。 |
| 6 暗オリーブ褐色土: 礫・スコリア・灰色粒含む。 | 15 暗オリーブ褐色土: 灰色粒・黒褐色粒・ブロック・オリーブ褐色粒・ブロック含む。 |
| 7 黒褐色土: スコリア・灰色粒・暗オリーブ褐色粒含む。 | 16 黒褐色土: スコリア・灰色粒・オリーブ褐色粒・ブロック含む。 |
| 8 黒褐色土: スコリア・灰色粒含む。7層より暗い。 | |
| 9 黒褐色土: スコリア・灰色粒・暗オリーブ褐色粒含む。 | |

0 2 m

第119図 15号墳



第120図 15号墳石室



第121図 16号墳

本古墳は石室を含むその大半が1区から検出され、周堀の一部が2区から検出された。確認された古墳群3基のうち、本古墳が最も残りが良いものであった。

本古墳も石室を中心にトレンチを放射状に入れたが、その結果、1.2～4.8m程の周堀が巡っているのが確認された。深さは確認面から20～39 cmである。なお、幅に違いがみられたのは、確認面の関係によるものかもしれない。墳丘の規模は10 m程で、周堀を入れた規模は約17m程になるうか。周堀の回り状況からみて円墳である。

石室は川原石を使用した胴の張った横穴式石室である。一部欠く部分もみられたが、概ね残りの良いものである。全長は5.12 mを測り、前庭部は長さ1.59 m、羨道部は0.89 m、玄室は2.64 mである。前庭部の幅は1.18 m、羨道部の幅は1.48 m、玄室の最大幅は2.06 mである。

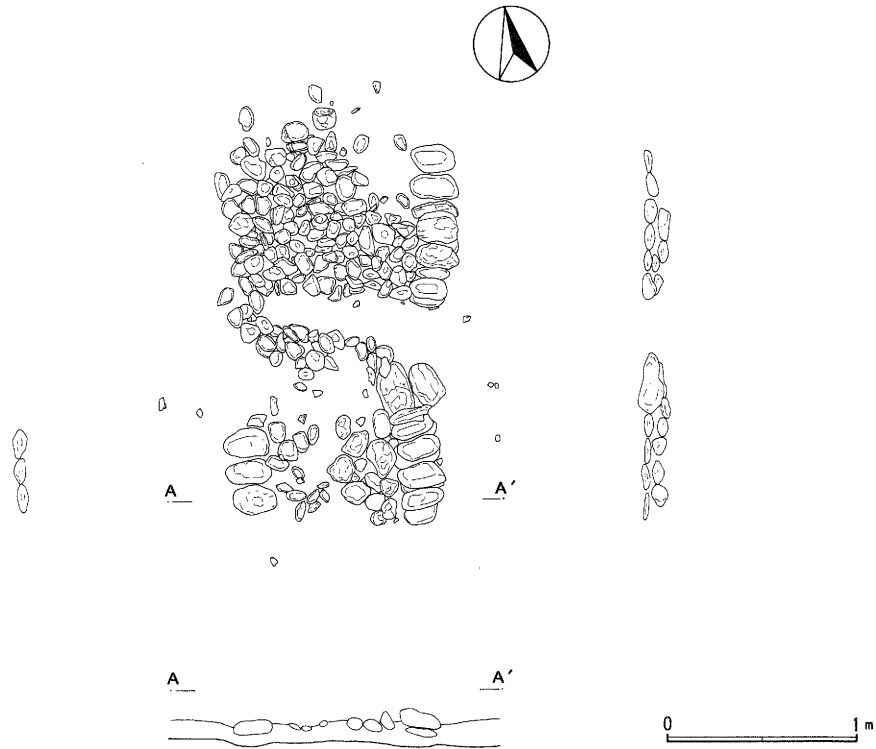
遺物は周堀、及び石室内からも出土しなかった。

16号墳（第121・122図）

出口下遺跡の平成9年度調査2区Q-17・18グリッドより検出された。

本古墳も14号墳同様、石室を確認したことで古墳として認定したものである。また、石室の南側に東西、及び南北のトレンチをいれたが、周堀、マウンドともに認められなかった。よって、規模、墳形等については不明である。

石室は残りが非常に悪く、部と玄室の半分が検出されたのみである。他の古墳同様、川原石を使用した胴張り型の横穴式石室であったと思われるが、詳細については不明である。また、14号墳同様、石室



第122図 16号墳石室

の南側、Q-18グリッドには礫が大量に検出されたが、これらは石室に用いられた礫が後世の削平等によって散らばったものと思われる。また、南東に位置する出口下遺跡・第9号溝跡上面からは礫が列をなして認められたが、これらも本古墳石室のものが使用されたと推察される。

出土遺物はみられなかった。

第54表 14号墳出土遺物観察表

No.	出土位置	分類	径(cm)	厚(cm)	備	考
1	玄室床面	金環	1.9	0.8	完形。	

V 調査のまとめ

肥塚土地区画整理事業地内から確認された遺跡は、肥塚中島遺跡、出口上遺跡、出口下遺跡、肥塚古墳群の計4つである。各遺跡から検出された遺構をみると、それぞれに特色があることが認められた。以下、各遺跡について簡単にまとめてみたい。

肥塚中島遺跡

肥塚土地区画整理事業地内で確認された遺跡の中で北西に位置する。検出された遺構は溝跡13条、土坑41基、土壇墓1基、火葬跡1基、井戸跡1基、ピット群であり、主体となる遺構は溝跡、土坑である。いずれの遺構からも遺物がほとんど出土していないため、帰属する時代、及び時期は判然としないが、出土遺物は古墳時代後期～鎌倉・室町時代のものが主体となる。

溝跡は南西方向から北東方向へ走るものと、南東方向から北西方向へ走るものの2者に大別できる。第13号溝跡から鎌倉・室町時代のかかわりがまとまって検出されていることから、溝跡は鎌倉・室町時代のものが主体になると考えたい。

土坑は長方形、ないし方形のものが多く、埋め戻されたものがほとんどであった。多量の上錘が検出された第41号土坑以外には、第16・22・27・28号土坑から図示可能な遺物が若干検出されているが、これらは鎌倉・室町時代のものが多い。よって、土坑群も同時代のものが主体となろう。

以上のことから、土壇墓、火葬跡、井戸跡の存在も含めて、本遺跡の主体となるのは鎌倉・室町時代であるといえる。本遺跡は後述する出口上遺跡とともに肥塚館（No.59－083）の遺跡範囲内にも含まれるため、中世館跡に関連する遺跡であろう。

出口上遺跡

肥塚中島遺跡の南側、東西に流れる用水路を隔てて位置する。検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟、溝跡17条、土坑33基、土壇墓2基、火葬跡4基、井戸跡1基、石組遺構1基、ピット群である。土坑、及びピット群が多数検出されたことが特徴として挙げられる。本遺跡も出土遺物がほとんどみられなかったため、帰属する時代、及び時期については判然としないが、やはり古墳時代後期～鎌倉・室町時代のものが主体となる。

掘立柱建物跡は1間2間の側柱建物としたが、調査区の都合上定かではない。周辺にはピットが多数存在することから、建物跡に付随するものもあるかもしれない。

溝跡は南北方向に走るものと南東方向から北西方向へ走るものの2者がみられるが、前者が多い。肥塚中島遺跡の溝跡とは様相が異なる。土坑は肥塚中島遺跡と同様な様相を呈している。

なお、2区の東側からは、川原石を積んだ「石組遺構」が1基検出されているが、これは肥塚古墳群中の石室に用いられた石を使用したものと考えられる。石組内からは水平に堆積した焼土層が確認されたが、本遺構の性格については不明である。

本遺跡も検出された遺構・遺物からみて、肥塚中島遺跡同様、中世館跡・肥塚館（No.59－083）に関連する遺跡であろう。

出口下遺跡

肥塚区画整理事業地内において確認された遺跡のうち最東にあり、肥塚古墳群が一部混在する。今回検出された遺構は、竪穴住居跡27軒、掘立柱建物跡2棟、方形周溝状遺構1基、溝跡17条、土坑22基、火葬跡11基、井戸跡5基、集石3基、ピット群である。

竪穴住居跡はいずれも古墳時代後期・鬼高式期に属するものである。1・2区では調査区内に点在する形で検出されているが、3・4区では密集して検出されていることから、集落跡の中心は1・2区の東側から3・4区の間と考えられる。

各住居跡から出土した土器は、その特徴からみて鬼高式でも古い様相を呈しており、これは本遺跡内に古墳時代末期の古墳群が存在することからも裏付けられよう。

溝跡は、古墳時代後期の住居跡に切られているものと、住居跡や古墳群を切っているものがみられるが、後者が多いことから古墳時代後期以降のものが主体となる。

掘立柱建物跡や方形周溝状遺構は出土遺物が見られないことから判別が困難であり、土坑群は古墳時代後期のものが主体となるが、すべてではない。これは井戸跡も同様である。火葬跡・集石は鎌倉・室町時代の遺物が検出されている。

本遺跡は古墳時代後期から鎌倉・室町時代までの複合遺跡であり、主体となるのは古墳時代後期の集落跡である。

肥塚古墳群14・15・16号墳

出口下遺跡調査区内から3基が確認された。第Ⅲ章でも述べたとおり、肥塚古墳群は現在までに13基が確認されていたが、今回の3基を加えて計16基となった。今回検出された14～16号墳は古墳群中、北西に位置する一群である。

今回検出された古墳群はマウンドは検出されず、15号墳のみ周溝が検出されたが、他の2基は周溝を持たないタイプのものである。14・16号墳は石室のみの検出であり、規模等は不明である。

出土遺物は、14号墳石室内から金環が検出されたのみであり、他にはみられなかった。

以上のことから、これらの古墳群は副葬品に土器、埴輪等はすでに持たない古墳時代終末期の群集墳であり、前述のとおり、出口下遺跡における古墳時代後期の集落跡が廃絶した後に古墳群は築造されたこととなる。

以上、簡潔に各遺跡・古墳群について述べたが、共通するのは中世の遺構・遺物がみられる点であり、これらはやはり隣接する肥塚館に関わりのあるものと考えられ、これらが遺跡範囲に含まれるものなのか、あるいは別物でまたその場合どのような関連性があるのか等といった点が今後の課題として挙げられる。

写 真 图 版



肥塚区画整理地内周辺遠景



肥塚区画整理地内全景 (1)



肥塚区画整理地内全景 (2)



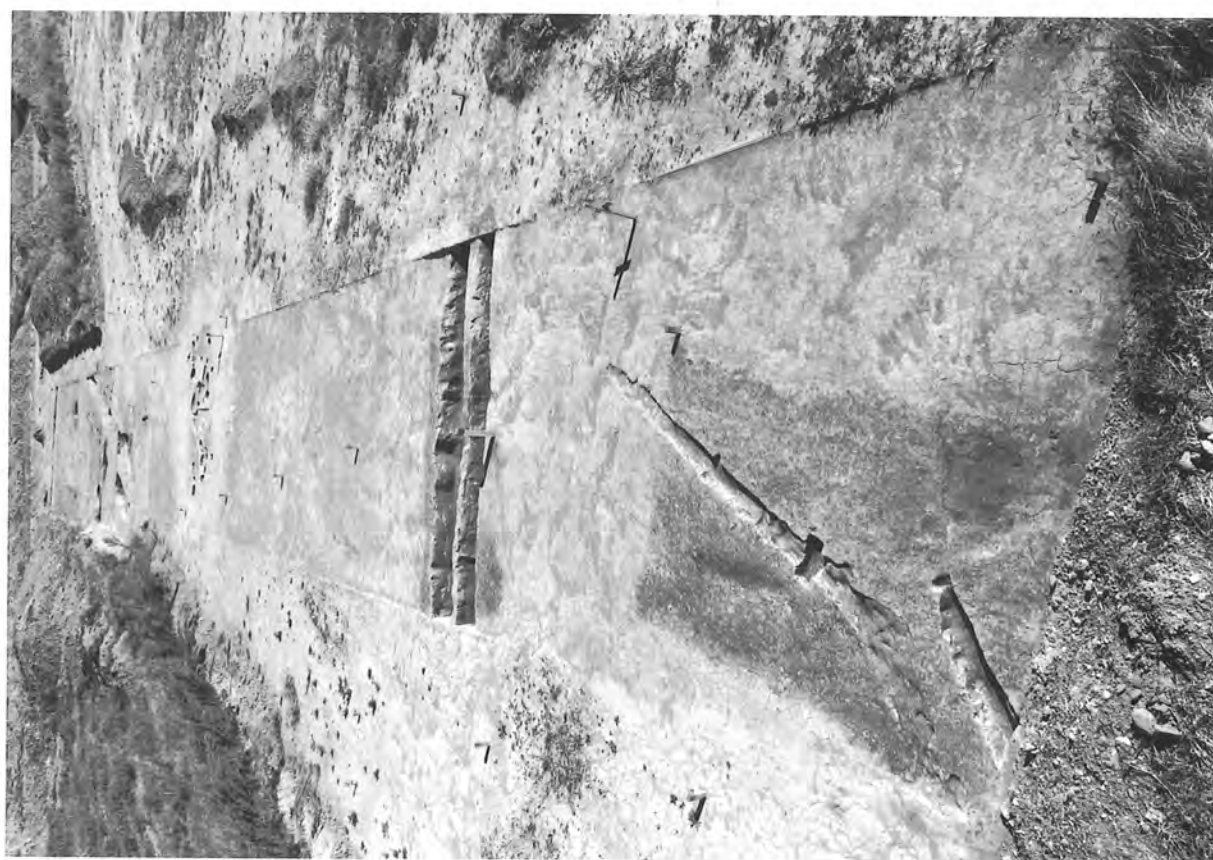
肥塚中島遺跡全景 (C-13グリッドから東)



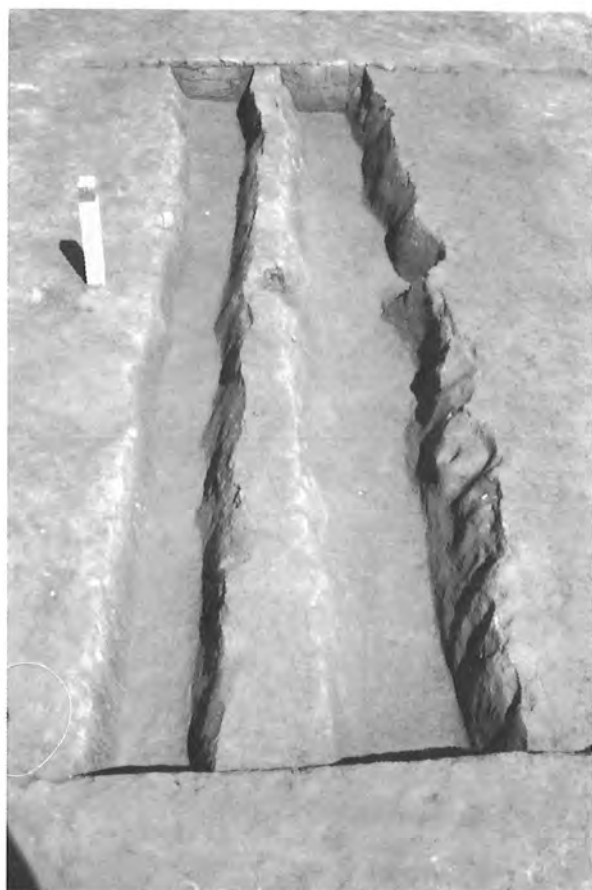
肥塚中島遺跡全景 (R-6グリッドから西)



肥塚中島遺跡全景 (T-16グリッドから西)



肥塚中島遺跡全景 (A-5グリッドから東)



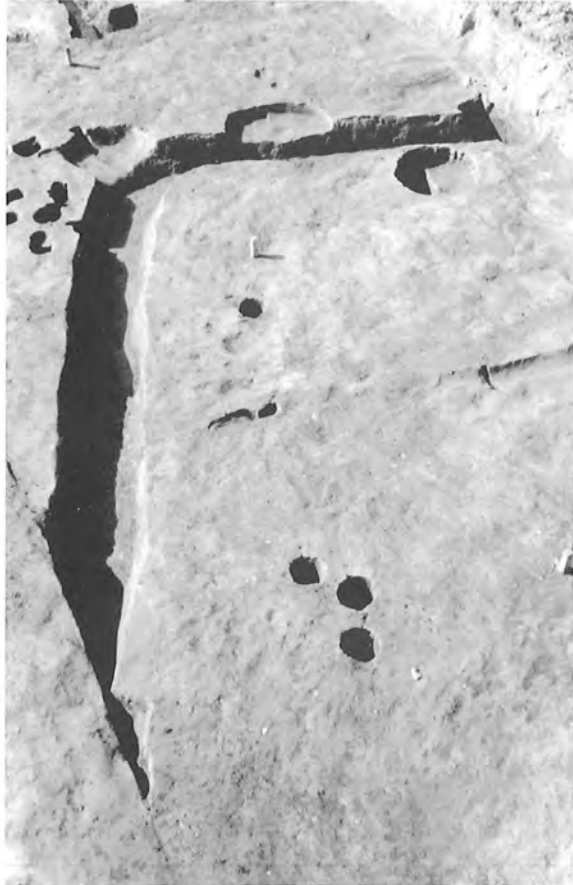
第2・3号溝跡（南から）



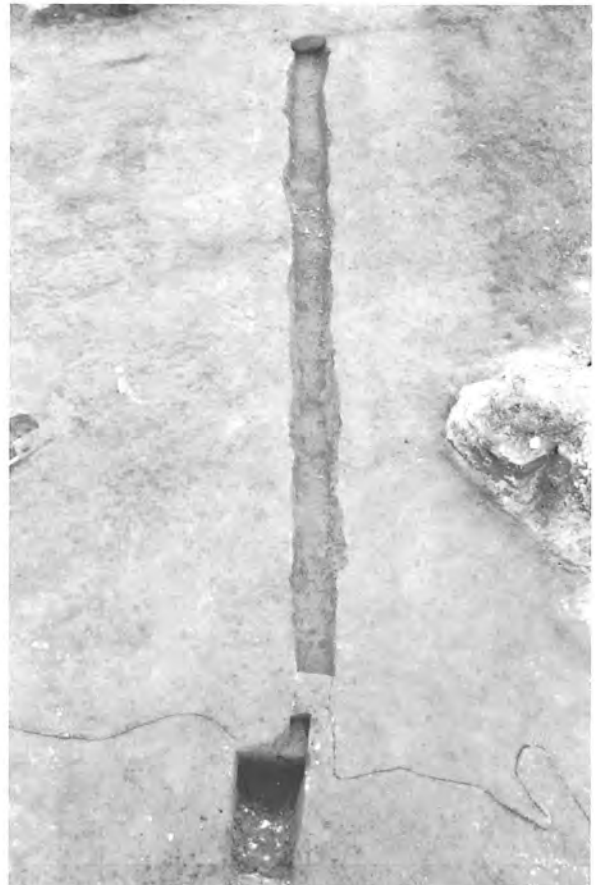
第1号溝跡（南東から）



第4・5号溝跡（北西から）



第6・7号溝跡（東から）



第8号溝跡（北東から）



第9～11号溝跡（Q～S-9～11グリッド）



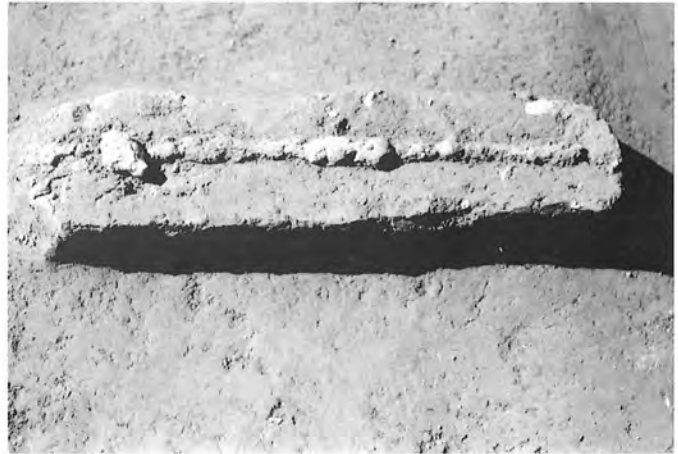
第9～11号溝跡 (M～O-14・15グリッド)



第12号溝跡 (南東から)



第12号溝跡土器出土状況



第12号溝跡鉄製品出土状況



第13号溝跡（北西から）



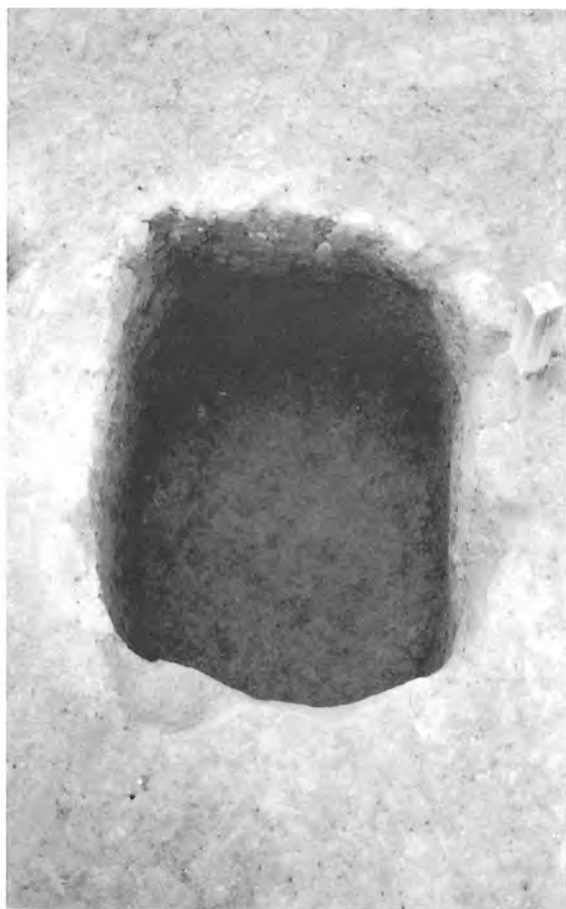
第13号溝跡土器出土状況



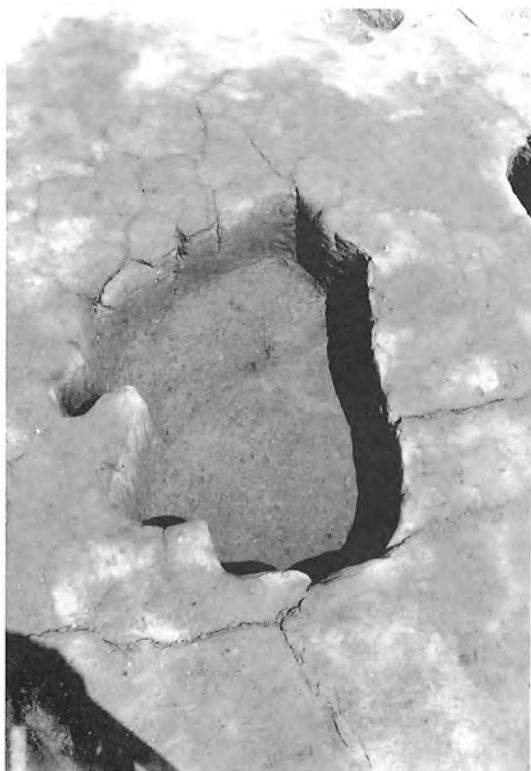
第1号土坑



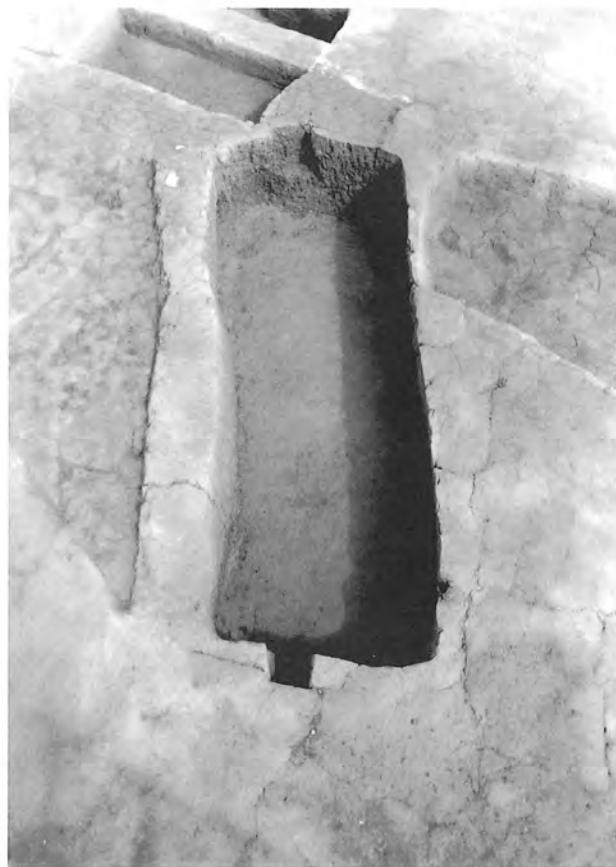
第2号土坑



第3号土坑



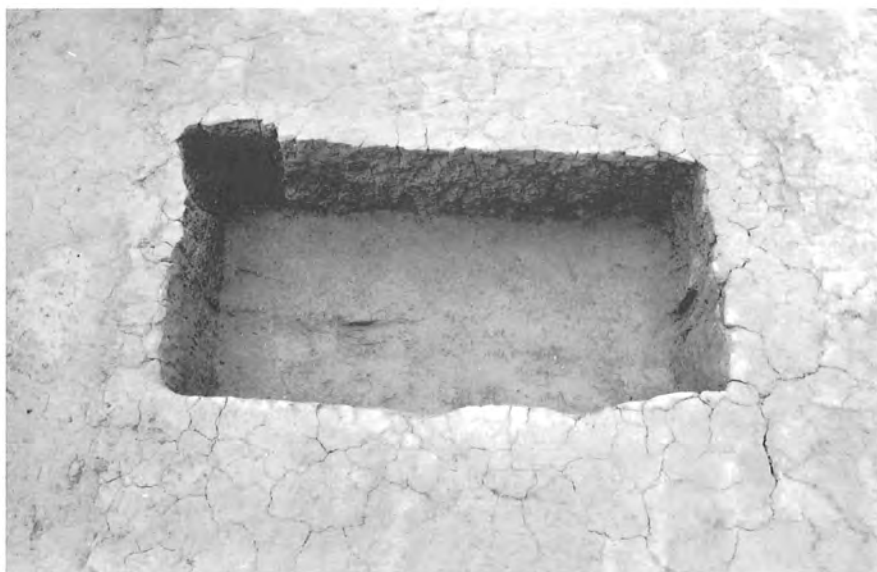
第4号土坑



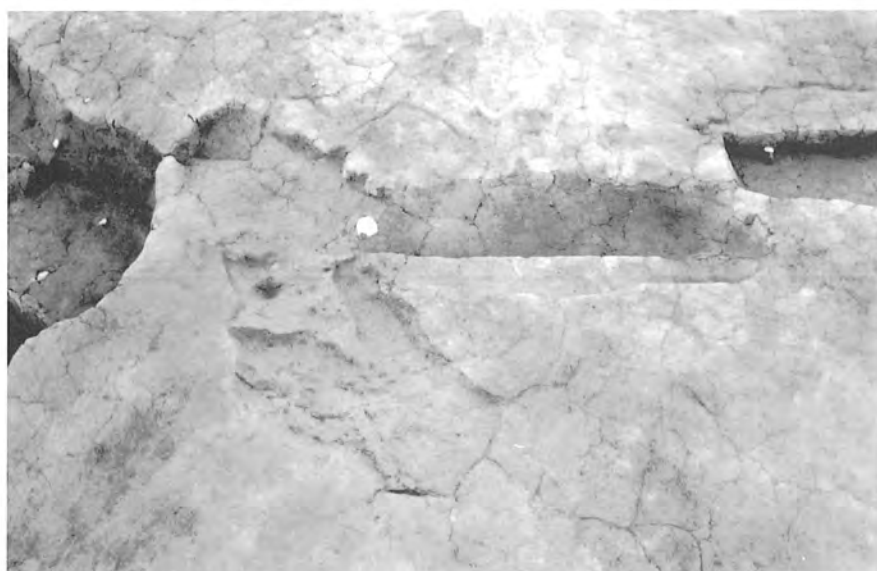
第7号土坑



第5・6号土坑



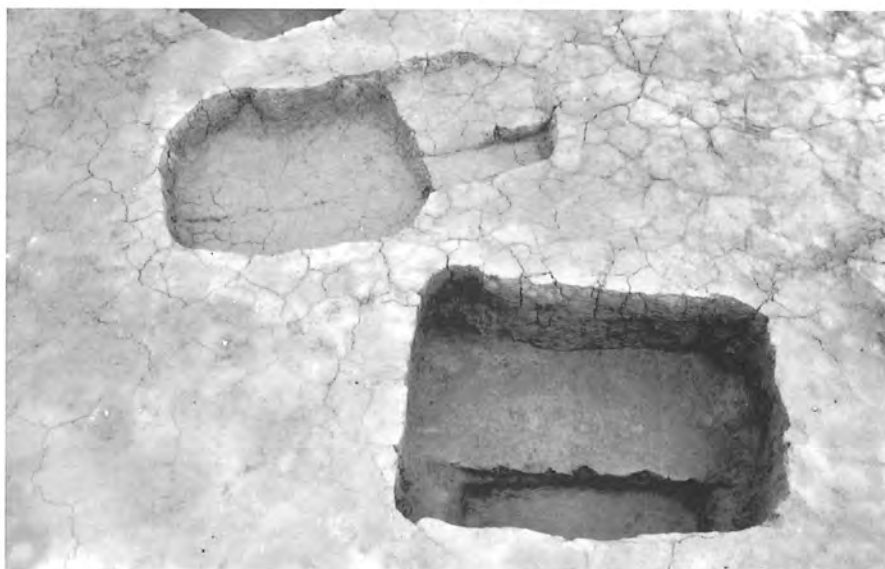
第9号土坑



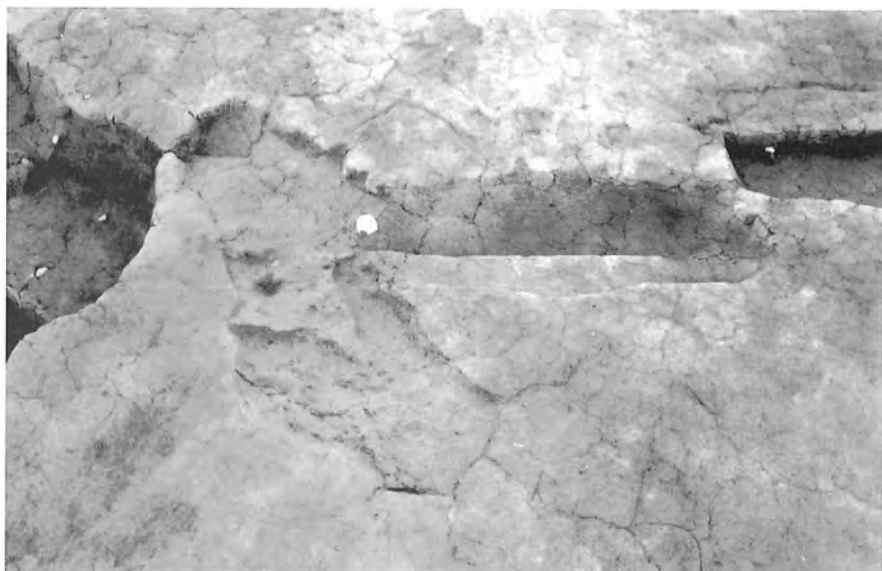
第11・12号土坑



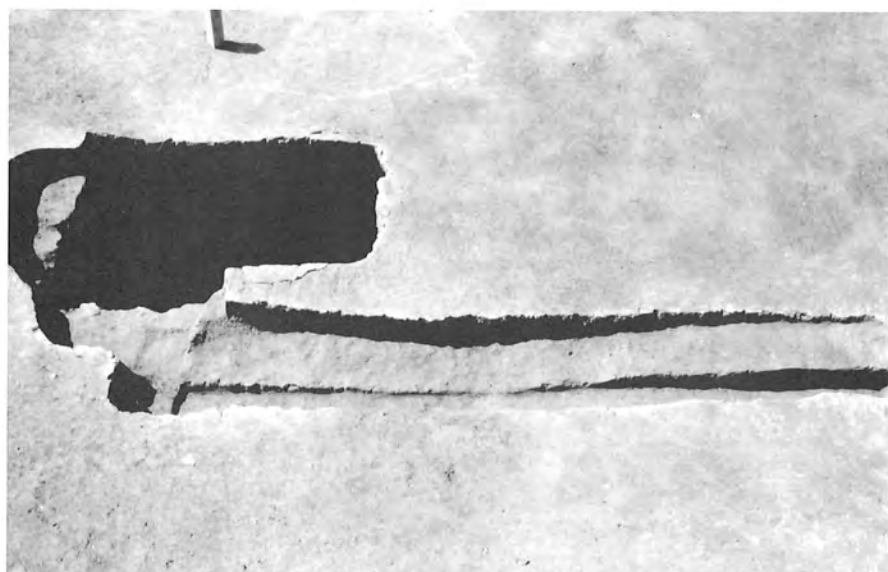
第13号土坑



第14・15・18号土坑



第16・17号土坑



第19・20・21号土坑



第22号土坑



第23号土坑



第24・25・26号土坑



第27・28号土坑



第32号土坑



第34・35号土坑



第38号土坑



第39・40号土坑



第41号土坑土錘出土状況

第41号土坑

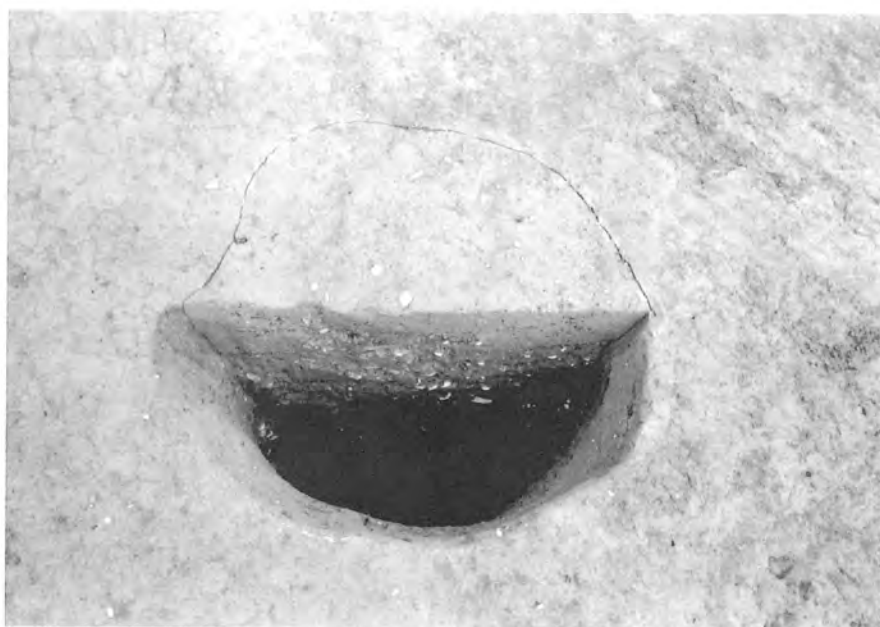




第1号土墳墓



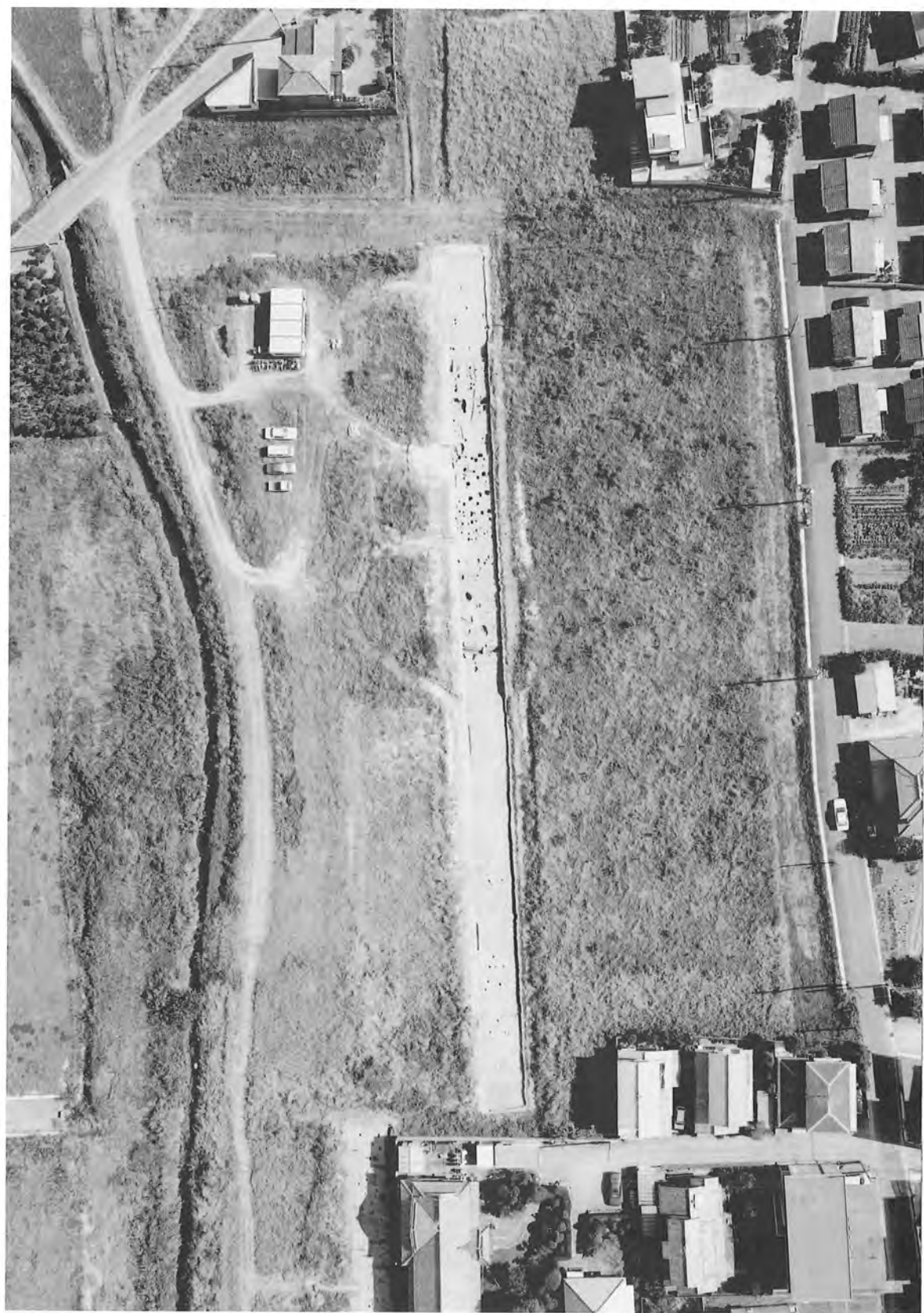
第1号火葬跡



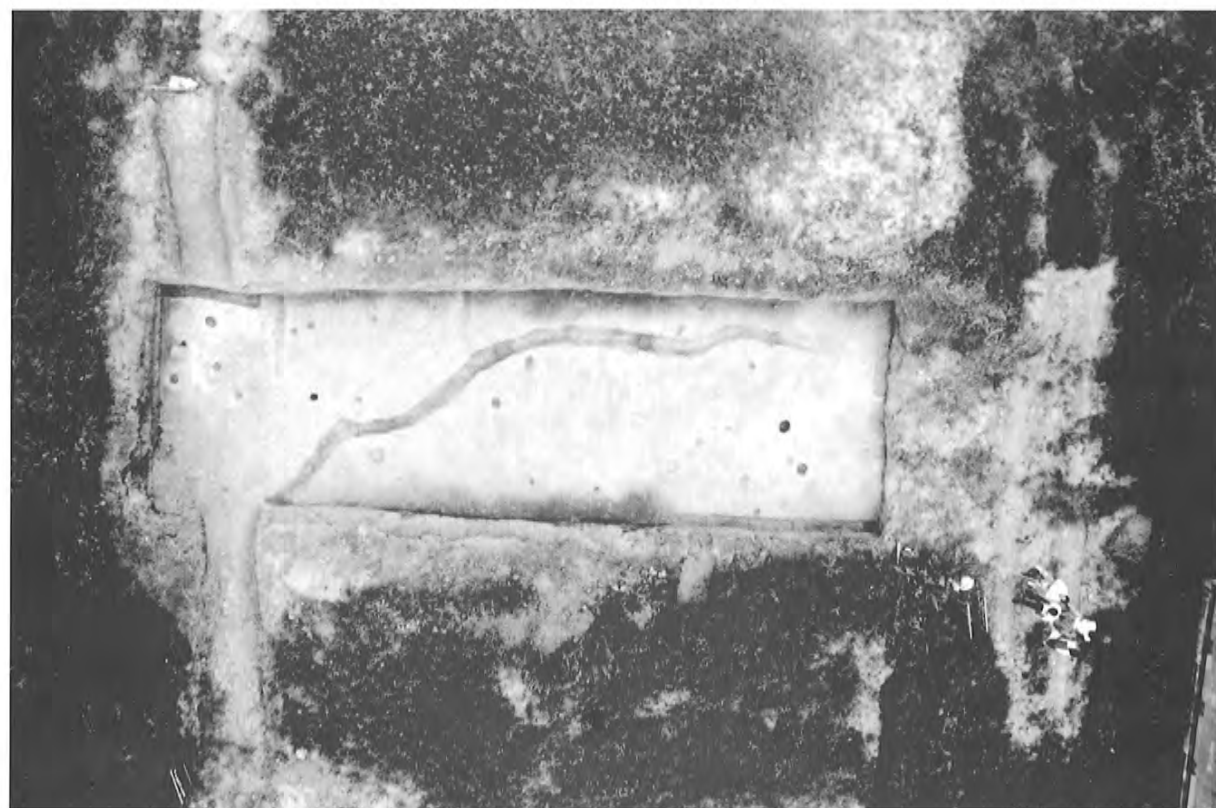
第1号井戸跡



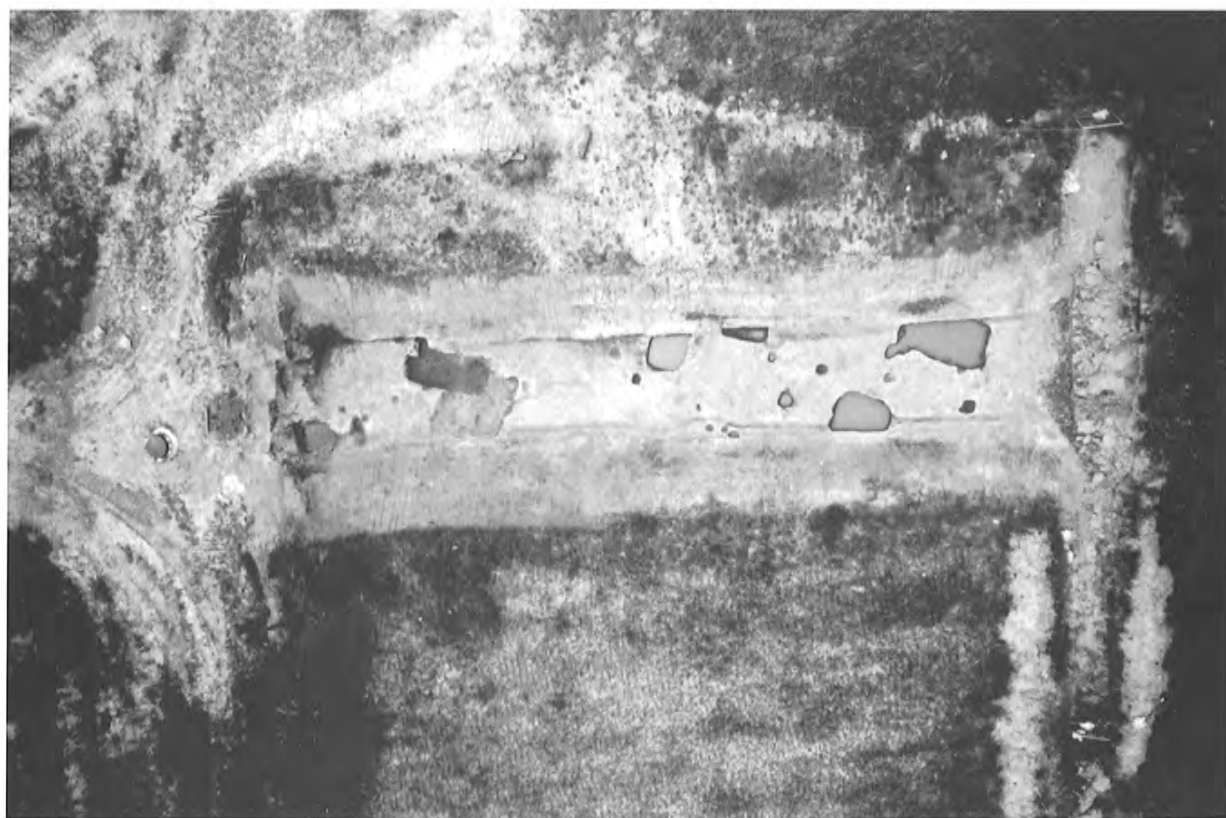
出口上遺跡1区全景



出口上遺跡2区全景



出口上遺跡4区全景



出口上遺跡3区全景



出口上遺跡1区全景（東から）



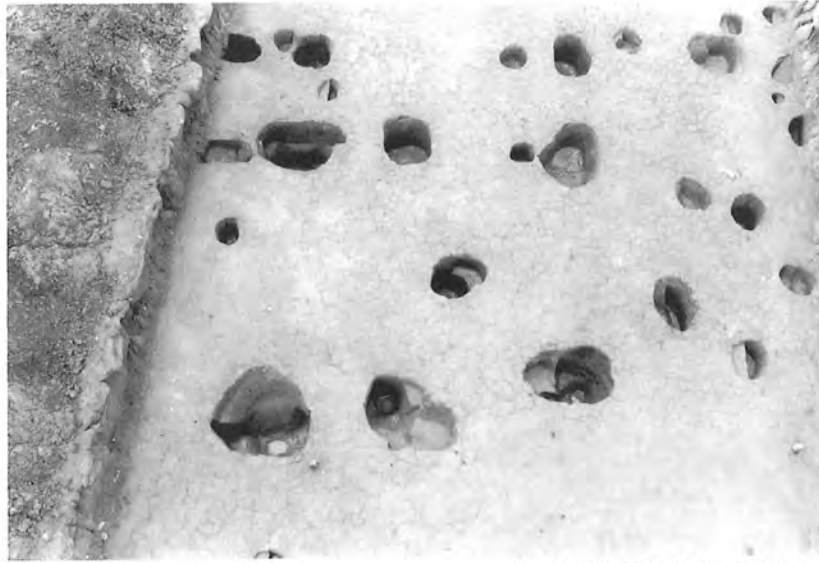
出口上遺跡2区全景（東から）



出口上遺跡4区全景（北から）



出口上遺跡3区全景（南から）



第1号掘立柱建物跡（東から）



第1・2号溝跡（北から）



第2号溝跡（北から）



第3号溝跡（西から）



第4号溝跡（東から）



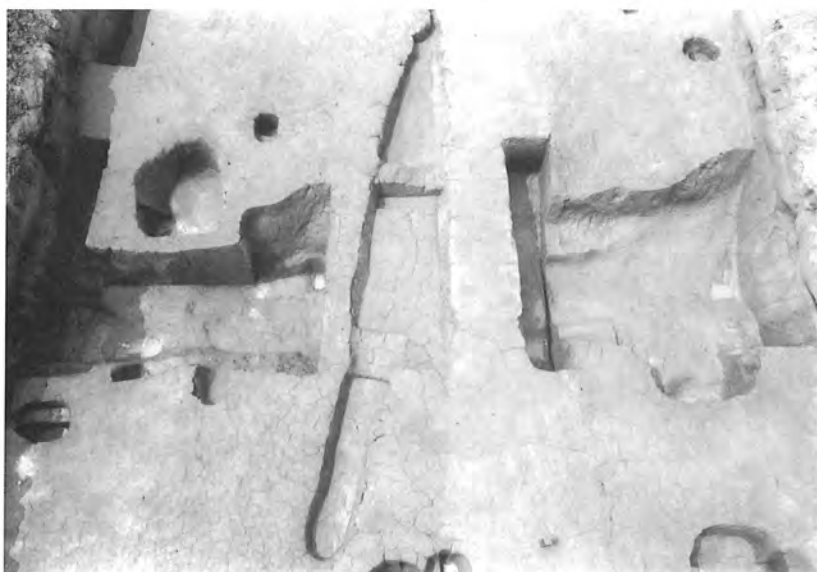
第5号溝跡
第14号土坑（西から）



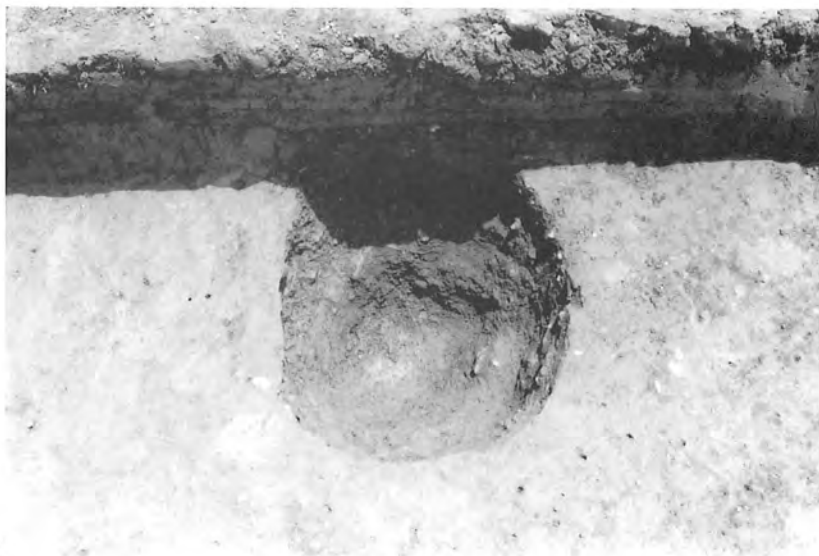
第8号溝跡（西から）



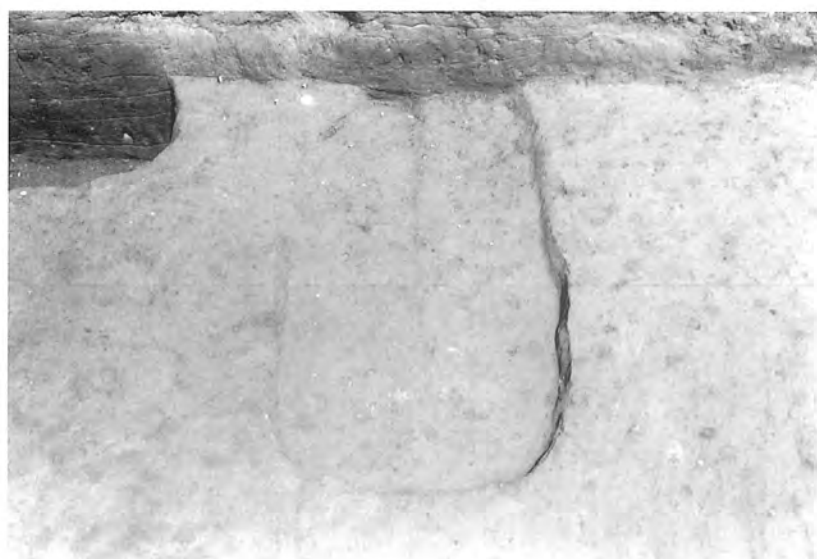
第9・10号溝跡（東から）



第11・12号溝跡（東から）



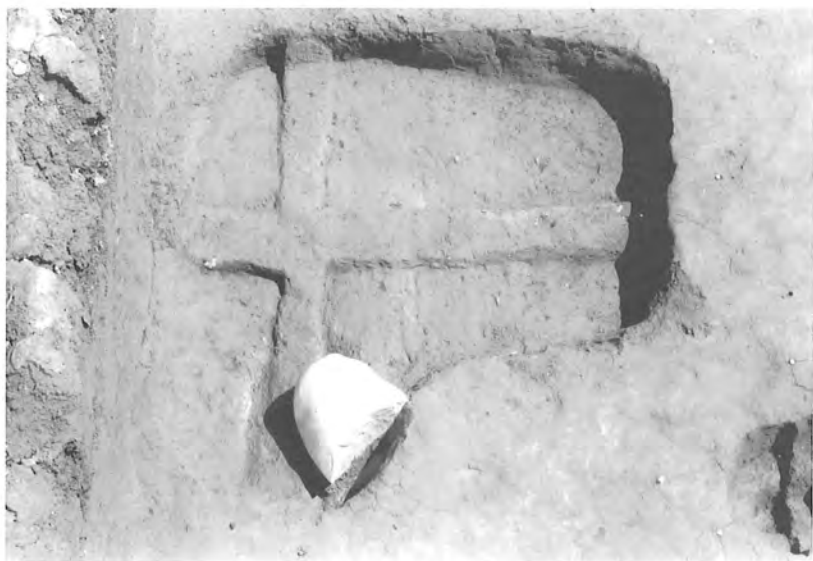
第1号土坑



第2号土坑



第3・4号土坑



第5号土坑



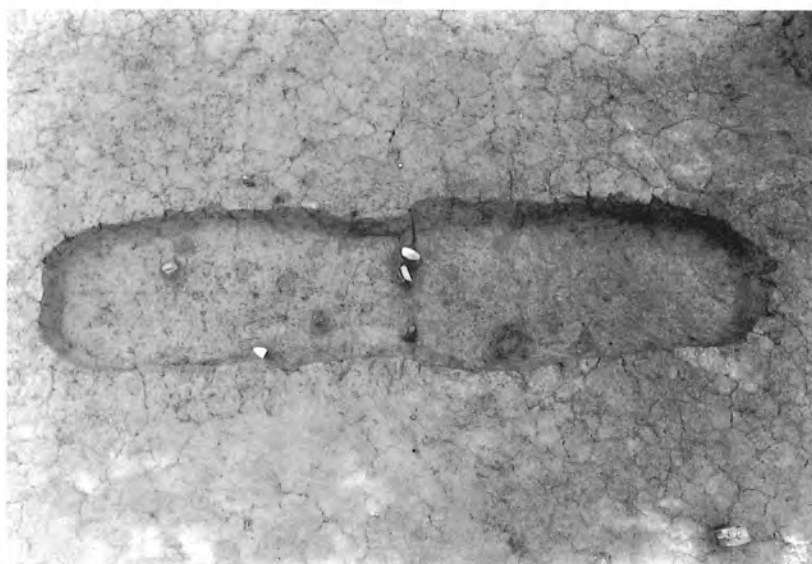
第6号土坑



第7~9号土坑



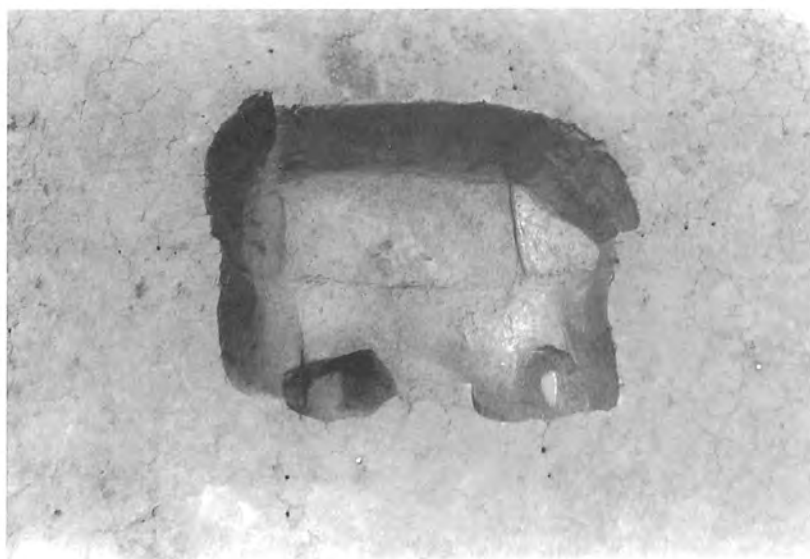
第10号土坑



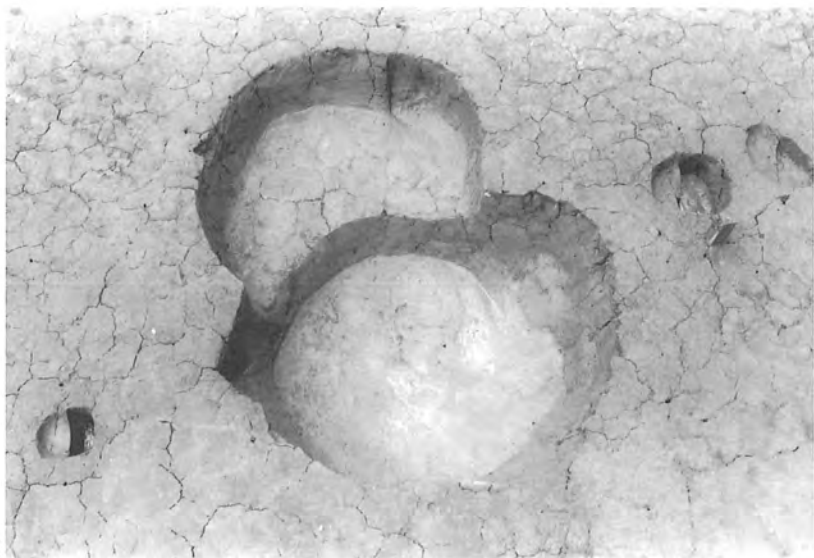
第11号土坑



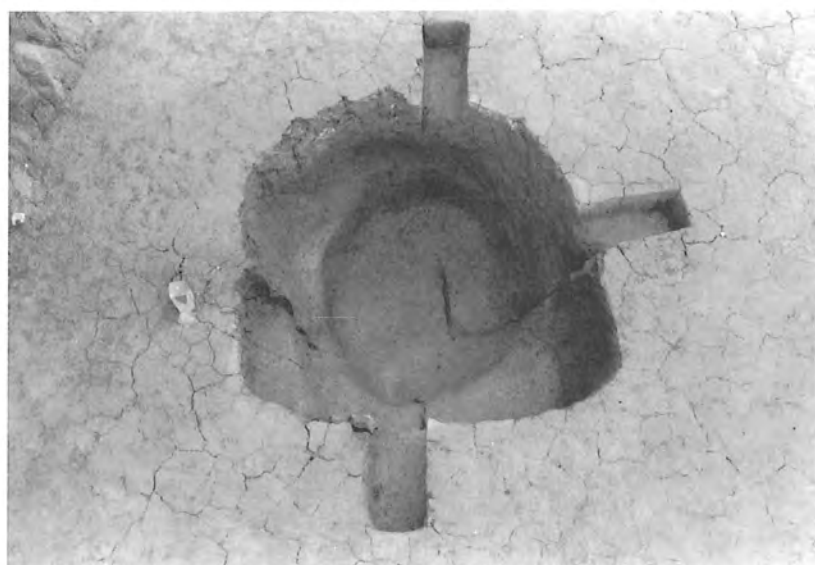
第12号土坑



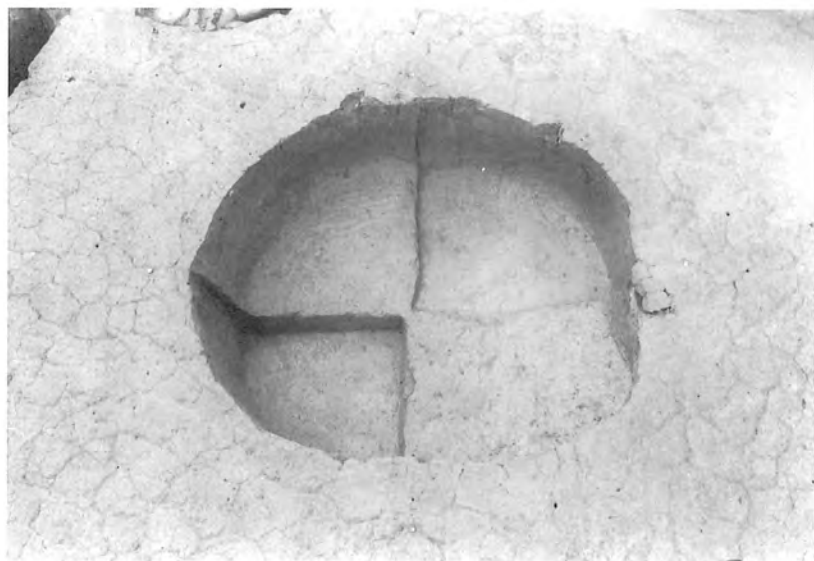
第13号土坑



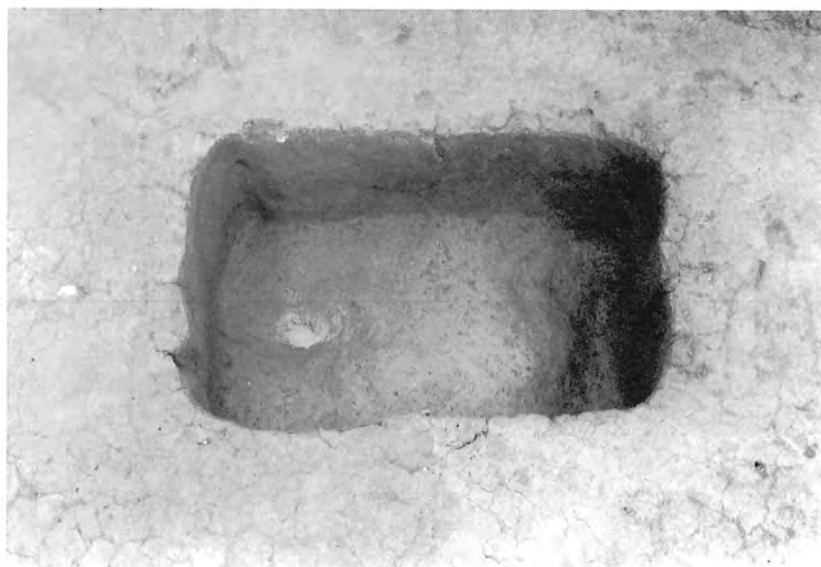
第18・19号土坑



第20号土坑



第23号土坑



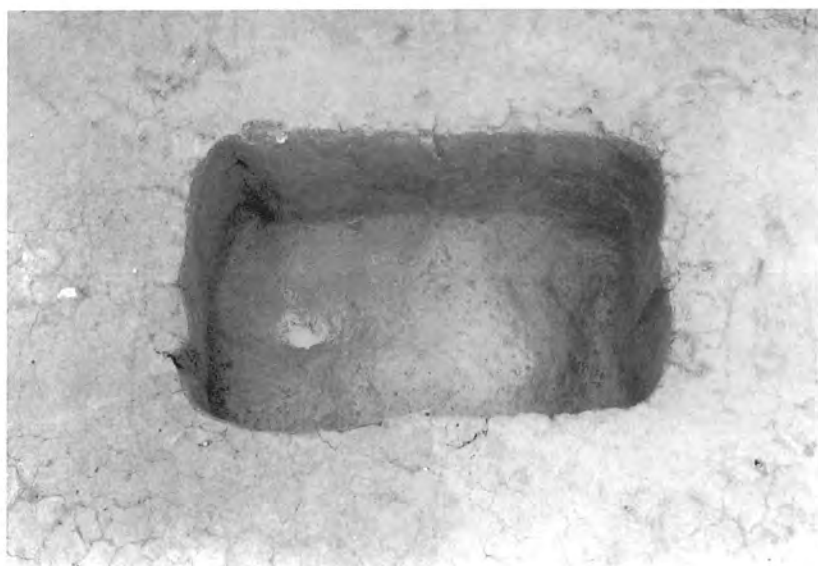
第24号土坑



第26号土坑



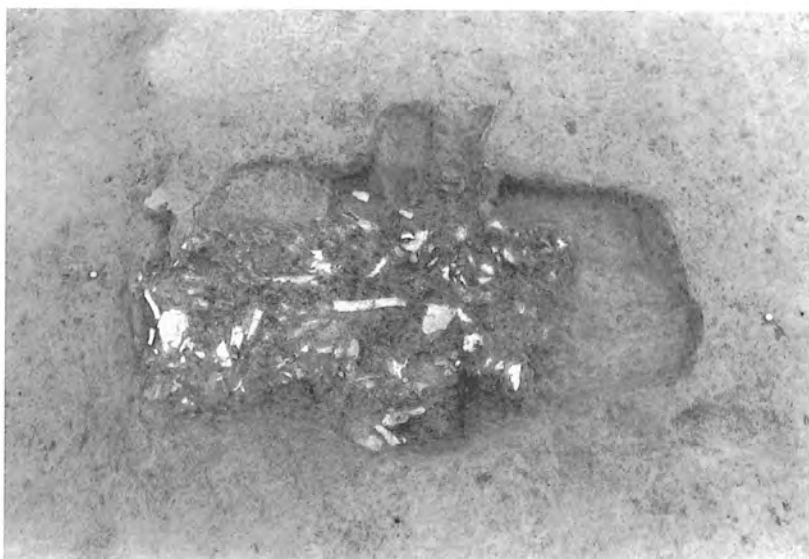
第27号土坑



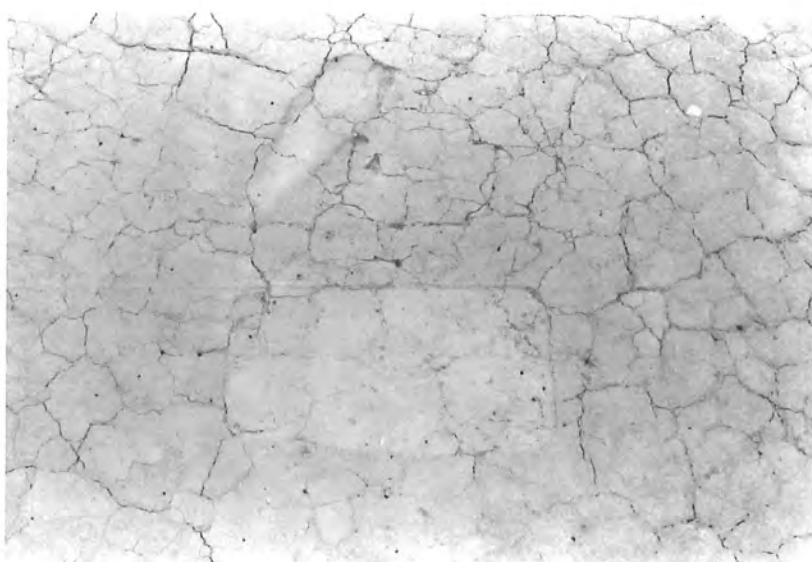
第32・33号土坑



第2号土坑墓



第1号火葬跡



第2・3号火葬跡



第4号火葬跡



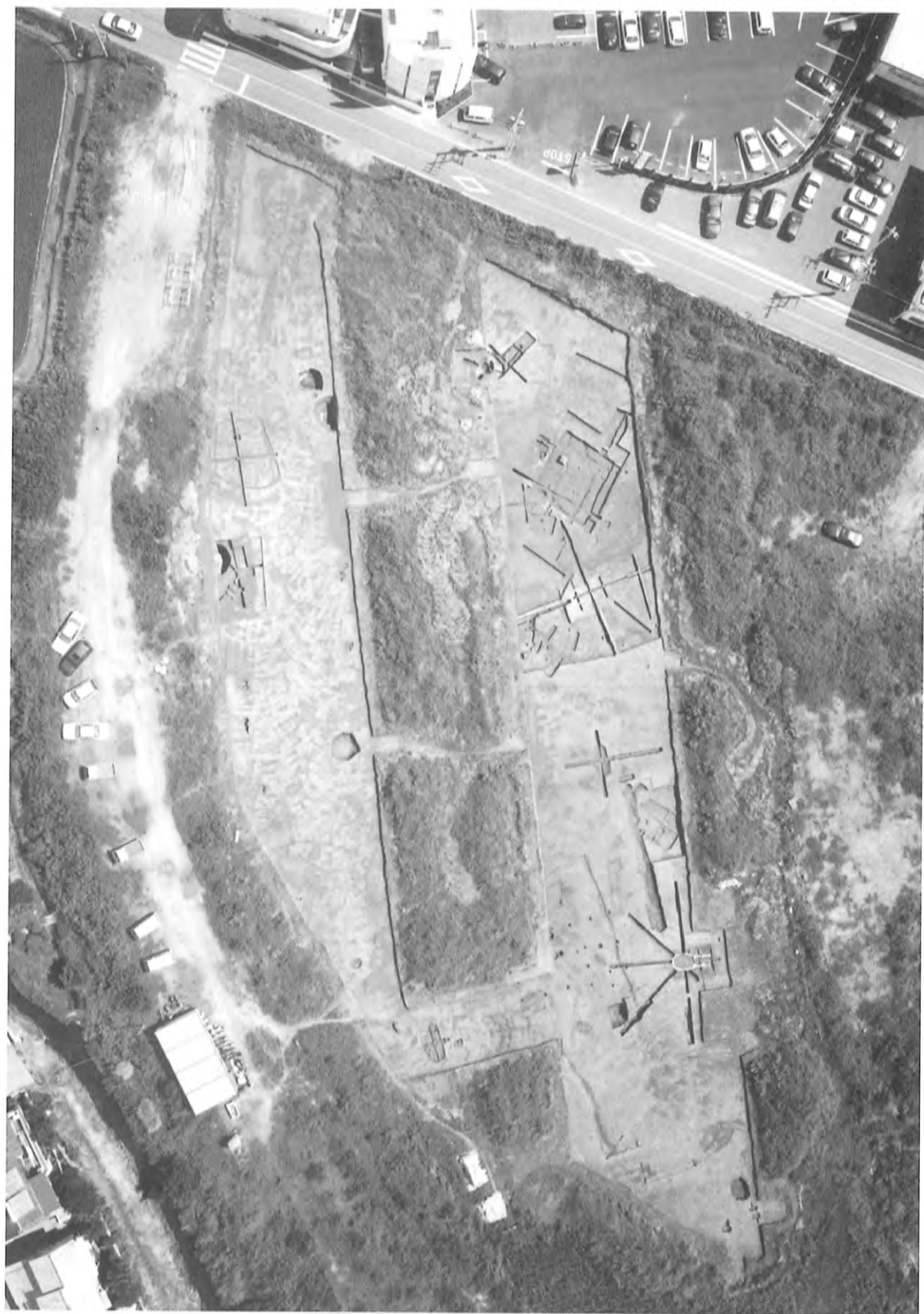
第1号井戸跡



第1号石組遺構



石組状況



出口下遺跡1区全景



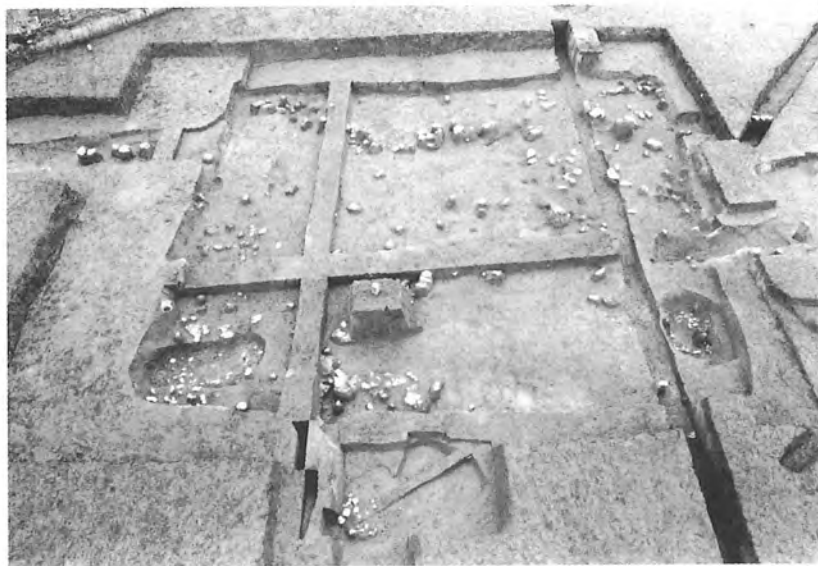
出口下遺跡2区全景



出口下遺跡3区全景



出口下遺跡4区全景



第1号竪穴住居跡遺物出土状況



第1号竪穴住居跡旧カマド



第1号竪穴住居跡新カマド



第2号竪穴住居跡遺物出土状況



第2号竪穴住居跡完掘状況



第2号竪穴住居跡カマド



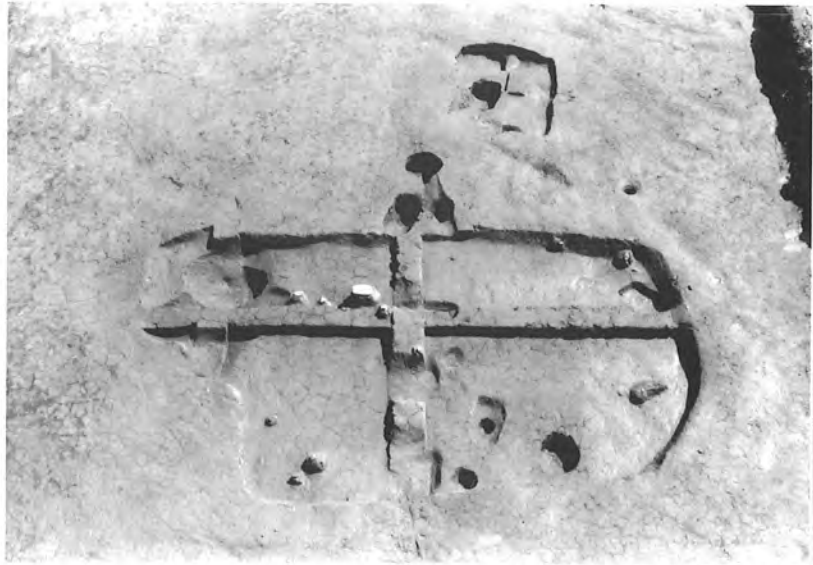
第3号竖穴住居跡遺物出土状況1



第3号竖穴住居跡遺物出土状況2



第3号竖穴住居跡カマド



第6号竪穴住居跡



第7号竪穴住居跡完掘状況



第7号竪穴住居跡カマド・貯蔵穴

第10・12号竪穴住居跡完掘状況



第11号竪穴住居跡礫出土状況



第11号竪穴住居跡カマド



第11号竖穴住居跡完掘状況



第12号竖穴住居跡遺物出土状況



第13号竖穴住居跡礫出土状況



第13号竖穴住居跡カマド



第13号竖穴住居跡完状況



第14号竖穴住居跡礫出土状況



第14号竖穴住居跡遺物出土状況



第14号竖穴住居跡完掘状況



第15号竖穴住居跡完掘状況



第16号竪穴住居跡礫出土状況



第16号竪穴住居跡完掘状況



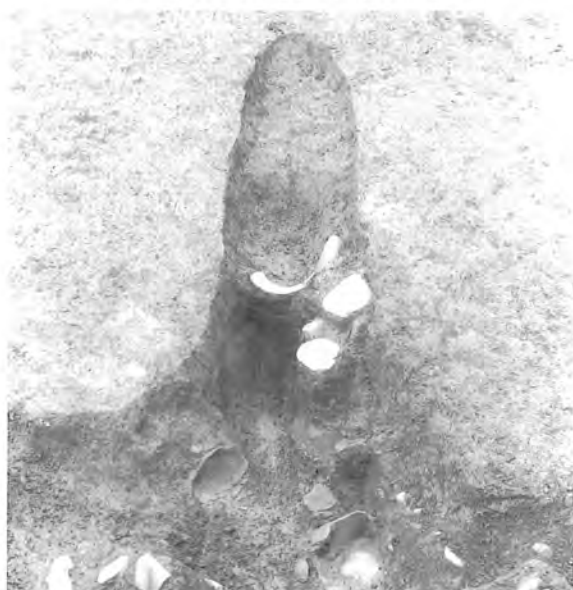
第16号竪穴住居跡カマド



第17号竪穴住居跡遺物出土状況



第17号竪穴住居跡完掘状況



第17号竪穴住居跡カマド



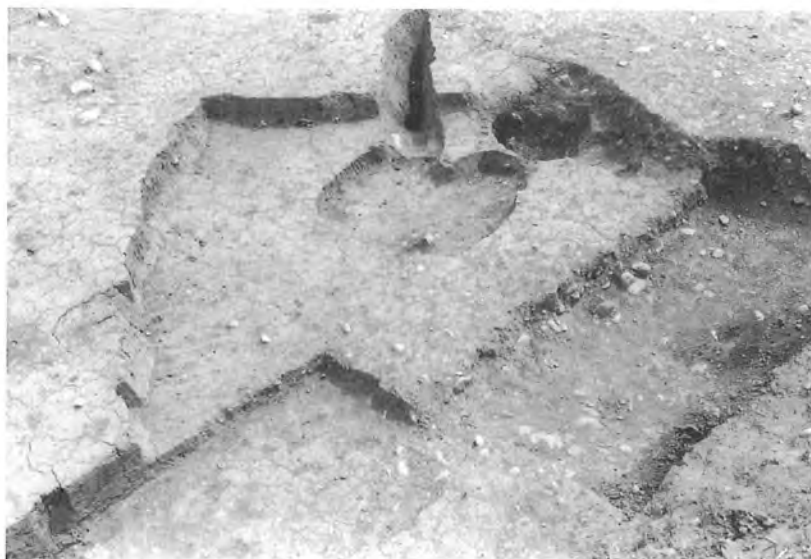
第18号竖穴住居跡遺物出土状況



第18号竖穴住居跡完掘状況



第19号竖穴住居跡遺物出土状況



第19号竪穴住居跡完掘状況



第19号竪穴住居跡カマド



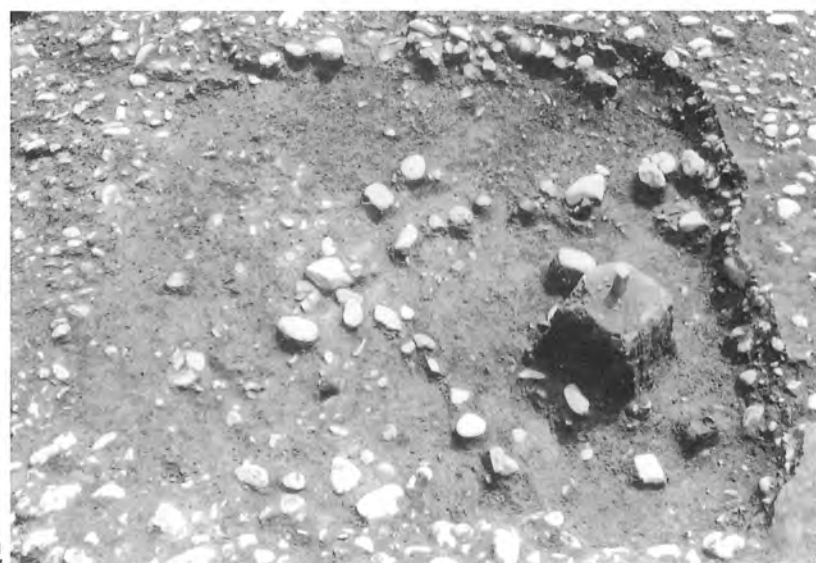
第19号竪穴住居跡遺物出土状況1



第19号竖穴住居跡遺物出土状況2



第20号竖穴住居跡完掘状況



第21号竖穴住居跡遺物出土状況



第22号竪穴住居跡完掘状況



第23号竪穴住居跡完掘状況



第23号竪穴住居跡カマド



第23号竖穴住居跡遺物出土状況



第24号竖穴住居跡完掘状況



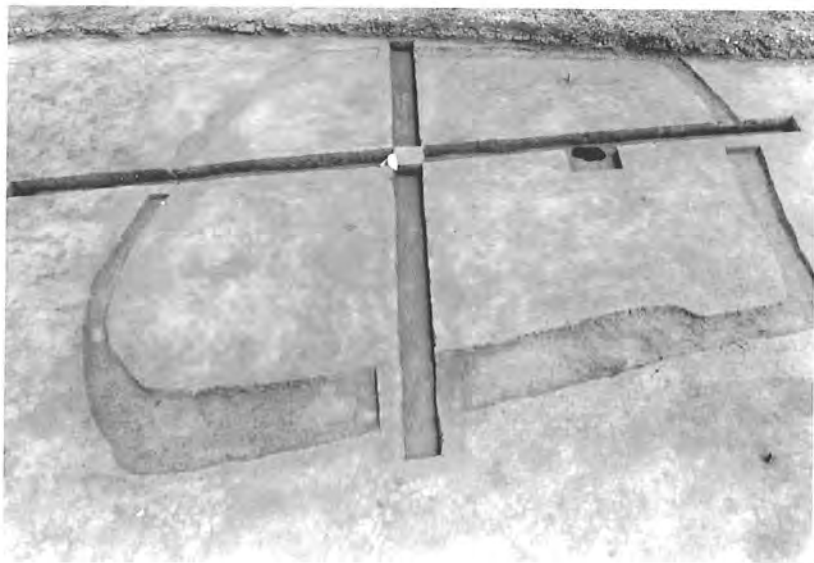
第26号竖穴住居跡完掘状況



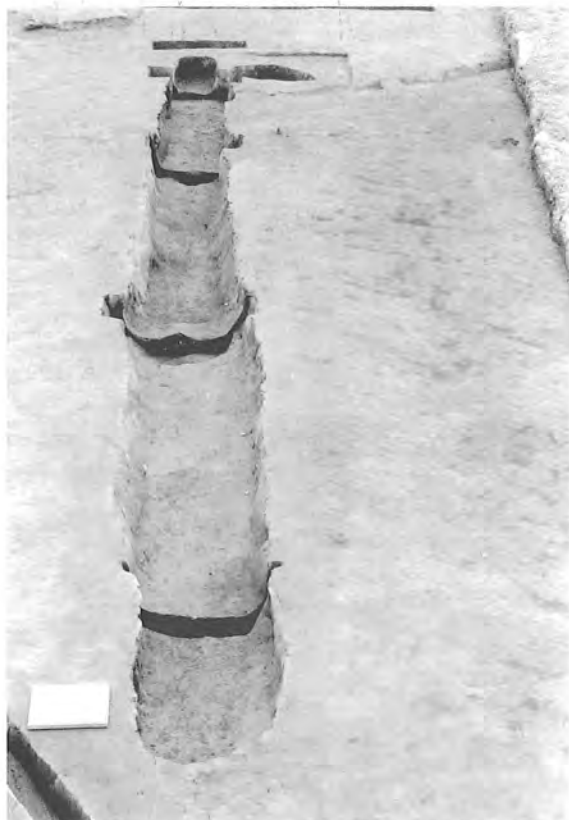
第27号竖穴住居跡完掘状況



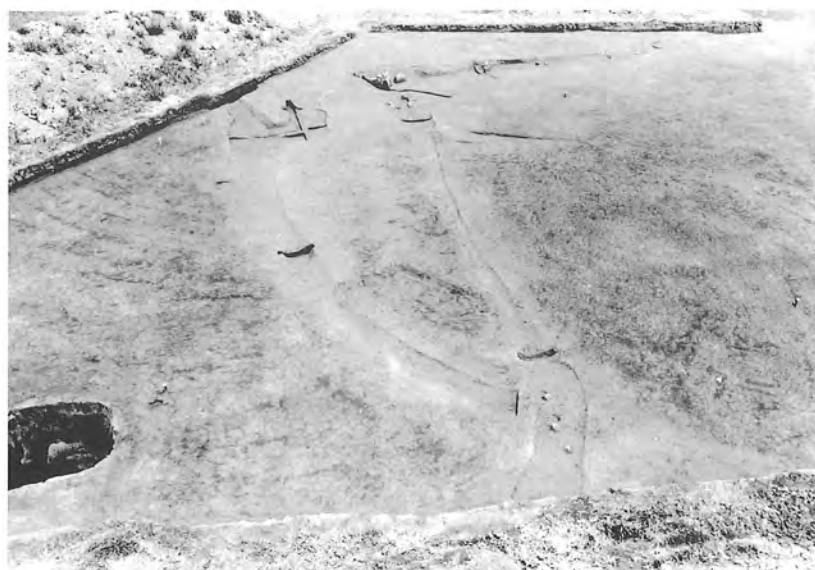
第1・2号掘立柱建物跡



第1号方形周溝状遺構



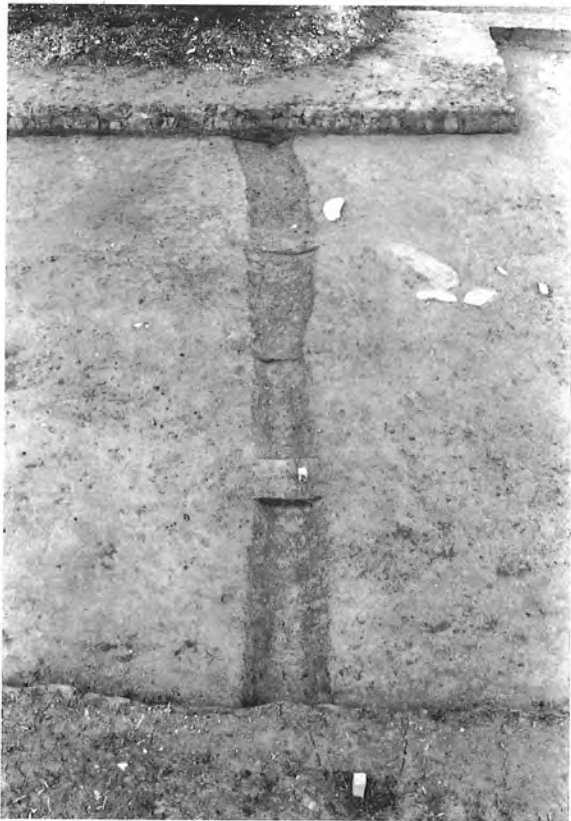
第1号溝跡（西から）



第3・4号溝跡（南から）



第7号溝跡（南から）



第8号溝跡（南から）



第9号溝跡（南から）



第10号溝跡（東から）



第10・11号溝跡（北から）



第12・13号溝跡・第10号土坑（北から）



第14号溝跡（南から）



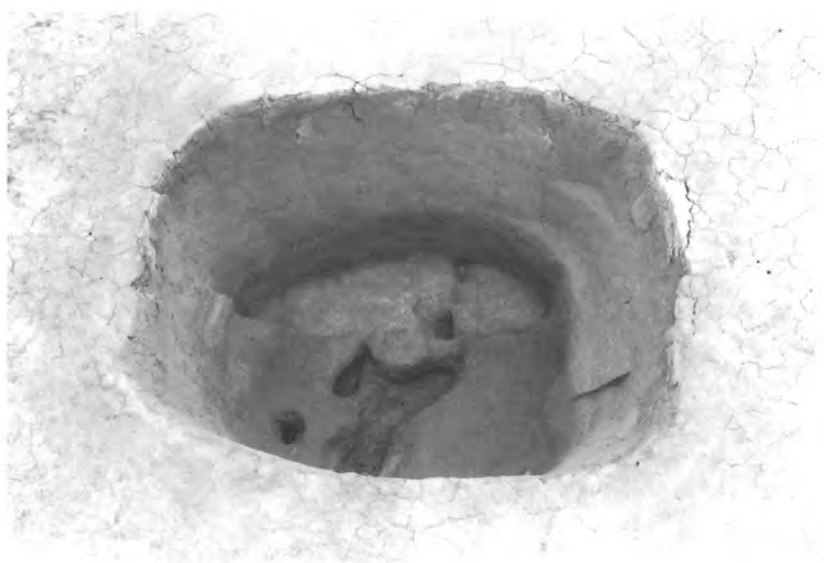
第16号溝跡（西から）



第15号溝跡（南から）



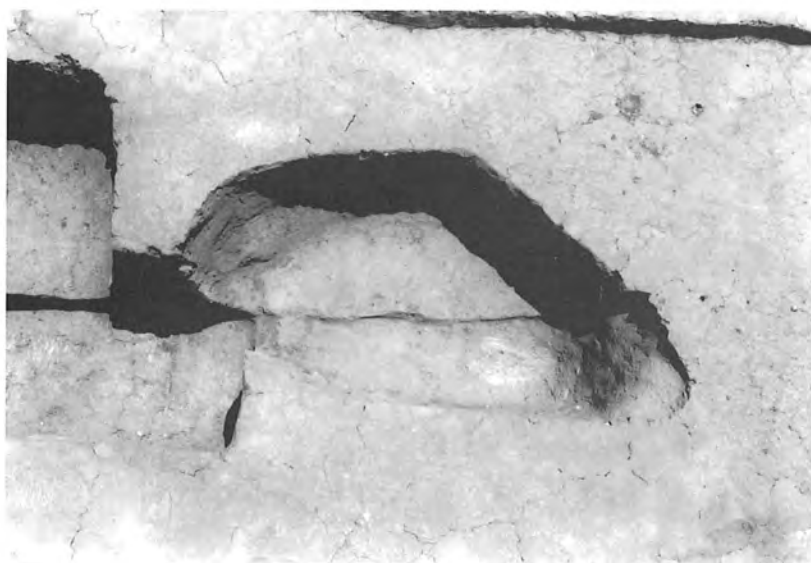
第17号溝跡（南西から）



第1号土坑



第2号土坑



第3号土坑



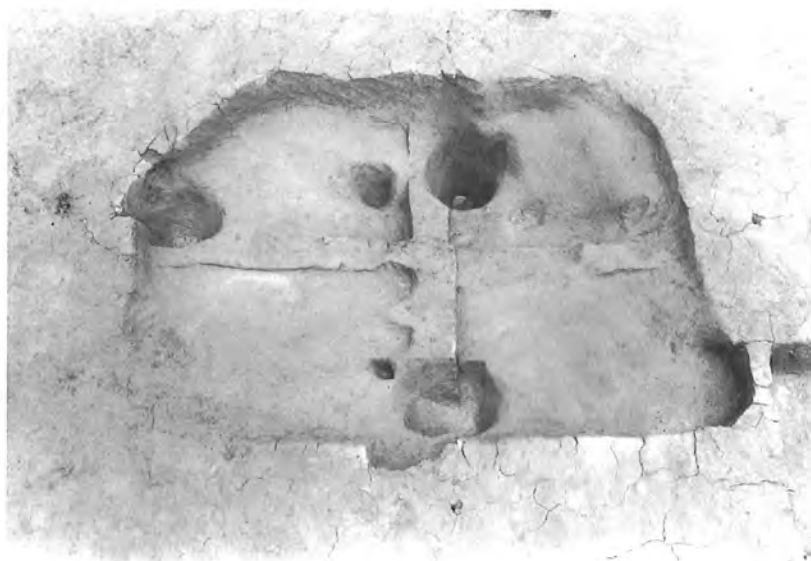
第4号土坑



第6号土坑



第8号土坑遺物出土状況



第9号土坑



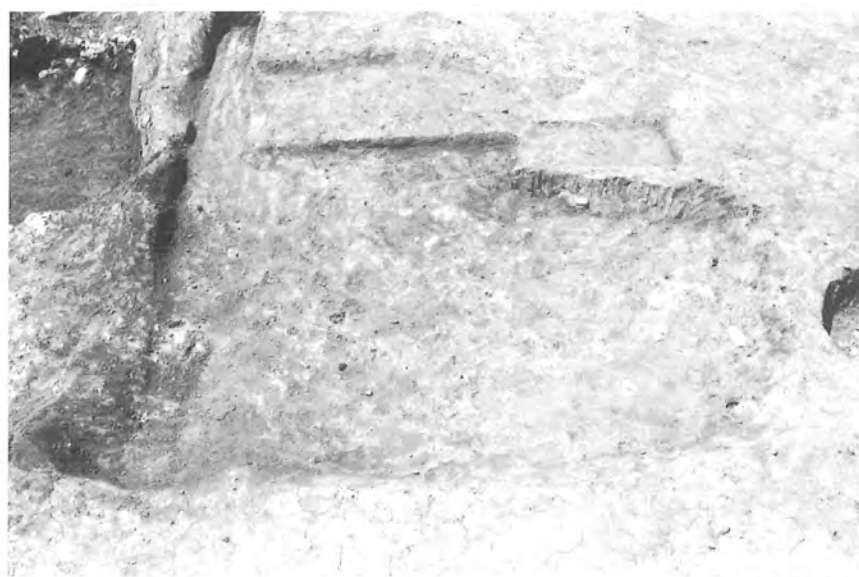
第11号土坑



第12号土坑



第13号土坑



第15号土坑



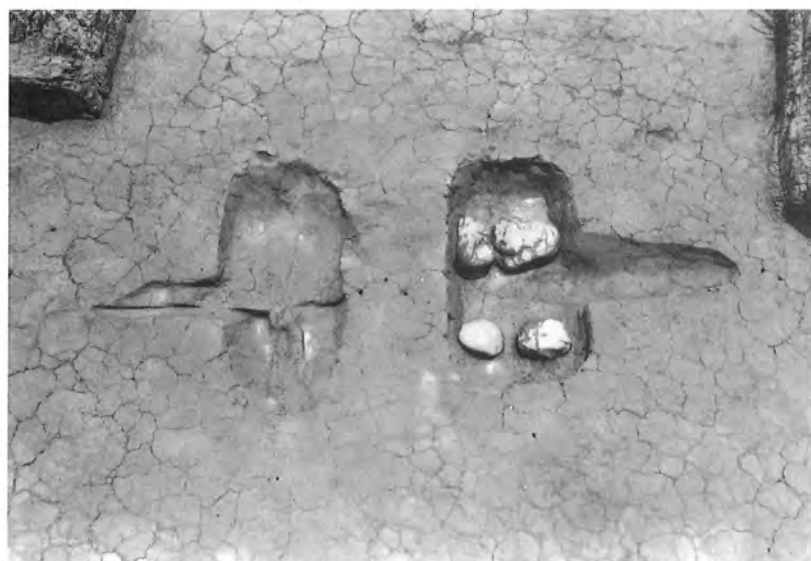
第16号土坑



第18号土坑



第20号土坑



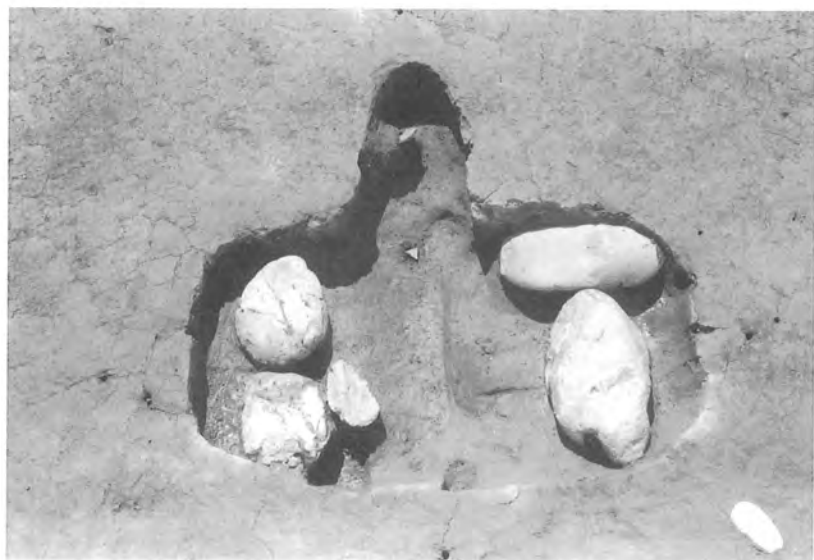
第1・2号火葬跡



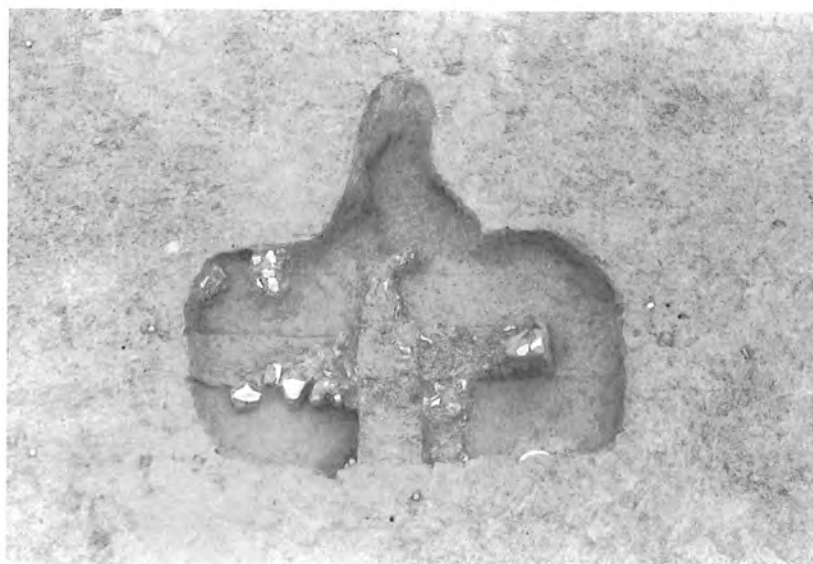
第3号火葬跡



第4号火葬跡



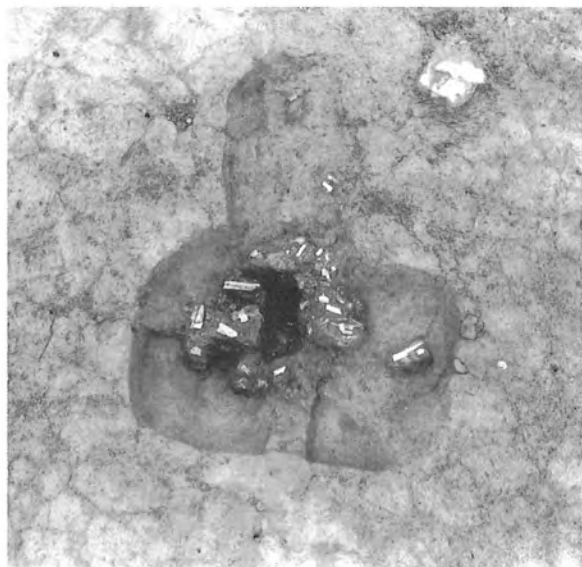
第5号火葬跡



第6号火葬跡



第7号火葬跡



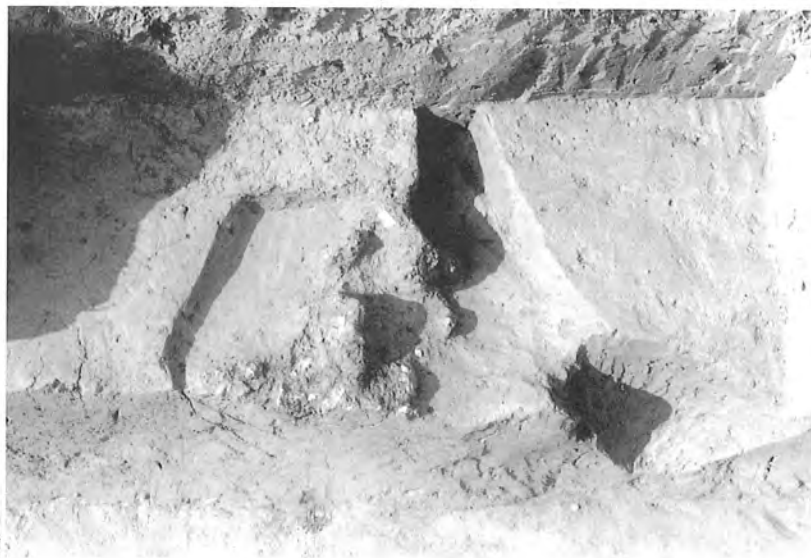
第8号火葬跡



第9号火葬跡



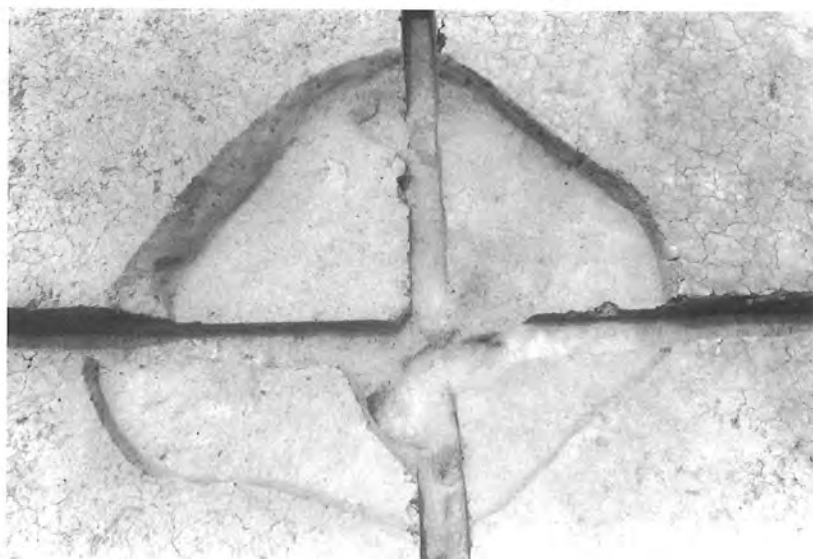
第10号火葬跡



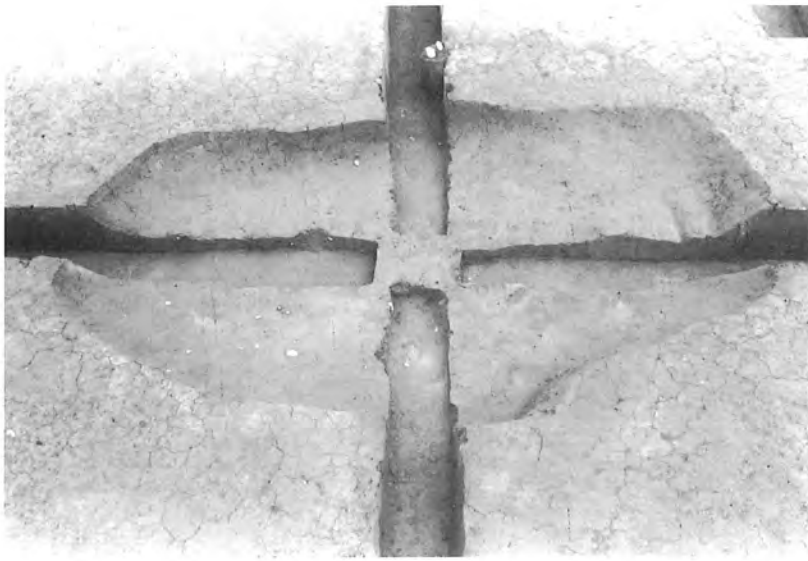
第11号火葬跡



第1号集石



第2号集石完掘状況



第3号集石完掘状況



第1号井戸跡



第2号井戸跡



第3号井戸跡



第4号井戸跡



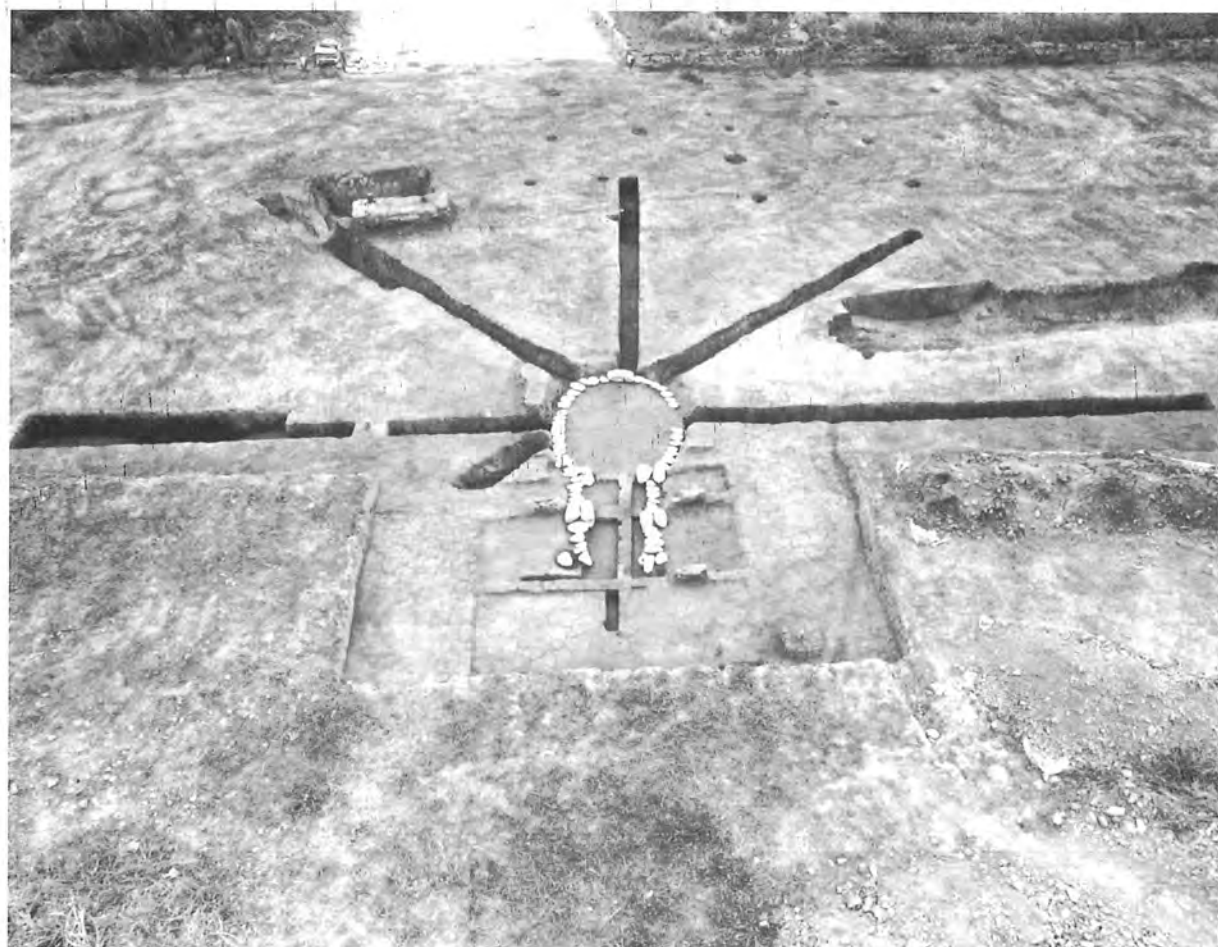
第5号井戸跡



肥塚古墳群14号墳



肥塚古墳群14号墳石室



肥塚古墳群15号墳



肥塚古墳群15号墳石室



肥塚古墳群16号墳



肥塚古墳群16号墳石室



第12号溝跡 第22図4



第12号溝跡 第22図7



第12号溝跡 第22図10



第12号溝跡 第22図12



第13号溝跡 第22図14



第13号溝跡 第22図15



第13号溝跡 第22図16



第13号溝跡 第22図17



第17号土坑 第22図19



第27号土坑 第22図21



第41号土坑 第23図1～21



第41号土坑 第23図22～42



第41号土坑 第24図43～66



第41号土坑 第24図67~90



第41号土坑 第25図91~114



第41号土坑 第25図115~149



遺構外 第27図6



遺構外 第27図8



遺構外 第27図9



遺構外 第27図10



遺構外 第27図20



遺構外 第27図21



遺構外 第27図26



遺構外 第28図28



遺構外 第28図30



遺構外 第28図36



遺構外 第28図37



遺構外 第28図38



第10号土坑 第46図8



第28号土坑 第46図9



遺構外 第46図23



遺構外 第46図25



第1・2号土坑墓 第46図上：11～15 下：16～18



遺構外 第46図27



第1号豎穴住居跡 第48図1



第1号豎穴住居跡 第48図4



第1号豎穴住居跡 第48図5



第1号豎穴住居跡 第48図6



第1号豎穴住居跡 第48図7



第1号豎穴住居跡 第48図8



第1号豎穴住居跡 第48図12



第1号豎穴住居跡 第49図14



第1号竖穴住居跡 第48図15



第1号竖穴住居跡 第48図17



第1号竖穴住居跡 第48図24



第1号竖穴住居跡 第50図27



第1号竖穴住居跡 第50図30



第1号竖穴住居跡 第50図35



第2号竖穴住居跡 第52図1



第2号竖穴住居跡 第52図2



第2号竖穴住居跡 第53図9



第2号竖穴住居跡 第53図16



第2号竖穴住居跡 第54図17



第3号竖穴住居跡 第56図2



第2号竖穴住居跡 第56図5



第3号竖穴住居跡 第56図8



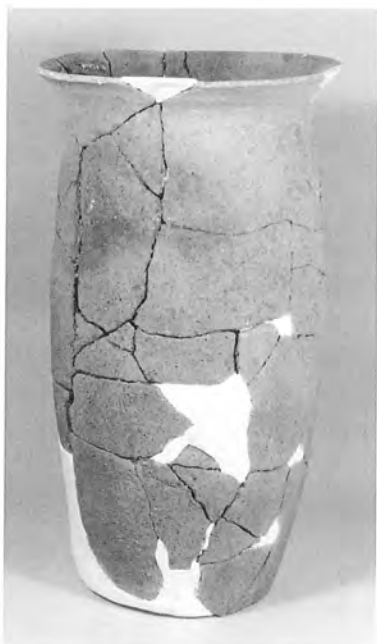
第3号竖穴住居跡 第56図9



第3号竖穴住居跡 第57図10



第3号竖穴住居跡 第57図11



第3号竖穴住居跡 第57図12



第3号竖穴住居跡 第57図13



第3号竖穴住居跡 第57図14



第3号竖穴住居跡 第58図17



第3号竖穴住居跡 第58図18



第3号竖穴住居跡 第58図23



第4号竖穴住居跡 第60図3



第4号竖穴住居跡 第60図11



第7号竖穴住居跡 第64図1



第4号竖穴住居跡 第60図7



第7号竖穴住居跡 第64図4



第7号竖穴住居跡 第64図12



第7号竖穴住居跡 第64図15



第3号竖穴住居跡 第65図21



第3号竖穴住居跡 第65図22



第7号竖穴住居跡 第65図23



第12号竖穴住居跡 第67図1



第10号竖穴住居跡 第67図2



第11号竖穴住居跡 第69図1



第11号竖穴住居跡 第69図3



第11号竖穴住居跡 第69図4



第11号竖穴住居跡 第69図8



第11号竖穴住居跡 第69図13



第13号竖穴住居跡 第70図3



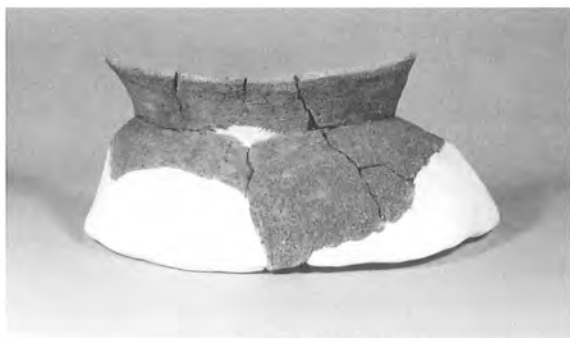
第14号竖穴住居跡 第73図1



第14号竖穴住居跡 第73図5



第14号竖穴住居跡 第73図10



第14号竖穴住居跡 第73図11



第14号竖穴住居跡 第73図13



第14号竖穴住居跡 第73図14



第14号竖穴住居跡 第73図15



第14号竖穴住居跡 第73図16



第14号竖穴住居跡 第73図17



第14号竖穴住居跡 第74図22



第14号竖穴住居跡 第74図27



第14号竖穴住居跡 第74図29



第14号竖穴住居跡 第74図31



第16号竖穴住居跡 第76図4



第17号竖穴住居跡 第77図1



第19号竖穴住居跡 第79図1



第19号竖穴住居跡 第79図4



第19号竖穴住居跡 第79図2



第19号竖穴住居跡 第79図3



第20号豎穴住居跡 第80図1



第20号豎穴住居跡 第80図2



第22号豎穴住居跡 第82図1



第23号豎穴住居跡 第83図1



第23号豎穴住居跡 第83図2



第23号豎穴住居跡 第84図1



第23号豎穴住居跡 第84図3



第5号溝跡 第112図1



第8号土坑 第112図4



第8号土坑 第112図7



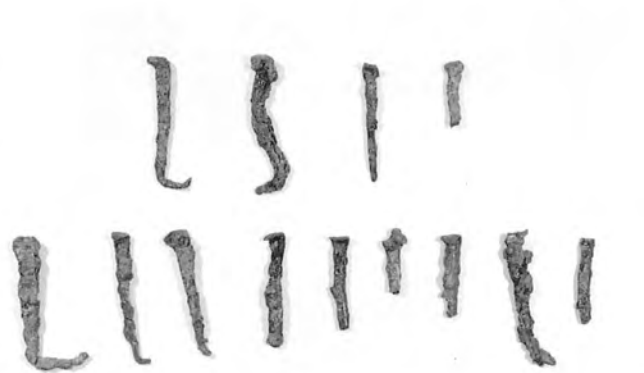
第8号土坑 第112図8



第8号土坑 第112図9



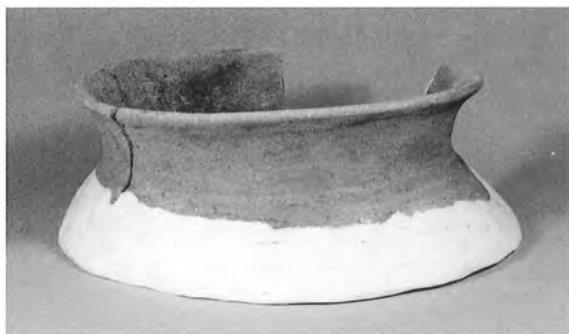
第20号土坑 第112図12



第1・2号火葬跡 第113図上：13~16 下：17~25



第1号集石 第113図26~28



第1号井戸跡 第114図32



第1号井戸跡 第114図33



遺構外 第115図4



遺構外 第115図8



遺構外 第115図9



遺構外 第115図13



遺構外 第115図18



遺構外 第115図19



14号墳 第118図1

報告書抄録

ふりがな	こいづかなかじまいせき・でぐちかみいせき・でぐちしもいせき・こいづかこふんぐん							
書名	肥塚中島遺跡・出口上遺跡・出口下遺跡・肥塚古墳群14・15・16号墳							
副書名	平成12年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書							
巻次	—							
シリーズ名	—							
シリーズ番号	—							
編集者名	松田 哲							
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会							
所在地	〒360-8601 埼玉県熊谷市宮町2-47-1 TEL048-524-1111							
発行年月日	西暦2001（平成13）年3月30日							
所収遺跡名	所 在 地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 (°'")	東経 (°'")	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
こいづかなかじまいせき 肥塚中島遺跡	くまがやしおおあぎこいづか 熊谷市大字肥塚 1260他	11202	105	36°9' 34"	139°23' 21"	19950801～ 19951026	1,440	区画整理 街路築造 及び 調整池築 造工事
でぐちかみいせき 出口上遺跡	くまがやしおおあぎこいづか 熊谷市大字肥塚 1464-1他	11202	109	36°9' 30"	139°23' 23"	19970428～ 19971031	1,500	
				36°9' 28"	139°23' 19"	19980511～ 19980110	195.6	
でぐちしもいせき 出口下遺跡	くまがやしおおあぎこいづか 熊谷市大字肥塚 1442-2他	11202	106	36°9' 32"	139°23' 33"	19960401～ 19960913	3,000	
				36°9' 30"	139°23' 32"	19970428～ 19971031	1,000	
				36°23' 28"	139°23' 35"	19980511～ 19980710	518.4	
				36°23' 31"	139°23' 37"	2000719～ 20000817	399	
こいづかこふんぐん 肥塚古墳群 14号墳	くまがやしおおあぎこいづか 熊谷市大字肥塚 1442-2	11202	16-14	36°23' 31"	139°23' 34"	19960401～ 19960831	—	
こいづかこふんぐん 肥塚古墳群 15号墳	くまがやしおおあぎこいづか 熊谷市大字肥塚 1439-1	11202	16-15	36°23' 31"	139°23' 33"	19960401～ 19960913	—	
こいづかこふんぐん 肥塚古墳群 16号墳	くまがやしおおあぎこいづか 熊谷市大字肥塚 1439-3	11202	16-16	36°23' 30"	139°23' 33"	19970428～ 19971031	—	
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
肥塚中島遺跡	墓 その他	古墳時代後期 奈良・平安・ 鎌倉・室町		溝跡 13条 土坑 41基 土壇墓 1基 火葬跡 1基 井戸跡 1基		土師器・須恵器 かわらけ・陶磁器 鉄製品・土製品		
出口上遺跡	館跡 集落跡	古墳時代後期 奈良・平安・ 鎌倉・室町・ 江戸時代		掘立柱建物跡 1棟 溝跡 17条 土坑 33基 土壇墓 2基 火葬跡 4基 井戸跡 1基 石組遺構 1基		土師器・須恵器 かわらけ・陶磁器 古銭・石製品		
出口下遺跡	集落跡	古墳時代後期 奈良・平安・ 鎌倉・室町・ 江戸時代		竪穴住居跡 28軒 掘立柱建物跡 2棟 方形周溝状遺構 1基 溝跡 17条 土坑 22基 火葬跡 11基 集石 3基 井戸跡 5基		土師器・須恵器 かわらけ・陶磁器 古銭・石製品 土製品		
肥塚・14号墳	古墳	古墳時代後期		古墳		金環		
肥塚・15号墳	古墳	古墳時代後期		古墳		—		
肥塚・16号墳	古墳	古墳時代後期		古墳		—		

平成 12 年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

肥塚中島遺跡・出口上遺跡・出口下遺跡・肥塚古墳群14・15・16号墳

平成 13 年 3 月 30 日発行

発行／埼玉県熊谷市教育委員会

印刷／関印刷株式会社



さくらのまち“熊谷”